

昭和二年六月二十八日

商工次官

營繕管財局ニ於テ將來他省ノ所管トナルヘキ土地ヲ買入レ又ハ建造物ヲ築造シタル場合ニ於ケル引繼方法等ニ關シ各廳ニ於ケル營繕管財局事務官及關係官會議ニ於テ別記ノ通議決相成候條御了知相成度此段及通知候也

(別記)

○〔營繕管財局官制第一條第三項ニ關スル覺書第六號改正ニ關スル件
各廳ノ小修繕ニシテ一廉「三千圓未満」ノモノヲ「一萬圓未満」トシ小新營ニシテ一廉「五千圓未満」ノモノヲ「一萬五千圓未満」ト改ムルコト
右原案ノ通可決ス〕

(昭和五年十二月十九日閣議決定並昭和六年勅令第六〇號營繕管財局官制改正ニ因リ本文消滅)

○土地及建造物引繼ニ關スル件

當局ニ於テ將來他省ノ所管トナルヘキ土地ヲ買入又ハ建造物ヲ築造シタル場合ニ於テハ當局國有財產臺帳ニ登錄スルコトヲ省略シ左ノ通所管官廳ニ引繼クコト

(甲)土地ハ長官名ヲ以テ各省次官又ハ所屬國有財產事務ヲ分掌スル部局長ニ引繼クコト

(乙)建造物ハ竣功検査ヲ了シタル後直ニ長官ヨリ各省次官又ハ所屬國有財產事務ヲ分掌スル部局長ニ引繼ク爲シ國有財產臺帳登錄資料ハナルヘク速ニ之ヲ送付スルコト

右原案ノ通可決ス

但シ已ムヲ得サル事由アル場合ニ於テハ建造物ノ竣功検査ヲ了シ引繼

〔文會例〕

ヲ爲シタル後ト雖モ内部ノ設備ヲ完了スル迄ハ當該官廳ト協議ノ上適當ナル管理方法ヲ講スルコトニ申合濟

●營繕管財局ニ於テ敷地買收豫算ヲ有シ國有財產ノ管理換ヲ要スル場合ニ於ケル手續ニ關スル件

○大藏省營繕管財局長官通牒管總第八百三十六號
昭和十二年八月二十六日
文部次官

從來當局ニ於テ敷地買收豫算ヲ有シ國有財產ノ管理換ヲ要スル場合其ノ手續ハ其ノ財產ノ將來ニ於ケル管理應ニ於テ施行相成候處右ハ爾今當局ニ於テ一應管理換ヲ受ケタル後當該官廳ニ引繼クコトト致度候條其ノ旨貴省部局ニ御通知方可能御取計相成度及通達候也

追テ本文取扱ハ原則トシテ有償管理換ノ場合ノミナルモ尙當局買收土地中ニ介在スル國有財產ノ無償管理換ノ場合ヲモ含ム次第ニ有之尙ホ右取扱ハ營繕用土地買入レノ場合ニ準シ當局國有財產臺帳ニ登錄セス直ニ引繼クモノナルニ付貴省國有財產臺帳ノ登錄整理方ハ別途通牒ノ方法ニ據ラレ度申添候

(參照)

別途通牒ハ大正八年五月國有財產事務取扱方ニ關スル件中國有財產増減事由用語記載例ニ(何省ヨリ管理換(大藏省ヨリ引受ノ分)及(何省(管理換(大藏省ヘ引渡ノ分)ヲ加ヘタルモノナリ

〔文會例〕

●國有財產貸付又ハ使用料評定調査書作製ノ件

○會計課長通牒發會二十號 昭和五年一月二十一日

從來隨意契約ニ依リ國有財產貸付又ハ使用ヲ爲サシムル場合認可申請書ニ往々國有財產法施行令第二十一條及第二十二條ニ依リ貸付又ハ使用料評定ノ基礎ヲ明ニシタル調査ヲ脱漏スル向有之モ爾今ハ左表ニ依リ御調査ノ上必ス添附相成候致度

發無料使用セシムル場合ハ國有財產法第十六條ニ該當スル理由ヲ詳細御説明相成度

記

貸付又ハ使用料評定調査

口座名	貸付又ハ使用料 ハ使用ハ使用 所敷量	價格 ハ使用ハ使用 料單價	貸付又ハ使用料 ハ使用ハ使用 料單價	稅務署其他ノ評定 ハ使用ハ使用 料單價	備考

貸付決定ノ理由

備考

- 一 稅務署其他ヨリ評定書ヲ取リタル場合ハ該評定書寫添附ノ事
- 二 附近ノ實例アル場合ハ其ノ場所ヲ圖面ノ上ニモ明カニスル事
- 三 瓦斯、電燈、水道等ノ使用ヲ爲ス場合ハ其ノ費用負擔ノ区分
- 四 其他貸付料算定上參考トナルヘキ事項

第八章 國有財產 第一節 通則

●國有財產事務取扱方ニ關スル件

○會計課長移牒發會九十一號 昭和八年五月二十日

○營繕管財局總務部長通牒管總第九百二十九號 昭和八年五月五日

改正 昭和九年六月營繕管財局第一〇四二號 一〇四年四月營繕管財局第五二二號、二年八月營繕管財局八六二號、一三年一月營繕管財局第一〇四二號

客月十四日中央會議所ニ於テ開催シタル各省國有財產事務協議會ニ於テ別紙ノ通決定相成候條夫々御實行相成候條此段及御通知候也
追而當日ノ協議事項中參考トナルヘキ事項別紙トシテ添附ス

(別紙)

協議事項

- 一、國有財產増減報告書ノ備考欄ニ記入スヘキ増減事由ノ用語統一ニ關スル件
國有財產増減報告書ニ記載スヘキ増減ノ事由ハ之ヲ備考欄ニ簡明ニ記入スルコトトナリ居レルカ餘リニ簡單ニ過キテ其ノ意味ノ不明瞭ナルモノ若ハ同一事由ニ對シ各省區々ノ用語ヲ用ヒタルモノ等アリテ取扱上不便尠カラサルヲ以テ昭和七年度國有財產増減報告書ヨリ別表ノ用語ヲ統一ノコト但シ特別ノ事由アル省ニ於テハ昭和八年度國有財產増減報告書ヨリ實施スルヲ妨ケス
- 二、各省ニ於テ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル國有財產ノ臺帳整理方ニ關スル件
各省所管公用財產ニシテ大藏大臣ト協定ノ上大藏大臣ニ引繼カスシテ賣拂讓與又ハ交換ヲ爲シタルモノニ付テハ昭和七年度分ヨリハ必

第八章 國有財產 第一節 通則

- 一、且雜種財產トシテ臺帳ニ登錄シタル上之カ拂出ヲ爲スコト
- 二、土地及立木竹ノ實測ニ因ル増減ノ臺帳記載方ニ關スル件
- 三、本件ニ關シテハ從來數量ノミヲ揚ケ價格ハ價格改定ノ時期ニ至ルマテ之カ訂正ヲ爲ササルノ取扱例ナリシカ昭和七年度ヨリハ増減數量ニ對スル價格モ數量ト共ニ之ヲ計上スルコト
- 四、増減報告書中ニ以上ノ増減事由ヲ同一備考欄ニ於テ合記シタル場合ニ於テハ之カ内課審添附ノ件
- 五、増減事由由二以上ノ同一備考欄ニ合記シタル場合ニシテ右事由中、管理換、交換、引續、引受ニ係ルモノハ數量、價格及事由ヲ明記シタル内課審ヲ作成シ増減報告書ト同時ニ提出ノコト
- 六、増減報告書調製前管轄管財局ニ備フル國有財產總括簿ノ現在高ト各省ニ備フル總括簿等ノ現在高ト照合ノ件
- 七、省ニ於テハ毎年度初メニ於テ所管各部局ニ備フル國有財產臺帳現存高ト各省ニ備フル國有財產總括簿ノ現在高ト前々年度分ニ付テ照合シ更ニ其ノ年六月中ニ各省ニ備フル國有財產總括簿ノ現在高ト管轄管財局ニ備フル國有財產總括簿ノ現在高ト前々年度分ニ付テ照合スルコト
- 八、國有財產増減事由別調ニ關スル件
- 九、昭和六年度分ニ關シテハ昭和七年五月二十八日附管國第一四六八號ヲ以テ御照會致シタルモ本調ハ國有財產増減總計算書並同報告書ニ對スル議會參考資料トナルヘキヲ以テ昭和七年度分以降ニ於テハ必ズ其ノ増減報告書提出ノ年十二月二十日迄ニ提出ノコト
- 十、メートル法實施ニ關スル件

(別冊)

國有財產増減事由用語記載例

- 一、國有財產増減報告書備考欄ニ記入スヘキ増減事由ノ用語ハ總テ本表ニ依ルモノトス
- 二、本表ニ依リ難キモノアルトキハ各省主務課ヨリ管轄管財局總務部國有財產課ニ記載例設定ノ協議ヲ爲スコト
- 三、右協議ノ結果新ニ記載例力追加セラレタルトキハ管轄管財局總務部國有財產課ハ直ニ各省主務課ニ對シ之カ通知ヲ爲スコト
- 四、各省主務課ニ於テ右通知ヲ受ケタルトキハ直ニ各部局ニ對シ其ノ旨通知ヲ爲シ本表ノ整理ヲ爲サシムルコト

目次

- 甲、公用財產
- 乙、管轄管財局ニ備フル國有財產總括簿ノ現在高ト前々年度分ニ付テ照合スルコト
- 丙、雜種財產
- 丁、船舶
- 戊、工物
- 己、建築物
- 庚、立木
- 辛、竹地
- 壬、株式及持分

甲、公用財產
丙、雜種財產
丁、船舶
戊、工物
己、建築物
庚、立木
辛、竹地
壬、株式及持分

甲、公用財產
乙、管轄管財局ニ備フル國有財產總括簿ノ現在高ト前々年度分ニ付テ照合スルコト
丙、雜種財產
丁、船舶
戊、工物
己、建築物
庚、立木
辛、竹地
壬、株式及持分

區分	増	減	摘要
土地	購入	均立	<p>一、同一種目欄ニ増減アリタルトキハ増減ハハハトスルコト</p> <p>二、同一種目ニ對スル増減事由由二以上アル場合ハ句讀點ヲ用フルコト</p> <p>公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地ヲ購入シタル場合管轄管財局ニ於テ購入ノ上各省ニ引續タルモノニ付テハ購入(大省ヨリ引受)トスルコト、土地ト共ニ樹木ヲ購入シタルトキハ其ノ數量及價格ヲ併記スルモノトス</p> <p>御料地ノ讓與ヲ受ケタル場合</p> <p>寄附受納ノ場合(土地ト共ニ樹木ノ寄附ヲ受ケタルトキ及樹木ノミノ寄附ヲ受ケタルトキヲ含ム)</p> <p>土地收用法ニ依リ收用シタル場合</p> <p>訴訟、訴訟ノ結果追拂又ハ過拂ノ爲戻入ヲ爲シタル場合</p> <p>水面ノ埋立ヲ爲シタル場合</p> <p>盛土ノ場合ヲ含ム</p>
地	宮内省ヨリ讓受	收用補償追拂	
地	寄附	收用補償追拂	
地	收用補償追拂	均立	
地	均立	收用補償追拂	

第八章 國有財產 第一節 通則

地上、坪權 價格、取得
 新樹木、本 價格、栽植
 新樹木、本 價格、栽植
 實格 改定 測定
 價 格 改定 測定
 報 告 洩
 端 數 訂 正 算
 誤 謬 訂 正

地上、坪權 價格、消滅
 實格 改定 測定
 價 格 改定 測定
 端 數 訂 正 捨
 誤 謬 訂 正
 減 失
 水 面 編 入
 燒 樹木、本 價格、損失
 伐 樹木、本 價格、損失
 倒 樹木、本 價格、損失

地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利ハ皆此ノ例ニ倣フ
 從來國有財産トシテ取扱ハレサリシ樹木ヲ新ニ國有財産ト
 シテ編入スル場合
 新ニ樹木ヲ栽植シタル場合
 境界査定ノ結果増減シタルモノヲ含ム
 樹木ノ價格改定ハ「樹木價格何圖」ト併記スルコト
 國有財産彙帳ニ登載シアルモ大正十一年四月一日現在額報
 告書ニ記載セラレサリシモノハ此ノ記載例ニ依リ整理シ其
 ノ後ノ増減ニシテ増減報告書ニ記載シモノハ其ノ増減ノ
 事由ヲ記入シ「何年度報告洩」トスルコト
 土地ト共ニ樹木ノ報告洩アリタルトキハ其ノ數量及價格ヲ
 併記スルコト

樹木ノ訂正ヲナス場合ヲモ含ム
 流失、陷没シタル如キ場合
 土地ト共ニ樹木ノ流失アリタルトキハ其ノ數量價格ヲ併記
 スルコト
 人工ヲ以テ水面ニ編入シタル場合ニシテ土地トシテ整理シ
 難キモノ
 土地ノ備考ニ登載シタル樹木燒失ノ場合
 枯損木タルト障害木タルトハ用途廢止ノ上伐採シタ
 ル場合

〔文會例〕

交 換
 (何々) ヨリ 管理 換
 何省ヨリ管理(大藏省ヨリ)
 換(引受ノ分)
 (何管理廳)ヨリ 所屬 換
 (何口座)ヨリ 整理 替
 土地 區劃 整理 換地
 耕地 整理 換地
 (何口座)ヨリ 用途 變更
 (何口座)建築敷地ヨリ 分割
 官制改正ニ因リ(何々)ヨリ
 引受
 社 格 昇 格
 行政區劃變更ニ因リ(何府、
 縣、郡、市)ヨリ 整理 替
 公共用財産ヨリ 種別 替
 營林財産ヨリ 種別 替
 雜種財産ヨリ 種別 替

(何々)ヘ 管理 換
 何省ヘ管理換(大藏省ヘ)
 引渡ノ分)
 (何管理廳)ヘ 所屬 換
 (何口座)ヘ 整理 替
 土地 區劃 整理 引渡
 耕地 整理 引渡
 (何口座)ヘ 用途 變更
 (何口座)分割
 官制改正ニ因リ(何々)引
 繼
 社 格 昇 格
 行政區劃變更ニ因リ(何府、
 縣、郡、市)ヘ 整理 替
 公共用財産ヘ 種別 替
 營林財産ヘ 種別 替

各省間又ハ各省ト植民地各廳間ニ異動アリタル場合ニシテ
 他ノ記載例ニ該當セサルモノ
 營繕管財局ニ於テ營繕工事ノ爲各省ヨリ管理換ヲナシタル
 場合ハ此ノ例ニ依ル
 同一省ニ於テ管理廳ニ異動アリタル場合
 同一管理廳ニ於テ目的ニ異動ナキモ所屬口座ニ異動アリタ
 ル場合
 土地ト共ニ樹木ニ異動アリタルトキハ其ノ數量及價格ヲ併
 記スルコト
 口座名二以上ニ亘ル場合ハ「何口座外何口座(分割)トスル
 コト」
 神社ノ社格昇格ニ因ル増減ノ場合
 神社用地ニシテ行政區劃變更ニ因リ異動アリタル場合
 公共用財産ヲ内務省所管公用財産ヘ又ハ同省所管公用財産
 ヲ公共用財産ヘ種別替ヲ爲シタル場合
 内務省及農林省所管公用財産ヲ同省所管營林財産ヘ又ハ同
 省所管營林財産ヲ同省所管公用財産ヘ種別替ヲ爲シタル場
 合
 各省ノ管理ニ屬スル雜種財産ヨリ其ノ省所管公用財産ニ種
 別替ヲ爲シタル場合

區域名變更	線路名變更	引繼取消	移樹木、本價格、圓植	文部省ヨリ引受	備考脫漏(何年度)	借地何坪	増借地何坪	何々敷地何坪供用 (又ハ何々敷地何坪使用) 何々敷地何坪供用増 (又ハ何々敷地何坪使用増)	民有地何坪使用
區域名變更	線路名變更	移樹木、本價格、圓植	材積ニ整理替 樹木、本價格、圓植	何學校へ引繼	大藏省へ引繼 (史蹟地)トシテ文部省へ引繼	減借地何坪	何々敷地何坪供用廢止 (又ハ何々敷地何坪使用) (廢止)	何々敷地何坪供用廢止 (又ハ何々敷地何坪使用) (廢止)	民有地使用廢止

鐵道省所管ノミ
同

文部省所管ノミ
大藏省へ引繼ヲ爲サズ各省ニ於テ管理又ハ處分ヲ爲ス場合
用途廢止ノ上大藏省ニ引繼タル場合
名勝地、天然紀念物ハ此ノ例ニ依ル

脫漏シタル備考ヲ併記スルコト
國有地ヲ使用スル外尙借地ヲ爲シタルトキハ「外ニ借地何坪」ト記載スルコト
増借地ハ借地ヲ借増シタル場合
減借地ハ借地ヲ返還シタル場合等借地ノ減少シタル場合
國有地ヲ供用又ハ供用ヲ廢止シタル場合
借地關係ナク事實上民有地ヲ使用スル場合

[文會例]

立木竹

備考誤謬訂正(何年度)	借家	購入	寄附	新植	新載	實査	報洩	價改	誤謬訂正
備考誤謬訂正(何年度)	減借家	伐失	倒壊	盜伐	流盜	賞査	價改	誤謬訂正	賞査

増減シタル數量價格ヲ併記スルコト
國ニ於テ工作物ヲ所有スル場合ニ限リ敷地ノ備考欄ニ記入
スルコト

從來國有財産トシテ登載セザリシモノヲ登載シタル場合

建物

新増規登載	新築	寄附	購入	樹木ヨリ整理替	交換 (何々)ヨリ管理換 (何管理廳)ヨリ所屬換 (何口座)ヨリ整理替	移植 (何々)へ管理換 (何管理廳)へ所屬換 (何口座)へ整理替
				用途廢止		
				大藏省へ引繼		
				(史蹟)トシテ文部省へ引繼		

大藏省ニ引繼ヲ爲サズ各省ニ於テ管理又ハ處分ヲ爲ス場合
名勝地、天然紀念物ハ此ノ例ニ依ル

〔文會例〕
管轄管財局ニ於テ工事ヲ施行シタルモノヲ引受ケタルトキハ新築(大藏省ヨリ引受ノ分)ト記載シ各省ニ於テ工事ヲ施行シタルモノト同時ニ記載スルトキハ新築(大藏省ヨリ引受ノ分ヲ含ム)ト記載スルコト
右ノ例ニ依ル
假設物ヲ國有財產ニ編入シタル場合

移移改	從價倒流	取毀	誤端	從從	從從	價價	報報	修修
	物格	除選	謬數	謬數	物物	格格	告告	
				訂合	增新	設設		
				正算	設設	定定	洩洩	繕繕
轉築築								
移移改	從價倒流	取毀	誤端	從從	從從	價價	報報	修修
	物格	除選	謬數	謬數	物物	格格	告告	
				訂切	增新	設設		
				正捨	設設	定定	洩洩	繕繕
轉築築								

價格遞減ノ結果財產價格皆無トナリタルニ因リ更ニ價格ヲ設定シタル場合、工作物並器具機械ニ付テモ亦同シ
取毀ノ上物品ニ編入シタル場合、工作物ニ付テモ亦同シ

〔文會例〕

種目變更	模倣	種目變更	模倣
(何々)ヨリ管理換	(何々)ヨリ管理換	(史蹟)トシテ文部省へ引繼	(何々)へ管理換
(何管理廳)ヨリ所屬換	(何管理廳)へ所屬換	(何口座)ヨリ整理替	(何口座)へ整理替
工作物ヨリ整理替	何學校へ引繼	文部省ヨリ引受	官制改正ニ因リ(何々)ヨリ引受
從物改設	從物改設	從物移設	從物移設
從物移設	從物移設	用途廢止	大藏省へ引繼
區域名變更	區域名變更	線路名變更	線路名變更
管林財産ヨリ種別替	管林財産へ種別替	管林財産ヨリ種別替	管林財産へ種別替
雜種財産ヨリ種別替	雜種財産ヨリ種別替		

從物改設
從物移設
用途廢止
大藏省へ引繼
區域名變更
線路名變更
管林財産へ種別替

從物改設
從物移設
用途廢止
大藏省へ引繼
區域名變更
線路名變更
管林財産へ種別替

從物改設
從物移設
用途廢止
大藏省へ引繼
區域名變更
線路名變更
管林財産へ種別替

名勝地、天然紀念物ハ此ノ例ニ依ル

文部省所管ノミ

鐵道省所管ノミ

鐵道省所管ノミ

〔文會例〕

寄附	新設	増設	修繕	新報	價格	價額	誤謬
附入	附入	附入	附入	附入	附入	附入	附入
訂正	訂正	訂正	訂正	訂正	訂正	訂正	訂正
訂正	訂正	訂正	訂正	訂正	訂正	訂正	訂正

誤謬訂正
取流
除燒
破壞
倒壞
斥失
失毀
正毀

管轄管財局ニ於テ工事ヲ施行シタルモノヲ引受ケタルトキハ新設(大藏省ヨリ引受ノ分)ト記載シ各省ニ於テ工事ヲ施行シタルモノト管轄管財局ニ於テ工事ヲ施行シタルモノト同時ニ記載スルトキハ新設(大藏省ヨリ引受ノ分)ト記載スルトキト

改	移	移	模	種	交	文	(何々)	(何管理廳)	器具機械	營林財産	雜種財産	官制改正
設	設	轉	樣	目	換	省	ヨリ	ヨリ	ヨリ	ヨリ	ヨリ	ニ
設	設	設	樣	變	換	ヨリ	管理	所屬	整理	種別	種別	因リ
改	移	移	模	種	何	何	何	何	何	何	何	何
設	設	轉	樣	目	學	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	變	校	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	變	へ	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	引	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	更	繼	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	替	何	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	替	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	々	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	更	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	減	々	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	止	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	失	々	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	正	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	々	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	更	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	々	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	更	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	々	々	々	々	々	々	々	々

〔文會例〕
名勝地、天然紀念物ハ此ノ例ニ依ル

器具機械

改	移	移	模	種	交	文	(何々)	(何管理廳)	器具機械	營林財産	雜種財産	官制改正
設	設	轉	樣	目	換	省	ヨリ	ヨリ	ヨリ	ヨリ	ヨリ	ニ
設	設	設	樣	變	換	ヨリ	管理	所屬	整理	種別	種別	因リ
改	移	移	模	種	何	何	何	何	何	何	何	何
設	設	轉	樣	目	學	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	變	校	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	變	へ	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	引	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	更	繼	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	替	何	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	替	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	々	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	更	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	々	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	更	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	々	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	更	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	々	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	更	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	々	々	々	々	々	々	々	々
改	移	移	模	更	々	々	々	々	々	々	々	々
設	設	設	樣	更	々	々	々	々	々	々	々	々

〔文會例〕

車輛ヲ新造シタル場合

車輛ヲ改造シタル場合

鐵道省所管ノミ

屬報新改修價寄購新	線區種工整(何管理應)ヨリ所屬換	車種變更
具規	路域目作物理	(何々)ヨリ管理換
取告登	名名變更替	(何管理應)ヨリ所屬換
付洩載測繕加附入造	更更更替	管理換
屬具除斥	線區種工整(何管理應)ハ所屬換	車種變更
	路域目作物理	(何々)ハ管理換
	名名變更替	(何管理應)ハ所屬換
	更更更替	管理換

〔文會例〕

砂鐵業權權	誤設購	種模改	誤謬訂正
	謬訂正	目變更替	流失
	入定	(何々)ヨリ管理換	燒具失
		(何管理應)ヨリ所屬換	屬具失
		(何口座)ヨリ整理替	破格減
		林財產ヨリ種別替	損減失
			誤謬訂正
			流失
			燒具失
			屬具失
			破格減
			損減失

〔文會例〕

増區ノ場合ヲ含ム

	價格 遞減	
	價格 遞減	
	減區ノ場合ヲ含ム	

乙、營林財産

土 地	區 分	
	増	減
	摘	要
購 入 附 立 載 測	附 立 載 測	購 入 附 立 載 測
寄 附 立 載 測	寄 附 立 載 測	寄 附 立 載 測
理 落 地 登 載 測	理 落 地 登 載 測	理 落 地 登 載 測
實 地 測	實 地 測	實 地 測
價格 改 定	價格 改 定	價格 改 定
上 、 步 權 取 得 測	上 、 步 權 消 滅 測	上 、 步 權 消 滅 測
官 行 造 林 、 設 置 測	官 行 造 林 、 解 除 測	官 行 造 林 、 解 除 測
官 行 造 林 、 實 測	官 行 造 林 、 實 測	官 行 造 林 、 實 測
官 行 造 林 、 誤 訂 正	官 行 造 林 、 誤 訂 正	官 行 造 林 、 誤 訂 正
地役權其ノ他之ニ準スヘキ權利亦同シ 保安林、部分林、委託林、保管林、官地民木林等總テ此ノ 例ニ依ル 保安林、部分林、委託林、保管林、官地民木林等總テ此ノ 例ニ依ル 右ノ例ニ依ル		

〔文令例〕

購 入 附 立 載 測	購 入 附 立 載 測	購 入 附 立 載 測
寄 附 立 載 測	寄 附 立 載 測	寄 附 立 載 測
理 落 地 登 載 測	理 落 地 登 載 測	理 落 地 登 載 測
實 地 測	實 地 測	實 地 測
價格 改 定	價格 改 定	價格 改 定
上 、 步 權 取 得 測	上 、 步 權 消 滅 測	上 、 步 權 消 滅 測
官 行 造 林 、 設 置 測	官 行 造 林 、 解 除 測	官 行 造 林 、 解 除 測
官 行 造 林 、 實 測	官 行 造 林 、 實 測	官 行 造 林 、 實 測
官 行 造 林 、 誤 訂 正	官 行 造 林 、 誤 訂 正	官 行 造 林 、 誤 訂 正
交 換 更 換	交 換 更 換	交 換 更 換
種 目 變 更	種 目 變 更	種 目 變 更
(何省)ヨリ管理換	(何省)ヘ管理換	(何省)ヘ管理換
(何管理區)ヨリ所屬換	(何管理區)ヘ所屬換	(何管理區)ヘ所屬換
(何事業區)ヨリ整理替	(何事業區)ヘ整理替	(何事業區)ヘ整理替
公用財産ヨリ種別替	公用財産ヘ種別替	公用財産ヘ種別替
雜種財産ヨリ種別替	雜種財産ヘ種別替	雜種財産ヘ種別替
	官行造林、減歩失	官行造林、減歩失
	官行造林改植	官行造林改植
	誤訂正	誤訂正
	下	下
	減	減
	種目變更	種目變更
	(何省)ヘ管理換	(何省)ヘ管理換
	(何管理區)ヘ所屬換	(何管理區)ヘ所屬換
	(何事業區)ヘ整理替	(何事業區)ヘ整理替
	公用財産ヘ種別替	公用財産ヘ種別替
	雜種財産ヘ種別替	雜種財産ヘ種別替
	目的廢止	目的廢止
	右ノ例ニ依ル	右ノ例ニ依ル
	天災其ノ他ニ依リ立木ヲ著シク損傷シタル爲官行造林ノ改植ヲ爲シタル場合	天災其ノ他ニ依リ立木ヲ著シク損傷シタル爲官行造林ノ改植ヲ爲シタル場合
	増ニハ殘地復活ヲ含ム	増ニハ殘地復活ヲ含ム
	營繕管財局ニ於テ營繕工事ノ爲各省ヨリ管理換ヲナシタル場合ハ此ノ例ニ依ル	營繕管財局ニ於テ營繕工事ノ爲各省ヨリ管理換ヲナシタル場合ハ此ノ例ニ依ル
	土地ト共ニ保安林其ノ他備考ニテ整理スルモノノ異動アリタル場合ハ其ノ異動數量ヲ併記スルモノトス	土地ト共ニ保安林其ノ他備考ニテ整理スルモノノ異動アリタル場合ハ其ノ異動數量ヲ併記スルモノトス
	増ハ公用財産ヲ内務省所管營林財産ニ種別替シタル場合	増ハ公用財産ヲ内務省所管營林財産ニ種別替シタル場合
	減ハ内務省所管營林財産ヲ公用財産ニ種別替シタル場合	減ハ内務省所管營林財産ヲ公用財産ニ種別替シタル場合
	内務省及農林省所管公用財産ヲ同省所管營林財産ニ又同省所管營林財産ヲ同省所管公用財産ニ種別替シタル場合	内務省及農林省所管公用財産ヲ同省所管營林財産ニ又同省所管營林財産ヲ同省所管公用財産ニ種別替シタル場合

樹木ヨリ整理替	(何省)ヨリ管理換 (何管理廳)ヨリ所屬換 (何事業區)ヨリ整理替	誤價實新寄購 謬格規登 訂改登 正定查載附入	備考誤謬訂正(何年度)	備考脫漏(何年度)	增借地何坪	借地何坪	減借地何坪
	(何省)へ管理換 (何管理廳)へ所屬換 (何事業區)へ整理替	換盜誤價實 失伐正定查	備考誤謬訂正(何年度)				

〔文會例〕

脱記シタル種目(保安林、保管林ノ如キ)數量ヲ併記スルモ
ノトス

建築物

交換	公共用財産ヨリ種別替 公共用財産ヨリ種別替 雜種財産ヨリ種別替	購入 寄附 新築 増築 報洩 新設 從物 從物 誤謬	訂正	目的廢止	公共用財産へ種別替 公共財産へ種別替	從物除斥 誤謬訂正	取毀 流失 倒壞
----	---------------------------------------	--	----	------	-----------------------	--------------	----------------

〔文會例〕

目的廢止ノ協議ヲナシタルモノニ限ル

工作物

增新購	雜種財産ヨリ種別替	公用財産ヨリ種別替	公共用財産ヨリ種別替	(何事業區)ヨリ整理替	(何管理廳)ヨリ所屬換	(何省)ヨリ管理換	從物移	從物改	模樣替	種目變	移更	移轉	改築	築
設設入	目的廢止	公用財産(種別替	公共用財産(種別替	(何事業區)へ整理替	(何管理廳)へ所屬換	(何省)へ管理換	從物移	從物改	模樣替	種目變	移更	移轉	改築	築

〔文會例〕

誤報新	誤謬訂正	取毀	流失	燒失	喪失	倒壊	改設	移設	模樣替	(何省)ヨリ管理換	(何管理廳)ヨリ所屬換	(何事業區)ヨリ整理替	公用財産ヨリ種別替	雜種財産ヨリ種別替
規登載	謬訂正	取毀	流失	燒失	喪失	倒壊	改設	移設	模樣替	(何省)へ管理換	(何管理廳)へ所屬換	(何事業區)へ整理替	公用財産(種別替	雜種財産(種別替

目的廢止ノ協議ヲナシタルモノニ限ル

〔文會例〕

新造	購入	交付	取付	器具	誤謬訂正	（何省）ヨリ管理換	（何管理廳）ヨリ所屬換	（何事業區）ヨリ整理替	改	公用財産ヨリ種別替
新造	購入	交付	取付	器具	誤謬訂正	（何省）へ管理換	（何管理廳）へ所屬換	（何事業區）へ整理替	改	公用財産へ種別替
目的廢止	廢止									

丙、雜種財產

土地	區分	增	減	摘	要
賣拂 賣拂 史蹟地トシテ寄附 史蹟地トシテ購入				名勝地、天然紀念物亦此ノ例ニ依ル 同	

〔文會例〕

誤與取消	實測	報告	脫落地	引繼洩發見登載	國庫ニ歸屬	誤謬訂正	賣拂	伐採	盜伐	下	減	宮内省へ讓渡	史蹟地トシテ何省ヨリ引受	何省ヨリ引受	元、	史蹟地トシテ何省ヨリ引受	公用財産ヨリ種別替
實測	實測					誤謬訂正	賣拂	伐採	盜伐	下	減	宮内省へ讓渡	史蹟地トシテ文部省へ引繼	史蹟地トシテ何省ヨリ引受	元、	史蹟地トシテ何省ヨリ引受	公用財産ヨリ種別替
實測	實測					誤謬訂正	賣拂	伐採	盜伐	下	減	宮内省へ讓渡	史蹟地トシテ文部省へ引繼	史蹟地トシテ何省ヨリ引受	元、	史蹟地トシテ何省ヨリ引受	公用財産ヨリ種別替

民法第七十二條、第一千五十九條等ニ因リ國庫ニ歸屬シタル場合
樹木ノ賣拂ヲ爲シタルモノアルトキハ左傍ニ種目、數量及價格ヲ記載スルモノトス
同

名勝地、天然紀念物ノ引繼、引受ハ此ノ例ニ依ル

營林財産ヨリ種別替
交 換
耕地整理 換地
土地區劃整理 換地
種 目 變 更
行政區劃變更ニ因リ(何府、縣、郡、市)ヨリ編入

備考 脫漏(何年度)
樹木、本 價格、圓
備考 誤 謬 訂 正

營林財産へ種別替
交 換
耕地整理 引 渡
土地區劃整理 引 渡
種 目 變 更
行政區劃變更ニ因リ(何府、縣、郡、市)へ編入
營林財産トシテ何省へ引繼
公共用財産へ種別替
出 資
大 藏 省 へ 引 繼
何々敷トシテ何省へ引繼
引繼誤謬ニ因リ何省へ返還

備考 脫漏(何年度)
樹木、本 價格、圓
備考 誤 謬 訂 正

植民地各廳ニ管理換ヲナシタルトキ及營繕管財局ニ於テ營繕工事ノ爲管理換ヲナシタル場合ハ此ノ例ニ依ル

異動アリタルモノノ種目、數量及價格ヲ併記スルコト

〔文會例〕

新 規 登 載
報 告
賣 拂 取 消
賣 拂 取 消
讓 與 取 消
實 格 改 定
價 格 改 定
誤 謬 訂 正

何省ヨリ引受
史蹟トシテ何省ヨリ引受

公用財産ヨリ種別替
營林財産ヨリ種別替

實 格 改 定 查
價 格 改 訂
誤 謬 訂 正
賣 拂 取 消
讓 與 取 消
盜 伐

史蹟トシテ文部省へ引繼
公共用財産へ種別替
公用財産へ種別替
營林財産へ種別替

名勝地、天然紀念物ノ引繼、引受ハ此ノ例ニ依ル

交 換
行政區劃變更ニ因リ(何府、
縣、郡、市)ヨリ編入

賣 取
賣 拂
讓 與
端 數
國 庫
誤 謬
訂 正
屬 算
消 除
消 滅

交 換
行政區劃變更ニ因リ(何府、
縣、郡、市)ヘ編入
出 資
大 藏 省 へ 引 繼
何々敷ト共ニ何省へ引繼

端 數
誤 謬
訂 正
賣 取
讓 與
燒 失
流 失
倒 壊
捨 棄
拂 取
正 誤
與 失
燒 失
流 失
倒 壊

民法第七十二條、第一千五十九條等ニ因リ國庫ニ歸屬シタル
場合

〔文會例〕

工 作 物

新 設
増 設
報 告
賣 取
賣 拂
讓 與
誤 謬
訂 正
消 滅
消 除
正 誤

(何省)ヨリ引受
元何々
史蹟トシテ何省ヨリ引受
行政區劃變更ニ因リ(何府、
縣、郡、市)ヨリ編入
公用財産ヨリ種別替
營林財産ヨリ種別替

取 毀
出 資
(何省)へ引繼
行政區劃變更ニ因リ(何府、
縣、郡、市)へ編入
公用財産へ種別替
營林財産へ種別替

誤 謬
訂 正

〔文會例〕

船舶

交	何省ヨリ引受	史蹟トシテ何省ヨリ引受	行政區劃變更ニ因リ(何府、縣、郡、市)ヨリ編入	公用財產ヨリ種別替	營林財產ヨリ種別替	(何管理廳)ヨリ所屬換	(何々廳)ヨリ整理替
換							
出	何省ヘ引	史蹟トシテ文部省ヘ引繼	行政區劃變更ニ因リ(何府、縣、郡、市)ヘ編入	公用財產ヘ種別替	營林財產ヘ種別替	(何管理廳)ヘ所屬換	(何々廳)ヘ整理替
換							
取							
廢							
棄							
倒							
取							
讓							
賣							

〔文會例〕

株式及持分 礦業權

出	(何省)ヨリ引受	公用財產ヨリ種別替	營林財產ヨリ種別替	誤讓	讓與	賣拂	誤讓	讓與	賣拂
資									
出									
資									
流									
解									
擊									
讓									
賣									
誤									
讓									
訂									
正									
流									
毀									
沈									
與									
拂									
正									

〔文會例〕

國庫	=	歸屬
賣		買
本		減
少		拂

民法第七十二條、第一千五百九條等ニ因リ國庫ニ歸屬シタル場合

(參考) ●國有財產取上質權ノ件

○商工省會計課長通牒發乙一第千二十九號 大正十一年五月二十五日

國有財產取上ニ關シ別紙甲號ノ何出ニ對シ乙號ノ通回答致候爲念此段及通牒候也

(別紙)

甲 號

○北條種羊場長何發北甲第六十七號 大正十一年四月十一日
國有財產取上ニ關シ疑義相生シ候ニ付左記事項何分ノ御指示相煩
庶此段相伺ヒ候也
追テ第一項第二項ニ付テハ國有財產法ノ適用ヲ受ケサルモノトモ被
存候ヘトモ疑義有之候ニ付何度申添候

一、當場用地ハ民有地ニシテ該土地ヲ種羊場ニ於テ貸貸スル爲兵庫
縣加西郡長カ右土地ニ三十ヶ年ノ永小作權ヲ設定シ別紙ノ通土地
貸賃借契約相成居候處右土地ハ國有財產法施行令第一條第四項ノ
地上權(其ノ他之ニ準スヘキ權利)トシ國有財產法第一條ノ所謂勅
令ヲ以テ定ムル國有ノ勳產及權利トシ國有財產ノ取扱ヲ爲スヘキ

ヘキモノニアラス

(參照)

○商工省會計課長照會發乙一第千二十九號 大正十一年四月二十九日

大藏省主計局長

國有財產取上敷地内ニ通路ヲ新設シタル場合ニ於テハ國有財產整理
種目表中ノ種目ニ道路若ハ通路ノ種目無之右ハ全ク國有財產トシテ臺
帳ニ登錄ヲ要セサル候ニ候哉將又工作物及器具機械ノ區分中ニ通路ノ
種目ヲ設ケ臺帳ニ登錄スヘキ哉疑義相生シ候ニ付折返御回報煩庶此段
及照會候也

○大藏省臨時國有財產整理部長發藏第五千九百九十號

大正十一年五月十一日

商工省會計課長

客月二十九日發乙一第一〇二九號ヲ以テ通路ノ取扱ニ關シ御照會相成
候處右ハ舖床等ノ整理ヲ爲スヘキモノハ格別特ニ工作物トシテ通路ノ
種目ヲ設ケ整理スルヲ要セサルモノト存候

●特別會計ト一般會計トノ間ニ於ケル國有財產管理ノ件

○大藏省國有財產整理局長通牒發第二千二百六十二號ノ二 大正十三年二月二十五日

各稅務監督局長

帝國鐵道會計、大學資金、學校及圖書館資金ノ各特別會計相互間及之ト一
般會計トノ間ニ於ケル國有財產ノ管理換ハ其ノ財產輕重ナル場合(價格千

[文會例]

圖未滿ナルコトヲ大體ノ標準トス)及公共用財產ト爲ス場合ヲ除外原則
トシテ有價ト爲スベキコトニ決定致居候ニ付本月二十二日大藏省訓令第五
號第四項該當ノ場合ニ於テハ關係部局長官協議濟ナルモノニ付テモ右趣旨
ニ依リ御取扱相成庶此段及通牒候

●不動産登記法(抄)

○法律第二十四號 明治三十二年二月二十四日

第一條 登記ハ左ニ掲ケタル不動産ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變
更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付之ヲ爲ス

- 一 所有權
 - 二 地上權
 - 三 永小作權
 - 四 地役權
 - 五 先取特權
 - 六 質權
 - 七 抵當權
 - 八 賃借權
- 第二條 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス
- 一 登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
 - 二 前條ニ掲ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セ
ントスルトキ
- 右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ確定ス
ヘキモノナルトキ亦同シ

第三條 豫告登記ハ登記原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲ス但登記原因ノ取消ニ因ル訴ニ付テハ其取消ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル場合ニ限ル

第四條 詐欺又ハ強迫ニ因ツテ登記ノ申請ヲ妨ゲタル第三者ハ登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第五條 他人ノ爲メ登記ヲ申請スル義務アル者ハ其登記ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス但其登記ノ原因カ自己ノ登記ノ原因ノ後ニ發生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條 同一ノ不動産ニ關シテ登記シタル權利ノ順位ニ付テハ法律ニ別段ノ定ナキトキハ其順位ハ登記ノ前後ニ依ル

第七條 登記ノ前後ハ登記用紙中同區ニ爲シタル登記ニ付テハ順位番號ニ依リ別區ニ爲シタル登記ニ付テハ受附番號ニ依ル

第八條 附記登記ノ順位ハ主登記ノ順位ニ依ル但附記登記間ノ順位ハ其前後ニ依ル

第九條 假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依ル

第十條 登記スヘキ權利ノ目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第十一條 不動産カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ其各登記所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所ニ於テ申請ニ因リ管轄登記所ヲ指定ス

第十二條 第二十五條 登記ハ法律ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請又ハ官廳若クハ公署ノ囑託アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 囑託ニ因ルノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請ニ因ル登記ニ關スル規定ヲ準用ス

〔文會例〕

第二十九條 官廳又ハ公署ノ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ其官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十條 官有不動産又ハ府縣、郡、市、町村若クハ區ノ所有ニ係ル不動産ニ關スル權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳若クハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十一條 官廳又ハ公署カ不動産ニ關スル權利ヲ取得シタルトキハ其權利ニ付キ爲スヘキ登記ハ官廳又ハ公署カ登記權利者ナルトキハ職權ヲ以テ登記義務者ナルトキハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス但官廳又ハ公署カ登記權利者ナルトキハ登記義務者ノ承諾書ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十二條 官廳又ハ公署カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ消滅ノ登記ハ登記權利者ノ請求ニ因リ官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク囑託書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第三十三條 行政區畫又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區畫又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第六十二條 官廳又ハ公署カ登記權利者ノ爲メニ登記ヲ囑託シタル場合ニ於テ登記所ヨリ登記濟證ノ還付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第六十三條 行政區畫又ハ字ノ變更ニ伴ヒ土地ノ番號ノ變更アリタルトキハ土地臺帳所管廳ハ遲滞ナク其旨ヲ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第六十四條 前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ遲滞ナク登記用紙中表示欄ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十五條 官吏又ハ公吏ノ身元保證ヲ目的トスル抵當權ノ設定ノ登記ハ囑託書ニ其官吏又ハ公吏カ差出シタル登記請求書ヲ添附シテ當該官廳又ハ公署ヨリ遲滞ナク之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第六十六條 官廳又ハ公署カ未登記ノ不動産ニ付キ所有權以外ノ權利若クハ其權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記又ハ既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ裁判ニ依リテ其權利ヲ證スルコトヲ要セス

第六十七條 第二百四十八條 第二十九條ノ規定ニ從ヒ官廳又ハ公署ヨリ公賣處分ニ因ル權利移轉ノ登記ノ囑託アリタル場合ニ於テハ納滯處分ニ關スル差押ノ登記ヲ抹消シ若シ其權利ヲ目的トセル先取特權、質權又ハ抵當權ノ登記アリタルトキハ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

(以下略)

○司法省令第十一號 明治三十二年五月十二日

不動產登記法施行細則

第十四條 登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左

ノ帳簿ヲ備フ

- 一、圖面綴込帳
- 二、印鑑簿
- 三、共同擔保目錄綴込帳
- 四、信託原簿綴込帳
- 五、申請書類綴込帳
- 六、決定原本綴込帳
- 七、抗告書類綴込帳
- 八、評價事件簿
- 九、評價書類綴込帳
- 十、印鑑證明書綴込帳
- 十一、本登記濟證交付帳
- 十二、土地登記濟通知簿
- 十三、謄本抄本交付帳
- 十四、各種通知簿
- 十五、受領證原符元帳
- 十六、還納受領證綴込帳

前項第三號乃至第十六號ノ帳簿ハ一ヶ年毎ニ別冊ト爲スヘシ但分冊スルコトヲ妨ケス

第十五條 申請書、囑託書、通知書、許可書、管轄轉屬ニ因リ移送ヲ受ケタル登記簿謄本、登記立合調書其他ノ附屬書類ハ受附番號ノ順序ニ依リテ申請書類綴込帳ニ之ヲ編綴スヘシ

第十六條 圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號及ヒ登記番號ヲ記

載シ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シテ數ヲ附スヘシ

第十六條ノ二 共同擔保目録ノ表紙ニハ申請書受附番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シテ附スヘシ

第二十五條 不動産ノ所有者ハ其本籍地又ハ所在地ノ市、區、町、村、長、市、町、村、長、ナキ地ニ於テノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ノ管轄スルハ其職務ヲ行フ吏員ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ノ管轄スル登記所ニ提出スベシ改印ヲ爲シタルトキ又同シ

不動産ヲ所有スル法人又ハ外國會社ノ代表者ハ法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ノ管轄スル登記所ニ提出スベシ但法人又ハ外國會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ト不動産所在地ノ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此限ニ在ラス

第二十八條 第二十五條ノ規定ハ官廳及ヒ公署ニハ之ヲ適用セス

第二十九條 登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出スヘシ

代理人カ前項ノ請求ヲ爲ストキハ申請書ニ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 土地登記簿謄本ノ交付又ハ土地登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シ又ハ其事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一 土地所在ノ郡、市、區、町、村、字及ヒ土地ノ番號

二 手数料ノ金額

三 登記所ノ表示

第三十七條 登記簿又ハ附屬書類ノ閱覽ハ登記官吏ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第四十七條 登記官吏カ申請書ヲ受取りタルトキハ遲滞ナク申請ニ關スル總テノ事項ヲ調査スヘシ

第四十八條 登記番號ハ不動産登記法施行ノ日ヨリ更ニ新ナル番號ヲ附スヘシ

第四十九條 表示欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及ヒ表示欄ニ縱線ヲ劃シ事項欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及ヒ事項欄ニ縱線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

假登記ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縱線ヲ劃シ其左側ニ本登記ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及ヒ事項欄ニ縱線ヲ劃スヘシ

●各省所管ニ係ル不動産登記ノ囑託ニ關スル件

○勅令第五號 明治三十五年一月十八日
各省大臣カ其ノ所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ省令ヲ以テ指定シタル官吏ハ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス

●文部省所管不動産登記囑託ニ付官吏指定ノ件

第八章 國有財產 第一節 通則

四 年月日

第三十一條 土地登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第三十二條 前二條ノ規定ハ建物登記簿ノ謄本若クハ抄本ノ交付又ハ建物登記簿若クハ附屬書類ノ閱覽ノ請求ニ之ヲ準用ス但建物ノ番號アルトキハ申請書ニ其番號ヲモ記載スヘシ

第三十二條ノ二 不動産登記法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ登記簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於ケル不動産ノ目録ハ登記簿及ヒ共同擔保目録ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

登記簿ノ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於ケル不動産ノ目録ハ半紙ノ紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

第三十三條 不動産登記法第二十一條第二項ノ郵送料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第三十四條 登記官吏カ第二十九條ノ申請書ヲ受取りタルトキハ受附帳ニ請求ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シタル上受附番號ノ順序ニ從ヒテ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十五條 登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作り其末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スヘシ

此謄本ハ登記簿ニ依リテ作り且登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但抄本用紙ハ半紙ノ紙ヲ用ユヘシ

○文部省令第十五號 昭和六年五月十三日

當省所管ニ係ル不動産登記ノ囑託ニ付テハ左ノ官吏ヲ指定ス
北海道廳長官、府縣知事、文部大臣官房會計課長、帝國大學總長、官立大學長、文部省直轄諸學校長、帝國圖書館長、氣象臺長、緯度觀測所長、東京科學博物館長、體育研究所長

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年文部省令第三十二號ハ之ヲ廢止ス

(參考)

●不動産ニ關スル權利取得又ハ移轉ノ場合登記請求方

○內務省訓令第十二號 明治三十四年七月二十三日
本大臣ノ委任ニ依リ不動産ニ關スル權利ヲ取得シ又ハ移轉シタル場合ニ於テ不動産登記法ノ規定ニ依ル登記ノ請求ハ其ノ處ニ於テ之ヲ爲スヘシ

●官廳公署ノ囑託ニ依ル登記書類運付費用ノ件

○司法省會計課通牒會檢甲第三百九十二號
明治三十二年十一月二日
地方裁判所長

官廳又ハ公署ノ囑託ニ依リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其登記書類運付ノ爲メ要スル費用ノ儀ハ裁判所經費ヨリ支辨スルコトニ決定相成候條其取扱區々ニ出テサル様實廳管内各區裁判所及出張所へ御通知相成

候様致度此段及御通牒候也

●外濠埋立ニ關スル件

○内務大臣官房地理課長照會發第百二十三號 大正十三年六月九日 復興局長官

舊江戸城廓外濠中四谷見附埋立ノ件ニ關シ東京府ヨリ具申並管理換協議等ノ書類ヲ目下貴局ニ於テ御處理中ナルヤニ聞及候處外濠ノ埋立ニ就テハ大正九年中内務次官ヨリ別紙寫ノ通東京府知事へ通牒ノ次第モ之アリ舊態ヲ保存スルノ必要アルモノト認メ候間右趣旨御含ミノ上御處理相成候様致度候(別紙略)

●公有水面埋立ニ關スル件

○内務次官通牒内務省發士第三十五號 大正十一年四月二十日 文部次官

公有水面埋立法及同法施行令本年四月十日ヨリ施行セラレ候ニ付テハ左記事項御承知相成度

- 一 國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ於ケル公有水面埋立法第四十二條ノ規定ニ依ル埋立ノ承認又ハ竣工ノ通知ニ付テハ同法施行令第二條又ハ同令第二十五條ノ規定スル所ニ準シ必要ナル手續ヲ履踐スルコトニ致度
- 二 埋立地(陸地)ト公有水面トノ境界ハ潮汐干満ノ差アル水流、水面ニ在リテハ春分及秋分ニ於ケル満潮位、其ノ他ノ水流、水面ニ在リテハ高水位ヲ標準トシ之ヲ定ムルコト

(備考)

縮尺ハ五千分ノ一以上トシ埋立ニ關スル工事計畫區域ノ全部及其ノ周圍ノ地形及工作物ノ位置等ヲ示シ且工事計畫區域内及其ノ附近ニ名勝、舊蹟、古墳墓、天然記念物等アルトキハ其ノ名稱及位置ヲ示スコト

(一) 求積平面圖

縮尺ハ五千分ノ一以上トシ埋立地ノ面積算出ノ方法及計算表ヲ記入シ且埋立地内ニ於ケル堤防、道路、溝渠、物揚場其ノ他ノ工作物ノ敷地ヲ區別シテ明記スルコト

(二) 橫斷面圖及縱斷面圖

縮尺ハ横五千分ノ一以上縦百分ノ一以上トシ水準基線ハ陸地測量部水準基線ニ準據スルコト但シ陸地測量部水準基線ニ準據スルコト能ハサル場合ニハ別ニ水準基線ヲ設クルコト

(三) 工作物構造圖

縮尺ハ百分ノ一以上トシ其ノ構造及寸法ヲ示スコト 第四號及第五號ノ圖面ニハ高水位、低水位又ハ満潮位、干潮位等ヲ記載スルヲ要ス

六 埋立地ト公有水面トノ境界ハ潮汐干満ノ差アル水流、水面ニ在リテハ春分及秋分ニ於ケル満潮位、其ノ他ノ水流、水面ニ在リテハ高水位ヲ標準トシ之ヲ定ムルコトニ御取扱相成度

七 施行令第五條中「埋立ノ出願ニシテ免許シ得ヘキモノ」トアルハ埋立ニ關スル工事ノ施行カ公益上支障ナク且事業遂行ノ見込確實ナルモノニシテ埋立ニ關スル法令ノ規定ニ依リ免許シ得ヘキモノヲ指ス義ニ有之

●公有水面埋立ニ關スル取裁方ノ件

○内務省土木局依命通牒發士第三十五號 大正十一年四月二十日 地方長官

公有水面埋立法及同法施行令本年四月十日ヨリ施行セラレ候ニ付テハ左記事項御承知ノ上御處理相成度

- 一 法第一條及施行令第一條ノ「溝渠又ハ溜池」中ニハ泉、惡水溜、水游、鹽廻シ、鹽游等溝渠又ハ溜池ニ準スヘキ水流、水面ヲ包含シ又「變更」中ニハ位置、形狀ノ變更ハ勿論個數ヲ増減シ又ハ從前ト同一ノ用途ニ供スル目的ヲ以テ溜池ニ更フルニ揚水機ヲ新設スル場合ヲモ包含スルモノトシテ御取扱相成可然
- 二 從來埋立免許願書ハ下級行政廳ヲ經由シテ提出セシムル向モ有之候處爾今ハ直接道府縣廳ニ提出セシムルコトニ御取扱相成度尙競願處理ノ關係モ有之願書受理ノ日ヲ明確ナラシムル様御注意相成度
- 三 河川法適用ノ水流、水面ニ付テハ公有水面埋立法ノ適用ナキ義ニ付御注意相成度
- 四 土地ノ所有權ヲ享有スルコトヲ得サル外國人及外國法人ニハ埋立ヲ免許スルヲ得サル義ニ付御了知相成度
- 五 施行令第二條ノ圖面ハ左ノ通調製セシメラレ度

- (一) 一般平面圖 縮尺五萬分ノ一以上ノ陸地測量部ノ刊行圖又ハ之ニ準シ調製シタル圖面ニ埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ記載スルコト
- (二) 實測平面圖

八 公共團體ノ出願ト個人ノ出願トカ競願トナリタルトキハ事業計畫上ヨリ觀察シテ公益上及經濟上ノ價值同等ナル場合ニハ公共團體ノ出願ヲ以テ公益上ノ價值大ナルモノトシテ處理スヘキ義ト御了知相成度

九 法第十一條ノ「其ノ事件ノ要領」トハ少クモ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ住所、氏名、埋立ノ面積、埋立ノ目的並埋立ニ關スル工事ノ著手及竣工ノ期限ヲ包含スル義ニ有之

十 施行令第十八條ノ規定ニ依リ免許料ヲ地方公共團體ニ歸屬セシムル場合ニ於テハ大體國又ハ各地方公共團體カ現ニ支出シ又ハ支出シタル費用ヲ標準トシ歸屬ノ場合ヲ定メ例ヘハ地方公共團體カ費用ノ全部ヲ現ニ支出シ又ハ支出シタル場合ニ於テハ免許料ノ全部ヲ地方公共團體ニ歸屬セシムルコトニ御取扱相成度

十一 法第二十七條ノ規定ニ依リ埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニ付埋立ノ免許條件ヲ以テ地方長官ノ許可ヲ受ケヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得ルハ埋立ノ免許條件ヲ以テ埋立地ニ關シ竣功認可後ニ於テ遵守スヘキ義務ヲ命スルヲ要スル場合ニ限ル義ニ付御注意相成度

十二 施行令第二十五條ノ實測平面圖及求積平面圖ハ縮尺ヲ二千五百分ノ一以上トシ第五項ノ實測平面圖及求積平面圖ニ準シ何レモ實測シタル結果ヲ記入セシメラレ度

十三 埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ分割シ各區域ニ付異ル竣功期間ヲ指定シタルモノニ就テハ其ノ竣功區域毎ニ竣功認可ヲ爲スヲ妨ケサレトモ右ハ殘工事ノ竣工ニ妨ケナク且公益ニ害ナキ場合ニ限ル義ニ付御注意相成度

- 十四 從來護岸、堤塘ハ總テ之ヲ國ニ歸屬セシムルコトニ御取扱相成居候向モ有之候處爾今ハ公用又ハ公共ノ用ニ供スルノ必要アリト認ムルモノニ限リ國ニ歸屬セシムルコトニ御取扱相成度
- 十五 法第四十二條ノ承認又ハ通知ニ付テハ施行令第二條又ハ同令第二十五條ノ規定スル所ニ準シ適宜御措置相成度尙各省ヘ其ノ旨及通牒置候條御了知相成度
- 十六 施行令第三十二條ノ規定ニ依ル認可申請ノ場合ニハ左ノ事項ヲ詳具セラレ度
 - (一) 埋立ノ免許ノ事由尙施行令第三十二條第一號ノ場合ニ於テハ其ノ拒否ノ事由
 - (二) 埋立ノ免許又ハ追認ノ條件
 - (三) 起業ノ確否
 - (四) 免許料算定ノ基礎
 - (五) 施行令第三十二條第八號ノ場合ニ在リテハ免許料ヲ歸屬セシムル地方公共團體及其ノ歸屬ノ割合ヲ定ムル根據
- 尙施行令第三十二條第一號乃至第七號及第九號ノ場合ニハ其ノ免許願書類ノ副本ヲ添附相成度
- 十七 國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ於テ施行令第三十二條各號ニ該當スル事項ニ就テハ當省大臣ノ認可ヲ受ケラレ度
- 十八 施行令第三十二條第二號ノ河川ノ支派川等ニ於ケル埋立ニシテ之ニ著シキ影響ヲ及ホス虞アルモノハ其ノ本流ニモ著シク影響ヲ及ホスモノト被認候ニ付是等ノモノハ同條第三號ニ依リ受クルヲ要スル義ト御承知相成度

〔文會例〕

- 十九 施行令第三十二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル埋立ノ免許ニ關シ免許願書及添附圖書ニ記載ノ事項ヲ變更シ又ハ免許條件ヲ變更セムトスルトキハ更ニ認可ヲ受ケヘキ義ト御承知相成度
- 二十 公有水面占用ノ許可ヲ受ケテ水產物養殖場又ハ乾船渠ヲ築造シタル者其ノ地盤ノ所有權ヲ取得セムトスル場合ハ埋立ニ關スル法令ノ規定ニ依リ其ノ築造ニ關スル手續ヲ履マシムルコトニ御取扱相成度
- 二十一 法ノ附則第二項ニ依リ處分ニ附シタル條件ヲ變更シ又ハ處分ニ條件ヲ附セムトスルトキハ施行令第三十二條第二號乃至第七號ニ該當スル埋立ノ免許ニ對スルモノニ就テハ當省大臣ノ認可ヲ受クルヲ要スル義ト御了知相成度
- 二十二 大規模ハ土地所有權ニ非スシテ埋立免許權ナルニ付法ノ附則第二項ニ依リ貴官ノ定ムル期限内ニ實施設計認可ノ申請ヲ爲サシメ且其ノ他ノ必要ナル條件ヲ附スルコトニ御取扱相成度
- 二十三 左ニ掲クル事項ハ遲滯ナク其ノ要領ヲ當省大臣ニ報告セラレ度
 - (一) 埋立免許願書ノ受理(大正十四年十月發土第四十號土木局依命通牒ニ依リ本號ハ報告ヲ要セサルコトニ改正)
 - (二) 埋立ノ免許ノ拒否
 - (三) 施行令第三十二條ノ規定ニ依ル認可ヲ要セサル埋立ノ免許
 - (四) 法第六條ノ規定ニ依ル裁定
 - (五) 法第十條ノ規定ニ依ル處分
 - (六) 法第十三條ノ期間ノ伸長ノ許可及法第三十四條第一項但書ノ規

定ニ依ル埋立免許ノ效力ノ復活

- (四) 法第二十二條ノ竣功認可
- 二十四 本通牒ハ施行令第三十三條ノ水產物養殖場又ハ乾船渠ノ築造ニ關シ準用スルモノト御了知相成度

●臺灣官有森林原野及產物特別處分令

○勅令第三百一十一號 明治二十九年九月二十三日

改正 明治三十二年勅令第二九一號、三十二年第一七號、四三年第四三七號、大正二年第九六號、四年第八三號

- 第一條 臺灣總督ハ左ノ場合ニ限リ官有森林原野及其ノ產物ヲ競争ニ付セズ隨意ノ契約ヲ以テ貸渡シ又ハ賣渡スコトヲ得
 - 一 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡シ及其ノ建築材料ヲ賣渡スコトキ
 - 二 開墾若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡スコトキ但森林原野ヲ賣渡スニハ其買受豫約人ニ於テ豫定ノ事業ヲ成功シタル後ニ限ル
 - 三 鑛業ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料又ハ薪炭材ヲ賣渡スコトキ
 - 四 植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡スコトキ但森林原野ヲ賣渡スニハ其買受豫約人ニ於テ豫定ノ事業ヲ成功シタル後ニ限ル
 - 五 非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡スコトキ
 - 六 部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ

- 七 從來ノ慣行ニヨリ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若クハ土石ヲ賣渡スコトキ

- 八 地籍調査ニ依リ發見シタル開墾地ヲ其ノ開墾人ニ賣渡スコトキ
- 八ノ二 林野調査ノ査定前慣行ニヨリ開墾牧畜若ハ植樹ノ爲メ森林原野ヲ使用シ又ハ森林原野ノ重要物產ヲ採取シタル者ニ其ノ森林原野ヲ賣渡スコトキ
- 九 建築其ノ他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其ノ發見人ニ賣渡スコトキ
- 十 季節アル生產物ヲ賣拂フトキ
- 十一 開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區域内ニアル產物ヲ其ノ借受人ニ賣拂フトキ
- 十二 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ產物ヲ賣渡スコトキ
- 十三 部分方法ニ依リ林產物製造ノ爲メ其ノ原料ヲ請負人ニ賣渡スコトキ
- 十四 見積借地料一箇年金二百圓ニ超エサル森林原野ヲ貸渡スコトキ
- 十五 見積代價六百圓ニ超エサル主副產物ヲ賣拂フトキ
- 十六 河海沼湖濠池ノ埋立ニ要スル土石ヲ賣渡スコトキ
- 十七 樟腦製造ノ爲メ樟樹若ハ其他ノ木竹ヲ賣拂フトキ
- 十八 伐採期ニ達シタル蕃地ノ林野ノ產物ヲ林業ノ經驗ヲ有シ且相當ノ資産ヲ有スル者ニ限リ賣拂フトキ
- 十九 セメント又ハ石灰製造ノ爲メ土石ヲ賣拂フトキ

第二條 臺灣總督ハ競争ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消

シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ鑑定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下若クハ貸下ヲ望ムモノアルトキハ隨意之ヲ賣渡若クハ貸渡スコトヲ得

第三條 臺灣總督ハ森林保護ノ爲メ必要ト認ムルトキハ制限ヲ付シ地元人民ニ森林ノ副産物ヲ無料ニテ採取セシムルコトヲ得

第四條 臺灣總督ハ森林手入ノ爲メ採取シタル産物ノ全部又ハ一部ヲ手入料トシテ下付スルコトヲ得

第五條 本令施行ニ關スル細則ハ臺灣總督之ヲ定ム

(參考)

●內務省所管國有財產取費規程(抄)

○內務省訓令第十號 大正十一年六月十九日

改正 大正十一年第一四號、第二一號、一三年第六號、昭和二年第二〇號、三年第五號、四年第九號、第一八號、五年第五號、七年第三號、九年第六號、第一三號、一一年第一五號、第一七號、一二年第一三號、一三年第三號、一四年第一〇號

(第三條)左ニ掲クル事項ハ部局長限リ之ヲ處理スヘシ

- 一 國有財產ノ管理ニ關スル事項
- 二 公用財產ノ一時使用許可ニ關スル事項
- 三 公用財產タル土地ノ用途變更ニシテ大藏大臣ノ定メタルモノニ該當セサルモノ、其ノ異動面積百坪ヲ超エサルモノ、相接続スル兩敷地區域ノ相互變更面積カ其ノ敷地ノ一割ヲ超エサルモノノ用途ヲ變更スル事項
- 四 國有財產法施行令第一條第二號ノ從物ヲ主物ヨリ分離シ公用財產タル用途ヲ廢止スル事項
- 五 公共用財產ト爲ス爲土地ノ買入、收用若ハ寄附受納ヲ爲ス事項

[文會例]

- 六 公共用財產ノ使用又ハ收益ヲナサシムル事項
- 七 公共用財產ノ用途ヲ變更スル事項
- 八 公共用財產及神社用ニ供スル公用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ大藏省所管ニ引繼ヲナス事項
- 九 公共用財產ヲ公用財產ト爲ス爲他省所管ニ管理換ヲ爲ス事項
- 十 公共用財產若ハ神社ノ用ニ供スル公用財產ヲ營林財產ト爲ス爲農林省所管ニ管理換ヲ爲ス事項
- 十一 史蹟、名勝、天然紀念物ニ指定セラレタル財產ヲ他省ヨリ引繼ヲ受ケ若ハ所有者ヨリ寄附ヲ受納スル事項
- 十二 他省所管ノ公用財產ヲ公共用財產ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項
- 十三 農林省所管ノ國有林野ヲ公共用財產ト爲ス爲又ハ神社上地ノ農林省所管國有林野ヲ神社ノ用ニ供スル公用財產ト爲ス爲管理換ヲ受クル事項
- 十四 神社ノ用ニ供スル爲土地ノ寄附ヲ受納スル事項
- 十五 神社用地又ハ公共用財產タル土地ノ用途ヲ廢止シ之ヲ神社用地又ハ公共用財產ト爲スノ必要アル民有地ト交換スル事項
- 十六 公用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共用財產ト爲ス爲又ハ公共用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公用財產ト爲ス爲大藏省所管ニ引繼ヲ爲ササル事項
- 十七 公用財產タル立木竹中庭木其他材積ヲ基準トシテ算定シ難キモノ及工作物中臺帳價格千圓以下ノモノニ付取毀ノ目的ヲ以テ用途廢止ヲ爲ス事項

[文會例]

前項第十二號及第十三號ノ場合ニ於テハ各省關係部局長及所轄稅務監督局長ニ、第十四號乃至第十六號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ、第十七號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長事前通知ヲナスヘシ

(注意)

本規程ニ於ケル部局長左ノ如シ(規程第二條)

內務大臣官房會計課長、土木出張所長、土木試驗所長、防空研究所長、神宮大宮司、造神宮副使、警察講習所長、警視總監、北海道廳長官及府縣知事

●國立公園法ノ運用ニ關スル件

○文部次官回答官宗九十一號 昭和六年十一月三十日

客月三十一日付內務省發給第一二六號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處右ハ貴照會左記四ノ中「史蹟名勝天然紀念物保存法第一條ニ」トアルヲ「史蹟名勝天然紀念物保存法第一條第一項ニ」ト改ムルコトトシテ同意可致ニ付御了知相成度

○內務次官照會內務省發給第百二十六號 昭和六年十月三十一日

本月一日國立公園法施行セラレ候ニ付同法ノ運用ニ際シテハ國立公園調査會ノ取極ノ趣旨ニ基キ左記ノ通處理致度候條此段及照會候

記

- 一、國立公園ノ指定ニシテ大學並ニ學校及圖書館特別會計ニ屬スル國有財產其ノ他文部省所管ニ屬スル國有財產ニ關係アルトキハ國立公園委員會ニ附議スル以前ニ於テ豫メ文部省ニ協議スルコト

- 二、國立公園計畫及國立公園事業ノ決定ニシテ史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リテ指定セラレタルモノ又ハ大學並ニ學校及圖書館特別會計ニ屬スル國有財產其ノ他文部省所管ニ屬スル國有財產ニ關係アルトキハ國立公園委員會ニ附議スル以前ニ於テ豫メ文部省ニ協議スルコト
- 三、國立公園法第八條第二項ニ依ル許可又ハ同法第九條第一項ニ依ル命令若ハ處分ヲ爲ス場合史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リテ指定セラレタルモノ又ハ大學並ニ學校及圖書館特別會計ニ屬スル國有財產其ノ他文部省所管ニ屬スル國有財產ニ關係アルトキハ豫メ文部省ニ協議スルコト
- 四、國立公園區域内ノ雜種財產タル土地ニシテ文部省ノ管理スルモノヲ處分セントスルトキハ豫メ內務省ニ協議スルコト但シ大學並ニ學校及圖書館特別會計ニ屬スルモノニ付テハ大藏大臣ニ協議スル以前ニ於テ豫メ內務省ニ通知スルコト

●都市計畫法

○法律第三十六號 大正八年四月五日

改正 大正十二年第二七號、一五年第三八號、昭和六年第一五號、第三〇號、八年第二二號、九年第五四號、一五年第六〇號

- 第一條 本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衛生、保安、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進スル爲ノ重要施設ノ計畫ニシテ市若ハ主務大臣ノ指定スル町村ノ區域内ニ於テ又ハ其ノ區域外ニ互リ施行スヘキモノヲ謂フ
- 第二條 都市計畫區域ハ市又ハ前條ノ町村ノ區域ニ依リ主務大臣之ヲ決定

主務大臣必要ト認ムルトキハ關係市町村及都市計畫委員會ノ意見ヲ聞キ
 前項ノ區域ニ拘ラズ都市計畫區域ヲ決定スルコトヲ得
 第三條 都市計畫、都市計畫事業及毎年度執行スヘキ都市計畫事業ハ都市
 計畫委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ決定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ
 第四條 都市計畫委員會ノ組織、權限及費用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之
 ヲ定ム
 第五條 都市計畫事業ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳之ヲ執行ス
 主務大臣特別ノ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ
 非サル者ヲシテ其ノ出願ニ依リ都市計畫事業ノ一部ヲ執行セシムルコト
 ヲ得
 第六條 都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ
 在リテハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其
 ノ公共團體、行政廳ニ非サル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負
 擔トス
 主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫事業ニ因リ
 著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ
 全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得
 第七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ公共團體ノ負擔ス
 ヘキ毎年度ノ金額ノ最低限度ヲ定ムルコトヲ得
 第八條 削除
 第九條 都市計畫區域内ニ存スル國有河岸地ニシテ公共ノ用ニ供セサルモ
 ノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ之ヲ下付スルコトヲ得

〔文會例〕

第十條 都市計畫區域内ニ於テ市街地建築物法ニ依ル地域又ハ地區ノ指
 定、變更又ハ廢止ヲ爲ストキハ都市計畫ノ施設トシテ之ヲ爲スヘシ
 都市計畫區域内ニ於テハ市街地建築物法ニ依ル地域及地區ノ外土地ノ狀
 況ニ依リ必要ト認ムルトキハ風致又ハ風紀ノ維持ノ爲特ニ地區ヲ指定ス
 ルコトヲ得
 第十一條 第十六條第一項ノ土地ノ區域内又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ指
 定スル地區内ニ於ケル建築物、土地ニ關スル工事又ハ權利ニ關スル制限
 ニシテ都市計畫上必要ナルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十二條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利用ヲ
 増進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得
 前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地
 整理法ヲ準用ス
 第十三條 都市計畫トシテ内閣ノ認可ヲ受ケタル土地區劃整理ハ認可後一
 年内ニ其ノ施行ニ著手スル者ナキ場合ニ於テハ公共團體ヲシテ都市計畫
 事業トシテ之ヲ施行セシム但シ災害其ノ他特別ノ事情ニ因リ特ニ急施ヲ
 要スル場合ニ於テハ認可後一年內ト雖モ之ヲ施行セシムルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付耕地整理法ヲ準
 用シ難キ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得
 第十四條 地方官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス場合ニ於テハ
 主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 第十五條 土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃賃價格ハ勅令ノ定ムル所ニ
 依リ之ヲ定ム
 第十五條ノ二 土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラ

〔文會例〕

ス建物アル宅地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得
 第十六條 道路、廣場、河川、港灣、公園其ノ他勅令ヲ以テ指定スル施設
 ニ關スル都市計畫事業ニシテ内閣ノ認可ヲ受ケタルモノニ必要ナル土地
 ハ之ヲ取用又ハ使用スルコトヲ得
 前項土地附近ノ土地ニシテ都市計畫事業トシテノ建築敷地造成ニ必要ナ
 ルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ取用又ハ使用スルコトヲ得
 第十七條 土地區劃整理ノ爲又ハ衛生上若ハ保安上ノ必要ニ依リ建築物ノ
 整理ノ爲必要アルトキハ建築物其ノ他ノ工作物ヲ取用スルコトヲ得
 第十八條 前二條ノ規定ニ依リ取用又ハ使用ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ア
 ル場合ヲ除クノ外土地取用法ヲ適用ス
 前項ノ規定ニ依ル土地取用法ノ適用ニ付テハ前條ノ工作物ハ之ヲ土地ト
 看做ス
 第十九條 第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依リ取用又ハ使用ニ付テハ第三
 條ノ規定ニ依リ都市計畫ノ認可ヲ以テ土地取用法ニ依ル事業ノ認定ト看
 做ス
 第二十條 土地取用法第二十二條第一項ノ協議調ハサル場合又ハ此ノ協議
 ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ事業執行者ハ主務大臣ノ裁定ヲ求ムル
 コトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ取用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得
 前二項ノ規定ハ損失ノ補償ノ協議ニ關シテハ之ヲ適用セス
 第二十一條 第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地及第十六條第二項ノ
 規定ニ依リ取用シタル土地ノ處分及管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十二條 都市計畫事業ニ依リ生シタル管造物ノ管理ニ付特ニ必要アル

トキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ管理者ヲ定ム
 第二十三條 行政執行法第五條及第六條ノ規定並之ニ基キテ發スル命令ハ
 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘ
 キ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス
 第二十四條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ
 依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金其ノ他ノ費用ハ行政廳國稅滯納處分ノ例
 ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ徵收金ノ先取特權ノ順位並其ノ追徵還付及時效ニ付テ
 ハ行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル
 第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政
 廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴訟スルコトヲ得
 本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴
 願スルコトヲ得
 第二十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政
 廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判
 所ニ出訴スルコトヲ得
 附則
 第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年勅令第四百八十一號
 ヲ以テ大正九年一月一日ヨリ施行)
 第二十八條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則及大正七
 年法律第三十六號並之ニ基キテ發シタル命令ハ之ヲ廢止ス
 第二十九條 東京市區改正條例及東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又
 ハ準用ヲ受クル市ハ第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

第三十條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル設計又ハ議定シタル事業ハ各本法ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル都市計畫又ハ都市計畫事業ト看做ス

第三十一條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則若ハ大正七年法律第三十六號又ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ依リ爲シタル處分ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セザル限リ本法ニ依リ爲シタル處分ト看做ス

第三十二條 東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ關シテハ同規則第一條第二項乃至第四項ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第三十三條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第百八十四號ニ依リ下付ヲ受ケタル官有ノ河岸地ハ其ノ下付ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地租ヲ免除ス但シ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ河岸地ヨリ收入スル金額ハ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終ル迄之ヲ他ニ支出スルコトヲ得ス

第一項ノ河岸地ノ下付ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却譲與スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則 (昭和八年法律第二十二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年勅令第八十三號ヲ以テ昭和八年五月十日ヨリ施行)

〔文會例〕

●都市計畫法施行令

○勅令第四百八十二號 大正八年十一月二十八日

改正 大正一〇年第四一六號、昭和四年第三九五號、六年第四五號、八年第八四號、一〇年第一二二號

第一條 都市計畫事業ハ市又ハ都市計畫法第一條ノ規定ニ依リ指定スル町村ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行ス

第二條 市又ハ前條ノ町村ノ區域外ニ於テ又ハ區域外ニ互リ都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ於テ内務大臣區域外ニ於ケル事業カ主トシテ區域外ノ公共團體ノ利害ニ關スト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス其ノ公共團體ヲ統轄スル行政廳ヲシテ區域外ニ於ケル事業ヲ執行セシムルコトヲ得

第三條 内務大臣都市計畫事業カ分割シテ之ヲ執行スルコト困難又ハ不利益ト認ムルトキ其ノ他特別ノ事情アリト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ拘ラス事業ヲ執行スヘキ行政廳ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前三條ノ規定ハ行政官廳都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ之ヲ適用セス

第五條 行政廳ニ非サル者ヲシテ執行セシムルコトヲ得ル都市計畫事業ノ種類及範圍ハ關係行政廳ノ意見ヲ聞キ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ内務大臣之ヲ定ム

第六條 行政廳ニ非サル者都市計畫事業ヲ執行セムトスルトキハ内務大臣ニ特許ヲ申請スヘシ

第七條 内務大臣ハ前條ノ特許ニ都市計畫上其ノ他公益上必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第八條 第六條ノ特許ヲ受ケタル者事業ヲ實施セムトスルトキハ設計書ヲ

〔文會例〕

添附シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ非サレハ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

一 行政官廳ノ執行スル事業ニ因リ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

二 事業地ノ公共團體以外ノ公共團體又ハ上級公共團體ヲ統轄スル行政廳ニ於テ執行スル事業ニ因リ事業地ノ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

三 事業ニ因リ生シタル營造物カ他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ又ハ其ノ營造物ヲ利用スルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ

四 前各號ノ外都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ニシテ内務大臣ヨリ指定セラレタルモノアルトキ

第十條 都市計畫法第六條第二項ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ金額及其ノ負擔方法ニ付テハ關係市町村長ノ意見ヲ聞キ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ内務大臣之ヲ定ム

第十一條 都市計畫法第十六條第一項ノ土地ノ區域内ニ於テ工作物ヲ新築改築増築若ハ除却シ、土地ノ形質ヲ變更シ又ハ地方長官ノ指定シタル竹木土石ノ類ヲ採取セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セスト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 地方長官ハ前條ノ許可ニ都市計畫事業ノ執行上必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第十三條 風致維持ノ爲指定スル地區内ニ於ケル工作物ノ新築改築増築若

ハ除却、土地ノ形質ノ變更、竹木土石ノ類ノ採取其ノ他風致維持ニ影響ヲ及ホス虞アル行爲ハ地方長官内務大臣ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十四條 地方長官ハ第十一條ノ規定ニ、前條ノ命令ニ又ハ第十二條ノ條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命スルコトヲ得

第十五條 都市計畫法第十三條第一項ノ規定ニ依リ公共團體ノ土地區劃整理ノ施行ハ内務大臣之ヲ命ス

第十六條 前條ノ土地區劃整理ノ施行ニ要スル費用ハ整理地區内ノ土地所有者又ハ關係人ノ負擔トス

前條ノ土地區劃整理ノ地區外ノ土地所有者又ハ關係人ニシテ其ノ施行ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ内務大臣ノ定ムル區域ニ依リ之ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十七條 公共團體第十五條ノ規定ニ依リ土地區劃整理ノ施行ヲ命セラレタルトキハ設計書、費用負擔方法及耕地整理法ニ基ク規約ニ代ルヘキ必要事項ヲ定メテ之ヲ告示シ十日間土地所有者及關係人ノ縦覽ニ供シタル後地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

土地所有者又ハ關係人前項ノ規定ニ依リ定メタル設計書、費用負擔方法其ノ他ノ事項ニ關シ異議アルトキハ前項ニ掲クル期間内ニ地方長官ニ之ヲ申出ツルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ異議ノ申出アリタルトキハ地方長官ハ都市計畫委員會ノ議決ニ付スヘシ

地方長官ハ前項ノ議決カ第一項ノ規定ニ依リ定メタル設計書、費用負擔

方法其ノ他ノ事項ノ變更ヲ必要トスルトキハ公共團體ニ其ノ變更ヲ命スヘシ公共團體カ變更ヲ爲シタルトキハ其ノ變更シタル部分ニ付第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 前二條ノ土地所有者及關係人ノ意義ニ關シテハ耕地整理法ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 第十五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ付テノ耕地整理法ノ準用ニ關シテハ同法第四十二條ノ二、第四十七條及第四十八條ノ組合ハ土地區劃整理ヲ施行スル公共團體トシ同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理組合ノ地區ハ土地區劃整理ノ地區トス

第二十條 土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃賃價格ニ關シテハ耕地整理法第十二條乃至第十三條ノ二、第十四條第二項、第三項、第十四條ノ二乃至第十六條及第十六條ノ三乃至第十六條ノ八ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ大正七年法律第四十三號ノ規定ニ依ル地租變更免租年期ヲ有スル土地及同法第一條第一項各號ニ掲グル土地ハ之ヲ耕地整理法第十五條第一項ニ掲グル免租年期ヲ有スル土地ト看做ス

土地區劃整理ノ施行ニ依リ開墾、地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ地域ニ依リ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃賃價格ヲ修正シ修正賃賃價格ヲ以テ耕地整理法第十三條第二項ノ現賃賃價格トス

第二十一條 鐵道、軌道、運河、飛行場、水道、下水道、土地區劃整理、

〔文會例〕

運動場、一團地ノ住宅經營、市場、屠場、墓地、火葬場、塵埃燒却場及防風、防火、防水、防砂又ハ防潮ノ施設ハ都市計畫法第十六條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ指定ス

第二十二條 都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ハ土地區劃整理ヲ施行スル必要アル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ收用シタル土地ハ土地區劃整理ノ工事完了後ニ非サレハ之ヲ賣却シ又ハ貸付スルコトヲ得ス

第二十四條 前條ノ規定ニ依ル土地ノ賣却又ハ貸付ハ左ニ掲グル者ニ對シ毎筆競争入札ニ依リ之ヲ行フ

一 其ノ土地ノ附近地カ都市計畫法第十六條第一項ノ規定ニ依リ收用セラレタル場合ニ於テ其ノ收用セラレタル附近地ノ全部又ハ一部ヲ收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

二 前號ノ附近地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ附近地收用ノ際所有シタル者

三 其ノ土地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

四 其ノ土地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者

前項ニ掲グル者一人ナルトキハ其ノ者ニ對シ隨意契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得

第二十五條 前條ノ規定ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得サル土地ノ賣却又ハ貸付ニ付テハ一般ノ競争入札ニ依ル

第二十六條 一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘地ハ隣地所有者ニ對シ隨意契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得

〔文會例〕

ノ準用ニ付テハ同項中工事著手ノトキトアルハ工事著手ノ時ノ現況ニ依リトス

●特別都市計畫法

○法律第五十三號 大正十二年十二月二十四日

第一條 本法ニ於テ特別都市計畫ト稱スルハ東京及横濱ニ於ケル都市計畫ヲ謂フ

第二條 行政官廳特別都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三條 土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラス建物アル宅地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得

土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第三十一條ノ規定ニ拘ラス換地處分ヲ爲スコトヲ得

第四條 土地區劃整理ヲ施行スル爲メ土地區劃整理組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テ土地所有者同意ヲ爲スニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ借地法ニ關シテ同法第二條ノ二ノ規定ニ依リ前項ノ組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得

第五條 行政官廳又ハ公共團體カ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ設計、換地處分及第八條第一項ノ補償金ノ配當ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ土地所有者及借地法ニ謂フ借地權者ヲ以テ組織スル土地區劃整理委員會ノ意見ヲ開キ之ヲ定ム

第六條 前條ノ土地區劃整理施行ノ爲メ必要アルトキハ換地處分地ヲ指定シ

第二十七條 都市計畫事業ニ要スル國有地ハ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔スル公共團體ヲシテ無償ニテ之ヲ供用セシメ其ノ地ニ存スル國有ノ建物ハ無償ニテ其ノ公共團體ニ之ヲ交付ス

第二十八條 都市計畫法第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地ハ都市計畫事業ノ財源ト爲ス爲基本財産トシテ管理スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 公共團體ハ第二十三條ノ土地ノ賣却若ハ貸付ニ付テハ都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地若ハ前二條ノ土地ノ管理方法ニ付必要ナル規定ヲ定メ地方官ヲ經由シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條 内務大臣必要ト認ムルトキハ都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理者ヲ指定スルコトヲ得

附則 (昭和六年勅令第四十五號) 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年法律第二十九號附則第三條、第五條、第九條乃至第十四條及第十八條ノ規定ハ土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃賃價格ニ付之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二十條第二項ノ改正規定ヲ耕地整理法附則第九條、第十條及第十八條中ノ同法第十四條第一項ノ規定ト看做ス

附則 (昭和十年勅令第百一十一號) 第二十條第一項ノ改正規定ハ本令施行前土地區劃整理ノ工事ニ著手シタル土地ニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ耕地整理法第十五條第一項ノ規定

土地區劃整理施行地區内ニ存スル建物其ノ他ノ工作物ノ所有者ニ對シ其ノ移轉ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クモ三月前ニ所有者及占有者ニ其ノ旨ヲ豫告スヘシ

所有者又ハ占有者カ前項ノ移轉ニ因リテ損害ヲ受ケタルトキハ其ノ通常受クヘキ損害ニ限リ之ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依ル補償金ハ補償審査會之ヲ決定ス

耕地整理法第二十五條並土地收用法第八十二條第一項及第二項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル補償金ニ關シ之ヲ準用ス

第七條 第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ道路、廣場、運河其ノ他ノ公共ノ用ニ供スヘキモノト爲リタリ土地ハ其ノ施行ニ要スル費用ヲ負擔スル國又ハ公共團體ノ所有地ニ編入ス

前項ニ規定スル土地ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル其ノ編入ニ關シテモ亦同シ

第八條 第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ土地區劃整理施行地區内ニ於ケル施行後ノ宅地ノ總面積カ施行前ノ宅地ノ總面積ヨリ一割以上ヲ減少スルニ至リタルトキハ其ノ一割ヲ超ユル部分ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付スルコトヲ要ス

前項ノ宅地トハ勅令ニ依リ公共ノ用ニ供スル土地ト定ムルモノ以外ノ土地ヲ謂フ

第六條第三項及第四項ノ規定ハ第一項ノ補償金ニ關シ之ヲ準用ス

第九條 都市計畫法第十三條第二項ノ規定ハ第五條ノ土地區劃整理ニ之ヲ準用ス

第十條 補償審査會ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス補償審査會ハ會長一人及委員

〔文會例〕

十四人ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ關係各廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ主務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ主務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

- 一 關係各廳高等官 三人
- 二 關係府縣高等官 二人
- 三 關係府縣市參事會員 六人
- 四 學識經驗アル者 三人

前項第二項及第三項ノ規定ニ依ル委員ハ關係府縣市ニ關セサル事項ニ付議事ニ參與スルコトヲ得ス

補償審査會ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第十一條 都市計畫法第二十三條乃至第二十六條ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

〇耕地整理法（抄）

第二條ノ二 登記シタル地上權、永小作權、土地賃借權ヲ有スル者又ハ國有林野法若ハ官有地取扱規則ニ依ル豫約開墾者ハ土地ノ所有者及賃借人ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ土地ニ付第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ耕地整理組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得

〔文會例〕

施行者又ハ組合員タルコトヲ得ス

第二十五條 整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニシテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ第二十七條、第二十八條、第三十條

第一項、第二項又ハ第二十四條第二項ノ規定ニ依リ拂渡スヘキ金銀アルトキハ整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ整理施行地又ハ之ニ存スル建物カ訴訟ノ目的タル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

先取特權者、質權者、抵當權者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル金銀ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十一條 前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 左ニ掲クル土地ハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得但シ第一號乃至第三號ノ土地ニ付テハ主務官廳又ハ公共團體ノ認許、第四號乃至第八號ノ土地ニ付テハ土地所有者、關係人及建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 御料地、國有地
- 二 官ノ用ニ供スル土地
- 三 府縣、郡、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地
- 四 名勝地、舊蹟地

五 古墳墓地、墳墓地

六 社寺境内地

七 鐵道用地、軌道用地

八 建物アル宅地

登記シタル地上權又ハ永小作權ノ目的タル御料地又ハ國有地ニ付主務官廳ノ認許ヲ得タルトキハ其ノ地上權者又ハ永小作權者ヲ組合員ト爲シ其ノ土地ヲ組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得但シ地上權又ハ永小作權ノ殘存期間カ耕地整理組合設立ノ認可申請ノ日ヨリ二十年未滿ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス第二條ノ二第二項及第五條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ地上權者又ハ永小作權者カ組合員ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

〇土地收用法（抄）

第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

〇都市計畫法（抄）

第十三條

第二十三條

第二十四條

第二十五條

第二十六條

特別都市計畫法施行令

勅令第四十九號 大正十三年三月十七日

改正 大正一五年第七六號、昭和六年第四六號

第一條 行政官廳ノ執行スル特別都市計畫事業ニ付關係公共團體ニ負擔セシムル費用ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 道路(道路ノ附屬物及廣場ヲ含ム)費 二分ノ一以內
- 二 運河費 四分ノ一以內
- 三 公園費 四分ノ一以內

前項ノ規定ニ依ル負擔金ノ額及其ノ納付時期等ハ內務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 特別都市計畫又ハ特別都市計畫事業トシテ內閣ノ認可ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第三條 本令ニ於テ借地權ト稱スルハ借地法ニ謂フ借地權ヲ謂フ

第四條 土地所有者特別都市計畫法第四條第一項ノ規定ニ依リ借地權者ノ同意ヲ得ル場合ニ於テ其ノ所有地ニ數人ノ借地權者アルトキハ其ノ總數ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ共同シテ借地權ヲ有スル者ハ之ヲ一人ト看做シ總數ノ二分ノ一以上ノ同意アリタルトキハ其ノ同意アリタルモノト看做ス

同一ノ土地ニ付借地權者數人アル場合ニ於テハ現ニ土地ヲ使用スル權利ヲ有スル者ヲ以テ第一項ノ借地權者ト看做ス

第五條 行政官廳又ハ公共團體カ特別都市計畫法第五條ノ規定ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ整理施行地區ヲ告示スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ整理施行者ハ土地所有者又ハ登記アル借地權者ニ對シ其ノ權利ヲ證スヘキ書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十一條 整理施行者ハ前條ノ申告ニ基キ選舉人名簿ヲ調製シ選舉期日ヨリ起算シ七日ヨリ三日間之ヲ縦覽ニ供スヘシ

第十二條 選舉人名簿ニ異議アル者ハ縦覽期限内ニ證據書類ヲ添附シ整理施行者ニ之ヲ申立ツヘシ第十條第一項ノ申告後權利ヲ取得シタル者ニ付亦同シ

第十三條 整理施行者前條ノ異議ノ申立ヲ受ケタルトキハ之ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三日以內ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ修正シ其ノ旨申立人及關係人ニ通知スルト共ニ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ其ノ旨申立人ニ通知スヘシ

第十四條 整理施行者ハ投票所及投票時間ヲ定メ選舉期日ヨリ起算シ少クトモ七日前ニ告示スヘシ

第十五條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ハ整理委員及補選委員ノ各選舉ニ付一人一票トス

投票用紙ハ整理施行者選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

選舉人ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ整理委員及補選委員ニ付被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ

投票ハ代人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代人ハ本人ノ委任狀ヲ選舉長ニ提出スヘシ

第十六條 選舉人名簿ニ記載セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス

第十七條 整理施行者ハ所屬ノ官吏又ハ吏員ノ中ヨリ選舉長ヲ命スヘシ

第八章 國有財產 第一節 通則

第六條 土地區劃整理委員會ハ整理施行地區毎ニ之ヲ置ク

整理委員會ハ整理施行地區內ノ土地所有者及借地權者カ各別ニ選舉スル

整理委員ヲ以テ之ヲ組織ス

整理委員ノ定數ハ土地所有者ノ選舉スル者及借地權者ノ選舉スル者ニ付各同數トシ整理施行者之ヲ定ム

整理委員ノ定數ハ選舉期日ヨリ起算シ少クトモ二十日前ニ之ヲ告示スヘシ

第七條 土地所有者又ハ借地權者整理委員ヲ選舉スル場合ニ於テハ之ト同數ノ補選委員ヲ選舉スヘシ

第八條 整理委員及補選委員ハ整理施行地區內ニ於テ土地所有者ニ在リテハ土地所有者ヨリ、借地權者ニ在リテハ借地權者ヨリ之ヲ選舉ス

前項ノ規定ハ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ關シ之ヲ適用セス

第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ土地ノ共有者又ハ共同シテ借地權ヲ有スル者ハ各之ヲ一人ト看做シ其ノ者ノ中ヨリ定メタル代表者ヲ以テ第一項ノ土地所有者又ハ借地權者ト看做ス

第四條第三項ノ規定ハ第一項ノ借地權者ニ之ヲ準用ス

第九條 選舉期日ハ整理施行者之ヲ定メ其ノ日ヨリ起算シ少クトモ二十日前ニ之ヲ告示スヘシ

第十條 第八條ノ土地所有者及借地權者ハ前條ノ告示アリタル日ヨリ起算シ七日以內ニ住所、氏名並權利ノ種別及其ノ目的タル土地ノ所在ヲ具シ整理施行者ニ申告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ登記カキ借地權者ハ其ノ權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

選舉長ハ投票、開票其ノ他ノ選舉ニ關スル事務ヲ統轄ス

整理施行者ハ整理施行地區內ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ中ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

第十八條 有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

整理委員トシテ當選シタル者同時ニ補選委員トシテ當選スルモ補選委員タルコトヲ得ス

土地所有者ヨリ選舉セラレ當選シタル者同時ニ借地權者ヨリ選舉セラレ當選スルモ借地權者ヨリ選舉セラレ當選シタル者ニ非スト看做ス但シ前項ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第十九條 當選人決定シタルトキハ整理施行者ハ其ノ旨當選人ニ通知シ其ノ氏名ヲ告示スヘシ

當選人前項ノ告示アリタル日ヨリ起算シ五日以內ニ不承諾ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ承諾シタルモノト看做ス

第二十條 當該選舉ニ於テ定數ノ整理委員ヲ得サルトキハ其ノ不足ノ員數ニ對シ更ニ選舉ヲ行フ

前項ノ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ當該選舉ニ關スル選舉人名簿ニ依リ之ヲ行ヒ選舉スヘキ員數及選舉期日ハ選舉期日ヨリ起算シ少クトモ七日前ニ之ヲ告示スヘシ

第二十一條 整理委員又ハ補選委員第八條ノ被選舉要件ヲ缺クニ至リタルトキハ其ノ資格ヲ失フ

第二十二條 整理委員ニ關員ヲ生シタルトキハ得票數多キ補選委員ヨリ順次之ヲ補充ス得票數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

六一一

整理委員ニ附員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補員委員ナキトキハ整理委員及補員委員ノ補選ヲ行フ

第二十三條 整理委員整理施行者ノ指定スル期間内ニ意見ヲ提出セザルトキハ直ニ特別都市計畫法第五條ノ事項ヲ決定スルコトヲ得

第二十四條 本令ニ定ムルモノノ外整理委員會議ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第二十五條 特別都市計畫法第七條第一項ノ公共ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地トハ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ新設又ハ擴張シタル道路、廣場、堤塘、溝渠、運河、河川、公園又ハ公共物揚場ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地ヲ謂フ

第二十六條 前條ノ土地ハ國ニ於テ土地區劃整理施行ニ要スル費用ヲ負擔スル場合ニ在リテハ國ノ所有地、公共團體ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スル場合(特別都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ費用ノ一部ヲ負擔スル場合ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ公共團體ヲ所有地ニ編入ス

第二十七條 特別都市計畫法第八條第二項ノ公共ノ用ニ供スル土地トハ地目ノ如何ニ拘ラス道路、廣場、堤塘、溝渠、運河、河川、公園又ハ公共物揚場ノ用ニ供セララル土地ヲ謂フ

第二十八條 特別都市計畫法第八條第一項ノ補償金ハ整理施行地ニ付第三十三條ノ告示ノ日ニ於テ所有權、地上權、永小作權又ハ賃借權ヲ有スル者、國有財產法第二十四條ノ規定ニ依リ土地ノ貸付ヲ受クル者及國有又ハ公有ノ墳墓地ヲ管理スル寺院又ハ佛堂ニ對シ之ヲ交付ス

前項ニ規定スル者ハ整理施行者ノ指定スル期間内ニ住所、氏名並權利ノ種別及其ノ目的タル土地ノ所在ヲ具シ整理施行者ニ申告スヘシ

〔文會例〕

法第三十條第三項ノ認可ハ第三十二條ノ認可、同法第三十條第四項ノ告示ハ前條ノ告示、同法第四十二條ノ二、第四十七條及第四十八條ノ組合ハ整理施行者タル行政廳又ハ公共團體、同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理組合ノ地區ハ整理施行地區トス

第三十五條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ付テハ耕地整理法ノ準用ニ關シテハ整理施行地ニ付所有權以外ノ權利ヲ有スル者ハ之ヲ關係人ト看做ス

第三十六條 耕地整理法第三十三條ノ規定ハ從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付未登記ノ所有權以外ノ權利アル土地ニ對スル換地ノ交付ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス但シ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ付テハ第五條ノ告示、都市計畫法第十三條第一項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付テハ都市計畫法施行令第十七條第一項ノ告示、其ノ他ノ土地區劃整理ニ付テハ整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可又ハ整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示アリタル日ヨリ起算シ十日以内ニ權利者權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附シ整理施行者ニ權利ノ種別及其ノ目的タル土地ノ所在ヲ届出テサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ特別ノ事情ノ爲耕地整理法第三十條第一項ノ規定ニ依ルコト能ハサルモノノ處分ニ關シテハ行政廳又ハ公共團體整理委員會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十八條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理施行ノ土地ノ貸賃價格ニ關シ都市計畫法施行令第二十條ノ規定ニ依リ耕地整理法第十三條ノ規定ノ準用ニ付テハ同條中第十一條第二項ニ依リ國有地ニ編入シタル土地

第八章 國有財產 第一節 通則

第十條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ申告ニ之ヲ準用ス

第二十九條 特別都市計畫法第八條第一項ノ補償金ハ國又ハ公共團體ニ之ヲ交付セス

第三十條 特別都市計畫法第八條第一項ノ補償金ノ總額ハ整理施行前ニ於ケル其ノ地區内ノ宅地ノ平均價格ニ同項ノ規定ニ依ル一割ヲ超ユル部分ノ面積ヲ乘シタル額トス但シ前條ノ規定ナシトセハ國又ハ公共團體ニ交付スヘキ額ハ之ヲ控除ス

第三十一條 特別都市計畫法第八條第一項ノ補償金ハ同法第五條ノ規定ニ依リ定メタル配當割合ニ基キ補償審査會之ヲ定ム

第三十二條 公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體カ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ同法第五條ノ規定ニ依リ決定スル費用ヲ負擔スル場合ニ於テハ其ノ費用ヲ負擔スル場合ヲ爲スニ付テハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ耕地整理法第三條第一項及第三十條第三項ノ規定ニ依リ地方長官ノ認可ヲ要セス

第三十三條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ行政官廳第三十七條若ハ耕地整理法第三十條第一項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲シ又ハ内務大臣之ニ關シ前條ノ認可ヲ與ヘタルトキハ遲滞ナク之ヲ告示シ且行政官廳處分ヲ爲シタル場合ニ在リテハ既登記ノ土地及建物ニ付登記ヲ囑託シ、内務大臣認可ヲ與ヘタル場合ニ在リテハ其ノ旨管轄登記所ニ通知スヘシ

第三十四條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於ケル耕地整理法ノ準用ニ付テハ同法第二十九條ノ告示ハ第五條ノ告示、同

ノ地積トアルハ特別都市計畫法第七條第一項ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ所有地ニ編入シタル土地ノ地積トス

第三十九條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ第三十七條又ハ耕地整理法第三十條第一項但書ノ規定ニ依リ支拂フヘキ金錢ヲ滯納スルトキハ整理施行者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ徵收金ノ先取特權ノ順位ハ行政官廳ニ於テ徵收スル場合ニ在リテハ國ノ徵收金ニ、公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ニ於テ徵收スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體ノ徵收金ニ次ク

附則 (昭和六年勅令第四十六號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和六年勅令第四十五號附則第二項及昭和六年法律第二十九號附則第三條第五項ノ規定ニ依リ耕地整理法第十三條第二項ノ改正規定ノ準用ニ付テハ同改正規定中第十一條第二項ノ規定ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ地積トアルハ特別都市計畫法第七條第一項ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ所有地ニ編入シタル土地ノ地積トス

〔文會例〕

〔文會例〕

第二節 土地

●國有林野地ヲ官有地ニ編入取扱方ノ件

○農商務大臣通牒戊辰第二百九十一號 明治三十二年十二月二十八日

文部大臣

從來當省主管タル國有林野地ヲ官有地ニ編入ノ節實地ハ總テ所轄〔大林区署〕ヨリ地方廳ヘ引渡ノ取扱例ニ候處向後地方廳ハ單ニ地種組替ノ手續ヲ爲シ實地ノ授受ニハ關係セサルコトト相成候ニ付自今右ノ場合ニハ大林区署ヨリ直接御引渡可及候間豫テ實地支障ノ有無當省ヘ御問合ノ節ハ受取廳名ヲモ御申越相成度此段通牒旁申進候也

●國有林野ヲ他ノ官有地ニ組換ヲナス場合

協議方ノ件

○農商務大臣通牒林第二百十七號 明治四十年七月十日

文部大臣

國有林野法第三條第一項ニ據リ國有林野ヲ他ノ官有地ニ組換ヲナス場合ハ當省ヘ協議ヲ送ケラレタル上内務省ヘ地種組替方請求セラルル儀ニ有之候得共其協議方區々ニ涉リ處理上差支カラス候就テハ自今ハ先以テ需用官廳ヨリ所轄大林区署ヘ照會セシメラレ支障ノ有無ヲ調査セシメ其調査書類寫及目的地實測圖添付ノ上當省ヘ御協議相成度此段及通牒候

(參照)

○國有林野法(抄)

第八章 國有財產 第二節 土地

〔文會例〕

第三條第一項

前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之カ組換ヲ爲スコトヲ得

●内務省部局長ヨリ農林省所管國有林野ヲ

公共用財産ト爲ス夕メ管理換其他ノ協議

ヲ受ケタルトキノ處理方

○大藏省訓令第六號 昭和三年四月二十三日

改正 昭和五年第八號、八年第一三號、一一年第一〇號

稅務監督局

左記事項ニ付テハ調査ノ上其ノ局限リ處理スヘシ

- 一 内務省部局長ヨリ農林省所管國有林野ヲ公共用財産ト爲ス爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 二 替林局長ヨリ内務省所管公共用財産若ハ神社ノ用ニ供スル公用財産ヲ替林財産ト爲ス爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 三 内務省部局長ヨリ農林省所管國有林野ヲ神社ノ用ニ供スル公用財産トナス爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 四 内務省部局長ヨリ神社ノ用ニ供スルノ目的ヲ以テ土地ノ寄附受納ニ付協議ヲ受ケタルトキ
- 五 各省部局長ヨリ内務省所管公共用財産ヲ公用財産ト爲ス爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 六 内務省部局長ヨリ各省所管公用財産ヲ公共用財産ト爲ス爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ

- 七 内務省部局長ヨリ公共用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共用財産ト爲ス爲之カ引繼ヲ爲サセ又公用財産ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共用財産ト爲ス爲之カ引繼ヲ爲サセ
- 八 内務省部局長ヨリ神社用地又ハ公共用財産タル土地ノ用途ヲ廢止シ之ヲ神社用地又ハ公共用財産ト爲スノ必要アル他ノ民有地ト交換ヲ爲サムトスル場合ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 九 各省部局長ヨリ立木竹ノ内庭木其他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ樹木及工作物中稟價額千圓以下ノモノニツキ取毀ノ目的ヲ以テ用途廢止ヲナサムトスル場合ニ於テ之カ用途廢止ニ付事前ノ通知ヲ受ケタルトキ
- 十 營林局長又ハ北海道廳長官ヨリ營林財産タル建物及工作物中稟價額千圓以下ノモノノ用途廢止ヲ爲サムトスル場合ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 十一 北海道廳長官ヨリ營林財産ヲ公共用財産ト爲ス爲營林財産ノ目的廢止ノ協議ヲ受ケタルトキ
- 十二 北海道廳長官ヨリ營林財産ト爲ス爲公共用財産ノ用途ヲ廢止スルモノカ引繼ヲ爲ササルトノ協議ヲ受ケタルトキ
- 十三 内務省部局長ヨリ大藏省所管雜種財産中稟價額一〇〇圓以下ノモノヲ公共用財産ト爲ス爲管理換ノ協議ヲ受ケタルトキ

●民有地地租組換ノ際通知方ノ件

○會計課長移牒 明治四十二年七月二十三日

直轄各部長

〔文會例〕

文部次官

○大藏次官通牒 明治四十二年七月十五日

民有地ノ國有地又ハ御料地ト爲リタルトキハ官廳ノ通知其ノ他ニ依リ稅務署ニ於テ其ノ事實ヲ認メタル以後ノ納期分ヨリ地租ヲ免除スル取扱ニ有之隨テ官廳ノ通知ハ除租ノ處分上最必要ニ有之候處其ノ事實發生ノ時ヨリ多數ノ時日ヲ過キ通知シ來リ候爲既ニ民有ノ事實ナキ土地ニ對シ賦課スル結果ト相成種々ノ交渉問題ヲ生スル例往々有之候ニ付右ノ場合ニ於テハ當該官廳ヨリ處分後直チニ所轄稅務署ニ通知スルコトヲ尙國有地ノ民有ト爲ル場合モ同様ニ併テ此ノ際御管下一般ニ御示達相成候様致度此段及通牒候也

〔備考〕

●土地買收ニ際シ登記ニ要スル登録稅支辨方

○内務省土木局通牒發第十一號 明治三十四年四月二十九日

土木監督署

土地買收ノ際土地所有權保存等土地所有者ニ於テ履行スヘキ登記手續ニ要スル登録稅支辨方ノ義別紙甲號本官照會ニ對シ乙號ノ通牒道作業局長官ヨリ回答ノ次第モ有之候ニ付爲御參考此段及通牒候也

〔別紙〕

○土木局照會 明治三十四年四月十二日

貴局ニ於テ鐵道用地トシテ協議上土地ヲ買收セラル、場合ニ於テ土地所有權保存ノ登記其ノ他家督相續遺產相續等土地所有者ニ於テ履行スヘキ登記手續ニ要スル登録稅ノ義ハ當然所有者ヲシテ負擔セシメラレ候哉又ハ貴局ニ於テ相當御手當相成候哉

〔文會例〕

陸地測量部ニ於テ大學(學校)演習林内へ陸地測量標設置ノ際ハ出張測量官ト演習林事務所トノ直接ノ協議ヲ以テ陸地測量標條例施行細則第八條第二項ノ手續ヲ了スルコトト致シタルニ付御了知相成度此段通知ス

追而右ノ場合ニ於テハ大學並學校及圖書館特別會計所屬國有財産管理規程第七條ニ依リ認可申請ハ要セサルモ測量標設置ノ際ハ直ニソノ所在地、口座名、數量、建設年月日、其ノ他必要ナル事項ヲ具シ圖面ヲ添へ御報告相成度

●官舎敷地等ニ充當ノ爲土地ノ借入ヲ爲ス場合大藏省へ事前内議ヲ要スル件

○大藏大臣回答計第九十六號 昭和十年三月二十三日

客年七月十六日二高會五號並ニ同月二十日同八號ヲ以テ御協議ニ係ル貴省所管第二高等學校所屬維持資金ヲ以テ同校生徒主事官舎敷地購入ノ爲維持資金ヨリ拂出シ並ニ之カ財源ニ充當ノ爲同校所屬維持資金ニ屬スル公債證券賣却ニ關スル件了承右生徒主事官舎敷地ハ同校寄宿舎敷地内ノ現狀ヨリ考察スルトキハ必スシモ他ニ之ヲ求ムルノ必要ナク寧ろ右現在ノ敷地内ノ一部ヲ充當スルヲ適當ト被認モ該官舎ハ既ニ昭和八年今同購入セントスル敷地ヲ賃借シ建設セルモノナルノミナラス其ノ賃借當時ノ經緯ニ鑑ミ今日ニ至リテハ之ヲ購入スルハ事情已ムヲ得サルモノト被認候ニ付將來官舎敷地等ニ充當スル爲土地ノ借入ヲ爲ス場合ニ於テハ事前ニ當省ニ御内議相成候事ヲ條件トシ同意致候

〔乙號〕

○鐵道作業局答 明治三十四年四月十九日

右ハ未登記ノ土地ヲ買收スル場合ニ於テハ買買ノ登記ヲ省略シ未登記ノ儘直ニ當局所有權保存ノ登記ヲ囑託シ所有者ニハ別ニ保存登記ヲナサシメ増減等變更登記ノ申請ニ要スル登録稅ハ便宜當局ヨリ交付致候他家督相續遺產相續等ノ登記ニ要スル登録稅ニ關シテハ總テ所有者ニ負擔セシメ候

●公用財産タル土地ノ用途變更手續ニ關スル件

○會計課長通牒發會四百二十二號 大正十四年十二月四日

公用財産タル土地ノ用途變更ヲ要スルモノニシテ從來官舎等建設ノ場合往々之カ手續ヲ爲サスシテ實行ニ著手スル向有之モ右ハ國有財産法施行令第四條第一號ノ規定モアリ其ノ他整理上支障ヲ生スルヲ以テ爾後ハ建物、工作物等ノ建設實行ニ著手以前ニ於テ大學並學校及圖書館特別會計所屬國有財産管理規程第三條第二號ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經ラルル様御留意相成度、尤モ官舎ト廳舎其他トカ敷地ヲ共通スル場合ニ於テ相互ニ區分スルコト困難ナルトキハ事情ヲ具シテ御打合ノ上御處理相成可然此段通牒ス

〔備考〕

一般會計所屬部局長ニ對シテモ同趣旨ノ通牒ヲ爲セリ

●演習林内陸地測量標設置ノ件

○會計課長通知官會百八十五號 昭和七年十月十二日

第八章 國有財產 第二節 土地

○法律第三十號 明治四十二年四月十三日
改正 明治四十四年第四號、大正三年第三二號、八年第四五號、昭和六年第一五號、第二九號、第六八號

●耕地整理法
第一章 總則

- 第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ本法ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フヲ謂フ
 - 一 土地ノ交換、分合、開墾、地目變換其ノ他區劃形質ノ變更、湖海ノ埋立、干拓若ハ道路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等ノ變更廢置又ハ之ニ伴フ灌溉排水ニ關スル設備若ハ工事
 - 二 前號ノ事項施行ノ爲若ハ施行ノ結果必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ設置又ハ其ノ維持管理
 - 三 開墾又ハ湖海ノ埋立若ハ干拓ニ依ル耕地整理ニ附隨シテ行フ整理施行地ノ利用ニ關スル必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ施設
 - 四 前三號ノ事項ニ關シ必要アルトキ國、道府縣、市町村其ノ他公共團體ノ認許ヲ得テ行フ營造物ノ修繕
- 第二條 本法ニ於テ關係人ト稱スルハ整理施行地ニ付所有權以外ノ登記シタル權利ヲ有スル者(抵當證券ノ發行アリタルトキハ其ノ所持人)ヲ謂フ
- 第二條ノ二 登記シタル地上權、永小作權、土地賃借權ヲ有スル者又ハ國

〔文會例〕

〔文會例〕

有財産法第二十一條ノ規定ニ依ル豫約事業者ハ土地ノ所有者及賃貸人ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ土地ニ付第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ耕地整理組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者及賃貸人ハ其ノ土地ニ付テハ整理施行者又ハ組合員タルコトヲ得ス

第二條ノ三 公有水面理立法ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ土地ノ所有者ト看做ス

耕地整理組合ノ組合員ト爲リ又ハ爲ルヘキ地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約事業者ハ第三十四條、第四十七條乃至第五十條、第五十五條、第五十六條及第五十九條ノ適用ニ付テハ之ヲ土地ノ所有者ト看做ス

第三條 耕地整理ヲ施行セムトスルトキハ設計書ヲ作り關係人ノ同意書並ニ付テハ之ヲ土地ノ所有者ト看做ス

第二條ノ二ノ場合ニ於ケル土地ノ所有者及賃貸人ノ同意書ヲ添ヘ數人共同シテ施行セムトスルモノニ在リテハ尙規約ヲ作り地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

設計書、規約若ハ整理施行地區ヲ變更シ若ハ一人ニテ施行スル耕地整理ヲ變シテ數人共同ノ施行ト爲シ又ハ事業ヲ停止若ハ廢止セムトスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ耕地整理施行ノ爲爲シタル借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ事業ヲ廢止シ、整理施行地區ヲ減少シ又ハ債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更スルコトヲ得ス

前項整理施行地區ノ變更ニ依リ新ニ整理施行地區ニ編入セラルヘキ土地ニ付テハ第一項ノ同意書ニ關スル規定ヲ準用ス

第八章 國有財産 第二節 土地

地方長官第一項又ハ第二項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ
設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ第三條ノ三ニ對抗スルコトヲ得ス

前五項ノ規定ハ耕地整理組合ニ之ヲ適用セス

第三條ノ二 市ノ區域内ノ土地及主務大臣ノ指定スル地域内ノ土地ハ之ヲ整理施行地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ市ノ區域内ノ土地ニシテ主務大臣ノ指定スル地域内ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ整理施行地ノ所有者、占有者又ハ關係人ノ承認ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 整理施行地ノ所有者ニ屬スル耕地整理ニ關スル權利義務ハ土地ノ所有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ整理施行者又ハ組合員ト爲リタル者ノ耕地整理ニ關スル權利義務ハ其ノ地上權、永小作權、賃借權又ハ國有財産法ニ依ル權利ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉シ地上權、永小作權又ハ賃借權消滅シタルトキハ帝室及國ヲ除クノ外土地ノ所有者又ハ賃貸人ニ移轉ス

第六條 本法中別ニ規定アル場合ヲ除クノ外土地ノ所有者、占有者、關係人其ノ他整理施行地ニ付權利ヲ有スル者ハ耕地整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第七條 主務大臣又ハ地方長官耕地整理ニ關スル調査ヲ爲ス爲必要アルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲シ障害ノ竹木土石等ヲ移轉若ハ除却セシムルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ土地ノ占有者ニ之ヲ通知スヘシ
前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコト
ヲ得

第八條 前條ノ規定ハ耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セ
ムトスル者又ハ整理施行者カ整理施行ノ爲必要ナル準備ヲ爲ス場合ニ之
ヲ準用ス

第九條 耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セムトスル者又
ハ整理施行者ハ整理施行地カ管轄スル登記所、漁業ニ關スル登記官廳、
土地臺帳所管廳、市役所又ハ町村役場ニ就キ無償ニテ耕地整理ニ關シ必
要ナル簿書ノ閲覧又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得但シ登記所、漁業ニ關スル
登録官廳又ハ土地臺帳所管廳ハ必要アリト認ムルトキハ耕地整理組合若
ハ耕地整理組合聯合會ノ組合長組合副長若ハ聯合會會長聯合會副會長又
ハ臨時代理者以外ノ者ニ付其ノ資格ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ提出セ
シムルコトヲ得

第十條 耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記ヲ爲スコトキハ登録稅ヲ免
除ス

第十一條 耕地整理ヲ施行スル爲國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜池等
ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ依リ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ
整理施行地ノ所有者ニ交付ス

第十二條 耕地整理ノ施行ニ依ル土地ノ異動ニ關シテハ地租法第十五條、
〔文會例〕

〔文會例〕

ハ耕地整理減租年期地ノ賃貸價格ハ其ノ改訂ニ依リ定メラルヘキ賃貸價
格ニ相當スル額ニ第三項ノ規定ニ依リ定メタル假賃價格ノ合計額ヲ以
テ第十三條第二項ノ現賃價格ノ合計額ヲ除シテ得タル比率ヲ乘シタル
額ニ之ヲ改訂ス

第十三條第二項ノ規定ニ依リ賃貸價格ノ配賦ヲ爲シタル土地ニ付テハ稅
務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ假賃
價格ヲ定ム

稅務署長ハ假賃價格ヲ定メタルトキハ整理施行者ニ之ヲ通知スヘシ
第十三條ノ四 耕地整理減租年期地ニ付地目變換、地類變換又ハ開墾ヲ爲
シタルトキハ其ノ耕地整理減租年期ハ消滅ス

第十三條ノ五 地租法第五十九條第一項ノ規定ハ耕地整理減租年期地ニ付
荒地免租年期ヲ許可シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條ノ六 耕地整理減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ
地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ修正シ其ノ修正ヲ爲シ
タル年ノ翌年分ヨリ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十四條 耕地整理ノ施行ニ依リ開墾又ハ第一類地中ノ地目變換ヲ爲シタ
ル土地ノ地積カ整理施行地區内ノ有租地ノ總地積ノ五分ノ一ヲ超ユル場
合ニ於テハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ工事完了ノトキ從前ノ地
域ニ依リ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ修正シ修正賃
貸價格ノ合計額ト之ニ對スル從前ノ賃貸價格ノ合計額トノ差額ノ平均額
ニ開墾又ハ變換シタル土地ノ總地積ト整理施行地區内ノ有租地ノ總地積
ノ五分ノ一ニ相當スル地積トノ差額ヲ乘シタル額ヲ開墾又ハ變換シタル
土地ノ從前ノ賃貸價格ノ合計額ニ加ヘタルモノヲ以テ其ノ土地ノ第十三

第十七條第二項、第十九條、第二十條、第二十二條、第二十四條、第二
十六條第一項、第二十九條乃至第三十三條、第三十五條、第三十六條、
第三十八條、第四十條乃至第四十三條、第四十五條、第四十六條、第四
十八條及第五十條乃至第五十三條ノ規定ヲ適用セス

第十三條 耕地整理ヲ施行シタル土地ニ付テハ稅務署長ハ一筆毎ニ地番ヲ
附シ其ノ地目、地積及賃貸價格ヲ定ム

前項ノ賃貸價格ハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ其ノ耕地整理ノ施
行ニ依リ第十四條ノ四ノ有租地ト爲リタルモノヲ除クノ外整理施行地區
内ノ土地ノ現賃價格ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム但シ第十
一條第二項ノ規定ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ地積カ同條第一項ノ
規定ニ依リ交付シタル土地ノ地積ヨリ多キ場合ニ於テハ其ノ地積ノ差額
ヲ整理施行地區内ノ土地ノ現賃價格ノ平均額ニ乘シタル額ヲ現賃價
格ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ現賃價格ノ合計額トス

規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ其ノ各區ヲ以テ
前項ノ整理施行地區ト看做ス

第十三條ノ二 前條第二項ノ規定ニ依リ賃貸價格ノ配賦ヲ爲シタル土地ニ
付テハ其ノ配賦ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ配賦シタル賃貸價格ニ依リ地
租ヲ徵收ス

前項ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收スル年ノ前年分迄ハ整理施行地ノ地租ハ原
地(工事著手前ノ土地)相當ノ賃貸價格ニ依リ之ヲ徵收ス

第十三條ノ三 第十三條第二項ノ規定ニ依リ賃貸價格ノ配賦ヲ爲シタル土
地ハ工事著手ノ年ノ翌年ヨリ起算シ七十年ノ耕地整理減租年期ヲ有ス
地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ賃貸價格ヲ改訂スル場合ニ於テ

條第二項ノ現賃價格トス
前項ノ規定ニ依リ賃貸價格ノ修正ヲ爲シタル土地ニ付テハ稅務署長ハ整
理施行者ノ申請ニ依リ開墾シタルモノニ在リテハ工事著手ノ年ノ翌年ヨ
リ起算シ四十年(四十年ヲ經過スルモ尙地味成熟スルニ至ラスト認ムル
モノニ付テハ四十年以上五十年以内)ノ耕地整理開墾減租年期ヲ、變換
シタルモノニ在リテハ工事完了ノ年及其ノ翌年ヨリ六年ノ耕地整理地目
變換減租年期ヲ許可ス

前二項ノ場合ニ於テ二十年以内ニ成功シ能ハサル地目變換ハ之ヲ開墾ト
看做ス

第十四條ノ二 無租地ヲ整理施行地區ニ編入シ有租地ト爲シタルトキハ第
十一條第一項ノ規定ニ依リ交付シタル土地ヲ除クノ外稅務署長ハ整理施
行者ノ申請ニ依リ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ地租法第九條第三項
ノ規定ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ設定シ設定賃貸價格ヲ以テ其ノ土地ノ第十
三條第二項ノ現賃價格トス

第十四條ノ三 第十四條第一項又ハ前條ノ規定ニ依リ賃貸價格ノ修正又ハ
設定ヲ爲シタル後賃貸價格配賦前ニ於テ地租法第九條第一項ノ規定ニ依
リ一般ニ賃貸價格ヲ改訂スル場合ニ於テハ修正賃貸價格又ハ設定賃貸價
格ハ工事完了ノトキノ現況ニ依リ之ヲ改訂ス

第十四條ノ四 國有財產法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ
爲シタル土地ニシテ耕地整理ノ施行ニ依ル開拓ノ事業成功ニ因リ賣拂又
ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノニ付テハ稅務署長ハ土地所有者ノ申
請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ耕地整理開墾免租
年期ヲ許可ス

國有財產法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂若ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ耕地整理ノ施行ニ依リ埋立(干拓ヲ含ム)ノ事業成功ニ因リ賣拂若ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノ又ハ耕地整理ヲ施行シ公有水面埋立法ニ依リ埋立ヲ爲シ同法第二十四條若ハ第五十條ノ規定ニ依リ埋立地ノ所有權ヲ取得シ有租地ト爲リタルモノニ付テハ稅務署長ハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ六十年ノ耕地整理埋立免租年期ヲ許可ス

前二項ノ場合ニ於テ整理施行者ハ土地所有者ニ代リテ其ノ申請ヲ爲スコトヲ得
第一項又ハ第二項ノ年滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ稅務署長ハ土地所有者ノ申請ニ依リ更二十年以内ノ年延長ヲ許可スルコトヲ得

第十五條 整理施行地區内ニ開墾減租年、地目變換減租年、開拓減租年、埋立免租年、耕地整理減租年、耕地整理開拓免租年又ハ耕地整理埋立免租年有スル土地アル場合ニ於テハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ工事著手ノトキ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃賃價格ヲ修正又ハ設定シ修正賃賃價格又ハ設定賃賃價格ヲ以テ其ノ土地ノ第十三條第二項ノ現賃賃價格トス

前項ノ土地ニ第十四條第一項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ前項ノ修正賃賃價格又ハ設定賃賃價格ヲ以テ其ノ土地ノ第十四條第一項ノ從前ノ賃賃價格トス
整理施行地區内ニ工事完了ノトキニ於テ荒地免租年(震災ニ因リ一定ノ期間地租ノ免除ヲ受クル土地ヲ含ム)アル場合ニ於テハ稅務署長ハ

〔文會例〕

整理施行者ノ申請ニ依リ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃賃價格ヲ設定シ設定賃賃價格ヲ以テ其ノ土地ノ第十三條第二項ノ現賃賃價格トス

第十五條ノ二 前條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ修正又ハ設定ヲ爲シタル後賃賃價格配賦前ニ於テ地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ賃賃價格ヲ改訂スル場合ニ於テハ前條第一項ノ修正賃賃價格又ハ設定賃賃價格ハ工事著手ノトキノ現況ニ依リ、前條第三項ノ設定賃賃價格ハ工事完了ノトキノ現況ニ依リ之ヲ改訂ス

第十五條ノ三 第十五條第一項又ハ第三項ノ土地ニ付テハ其ノ年方賃賃價格配賦前ニ滿了スル場合ニ於テハ其ノ滿了スル年ノ翌年分ヨリ賃賃價格配賦ノ年ノ分迄修正賃賃價格又ハ設定賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十六條 整理施行地區内ニ賃賃價格配賦ノトキニ於テ第十五條第一項若ハ第三項ニ掲ケル年、耕地整理開墾減租年又ハ耕地整理地目變換減租年有スル土地アル場合ニ於テハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ左ノ各號ノ金額ヲ整理施行地區内ノ全部又ハ一部ノ土地ニ配當ス命令ヲ以テ定ムル期間内ニ其ノ申請ナキトキハ稅務署長ハ職權ヲ以テ其ノ配當ヲ行フ

一 第十五條第一項ニ掲ケル減租年、同項ノ修正賃賃價格ヨリ之ニ對スル從前ノ賃賃價格ヲ控除シタル金額
二 第十五條第一項又ハ第三項ニ掲ケル免租年、同條第一項又ハ第三項ノ設定賃賃價格ニ相當スル金額
三 耕地整理開墾減租年又ハ耕地整理地目變換減租年有スル土地ノ第十四條第一項ノ現賃賃價格ヨリ之ニ對スル從前ノ賃賃價格ヲ控

〔文會例〕

第十六條ノ八 第十三條第三項ノ規定ハ第十四條第一項、第十四條ノ二、第十五條第一項、第三項、第十六條及第十六條ノ二ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 換地ハ別ニ規定アル場合ヲ除ク外第三十條第四項ノ告示ノ日ヨリ之ヲ從前ノ土地ト看做ス
前項ノ規定ハ行政上又ハ裁判上ノ處分ニシテ從前ノ土地ニ專屬スルモノニ影響ヲ及ボサス

第十八條 賃借地ニ付耕地整理施行ノ爲賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ賃借人ハ整理施行者ニ對シ解除ニ依リ生シタル損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得但シ整理施行者ハ規約ノ定ムル所ニ依リ賃借人ニ對シ求償スルコトヲ得

第十九條 耕地整理施行ノ爲賃借地ノ利用ヲ妨ケラレタルトキハ賃借人ハ借賃ノ相當ノ減額又ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得
第二十條 耕地整理施行ノ爲著シク賃賃地ノ利用ヲ増シタルトキハ賃借人ハ借賃ノ相當ノ増額ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ請求アリタル場合ニ於テ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲シ其ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第二十一條 耕地整理施行ノ爲地上權、永小作權又ハ地役權ヲ設定シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ地上權者、永小作權者又ハ地役權者ハ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得
第十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 整理施行地上ニ存スル地役權ハ耕地整理施行ノ後仍從前ノ土地ノ上ニ存ス

除シタル金額
第十六條ノ二 地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ賃賃價格ヲ改訂スル場合ニ於テハ配當金額、整理施行地區内ノ耕地整理減租年、同條第二項ノ規定ニ依リ改訂セラルヘキ賃賃價格ノ合計額ヲ以テ除シタル比率ヲ改訂前ノ配當金額ニ乘シタル額ニ之ヲ改訂ス
第十六條ノ三 第十六條ノ規定ニ依リ配當額ヲ爲シタル土地ニ付テハ同條ノ年、同條ノ規定ニ依リ配當額ヲ爲シタル土地ニ付テハ同條ノ規定ニ依リ配當額ヲ控除シタル額ヲ以テ其ノ賃賃價格トス
第十六條ノ四 第十六條ノ規定ニ依リ配當額ヲ爲シタル土地ニ付テハ同條ノ規定ニ依リ配當額ヲ控除シタル額ヲ以テ其ノ賃賃價格トス
第十六條ノ五 前二條ノ規定ニ依リ賃賃價格ヲ定メタル土地ニ付テハ賃賃價格ヲ定メタル年ノ翌年分ヨリ其ノ賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス
第十六條ノ六 第十六條ノ規定ニ依リ配當額ヲ爲シタル土地ニ付テハ同條ノ年、同條ノ規定ニ依リ配當額ヲ爲シタル土地ニ付テハ同條ノ規定ニ依リ配當額ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十六條ノ七 地租法第五十九條第一項ノ規定ハ第十六條ノ規定ニ依リ配當額ヲ爲シタル土地ニ付荒地免租年許可シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ荒地免租年ノ殘年期間ニ付第十六條ノ規定ニ依リ配當額ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

耕地整理施行ノ爲地役権者カ其ノ權利ヲ行使スル利益ヲ受タルコトヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ地役権ハ消滅ス

耕地整理施行ノ爲從前同一ノ利益ヲ受タルコト能ハサルニ至リタル地役権者ハ其ノ利益ヲ保存スル範圍内ニ於テ地役権ノ設定ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 第十九條及第二十條ノ規定ハ地上權、永小作權又ハ地役権ニ之ヲ準用ス

第二十四條 前六條ノ規定ニ依ル賃貸借ノ解除、地上權若ハ永小作權ノ拋棄、地役権ノ拋棄若ハ設定又ハ借賃、地代、小作料若ハ地役ノ對價ノ減額、拂戻若ハ増額ノ請求ハ第三十條第四項ノ告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニシテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ第二十七條、第二十八條、第三十條第一項、第二項又ハ第四十四條第三項ノ規定ニ依リ拂渡スヘキ金錢アルトキハ整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者カ其ノ事業ノ爲借入レタル金額及其ノ利息其ノ他耕地整理ノ施行ニ依リ生シタル債務ニ付テハ共同施行者連帶シテ其ノ責ニ任ス但シ規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 整理施行者ハ耕地整理施行ノ爲必要アルトキハ整理施行地區内ノ工作物又ハ木石等ヲ移轉シ、除却シ又ハ破壊スルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

第二十八條 整理施行地ニ付漁業權存スル場合ニ於テハ漁業權者ニ對シ、漁業權及入漁權存スル場合ニ於テハ漁業權者及入漁權者ニ對シ整理施行者ハ整理施行ニ依リ生スヘキ損害ヲ補償スルコトヲ要ス

第二十九條 整理施行地ニ付權利ヲ取得シタル者ハ從前ノ權利者ノ爲シ得ヘキ範圍内ニ於テノミ損害ヲ補償ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 換地ハ從前ノ土地ノ地目、地積、地位等ヲ標準トシテ之ヲ交付スヘシ但シ地目、地積、地位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル部分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スヘシ

第三十一條 前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此

第三十二條 整理施行地ニ付權利ヲ取得シタル者ハ從前ノ權利者ノ爲シ得ヘキ範圍内ニ於テノミ損害ヲ補償ヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付既登記ノ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アルトキハ之ニ對スル換地ノ交付ハ其ノ權利又ハ處分ノ制限ノ目的タル土地又ハ其ノ部分ヲ指定シテ之ヲ爲スヘシ

第三十四條 本法中土地所有者ノ數ヲ計算スル場合ニ於テハ共有者ハ之ヲ一人ト看做ス但シ共有者ノミ共同シテ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 住所又ハ居所ノ不明其ノ他ノ事由ニ依リ耕地整理ニ關スル書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ整理施行者又ハ監督官廳カ公告ヲ爲ストキハ其ノ公告ノ日ヲ以テ書類ヲ發送シタルモノト看做シ二十日ヲ經過スルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付ヲ了リタルモノト看做ス

第三十六條 第三十條第三項ノ認可ヲ受ケタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク既登記ノ土地及建物ニ付登記ヲ申請スヘシ

第三十七條 整理施行地區内ノ土地及其ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第三十八條 共同施行又ハ耕地整理組合ニ依ル耕地整理ノ事業ニシテ市町村又ハ水利組合ニ依リ施行スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業ヲ市町村若ハ水利組

〔文會例〕

當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス
先取特權者、質權者、抵當權者又ハ訴訟當事者ハ第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ供託シタル金錢ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十五條ノ二 整理施行地ニ付存スル漁業權カ登録シタル先取特權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ補償金ヲ拂渡スヘキトキハ整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ但シ先取特權者又ハ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者カ其ノ事業ノ爲借入レタル金額及其ノ利息其ノ他耕地整理ノ施行ニ依リ生シタル債務ニ付テハ共同施行者連帶シテ其ノ責ニ任ス但シ規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 整理施行者ハ耕地整理施行ノ爲必要アルトキハ整理施行地區内ノ工作物又ハ木石等ヲ移轉シ、除却シ又ハ破壊スルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

第二十八條 整理施行地ニ付漁業權存スル場合ニ於テハ漁業權者ニ對シ、漁業權及入漁權存スル場合ニ於テハ漁業權者及入漁權者ニ對シ整理施行者ハ整理施行ニ依リ生スヘキ損害ヲ補償スルコトヲ要ス

第二十九條 整理施行地ニ付權利ヲ取得シタル者ハ從前ノ權利者ノ爲シ得ヘキ範圍内ニ於テノミ損害ヲ補償ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 換地ハ從前ノ土地ノ地目、地積、地位等ヲ標準トシテ之ヲ交付スヘシ但シ地目、地積、地位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル部分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スヘシ

第三十一條 前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此

第三十二條 整理施行地ニ付權利ヲ取得シタル者ハ從前ノ權利者ノ爲シ得ヘキ範圍内ニ於テノミ損害ヲ補償ヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付既登記ノ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アルトキハ之ニ對スル換地ノ交付ハ其ノ權利又ハ處分ノ制限ノ目的タル土地又ハ其ノ部分ヲ指定シテ之ヲ爲スヘシ

〔文會例〕

當事者ヨリ請求アリタル場合ニ但シ其ノ損害ヲ補償ヲ受ケタル權利者ノ同意ヲ得タルトキ、第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ供託ヲ爲シタルトキ又ハ第八十七條第三項ノ規定ニ依リ決定ヲ得タル金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ耕地整理組合員ハ耕地整理施行ノ爲受ケタル損害ニ對シ第七條、第八條又ハ第二十七條ノ場合ヲ除クノ外補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 整理施行地ニ付權利ヲ有スル者耕地整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可又ハ耕地整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示アリタル後ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタルトキハ之ニ關スル損害ヲ補償ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 換地ハ從前ノ土地ノ地目、地積、地位等ヲ標準トシテ之ヲ交付スヘシ但シ地目、地積、地位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル部分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スヘシ

第三十一條 前條ノ規定ニ依ル處分ハ地方長官ノ認可ヲ受ケタヘシ

第三十二條 地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ告示シ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ

第三十三條 前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此

第八章 國有財産 第二節 土地

合ニ引繼キ又ハ耕地整理組合ヲ普通水利組合ニ變更スヘシ
前項ノ規定ニ依リ引繼又ハ變更アリタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ告示
スヘシ

第三條第五項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條 削除

第四十條 市制第六條ノ市ニ於テハ第三十八條及第五十三條第一項第五號
ノ市ニ關スル規定ハ區ニモ之ヲ適用ス

市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市長ニ關スル規定
ハ區長ニモ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニモ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘ
キモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ、町村役場ニ
關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第四十條ノ二 整理施行地區カ數府縣ニ涉ル場合ニ於テハ本法中地方長官
ノ職權ニ屬スル事項ハ關係地方長官中主務大臣ノ指定スルモノ之ヲ行フ

第二章 耕地整理組合

第一款 總則

第四十一條 耕地整理ヲ施行スル爲必要アルトキハ耕地整理組合ヲ設立ス
ルコトヲ得

耕地整理組合ハ法人トス

第四十二條 耕地整理組合ハ整理施行地ヲ以テ其ノ地區トス

第四十三條 耕地整理施行ノ爲土地ヲ分筆スルノ必要アル場合ニ於テ
ハ組合ハ其ノ所有者ニ代リ之ニ關スル手續ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 左ニ掲ケル土地ハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ
得ス但シ第一號乃至第三號ノ土地ニ付テハ主務官廳又ハ公共團體ノ認
許、第四號乃至第八號ノ土地ニ付テハ土地所有者、關係人及建物ニ付登

記シタル權利ヲ有スル者(抵當證券ノ發行アリタルトキハ其ノ所持人)ノ
同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 御料地、國有地

二 官ノ用ニ供スル土地

三 道府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ公用又ハ公共
ノ用ニ供スル土地

四 名勝地、舊蹟地

五 古墳墓地、墳墓地

六 社寺境内地

七 鐵道用地、軌道用地

八 建物アル宅地

前項ノ場合ニ於テ抵當證券ノ所持人ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ地
方長官ノ認可ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

登記シタル地上權又ハ永小作權ノ目的タル御料地又ハ國有地ニ付主務官
廳ノ認許ヲ得タルトキハ其ノ地上權者又ハ永小作權者ヲ組合員ト爲シ其
ノ土地ヲ組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得但シ地上權又ハ永小作權ノ殘存
期間カ耕地整理組合設立ノ認可申請ノ日ヨリ二十年未滿ナルモノニ付テ
ハ此ノ限ニ在ラス

第二條ノ二第二項及第五條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ地上權者又
ハ永小作權者カ組合員ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 特別ノ價值又ハ用途アル土地ハ土地所有者及關係人ノ同意ヲ
得ルニ非サレハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ之ヲ
編入スルニ非サレハ耕地整理適當ニ施行スルコト能ハサルトキハ此ノ

〔文會例〕

第四十九條 第四十七條第一項ノ手續ヲ爲ササル土地共有者ニ對スル書類
ノ送付ハ其ノ一人ニ對シ之ヲ發送シタル時ニ於テ完了シタルモノト看做
ス

第二款 組合ノ設立及解散

第五十條 耕地整理組合ヲ設立セムトスルトキハ組合ノ地區タルヘキ區域
内ノ土地所有者總數ノ二分ノ一以上ニシテ其ノ區域内ノ土地ノ總地積及
總貸賃價格ノ各三分ノ二以上ニ當ル土地所有者ノ同意ヲ得テ設計書及規
約ヲ作り地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ土地所有者中共有者アル場合ニ於テハ各共有地ニ付共有者總數ノ
二分ノ一以上ニシテ其ノ持分ノ三分ノ二以上ニ當ル者ノ同意ヲ得タルト
キハ其ノ共有地ニ付同意アリタルモノト看做ス

第五十一條 耕地整理組合ハ前條地方長官ノ認可ニ依リ成立ス

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ組合設立ノ旨ヲ告示スヘシ

第五十二條 組合設立ニ關スル費用ハ組合設立ノ後組合ノ負擔トス

第五十三條 組合ハ左ノ事由ニ依リ解散ス但シ第二號ノ場合ニ於テ還了セ
サル組合債アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 規約ニ定メタル事由ノ發生

二 目的タル事項ノ完成又ハ完成ノ不能

三 總會ノ議決

四 合併

五 事業ヲ市町村又ハ水利組合ニ引繼キタルトキ

六 普通水利組合ニ變更シタルトキ

〔文會例〕

限ニ在ラス

前條第二項ノ規定ハ前項本文ノ場合ニ於テ抵當證券ノ所持人ノ同意ニ付
之ヲ準用ス

土地收用法第四十七條乃至第四十九條、第五十一條乃至第五十四條、第
五十六條、第五十八條、第六十條及第六十一條ノ規定ハ第一項但書ノ場
合ニ之ヲ準用ス但シ組合ノ設立又ハ地區變更ノ認可ノ告示ヲ以テ土地收
用法第十九條ノ規定ニ依リ公告又ハ通知ト看做ス

第一項但書ノ場合ニ於テ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ土地所
有者又ハ關係人ハ其ノ土地ニ付工事ノ施行ヲ拒ムコトヲ得但シ第八十七
條第一項ノ規定ニ依リ決定ヲ得タル金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在
ラス

第四十五條 耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ其ノ地區内ニ土地ヲ
所有スル者ハ總テ之ヲ組合員トス但シ第十一條第一項ノ土地ニ關シテハ
此ノ限ニ在ラス

第四十六條 耕地整理組合ノ名稱中ニハ耕地整理組合ナル文字ヲ用ウヘシ

耕地整理組合ニ非サルモノハ耕地整理組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用
ウルコトヲ得ス

第四十七條 土地ノ共有者ハ耕地整理ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲
其ノ一人ヲ以テ代表者ト爲シ之ヲ組合ニ通知スヘシ

前項ノ代表者ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ
得ス

第四十八條 前條ノ委任ノ終了ハ組合ニ通知アル迄之ヲ以テ善意ノ第三者
ニ對抗スルコトヲ得ス

第八章 國有財産 第二節 土地

第八章 國有財產 第二節 土地

七 組合員一人ト爲リタルトキ

八 監督官廳ノ處分

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ第三號又ハ第四號ニ該當スルトキヲ除クノ外其ノ旨ヲ告示スヘシ

第五十四條 組合ニ於テ設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ヲ爲サントスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ總會ノ議決ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合債ヲ負擔スルトキハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ組合ノ解散、合併、地區ノ減少又ハ債務分擔ニ關スル規約ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第五十五條 組合ノ地區ヲ變更スル場合ニ於テ新ニ組合ノ地區ニ編入セラレヘキ土地アルトキハ組合長ハ設計書案及規約案ヲ作り編入區域ノ土地所有者ノ總會議ニ付シ其ノ議決ヲ前條ノ總會ノ議決ニ添付スヘシ

前項ノ總會議ノ議決ヲ爲スニハ第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ土地所有者ノ代理人ヲ許スコトヲ得

第六十六條ノ規定ハ第一項ノ總會議ニ之ヲ準用ス

第五十六條 前條ノ總會議ハ編入區域ノ土地所有者ノ同意ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五十七條ノ規定ハ前項ノ同意ニ之ヲ準用ス

第五十七條 設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ハ第五十三條第二項又ハ第五十四條第二項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十八條 組合ヲ合併シタルトキハ合併ニ依リ解散シタル組合ニ屬スル

權利義務ハ合併後存続シ又ハ合併ニ依リ設立シタル組合ニ移轉ス

第五十九條 組合員一人ト爲リタル爲組合解散ノ場合ニ於テハ其ノ事業ハ一切ノ權利義務ト共ニ土地所有者ニ移轉ス

前項ノ土地所有者ハ之ヲ第三條ノ規定ニ依ル整理施行者ト看做ス

第六十條 組合解散シタルトキハ第五十三條第一項第四號、第六號又ハ第七號ノ場合ヲ除クノ外清算ヲ爲スヘシ

組合ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存続スルモノト看做ス

第三款 組合ノ會議

第六十一條 別ニ規定アルモノノ外左ニ掲タル事項ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

一 第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲ス事

二 組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事

三 經費ノ收支豫算ヲ定ムル事

四 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

五 組合長、組合副長若ハ評議員ヲ選任シ又ハ解任スル事

六 組合費、夫役現品ノ分賦收入ニ關スル事

七 事業報告書及收支決算書ヲ承認スル事

八 工作物又ハ設備ノ維持管理方法ヲ定ムル事

九 訴訟、訴訟及和解ニ關スル事

十 耕地整理組合聯合會ヲ設ケ、聯合會ニ加入シ又ハ聯合會ヲ脱退スル事

〔文會例〕

十一 規約ニ定メタル事項

十二 其ノ他組合長ニ於テ重要ナリト認メタル事項

第六十二條 總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ評議員會ニ委任シ又ハ組合長ヲシテ專決セシムルコトヲ得

評議員會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十三條 總會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ臨時急務ヲ要シ總會ヲ召集スル暇ナシト認ムルトキハ組合長ハ專決處分シ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ但シ設計書、規約若ハ組合地區ノ變更又ハ組合ノ解散若ハ合併ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

組合長前項ノ處分ヲ爲サントスルトキハ其ノ處分前評議員會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ評議員ヲ置カサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 總會ハ總會組合員ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十五條 總會ハ組合長之ヲ召集ス

組合員總數ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ組合地區内ノ土地ノ總面積若ハ總貸賃價格ノ五分ノ一以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的及其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルトキハ組合長ハ十四日以内ニ之ヲ召集スヘシ

第六十六條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ五日前ニ會議ノ日時、場所及目的ヲ記載シテ各組合員ニ通知ヲ發スヘシ但シ急務ヲ要スル場合ニ於テハ期間ヲ二日迄短縮スルコトヲ得

第六十七條 組合員ハ各一箇ノ表決權ヲ有ス但シ規約ヲ以テ表決權總數ノ五分ノ一ヲ超過セサル範圍内ニ於テ一人ニ付二箇以上ノ表決權ヲ有セシムルコトヲ得

〔文會例〕

前項ノ規定ハ第六十八條第二項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第六十八條 總會ノ議事ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外組合員ノ半數以上出席シ出席者ノ表決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五十四條又ハ第六十一條第一號、第二號若ハ第五號ノ事項ノ表決ヲ爲スニハ第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ命令又ハ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條 組合員ハ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ表決權ヲ行フ者ハ出席者ト看做ス

第七十條 第三十一條但書ノ規定ニ依リ第三十條ノ處分ヲ爲サントスル場合ニ於テハ其ノ處分ヲ爲サントスル土地ニ關スル組合員ノ總會議ヲ以テ總會ト看做ス

第七十一條 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ選舉シタル議員ヲ以テ組織スル組合會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

第七十二條 總會ニ關スル規定ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前二條ノ規定ニ依ル組合員ノ總會議又ハ組合會ニ之ヲ準用ス但シ組合會ニ於テハ組合ノ解散又ハ合併ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四款 組合ノ管理

第七十三條 組合ニ組合長一人及組合副長一人又ハ數人ヲ置ク

組合長又ハ組合副長ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス但シ特別ノ事情アルトキハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

組合長、組合副長共ニ副員ト爲リタルトキハ地方長官ハ臨時代理者ヲ指

定スルコトヲ得
地方長官前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘ又ハ指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ
組合長、組合副長又ハ臨時代理者ノ就任若ハ解任ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十四條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ管理ス
組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス組合副長數人アルトキハ其ノ代理ノ順序ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第七十五條 組合長ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十六條 組合ニ評議員ヲ置ク但シ特別ノ事情アル爲メ地方長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
評議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス

評議員ハ組合長ノ諮詢ニ應ジ並業務及財産ノ狀況ヲ監査ス

組合長ハ規約ノ定ムル所ニ依リ評議員ヲシテ組合ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第七十七條 組合長ハ設計書、規約、組合員名簿、會議ノ議事録其ノ他組合ニ關スル書類及帳簿ヲ事務所ニ備ヘ置クヘシ
組合員又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類又ハ帳簿ノ閱覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除ク外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五款 組合ノ財務

第七十八條 組合ノ費用ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

夫役現品ノ分賦及之ニ代ルヘキ金額ニ關スル規定ハ規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第七十九條 組合員ニシテ組合費、第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依リ

〔文會例〕

〔文會例〕

方長官ノ認可ヲ受クヘシ

聯合會ニ會長一人及副會長一人又ハ數人ヲ置ク

第四十二條ノ二、第四十六條、第五十一條乃至第五十四條、第五十七條乃至第五十九條第一項、第六十條、第七十三條乃至第七十五條及第七十七條乃至第八十一條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第五十九條第一項中土地所有者トアルハ組合、第七十三條中組合員トアルハ聯合會所屬組合ノ組合員トス

第三章 監督

第八十二條 耕地整理ハ第一次ニ地方長官、第二次ニ主務大臣之ヲ監督ス

第八十三條 主務大臣又ハ地方長官ニ於テ會議ノ表決又ハ整理施行者ノ行爲カ設計書、規約又ハ法令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ會議ノ表決ヲ取消シ、組合長組合副長若ハ聯合會會長聯合會副會長ヲ解任シ、評議員若ハ組合會議員ノ改選、事業ノ停止若ハ組合聯合會ノ解散ヲ命シ又ハ整理施行ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第八十四條 監督官廳ハ整理施行者ヲシテ耕地整理事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ、書類、帳簿、出納又ハ工事ヲ検査シ、設計書又ハ規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 監督官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ認可申請ニ對シ申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ認可ヲ與フルコトヲ得

第八十六條 第三條ノ規定ニ依ル耕地整理ノ施行者ハ整理施行地區ノ變更ニ異議アル關係人、第四十三條若ハ第四十四條ノ規定ニ違反シテ耕地整理組合ノ地區ニ編入シタル土地ノ所有者若ハ關係人又ハ第三條第二項但

支拂フヘキ金銭又ハ延滞利息若ハ過怠金ヲ滯納スルトキハ市町村ハ組合長ノ請求ニ依リ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス

前項ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額中百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ
市町村カ第一項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セス又ハ九十日以内ニ之ヲ結了セサルトキハ組合長ハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村制百十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第一項及第三項ノ徵收金ハ組合地區内ノ土地ニ關シ市町村、水利組合其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有ス
前四項ノ規定ハ組合員カ夫役現品ニ代ルヘキ金銭ヲ滯納スル場合ニ之ヲ準用ス

第八十條 組合ニ於テ負債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ負債ハ起債ノ時ヨリ十五年以内ニ之ヲ還了スヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ限り五十年以内ト爲スコトヲ得

第八十一條 組合ニシテ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ帝室及國ヲ除ク外組合員ハ之ニ付連帶無限ノ責任ヲ負擔ス但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二章ノ二 耕地整理組合聯合會

第八十二條ノ二 耕地整理組合ハ登記手續ニ關スル事項ヲ除ク外其ノ事業ノ一部ヲ他ノ耕地整理組合ト共同シテ行ハムトスル場合ニ於テ之ヲ代リ行ハシムル爲メ協議ニ依リ設計書及規約ヲ作り地方長官ノ認可ヲ得テ耕地整理組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

聯合會ハ法人トス

聯合會ハ其ノ所屬組合ノ増減ヲ爲サムトスルトキハ各組合ノ協議ニ依リ地

〔文會例〕

〔文會例〕

書若ハ第五十四條第一項但書ノ規定ニ依リ異議アル債權者ハ各耕地整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可ノ告示、耕地整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示又ハ第三條第四項若ハ第五十四條第二項ノ規定ニ依リ當該事項ノ告示アリタル日ヨリ六十日以内ニ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ訴願アリタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ裁決アル迄目的タル土地ニ付耕地整理ノ施行ヲ停止スルコトヲ得

第八十六條ノ二 第十三條ノ三第三項ノ假貸賃價格ノ決定ニ對シ不服アル整理施行者ハ同條第四項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ訴願スルコトヲ得

第八十七條 第四十四條第三項ノ規定ニ依ル補償金ニ付協議調ハサルカ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條ノ二第一項ノ規定ニ依ル補償金ニ付亦前二項ニ同シ

第八十八條 總會議、總會若ハ組合會ノ招集手續若ハ表決カ違法ナル場合ニ於テ之ニ對シ不服アル者又ハ地上權者、永小作權者、賃借權者若ハ豫約事業者カ整理施行者若ハ組合員ト爲リタル場合ニ於テ第三十條第一項、第二項ノ處分ニ對シ不服アル土地ノ所有者ハ其ノ表決ノ日ヨリ十四日以内ニ地方長官ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項異議ノ申立アリタル場合ニ於テ監督官廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ表決又ハ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第八十九條 監督官廳ノ處分ニシテ本法中他ノ條項ニ於テ地方長官ノ告示ヲ必要トスル事項ニ相當スルモノニ付テハ地方長官ハ之ヲ告示スヘシ整理施行者ハ前項ノ告示アル迄其ノ受ケタル處分ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ監督官廳ノ命令シタル停止處分ノ解除ニ之ヲ準用ス

第四章 罰則

第九十條 耕地整理施行ニ關シ設ケタル標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ組合長組合副長若ハ聯合會會長聯合會副會長本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第九十二條 組合長、組合副長、聯合會會長、聯合會副會長、臨時代理者、評議員又ハ組合會議員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第九十三條 前條第一項ニ掲ケル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

〔文會例〕

第九十八條 舊法又ハ明治三十年法律第三十九號ニ依リ爲シタル處分ニ對スル訴願ニ關シテハ各舊法又ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依ル

〔明治四十二年勅令第二百三十號ヲ以テ同年十月十六日ヨリ施行〕

〔文會例〕

附則 (大正八年法律第四十五號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前第十四條及第十四條ノ二ノ規定ニ依ル許可アリタル土地ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

〔大正八年勅令第二百四十五號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行〕

附則 (昭和六年法律第二十九號)

第一條 本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 昭和九年三月三十一日迄第三十四條第二項、第五十條第一項及第六十五條第二項ノ改正規定ニ依リ難キ事項ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定メ爲スコトヲ得

第三條 大正十五年四月一日以後地價配賦ヲ爲シタル整理施行地區内ノ土地ノ賃貸價格ハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ其ノ地區内從前ノ土地ニ付土地賃貸價格調査法ニ依リ調査シタル賃貸價格(以下調査賃貸價格ト稱ス)ノ合計額ヲ工事完了ノトキノ現況ニ依リ每筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム

命令ノ定ムル期間内ニ前項ノ申請ナキトキハ第三項ノ規定ニ依リ定メタル賃貸價格ヲ以テ前項ノ土地ノ賃貸價格トス

第一項ノ規定ニ依リ賃貸價格ノ配賦ヲ爲ス迄ハ其ノ土地ノ賃貸價格ハ調査賃貸價格ノ合計額ヲ從前ノ地價ニ依リ算出シタル地租條例ノ地租額ニ

附則

第九十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治三十年法律第三十九號ハ之ヲ廢止ス但シ現ニ土地ノ區劃形狀變更ノ許可ヲ得タル者ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第九十三條 北海道ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設ケルコトヲ得

第九十四條 本法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ付テハ以下數條ニ規定スルモノヲ除クノ外舊法ノ規定ヲ適用ス

第九十五條 本法第一條、第二條、第四條、第八條、第十條、第十七條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十條、第三十一條、第三十三條、第三十五條乃至第四十條、第七十九條、第八十二條、第八十四條及第八十五條ノ規定ハ本法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ之ヲ適用ス

第九十六條 本法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ得タル者ハ發起人又ハ整理委員ノ申請ニ依リ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法ニ依ル耕地整理組合ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲シタルトキハ耕地整理ニ關スル從前ノ設計書又ハ規約ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反セサル範圍内ニ於テ本法ノ規定ニ依リ設計書又ハ規約ト看做ス

第一項ノ規定ニ依ル耕地整理組合ハ耕地整理ニ關スル參加土地所有者共同ノ權利義務ヲ承繼ス

第九十七條 本法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサル者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法第五十條ノ規定ニ依ル耕地整理組合設立ノ申請ト爲スコトヲ得

〔文會例〕

按分シテ之ヲ定ム

第一項及前項ノ場合ニ於テ調査賃貸價格ニ百分ノ三・八ヲ乘シタル金額カ從前ノ地價ニ依リ算出シタル地租條例ノ地租額ノ三倍八割ヲ超ユル土地アルトキハ地租條例ノ地租額ノ三倍八割ニ相當スル金額ヲ百分ノ三・八ヲ以テ除シタル金額ヲ以テ其ノ土地ノ調査賃貸價格トス

第十三條第二項但書ノ改正規定ハ第一項及第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 前條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ賃貸價格ノ配賦ヲ爲シ又ハ之ヲ定メタル土地ハ耕地整理減租年期ヲ有ス但シ地價配賦後地目變換、地類變換又ハ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條ノ三第二項、第三項及第八十六條ノ二ノ改正規定ハ前條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ賃貸價格ノ配賦ヲ爲シ又ハ之ヲ定メタル土地ニ之ヲ準用ス

第五條 附則第三條第一項ノ規定ニ依リ賃貸價格ノ配賦ヲ爲シタル土地ニ付テハ其ノ配賦ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ配賦シタル賃貸價格ニ依リ、同條第三項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定メタル土地ニ付テハ昭和六年分ヨリ同條第一項ノ規定ニ依リ賃貸價格ノ配賦ヲ爲ス年ノ分迄其ノ定メタル賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

附則第三條第一項ノ規定ニ依リ昭和六年ニ賃貸價格ノ配賦ヲ爲シタル土地ノ昭和六年分ノ地租ハ附則第三條第三項ノ規定ニ準シ算出シタル賃貸價格ニ依リ之ヲ徵收ス

第六條 大正十五年三月三十一日迄ニ地價配賦ヲ爲シタル整理施行地區内ノ土地ノ賃貸價格ハ其ノ土地ノ屬スル郡又ハ市ニ於ケル土地(大正十五年三月三十一日迄ニ地價配賦ヲ爲シタル土地ヲ除ク)ノ地目別ノ大正十五年四月一日現在ノ地價ノ合計額ヲ以テ之ニ對スル地租法第九十二條ノ

規定ニ依リ貸賃價格ノ合計額ヲ除シテ得タル比率ヲ地目別ニ毎筆ノ地價ニ乗シタル額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ土地ノ屬スル郡又ハ市ニ於ケル當該地目ノ土地ノ大正十五年四月一日現在ノ總地積ノ二分ノ一以上方其ノ前日迄ニ地價配賦ヲ爲シタルモノナルトキハ同項ノ郡又ハ市ハ之ヲ府縣トス

第一項ノ場合ニ於テ附則第十六條第一項但書ノ規定ニ依リ宅地ノ貸賃價格ハ其ノ土地ノ屬スル府縣ニ於ケル宅地(大正十五年三月三十一日迄ニ地價配賦ヲ爲シタル宅地ヲ除ク)ノ大正十五年四月一日現在ノ地價ノ合計額ヲ以テ之ニ對スル地租法第九十二條ノ規定ニ依リ貸賃價格ノ合計額ヲ除シテ得タル比率ヲ其ノ每筆ノ地價ニ乗シタル額トス

第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ貸賃價格カ地租法第九十二條ノ規定ニ依リ貸賃價格ヲ超ユル土地ニ付テハ同條ノ規定ニ依リ貸賃價格ヲ以テ其ノ貸賃價格トス

第七條 前條ノ規定ハ地價配賦後地目變換、地類變換又ハ開墾ヲ爲シタル土地ニ之ヲ適用セス

前條ノ規定ニ依リ貸賃價格ヲ定メタル土地ニ付テハ昭和六年分ヨリ其ノ貸賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第八條 地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ貸賃價格ヲ改訂スル場合ニ於テハ前條第三項ノ年率ヲ有スル土地ノ貸賃價格ハ其ノ改訂ニ依リ定メラルヘキ貸賃價格ニ相當スル額ニ附則第六條ノ規定ニ依リ定メタル貸賃價格ノ合計額ヲ之ニ對スル地租法第九十二條ノ規定ニ依リ貸賃價格ニ相當スル額ノ合計額ヲ以テ除シテ得タル比率ヲ乘シタル額ニ之ヲ改訂ス

〔文會例〕

第九條 第十四條及第十四條ノ二ノ改正規定ハ大正十五年四月一日以後地價配賦ヲ爲シタル整理施行地區内ノ土地ニシテ從前ノ第十四條ノ規定ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シタルモノニ付附則第三條ノ調査貸賃價格ヲ算定スル場合ニ之ヲ準用ス但シ附則第三條第三項ニ規定スル場合ニ於テハ整理施行者ノ申請ヲ要セス

第十條 第十四條及第十四條ノ二ノ改正規定ハ本法施行ノ際未タ地價配賦ヲ爲ササル整理施行地區内ノ土地ニシテ從前ノ第十四條ノ規定ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シタルモノニ付現貸賃價格ヲ算定スル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條ノ三ノ改正規定ハ前項ノ土地ニ付貸賃價格配賦前ニ於テ地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ貸賃價格ヲ改訂スル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 本法施行前耕地整理地價據置年率若ハ其ノ年率延長又ハ耕地整理新開免租年率ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ年率ノ滿了セサルモノハ左ノ區分ニ從ヒ本法ニ依リ減租年率又ハ免租年率ヲ許可セラレタルモノト看做ス

一 耕地整理地價據置年率又ハ其ノ年率延長ハ開墾シタル土地ニ付許可セラレタルモノニ在リテハ耕地整理開墾免租年率、地目變換ヲ爲シタル土地ニ付許可セラレタルモノニ在リテハ耕地整理地目變換減租年率トス

二 耕地整理新開免租年率ハ埋立地又ハ干拓地ニ付許可セラレタルモノニ在リテハ耕地整理埋立免租年率、其ノ他ノ土地ニ付許可セラレタルモノニ在リテハ耕地整理開拓免租年率トス

前項ノ年率ハ本法施行前許可セラレタル年率ノ殘年期間ノ經過スル年ノ内ノ土地ニシテ從前ノ第十六條ノ規定ニ依リ利益ヲ有スルモノニ付テハ同條ノ殘年期間ノ經過スル年ノ翌年迄ハ附則第六條ノ規定ニ依リ其ノ土地ノ貸賃價格ヨリ第二項ノ規定ニ依リ算出スル額ヲ控除シタル額ヲ以テ其ノ貸賃價格トス

前項ノ規定ニ依リ控除スヘキ額ハ從前ノ第十六條ノ規定ニ依リ利益ニ相當スル地租條例ノ地租額ヲ地租條例第一條ニ規定スル其ノ土地ノ稅率ヲ以テ除シタル額ニ其ノ土地ノ從前ノ地價ヲ以テ附則第六條ノ規定ニ依リ貸賃價格ヲ除シテ得タル比率ヲ乘シタル額トス

第十六條ノ二及第十六條ノ四乃至第十六條ノ七ノ改正規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 附則第六條ノ規定ハ市ノ區域内ノ宅地及主務大臣ノ指定スル地域内ノ宅地ニハ之ヲ適用セス但シ市ノ區域内ノ宅地ニシテ主務大臣ノ指定スル地域内ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

大正十五年三月三十一日迄ニ地價配賦ヲ爲ササル整理施行地區内ノ宅地ニシテ市ノ區域内又ハ主務大臣ノ指定スル地域内ノモノ(市ノ區域内ノ宅地ニシテ主務大臣ノ指定スル地域内ノモノヲ除ク)ハ耕地整理減租年率ヲ有セス

第十七條 第十二條乃至第十六條ノ七ノ改正規定及前條ノ規定ハ第九十四條ノ規定ニ拘ラス明治三十二年法律第八十二號耕地整理法ニ依リ耕地整

翌年ニ於テ滿了ス

〔文會例〕

第十二條 第十五條ノ改正規定ハ大正十五年四月一日以後地價配賦ヲ爲シタル整理施行地區内ノ土地ニシテ從前ノ第十五條ノ規定ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シタルモノニ付附則第三條ノ調査貸賃價格ヲ算定スル場合ニ之ヲ準用ス但シ附則第三條第三項ニ規定スル場合ニ於テハ整理施行者ノ申請ヲ要セス

第十三條 第十五條ノ改正規定ハ本法施行ノ際未タ地價配賦ヲ爲ササル整理施行地區内ノ土地ニシテ從前ノ第十五條ノ規定ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シタルモノニ付現貸賃價格ヲ定ムル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條ノ二ノ改正規定ハ前項ノ土地ニ付貸賃價格配賦前ニ於テ地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ貸賃價格ヲ改訂スル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條ノ三ノ改正規定ハ第一項ノ土地ニ付其ノ年率カ貸賃價格配賦前ニ滿了スル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 第十六條乃至第十六條ノ七ノ改正規定ハ附則第三條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ貸賃價格ノ配賦ヲ爲シ又ハ之ヲ定ムルトキニ於テ整理施行地區内ニ從前ノ第十六條ノ規定ニ依リ利益ヲ有スル土地アル場合ニ之ヲ準用ス但シ附則第三條第三項ニ規定スル場合ニ於テハ整理施行者ノ申請ヲ要セス

第十五條 大正十五年三月三十一日迄ニ地價配賦ヲ爲シタル整理施行地區

理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニシテ第九十六條ノ規定ニ依リ
耕地整理組合ト爲ラス且未ダ地價配賦ヲ爲ササルモノニ之ヲ準用ス
附則第十二條乃至前條ノ規定ハ第九十四條ノ規定ニ拘ラス明治三十二年
法律第八十二號耕地整理法ニ依リ耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ
得タル者ニシテ第九十六條ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲ラス且既ニ地
價配賦ヲ爲シタルモノニ之ヲ準用ス
第十八條 第十三條第三項ノ改正規定ハ附則第三條第一項、第三項、第六
條第一項、第九條、第十條、第十二條、第十四條、第十五條及前條ノ場
合ニ之ヲ準用ス
第十九條 附則第十七條ノ規定ハ第九十二條第二項但書ニ規定スル者ニ之
ヲ準用ス

●耕地整理法施行規則

○農商務省令第三十九號 明治四十二年十月十三日

改正 明治四三年第五號、大正元年第二號、第二二號、四年第八號、八年第二二號、昭和六
年農林省令第七號、第一九號、第二五號

第一章 總則

第一條 整理施行者又ハ耕地整理組合ノ組員タル資格ヲ有スル者ニ非サ

〔文會例〕

ノ一部アルトキハ耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ
整理施行者ハ其ノ現況ニ依リ整理施行地區内ノ土地ノ賃賃價格ヲ參酌シ
テ相當ノ準賃賃價格ヲ附スヘシ埋立ノ免許ヲ受ケタル水面ニ付亦同シ
地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ賃賃價格ノ改訂アリタルトキハ
耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ遲滯
ナク前項ノ準賃賃價格ヲ改訂スヘシ
耕地整理法第十五條第一項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ修正又ハ設定アリタ
ル土地ニ付テハ其ノ修正賃賃價格又ハ設定賃賃價格(耕地整理法第十五
條ノ二ノ規定ニ依リ改訂シタル場合ニ於テハ其ノ改訂シタルモノ)ヲ以
テ第一項ノ準賃賃價格ト看做ス
第六條 耕地整理事業カ道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ノ事業ニ關スル
トキハ耕地整理施行者又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者ニ其ノ團體ノ承
認ヲ證スル書面、其ノ承認ヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ
添附スヘシ
前項ノ規定ハ設計書、規約又ハ整理施行地區變更ノ場合ニ之ヲ準用ス
第七條 國有地又ハ道府縣ノ公用若ハ公共ノ用ニ供スル土地ヲ整理施行地
區ニ編入スル爲耕地整理法又ハ本則ノ規定ニ依リ認許ヲ申請スル場合ニ
於テハ耕地整理施行、耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可申
請ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得
耕地整理法第四十三條第二項又ハ第四十四條第二項ノ規定ニ依リ認可申
請ハ耕地整理組合設立又ハ耕地整理組合地區變更ノ認可申請ト共ニ之ヲ
爲スコトヲ得
第八條 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ規約ヲ以テ整理施行地區ヲ

レハ耕地整理施行者又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者ト爲ルコトヲ得ス
但シ耕地整理組合設立ノ認可申請者ニ付テハ地方ノ狀況ニ依リ特別ノ事
情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條 耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者
ハ整理施行地區所在ノ市町村ニ事務所ヲ設クヘシ但シ特別ノ事情アルト
キハ之ヲ其ノ鄰接市町村ニ設クルコトヲ得
事務所ニハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ備ヘ置クヘシ
共同施行者若ハ組員タルヘキ者又ハ利害關係人ヨリ前項ノ書類又ハ帳
簿ノ閱覽ヲ求メタルトキハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコト
ヲ得ス

第三條 耕地整理施行者又ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者ハ其ノ氏名若ハ
名稱、住所、整理施行地區及事務所ヲ整理施行地區ノ屬スル各市町村長
ニ届出ツヘシ

第四條 耕地整理法第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ通知又ハ公告ニハ立入
ノ目的、場所及期日ヲ示スヘシ
前項ノ公告ハ立入ルヘキ土地ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ
少ナクモ三日間之ヲ揭示スヘシ

第五條 耕地整理法第三十四條第二項、第五十條第一項、第五十五條第二
項、第五十六條第二項、第六十五條第二項又ハ第六十八條第二項ノ規定
ニ依リ土地ノ賃賃價格ヲ計算スル場合ニ於テ耕地整理法第十一條ノ國有
地以外ノ無租地、同法第十五條第一項若ハ第三項ノ土地又ハ一筆ノ土地

〔文會例〕

數區ニ分チタル場合ニ於テハ第五號、第六號、第九號及第十號ノ事項ハ
各區毎ニ之ヲ記載スヘシ
一 整理施行地ノ現況及工事施行ノ目的
二 工事其ノ他ノ事業ノ計畫說明
三 削除
四 主要工事ノ仕様
五 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及地積ノ地目別合計ノ豫定
六 工事施行ニ依リテ得ヘキ利益
七 整理施行地及之ニ鄰接スル土地、水面ノ現形圖
八 整理豫定圖
九 工事ノ著手及完了ノ豫定期期
十 維持管理ニ要スルモノヲ除ク外工事費其ノ他一切ノ費用及夫役現品
ノ豫算
第九條 規約ニハ耕地整理法又ハ本則ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載
スヘシ
一 事業ノ範圍
二 削除
三 耕地整理組合又ハ聯合會ニ在リテハ名稱
四 事務所ノ所在地
五 耕地整理組合ニ在リテハ組合長、組合副長及評議員、聯合會ニ在リ
テハ會長及副會長ノ定數、選任、解任及任期ニ關スル規定、共同施
行ニ依ル耕地整理ニシテ役員ヲ置クモノニ在リテハ其ノ名稱、定數、
職務權限、選任、解任及任期ニ關スル規定

- 六 會議ニ關スル規定
- 七 處務及會計ニ關スル規定
- 八 補償金評定ノ標準ヲ定メタルトキハ其ノ規定
- 九 費用及夫役現品ノ分賦收入方法並延滞利息又ハ過怠金ニ關スル規定
- 十 耕地整理法第三十條第四項ノ告示前ニ於ケル土地使用ニ關スル規定
- 十一 耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分方法
- 十二 土地及水面ノ價額及等位ノ評定ニ關スル規定
- 十三 數人共同シテ施行スル耕地整理ニ在リテハ設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ニ關スル規定
- 十四 豫約事業者又ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ權利消滅ノ場合ニ於ケル補償金徵收ノ方法ヲ定メタルトキハ其ノ規定
- 十五 維持管理ヲ行フモノニ在リテハ其ノ規定
- 第十條 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ工事ニ著手スル前第八條第七號ノ圖面ヲ添附シテ左ノ事項ヲ所轄稅務署長ニ申告スヘシ其ノ變更ヲ生シタルトキ亦同シ
 - 一 整理施行地ノ屬スル郡、市町村並土地ノ字、地番及水面ノ位置、地積
 - 二 耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可ノ年月日
 - 三 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及地積ノ地目別合計ノ豫定
 - 四 工事ノ著手及完了ノ豫定期間
- 第十條ノ二 整理施行地區内ニ一筆ノ一部ヲ編入シタル土地アルトキハ前條ノ申告ト共ニ分筆ノ手續ヲ爲スヘシ

〔文會例〕

- 第十條ノ三 耕地整理法第十五條第一項ノ規定ニ依ル賃貸價格ノ修正又ハ設定ノ申請ハ工事著手前申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ
 - 前項ノ申請書ニハ耕地整理法第十五條第一項ノ土地ノ字、地番、地目（土地臺帳ノ地目カ土地ノ現況ト異ナルトキハ土地臺帳ノ地目及現況ニ依ル地目）、地積及修正賃貸價格又ハ設定賃貸價格ノ見積額ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
 - 第十條ノ四 整理施行者ハ工事著手前整理施行地區内ノ土地及水面ノ等位ヲ評定スヘシ
 - 第十一條 工事ニ著手シ又ハ工事完了シタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官及所轄稅務署長ニ届出ツヘシ
 - 第十二條 規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ各區毎ニ第十條乃至第十條ノ三及前條ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 第十二條ノ二 耕地整理法第十四條第一項、第十四條ノ二及第十五條第三項ノ規定ニ依ル賃貸價格ノ修正又ハ設定ノ申請ハ工事完了ノ届出ト共ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ
 - 前項ノ申請書ニハ從前ノ土地ノ字、地番、地目及地積、之ニ對スル工事完了後ノ地目及地積並ニ修正賃貸價格又ハ設定賃貸價格ノ見積額ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
 - 前項ノ書面ニハ從前ノ土地及工事完了後ノ土地ノ各筆ノ區域ヲ表示シタル圖面ヲ添附スヘシ
 - 第十二條ノ三 耕地整理開墾減租年期、耕地整理地目變換減租年期、耕地整理開拓免租年期又ハ耕地整理免租年期ノ許可ノ申請ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後三十日以内ニ、耕地整理開拓免租年期又ハ耕地整理地目變換減租年期ノ許可ノ申請ハ年期ノ満了スル年ノ六月三十日迄ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

〔文會例〕

- 立免租年期延長ノ許可ノ申請ハ年期ノ満了スル年ノ六月三十日迄ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ
- 前項ノ耕地整理開拓免租年期若ハ耕地整理立免租年期ノ許可又ハ其ノ年期延長ノ許可ノ申請書ニハ其ノ土地ノ字、地番、地目及地積並ニ土地所有者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
- 第十三條 整理施行者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後遲滞ナク換地説明書、整理確定圖及賃貸價格配賦案ヲ作成スヘシ
 - 賃貸價格配賦案ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 整理施行地區内ノ土地ノ現賃貸價格ノ合計額及其ノ算出ノ基礎
 - 二 豫定地番、地目、地積及配賦賃貸價格
 - 三 耕地整理法第十三條ノ三第三項ノ規定ニ依ル假賃貸價格ノ見積額
 - 四 耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ニ依リ所有者タルヘキ者ノ氏名又ハ名稱及住所
- 前項第二號乃至第四號ノ事項ハ工事完了後ノ土地ノ各筆ニ付テ之ヲ記載スヘシ
- 賃貸價格配賦案ハ耕地整理組合ニ在リテハ耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲ス總會又ハ總會會議ニ於テ、共同施行ニ依ル耕地整理ニ在リテハ規約ニ定ムル會議ニ於テ其ノ承認ヲ經ヘシ
- 第十四條 地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約事業者カ整理施行者又ハ組合員タル場合ニ於テ一人施行者又ハ共同施行者耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請セムトスルトキハ七日前ニ、耕地整理組合同條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲ス總會又ハ總會會議ヲ召集セムトスルトキハ同時ニ其ノ旨ヲ土地所有者ニ通知スヘシ

- 第十五條 耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ換地説明書、整理確定圖及耕地整理組合ニ在リテハ總會又ハ總會會議ノ議事録ノ原本ヲ添附スヘシ
- 第十六條 耕地整理法第十三條第二項ノ規定ニ依ル賃貸價格配賦ノ申請ハ同法第三十條第三項ノ認可アリタル後遲滞ナク申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ
 - 前項ノ申請書ニハ賃貸價格配賦案、耕地整理法第三十條第三項ノ認可書ノ原本、換地説明書及整理確定圖ヲ添附スヘシ
 - 耕地整理法第十三條ノ三第三項ノ規定ニ依ル假賃貸價格決定ノ申請ハ第一項ノ申請ト共ニ之ヲ爲スヘシ
 - 第十六條ノ二 耕地整理法第十三條ノ三第二項又ハ第十六條ノ二ノ規定ニ依リ算出シタル比率ニ千分ノ一未滿ノ端數アル場合ニ於テハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
 - 第十七條 耕地整理法第十六條ノ規定ニ依ル配當ノ申請ハ賃貸價格ノ配賦アリタル後六十日以内ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ
 - 前項ノ申請書ニハ配當ヲ受ケヘキ土地ノ字及地番並ニ之ニ配當スヘキ金額、年期ノ種別及其ノ殘年期間ヲ記載シタル配當案ヲ添附スヘシ
 - 第十七條ノ二 左ノ事項ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理組合ニ在リテハ評議員會ニ於テ、共同施行ニ依ル耕地整理ニ在リテハ規約ニ定ムル會議ニ於テ其ノ承認ヲ經ヘシ
 - 一 第十條ノ三第二項及第十二條ノ二第二項ノ修正賃貸價格又ハ設定賃貸價格ノ見積額
 - 二 前條第二項ノ配當案

第十七條ノ三 所轄稅務署長耕地整理法ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦、修正若ハ設定、配當又ハ年期若ハ年期延長ノ許可ヲ爲シタルトキハ申請者又ハ整理施行者ニ之ヲ通知スヘシ

第十七條ノ四 耕地整理法第三十條第四項ノ規定ニ依ル認可ノ通知ハ通知書ニ左ニ掲クル書類ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ認可ノ變更又ハ更正アリタル場合亦同シ但シ其ノ添附書類ハ變更又ハ更正アリタル部分ニ關スルモノヲ以テ足ル

一 耕地整理法第三十條第三項ノ規定ニ依ル認可書ノ謄本

二 整理施行者ノ氏名若ハ名稱、住所ヲ記載シタル書面

三 換地證明書

四 整理確定圖

第十七條ノ五 前條第三號及第四號ノ書類ハ耕地整理地區カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ涉ル場合ニ於テハ各登記所ノ管轄ニ屬スル地域毎ニ分割シタルモノヲ以テ之ニ代フルコトヲ得但シ甲登記所ノ管轄ニ屬スル從前ノ土地ニ對シ乙登記所ノ管轄ニ於テ換地ヲ交付シタルモノアルトキハ其ノ牽聯スル從前ノ土地及換地ハ換地説明書ノ分割シタルモノニ之ヲ表示スヘシ

第十八條 整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニ付登記ヲ爲シタルトキハ登記権利者ハ遲滞ナク整理施行者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十九條 耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル後同條第四項ノ告示前ニ於テ從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限ニ關スル登記ヲ爲シタルモノアルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク同法第三十三條ノ指定ヲ爲シ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

〔文會例〕

從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付既登記ノ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アル場合ニ於テ耕地整理法第三十三條ノ指定ヲ爲サザリシモノアルトキ亦前項ニ同シ

耕地整理法第三十條第四項ノ告示前ニ於テ換地ノ一部ニ該當スル從前ノ土地ニ付所有權轉移ノ登記ヲ爲シタルモノアルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク同法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ地方長官ノ認可ヲ受ケヘシ

第十九條ノ二 前條ノ規定ハ耕地整理登記令第八條ノ五但書ノ規定ニ依リ耕地整理法第三十條第四項ノ告示後登記ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 共同施行又ハ耕地整理組合若ハ聯合會ニ依ル耕地整理ノ事業年度ハ一箇年トス

前項ノ事業年度ハ九月一日ヨリ翌年八月三十一日迄トス但シ特別ノ事情アルトキハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 共同施行者又ハ耕地整理組合若ハ聯合會ハ每事業年度前經費ノ收支豫算ヲ定ムヘシ但シ初年度ニ於テハ耕地整理施行又ハ耕地整理組合若ハ聯合會設立ノ認可後遲滞ナク之ヲ爲スヘシ

第二十二條 共同施行者又ハ耕地整理組合若ハ聯合會ハ每事業年度經過後遲滞ナク當該年度ノ事業報告書及收支決算書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十三條 耕地整理法第三十五條ノ規定ニ依ル公告ハ整理施行地區ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ三日間送付スヘキ書類ノ要領ヲ揭示スヘシ

第二十四條 耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理ノ事業ヲ市町村又ハ水利組合ニ引續ク場合ニ於テ其ノ引續完了シタルトキハ共同

〔文會例〕

十 收支決算書
前項ノ規定ハ明治四十二年勅令第二百三十一號第三條ノ規定ニ依リ市町村長又ハ水利組合管理者カ耕地整理ニ關スル書類及帳簿ノ引續ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

〔文會例〕

第二十六條ノ二 耕地整理法第八十七條ノ規定ニ依ル申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ記載シ協議調ハサルトキハ其ノ願末書ヲ、協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ添付スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ協議ノ相手方ニ交付シ且交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘキ旨ヲ附記スヘシ

協議ノ相手方前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ決定スルコトヲ得申請書ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第二十七條 市制第六條ノ市ニ於テハ第六條、第二十四條及第三十八條ノ市ニ關スル規定ハ區ニモ之ヲ適用ス

市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本則中市長ニ關スル規定ハ區長ニモ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニモ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本則中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第二十七條ノ二 整理施行地區カ數府縣ニ涉ル場合ニ於テハ本則中地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ關係地方長官中主務大臣ノ指定スルモノ之ヲ行

第二章 一人施行及共同施行

〔文會例〕

施行者又ハ耕地整理組合長ハ遲滞ナク其旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
第二十五條 耕地整理事業完了シ若ハ廢止セラレタルトキ又ハ耕地整理組合ノ清算終了シタルトキハ整理施行者又ハ組合長ハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ整理施行地區ノ屬スル市町村長ニ引渡スヘシ其ノ整理施行地區二以上ノ市町村ニ涉ルトキハ整理施行者又ハ組合長ノ申請ニ依リ地方長官ニ於テ其ノ書類及帳簿ヲ引渡スヘキ市町村長ヲ指定スヘシ
耕地整理法第五十三條第一項第五號ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス
耕地整理組合聯合會ノ清算終了シタルトキハ會長ハ聯合會ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ其ノ所屬組合ノ一ニ引渡スヘシ
第二十六條 市町村長前條第一項ノ規定ニ依リ書類及帳簿ノ引渡ヲ受ケタルトキハ其ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ左ニ掲クルモノニ付テハ十年間、其ノ他ノモノニ付テハ五年間之ヲ保存スヘシ
一 耕地整理法又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル認可、認許又ハ同意ヲ證スル書面
二 設計書
三 規約
四 土地原簿
五 權利者名簿又ハ組合員名簿
六 議事錄
七 換地説明書
八 整理確定圖
九 事業報告書

第八章 國有財產 第二節 土地

第二十八條 耕地整理法第三條第一項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 一人ニテ耕地整理ヲ施行セムトスル者ニ在リテハ事業ノ範圍
二 第三十二條第一號乃至第三號ノ事項
三 整理施行者ノ員數
四 整理施行者タル土地所有者、地上權者、永小作權者、賃借權者、豫約事業者又ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ所有權其ノ他ノ權利ノ目的タル土地又ハ水面ノ權利別、地目別ノ地積及賃貸價格若ハ準賃貸價格
五 耕地整理法第四十三條ノ土地アルトキハ其ノ表示
六 整理施行地區ヨリ特ニ除外シタル土地アルトキハ其ノ事由
前項ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添付スヘシ
一 耕地整理法第四十三條第一項第一號ノ土地ニシテ地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約事業者カ其ノ土地ニ付整理施行者タル場合ニ非サル土地、第二號及第三號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付主務官廳又ハ公共團體ノ認許アリタルコトヲ證スル書面
二 耕地整理法第四十三條第一項第四號乃至第八號ノ土地アルトキハ其ノ土地ニ存スル建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ證スル書面、其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面
三 埋立ノ免許ヲ受ケタル水面アルトキハ其ノ免許ヲ證スル書面
第二十九條 耕地整理法第十一條第一項ノ土地ニ付テハ國ハ之ヲ整理施行者ト看做サス
第三十條 共同施行者ハ耕地整理ノ施行ニ關シ書類又ハ通知ノ授受ノ爲代

表者一人ヲ定メ耕地整理施行ノ認可申請ト同時ニ其ノ氏名、住所ヲ地方長官ニ届出テ且之ヲ公告スヘシ代表者又ハ其ノ氏名、住所ニ變更アリタル場合亦同シ

- 第三十一條 耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル整理施行者ハ耕地整理施行ノ認可アリタル後埋立ナク土地原簿及權利者名簿ヲ調製スヘシ
第三十二條 土地原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 整理施行地ノ總地積及總賃貸價格
二 整理施行地ノ筆數、地積及賃貸價格ノ地目別合計
三 土地各筆ノ字、地番及地目並水面ノ位置
四 耕地整理法第四十三條第一項第一號乃至第三號ノ土地、豫約事業者ノ爲ス土地、工作物アル土地又ハ所有權以外ノ登記シタル權利ノ目的タル土地アルトキハ其ノ表示
第三十三條 權利者名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 整理施行者タル土地所有者、地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約事業者ノ氏名若ハ名稱、住所並其ノ所有權其ノ他ノ權利ノ目的タル土地ノ字、地番、地目、地積、賃貸價格及權利ノ表示
二 整理施行者タル埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ氏名若ハ名稱、住所並其ノ權利ノ目的タル水面ノ位置及地積
三 土地又ハ水面ノ價額若ハ等級ヲ評定シ、地積ヲ實測シ又ハ準賃貸價格ヲ附シタルトキハ其ノ價額、等級、地積又ハ準賃貸價格
四 關係人又ハ整理施行地ニ存スル建物ニ付先取特權、賃權又ハ抵當權ヲ有スル者ノ氏名若ハ名稱、住所及登記ノ要領(抵當證券ノ所持人ニ付テハ抵當證券ヲ作成シタル登記所名、抵當證券ノ番號及登記ノ

〔文會例〕

- 要領)
五 整理施行者タル地上權者、永小作權者又ハ賃借權者ノ權利ノ目的タル土地ノ所有者ノ氏名若ハ名稱、住所及土地ノ表示
六 工作物所有者ノ氏名若ハ名稱、住所及工作物ノ表示
七 耕地整理法第二十五條第三項又ハ第二十五條ノ第二項ノ訴訟當事者アルトキハ其ノ氏名若ハ名稱、住所及訴訟ノ要領
第三十四條 土地原簿又ハ權利者名簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ更正スヘシ
第三十五條 耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ノ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ記載シ之ニ關シ定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ
事業ヲ廢止シ、債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更シ又ハ整理施行地區ヲ減少セムトスル場合ニ於テ借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ
整理施行地區ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除外セラルヘキ土地又ハ水面ノ整理施行者タルヘキ者又ハ整理施行者タル者ノ同意ヲ證スル書面、其ノ變更カ豫約事業者又ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ權利ノ消滅ニ依ルモノナルトキハ權利ノ消滅ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ但シ第二十八條ノ規定ハ地區ニ編入シ又ハ地區ヨリ除外セラルヘキ土地又ハ水面ニ付之ヲ準用ス
第三十六條 一人ニテ施行スル耕地整理ヲ變シテ數人共同ノ施行ト爲サムトスルトキハ認可申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ協議一致ヲ證スル書面、規約、數人共同ノ施行ト爲ス爲定メタル必要ノ事項ヲ記載シタル書面及第

第八章 國有財產 第二節 土地

- 二十八條第一項第三號、第四號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ
第三十七條 數人共同シテ施行スル耕地整理ニシテ整理施行者カ一人ト爲リタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
第三十八條 第二十二條ノ規定ハ耕地整理法第三條ノ規定ニ依ル耕地整理事業完了シ若ハ廢止セラレ又ハ之ヲ市町村若ハ水利組合ニ引繼キタル場合ニ之ヲ準用ス
第三章 耕地整理組合
第三十九條 耕地整理組合設立ノ認可申請者ハ土地原簿及組合員名簿ヲ調製スヘシ
第四十條 土地原簿ニハ第三十二條ニ掲クル事項ノ外耕地整理法第四十四條第一項ノ土地アルトキハ其ノ表示ヲ爲スヘシ
第四十一條 第三十三條ノ規定ハ組合員名簿ニ之ヲ準用ス
第四十二條 第三十四條ノ規定ハ耕地整理組合ノ土地原簿又ハ組合員名簿ニ之ヲ準用ス
第四十三條 耕地整理法第五十條ノ條件ヲ算定スル場合ニ於テハ耕地整理法第十一條第一項ノ土地ハ之ヲ算入セス
第四十四條 耕地整理組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ
一 第二十八條第一項第二號、第五號、第六號ノ事項及第三號、第四號ニ準スル事項
二 耕地整理法第四十四條第一項ノ土地アルトキハ其ノ表示
前項ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添付スヘシ
一 組合員タルヘキ者ニシテ組合設立ニ同意シタル者ノ總數及其ノ土

- 地、水面ノ總地積及總貸賃價格並其ノ同意ヲ證スル書面
 - 二 耕地整理法第四十三條第一項第一號乃至第三號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付主務官廳又ハ公共團體ノ認許又ハ同意アリタルコトヲ證スル書面
 - 三 耕地整理法第四十三條第一項第四號乃至第八號ノ土地アルトキハ其ノ編入ニ付土地所有者、關係人及其ノ土地ニ存スル建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ證スル書面又ハ同法第四十三條第二項ノ認可アリタルコトヲ證スル書面
 - 四 特別ノ價值又ハ用途ヲ有スル土地アルトキハ其ノ編入ニ付土地所有者及關係人ノ同意ヲ證スル書面又ハ耕地整理法第四十四條第二項ノ認可アリタルコトヲ證スル書面、其ノ同意ヲ得サルトキハ其ノ價值又ハ用途、土地所有者及關係人ノ氏名若ハ名稱並同意セサル事由及之ヲ編入スルニ非サレハ耕地整理ヲ適當ニ施行スルコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面
 - 五 組合員タルヘキ地上權者、永小作權者、賃借權者又ハ豫約事業者アルトキハ土地所有者及賃借人ノ同意ヲ證スル書面
 - 六 埋立ノ免許ヲ受ケタル水面アルトキハ其ノ免許ヲ證スル書面
- 第四十五條 組合設立ノ認可アリタルトキハ申請者ハ遲滞ナク總會ヲ召集スヘシ
- 前項ノ總會ニ於テハ組合長、組合副長、評議員ヲ置ク組合ニ在リテハ評議員ノ選舉並組合設立ニ關スル費用其ノ他必要ナル事項ニ付表決ヲ爲スヘシ
- 第四十六條 組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ノ認可申請書ニハ總會、

〔文會例〕

- 組合會又ハ評議員會ノ議事録ノ際本ヲ添付スヘシ
- 前項選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添付シ特別ノ事情ニ依リ組合員ニ非サル者ヲ選任シタル場合ニ於テハ尙其ノ事情ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ
- 第四十七條 組合長ノ就任アリタルトキハ組合設立ノ認可申請者ハ遲滞ナク組合ニ關スル一切ノ事務及書類、帳簿ヲ之ニ引繼グヘシ
- 第四十八條 耕地整理法第四十七條ノ規定ニ依ル代表者アルトキハ組合長ハ其ノ氏名、住所若ハ居所ヲ組合員名簿ニ記載スヘシ
- 第四十九條 組合會ハ百人以上ノ組合員ヲ有スル組合ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス
- 組合會ヲ設ケムトスルコトキハ規約中ニ議員ノ定數並任期及選舉ニ關スル規定ヲ設ケヘシ
- 第五十條 組合會議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ
- 第五十一條 組合會ニ於テハ第四十五條第二項ノ表決ヲ爲シ又ハ耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス
- 第五十二條 組合會議員ノ表決權ハ平等ナルモノトス
- 第五十三條 組合會ニ於テ耕地整理法第五十四條第一項又ハ第六十一條第二號若ハ第五號ノ事項ノ表決ヲ爲スニハ組合會議員總數ノ過半數ノ同意アルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アルトキハ規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得
- 第五十四條 組合會議員ハ組合會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得ス
- 第五十五條 總會又ハ組合會ハ少ナクモ毎事業年度一回之ヲ開クヘシ

〔文會例〕

- 第五十六條 耕地整理法第五十五條第一項ノ總會議ニ於テハ編入區域ノ土地所有者ハ其ノ編入區域ノ土地所有者ニ非サル者ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得ス
- 第五十七條 代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合設立ノ認可申請者又ハ組合長ニ差出スヘシ
- 第五十八條 評議員ハ三人以上トス
- 評議員ハ組合長又ハ組合副長ト相兼スルコトヲ得ス
- 第五十九條 評議員會ハ組合長之ヲ召集ス
- 評議員總數ノ五分一以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的及其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ評議員會ノ召集ヲ請求シタルトキハ組合長ハ七日以内ニ之ヲ召集スヘシ
- 組合長カ前項召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル評議員ハ第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ其ノ召集ヲ爲スコトヲ得
- 評議員會ノ議事ハ評議員ノ半數以上出席シ其ノ過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス
- 第六十條 組合設立ノ認可申請者、組合長、組合副長、評議員及組合會議員ハ規約ニ別段ノ規定アルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第六十條ノ二 組合ハ耕地整理法第七十三條第四項ノ規定ニ依リ指定セラレタル臨時代理者ニ給料及旅費等ヲ支給スヘシ但シ臨時代理者官吏ナルトキハ給料ヲ支給スルコトヲ要セス
- 第六十一條 總會、總會議、組合會及評議員會ノ議長ハ組合長之ニ當ル但シ第四十五條ノ總會ニ在リテハ認可申請者ノ一人、耕地整理法第五十五

- 條ノ總會議ニ在リテハ編入區域ノ土地所有者ノ一人之ニ當ル
- 評議員會ノ議事カ業務又ハ財産ノ狀況ノ監査ニ關スルトキハ評議員ノ一人其ノ議長ト爲ル第五十九條第三項ニ依リ評議員會ニ付亦同シ
- 第六十二條 總會、總會議、組合會又ハ評議員會ノ議長ハ會議ノ議事録ヲ作リテ左ノ事項ヲ記載シ之ニ議長及出席シタル組合員、編入區域ノ土地所有者、組合會議員又ハ評議員二人以上記名捺印スヘシ
- 一 開會ノ日時及場所
- 二 組合員、編入區域ノ土地所有者、組合會議員又ハ評議員ノ現在總數及出席シタル者ノ氏名若ハ名稱
- 三 議事ノ要領
- 四 表決シタル事項
- 五 贊否ノ數
- 耕地整理法第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要スル表決ヲ爲ス總會又ハ總會議ノ議事録ニハ前項ニ記載シタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
- 一 組合ノ地區若ハ編入區域内ノ土地ノ所有者總數、總地積及總貸賃價格
- 二 贊成者ノ氏名若ハ名稱及其ノ所有スル土地ノ總地積及總貸賃價格
- 總會又ハ總會議ノ表決ニ付規約ノ規定ニ依リ特別ノ條件ヲ具備スルコトヲ必要トスル場合ニ於テ前二項ニ依リ記載ニシテ其ノ條件ヲ具備シタルコトヲ明カニスルコト能ハサルトキハ之ヲ示スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第六十三條 組合長ハ耕地整理法第五十五條ノ規定ニ依リ總會議ヲ開カム

トスルトキハ招集ノ通知ヲ發スル日ヨリ少クモ十日前三日間編入區域ノ屬スル各市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ編入セムトスル區域及總會議ノ日時、場所及目的ヲ揭示スヘシ

第六十四條 耕地整理法第七十九條第三項ノ規定ニ依ル認可ノ申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スベシ

一 耕地整理法第七十九條第三項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サントスル組合員ノ氏名又ハ名稱及住所

二 前號ノ組合員ノ滯納金額及納期其ノ他滯納金額ノ算出ノ基礎タルベキ事項

三 市町村ガ耕地整理法第七十九條第一項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セズ又ハ九十日以内ニ之ヲ結了セザリシ事實ヲ示スニ足ルベキ事項

第六十四條ノ二 地方長官耕地整理法第七十九條第三項ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク同條第一項ノ市町村ニ之ヲ通知スベシ

第六十四條ノ三 組合長耕地整理法第七十九條第三項ノ規定ニ依ル處分ヲ結了シタルトキハ遲滞ナク其ノ經過ヲ記載シタル報告書ヲ地方長官ニ提出スベシ

第六十五條 耕地整理法第五十四條第一項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ノ事由及之ニ關シ定メタル必要ノ事項ヲ記載シ總會、總會議、組合會又ハ評議員會ノ議事録ノ謄本ヲ添付スヘシ

組合ノ解散、合併、地區ノ減少又ハ債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更セムトスル場合ニ於テ組合債アルトキハ債權者ノ同意ヲ證スル書面、組合

第六十六條 組合カ耕地整理法第五十三條第一項第一號、第二號、第七號ノ事由ニ依リ解散シタルトキハ組合長又ハ最終ニ組合員タリシ者ヨリ事業報告書及收支決算書ヲ添付シテ其ノ旨ヲ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

第六十七條 組合カ耕地整理法第五十三條第一項第四號乃至第六號ノ事由ニ依リ解散シタルトキハ遲滞ナク組合長ヨリ事業報告書及收支決算書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第六十八條 組合カ合併シタルトキハ耕地整理ニ關スル一切ノ書類及帳簿ハ合併後存續シ又ハ合併ニ依リ設立シタル組合ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第六十九條 清算結了シタルトキハ組合長ハ遲滞ナク清算ニ關スル報告書ヲ作り之ヲ總組合員ニ報告シ且之ヲ添付シテ清算結了ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第六十九條ノ二 耕地整理組合聯合會ヲ設ケムトスルトキハ各組合連署ヲ以テ認可ヲ申請スヘシ

第六十九條ノ三 第四十六條、第四十七條、第六十條、第六十條ノ二、第六十四條乃至第六十四條ノ三、第六十五條第一項、第二項及第六十六條乃至第六十九條ノ規定ハ耕地整理組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第七十條 本則ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十一條 耕地整理法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タルモノニ付テハ本則第四條、第十條、第十一條、第十二條ノ二、第十七條ノ二、第十七條ノ三、第十九條乃至第二十三條、第二十七條、第三十八條及第六十四條乃至第六十四條ノ三ノ規定ヲ準用スルノ外舊則ノ規定ヲ適用ス但シ舊則第三十一條中農商務大臣トアルハ地方長官トス

第七十二條 耕地整理法施行前耕地整理ノ發起ノ認可ヲ得タル者ヲ耕地整理組合ト爲サムトスルトキハ發起人又ハ整理委員ハ總會ヲ招集シテ本則第八條第五號、第十號及第九條第一號乃至第五號、第九號、第十一號ノ事項其ノ他必要ナル事項ニ付設計書及規約ノ變更ヲ議決シ並組合長、組合副長、評議員ヲ置クモノニ在リテハ評議員ヲ選舉シ總會ノ議事録ヲ添附シテ大正二年十月十五日迄ニ耕地整理組合ト爲スノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第七十三條 前條ノ場合ニ於テハ本則第四十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七十四條 前條ノ場合ニ於テハ本則第四十六條第一項並本則第五十二條、第五十三條及第六十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

第七十五條 耕地整理法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサル者ニシテ耕地整理組合設立ノ申請ト爲サムトスルトキハ發起人ハ參加土地所有者ノ總會ヲ招集シ本則第八條第五號、第十號及第九條第一號乃至第五號、第九號、第十一號ノ事項其ノ他必要ナル事項ニ付設計書及規約ノ變更ヲ議決シ總會議ノ議事録ヲ添付シ明治四十三年四月十五日迄ニ耕地整理組合設立ノ申請ト爲ス旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第七十六條 第七十二條第一項ノ認可申請又ハ前條ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ耕地整理法第四十三條又ハ第四十四條第一項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要スルモノニ付テハ本則第七條及第四十四條ノ規定ヲ準用ス

附則 (大正四年農商務省令第八號)

本令ハ大正三年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔文會例〕

前項ノ總會ニハ耕地整理法及本則ノ規定ヲ適用ス

耕地整理法第七十三條第三項ノ認可申請ハ第一項ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ本則第四十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七十三條 前條ノ場合ニ於テハ百人以上ノ參加土地所有者アルトキハ發起人又ハ整理委員ハ總代選舉規程ヲ作りテ地方長官ノ認可ヲ得タル後其ノ選舉規程ニ依リ選舉シタル總代ヲ以テ組織スル總代會ヲ招集シ總會ニ代フルコトヲ得

前項ノ總代會ニハ耕地整理法第六十六條、第六十八條第一項並本則第五十二條、第五十三條及第六十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

第七十四條 前二條ノ總會又ハ總代會ニ在リテハ第七十二條ニ記載シタル事項ノ外必要ナル事項ヲ表決スルコトヲ得

第七十五條 耕地整理法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサル者ニシテ耕地整理組合設立ノ申請ト爲サムトスルトキハ發起人ハ參加土地所有者ノ總會ヲ招集シ本則第八條第五號、第十號及第九條第一號乃至第五號、第九號、第十一號ノ事項其ノ他必要ナル事項ニ付設計書及規約ノ變更ヲ議決シ總會議ノ議事録ヲ添付シ明治四十三年四月十五日迄ニ耕地整理組合設立ノ申請ト爲ス旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第七十二條第二項及第七十三條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條 第七十二條第一項ノ認可申請又ハ前條ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ耕地整理法第四十三條又ハ第四十四條第一項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要スルモノニ付テハ本則第七條及第四十四條ノ規定ヲ準用ス

附則 (大正四年農商務省令第八號)

本令ハ大正三年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前耕地整理法第三十條第三項又ハ舊耕地整理法第四十八條ノ認可アリタルモノニシテ未ダ耕地整理法第三十六條ノ登記ノ申請ヲ爲ササルモノニ付テハ地方長官ハ第十七條ノ二及第十七條ノ三ニ準シテ管轄登記所ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

附則 (昭和六年農林省令第七號)

第一條 本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第二條 耕地整理法第三十四條第二項、第五十條第一項、第五十五條第二項、第五十六條第二項、第六十五條第二項又ハ第六十八條第二項ノ規定ニ依ル土地ノ賃賃價格ノ計算ニ付テハ昭和九年三月三十一日迄從前ノ地價又ハ從前ノ第五條若ハ附則第三條ノ規定ニ依リ附シタル假地價ニ依ルコトヲ得

第三條 前條ノ場合ニ於テ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 第五條ノ改正規定ニ依リ準賃賃價格ヲ附スヘキ場合ニ於テハ從前ノ第五條ノ規定ニ依リ假地價ヲ附スルコト
二 土地ノ異動ニ因リ本則施行後賃賃價格ノ修正又ハ設定アリタル土地ニ付テハ修正又ハ設定ノ都度前號ノ規定ニ準シ假地價ヲ附スルコト

三 第二十八條第一項第四號、第三十二條第一號、第二號、第三十三條第一號、第三號、第四十條、第四十一條、第四十四條第一項第一號、同條第二項第一號、第六十二條第二項又ハ第六十五條第四項ノ規定ニ依リ土地ノ賃賃價格又ハ準賃賃價格ヲ記載スヘキ場合ニ於テハ從前ノ地價又ハ從前ノ第五條若ハ前二號ノ規定ニ依リ附シタル假地價ヲ記載スルコト

【文會例】

二 耕地整理新開免租年期ノ申請ハ埋立地又ハ干拓地ニ付爲シタルモノニ在リテハ耕地整理立免租年期ノ申請、其ノ他ノ土地ニ付爲シタルモノニ在リテハ耕地整理開拓免租年期ノ申請トス

第九條 昭和六年法律第二十九號附則第十二條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ修正又ハ設定ノ申請ハ昭和八年三月三十一日迄ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

耕地整理法第十五條第一項ノ土地ニ付前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第十條ノ三第二項及第十七條ノ二ノ改正規定ヲ、耕地整理法第十五條第三項ノ土地ニ付前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第十二條ノ二第二項及第十七條ノ二ノ改正規定ヲ準用ス

第十條 昭和六年法律第二十九號附則第十四條ノ規定ニ依ル配當ノ申請ハ同法附則第三條ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦アリタル後六十日以内ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第十一條 從前ノ第十三條第二項ノ規定ニ依リ地價配賦案ノ承認ヲ得未ダ地價配賦ヲ爲ササル整理施行地區内ノ土地ニ付テハ整理施行者ハ第十三條第二項及第三項ノ改正規定ニ準シ賃賃價格配賦案ヲ作成スヘシ

第十二條 第十六條ノ二ノ改正規定ハ昭和六年法律第二十九號附則第四條第二項、第六條第一項若ハ第三項、第八條、第十四條又ハ第十五條第二項若ハ第三項ノ規定ニ依リ比率ヲ算出スル場合ニ之ヲ準用ス
第十三條 主務大臣昭和六年法律第二十九號附則第十六條ノ規定ニ依リ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第四條 昭和六年法律第二十九號附則第三條第一項ノ規定ニ依ル賃賃價格配賦ノ申請ハ昭和九年三月三十一日迄ニ申請書及賃賃價格配賦案ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ
第十三條第二項、第三項及第十七條ノ二ノ改正規定ハ前項ノ賃賃價格配賦案ニ之ヲ準用ス

昭和六年法律第二十九號附則第四條第二項ノ規定ニ依ル假賃賃價格決定ノ申請ハ第一項ノ申請ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第五條 昭和六年法律第二十九號附則第四條第二項ノ規定ニ依ル假賃賃價格決定ノ申請書ニハ前條第三項ノ規定ニ依リ申請ヲ爲ス場合ヲ除クノ外整理施行地區内ノ土地ノ字、地番、地目、地積及假賃賃價格ノ見積額ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第十七條ノ二ノ改正規定ハ前項ノ假賃賃價格ノ見積額ニ之ヲ準用ス

第六條 昭和十年三月三十一日迄ニ昭和六年法律第二十九號附則第四條第二項ノ規定ニ依リ假賃賃價格決定ノ申請ヲキトキハ所轄稅務署長ハ職權ヲ以テ假賃賃價格ヲ定ムヘシ

第七條 昭和六年法律第二十九號附則第九條又ハ第十條第一項ノ規定ニ依ル賃賃價格ノ修正又ハ設定ノ申請ハ昭和八年三月三十一日迄ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第十二條ノ二第二項及第十七條ノ二ノ改正規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第八條 從前ノ第十五條ノ二ノ規定ニ依ル申請ニシテ未ダ處分ヲ終ラサルモノハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ第十二條ノ三ノ改正規定ニ依リ申請ト看做ス
一 耕地整理地價據置年期ノ申請ハ開墾シタル土地ニ付爲シタルモノニ在リテハ耕地整理開墾減租年期ノ申請、地目變換ヲ爲シタル土地ニ付爲シタルモノニ在リテハ耕地整理地目變換減租年期ノ申請トス

【文會例】

第十四條 第五條及第十條乃至第十七條ノ二ノ改正規定並ニ附則第九條、第十一條及前條ノ規定ハ第七十一條ノ規定ニ拘ラス明治三十二年法律第八十二號耕地整理法ニ依リ耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニシテ耕地整理法第九十六條ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲ラス且未ダ地價配賦ヲ爲ササルモノニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ該當スル整理施行地區ニシテ從前ノ規定ニ依リ工事を完了ノ届出ヲ爲シタルモノニ耕地整理法第十四條第一項、第十四條ノ二又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ修正又ハ設定ノ申請ヲ爲スヘキ土地アル場合ニ於テハ整理施行者ハ昭和八年三月三十一日迄ニ第十二條ノ二ノ改正規定ニ依リ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十二條ノ三ノ改正規定ニ依リ年期許可ノ申請ハ其ノ賃賃價格ノ修正又ハ設定ノ申請ヲ爲シタル後三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十五條 第五條ノ改正規定並ニ附則第四條乃至第六條、第九條、第十條、第十二條及第十三條ノ規定ハ第七十一條ノ規定ニ拘ラス明治三十二年法律第八十二號耕地整理法ニ依リ耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニシテ耕地整理法第九十六條ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲ラス且既ニ地價配賦ヲ爲シタルモノニ之ヲ準用ス

第十六條 附則第三條ノ規定ハ昭和九年三月三十一日迄前二條ノ規定ニ該當スル耕地整理ニ關シ之ヲ準用ス
第十七條 第十七條ノ三ノ改正規定ハ昭和六年法律第二十九號附則第三條第一項、第九條、第十條第一項、第十二條、第十三條第一項、第十四條及第十七條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ之ヲ準用ス

第十八條 前四條ノ規定ハ耕地整理法第九十二條第二項但書ニ規定スル者ニ之ヲ準用ス

(參考)

●國有地ヲ耕地整理施行地區へ編入取換ノ件

○內務次官通牒發土第六十七號 大正十一年七月二十六日

各地方長官

大正十一年七月二十五日訓令第十五號ヲ以テ國有地ヲ耕地整理施行地區ニ編入ノ認許ニ關スル件訓令相成候處耕地整理法ニ依リ河川堤塘溝渠其ノ他公共ノ用ニ供スル土地ヲ耕地整理施行地區ニ編入シ又ハ該地區内ニ之ヲ開設スル等ノ場合ニ於テ他ノ法律命令又ハ訓令等ニ依リ工事又ハ其ノ他ノ行為ニシテ許可若クハ認可ヲ受クヘキモノハ總テ其ノ手續ヲ履行セラルヘキ旨ニ有之又河川法施行ノ河川及其ノ附屬物ノ敷地ハ私權ノ目的ト爲スコトヲ得サルヲ以テ耕地整理施行地區内ニ編入スルコトヲ得サル義ニ候條右様御承知相成度

●史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依ル指定地ノ管理換手續ニ關スル件

○內務大臣官房地理課長回答 大正十二年十二月十四日

本月十一日藏第一三六二四號ヲ以テ御協議ノ件史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ指定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ其ノ地域ヲ告示致候ヘ共念ノ爲御協議ノ通り貴省へ通知致スヘク候間ニ依リ部局長へ引渡方御取扱相成度

○國有財產整理局長照會 大正十二年十二月十一日

大正七年四月十日法律第四十四號ニ依リ史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレ

記

一 民有地ニ生スル分ハ所有者又ハ其ノ他權利者ヲシテ適度ニ取得セシム

ヘク又國有地ニ生スル分ニ在リテモ其ノ收益ヲ管理ノ所得トナスニハ史蹟名勝天然紀念物保存法施行令第六條ニ依ル內務大臣ノ指令アルコトヲ要スル次第ニ有之候

二 右指令ヲ受ケムトスル場合ハ當該地ヨリ生スル收益見込額及其ノ使途並本年度管理費豫算決議書ヲ具申出シメラレ度候

○長崎縣知事照會 大正十四年四月四日

史蹟シーボルト宅址ニハ孟宗竹ノ生育アリテ其ノ季節ニ至レハ相當竹發生有之候ニ付テハ史蹟名勝天然紀念物保存法施行令第六條ニ依リ當該管理者ニ於テ適宜處分致シ差支無之哉至急御回答相煩度此段及照會候也

●內務省所管國有土地物件ヲ史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ指定セラレタル場合ニ於ケル管理方

○內務大臣官房會計課通牒發第九十六號 昭和五年三月十九日

史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ當然所管國有土地物件ヲ史蹟名勝天然紀念物ニ指定ノ告示アルトキハ別ニ通牒セサル限貴官ニ於テ之ヲ管理相成度

●特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ伴フ清算金及補償金ニ關スル件

第八章 國有財產 第二節 土地

內務大臣ニ於テ管理セラルヘキ本省所管雜種財產ノ管理換ニ付テハ貴省ノ通知ヲ俟テテ引續手續ヲ爲スコトニ取扱度候條此段及協議候也

●史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ國有地ヲ指定セントスル場合ハ大藏省へ協議スルノ件

○內務次官回答 大正十三年十二月二十五日

史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ貴省所管ノ國有地指定ノ場合ハ本月九日藏理一六〇五一號御照會ノ趣ニ依リ御意見ヲ伺フ事ト可致候

○大藏次官照會藏理第一萬六千五百一十一號 大正十三年十月九日

從來史蹟名勝天然紀念物調査會ニハ當省ヨリモ臨時委員調査審議ニ相加ハリ處理致來リ候處今同調査會ハ廢止セラレ候ニ付テハ將來國有地ヲ史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラル、場合ニハ豫メ御協議ヲ受クル事ニ致度此段及照會候也

●史蹟名勝天然紀念物ノ所屬地ヨリ生スル收益ノ所得ニ關スル件

○內務大臣官房地理課長回答 大正十四年四月十一日

本月四月十三日兵社第四〇〇號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ左記ノ通御了知相成度

〔文會例〕

○法律第五十二號 大正十五年四月六日

改正 昭和八年第四九號

第一條 本法ニ於テ清算金ト稱スルハ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ耕地整理法第三十條ノ規定ニ依リ徵收シ又ハ交付スヘキ金錢ヲ謂フ

第二條 清算金ヲ納付スヘキ義務アル者ニ對シ同一土地區劃整理施行地區内ニ於ケル土地ニ關スル權利ニ付特別都市計畫法第八條ノ補償金ヲ交付スヘキ場合ニ於テハ整理施行者ハ徵收スヘキ清算金ニ之ヲ充ツルコトヲ得但シ其ノ補償金カ耕地整理法第二十五條ノ規定ニ依リ供託スヘキモノナルトキハ其ノ補償金ヲ交付スヘキ土地ニ關スル權利ニ付徵收スヘキ清算金ニノミ之ヲ充ツルコトヲ得

第三條 整理施行者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ徵收スヘキ清算金ニ付利子ヲ附シ昭和八年四月一日ヨリ五年ヲ超エサル期間ニ於テ分納スルコトヲ認ムルコトヲ得

第四條 整理施行者ハ清算金交付ノ爲必要アルトキハ耕地整理法第三十條ノ規定ニ拘ラス他ノ土地區劃整理施行地區ニ於テ徵收シタル清算金ヲ以テ繰替支辨シ又整理施行者カ行政官廳ナルトキハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ナルトキハ其ノ公共團體ノ立替金ヲ以テ支辨スルコトヲ得
整理施行者前項ノ規定ニ依リ繰替又ハ立替支辨シタルトキハ徵收シタル清算金戻入シ又ハ返還スヘシ

第八章 國有財産 第二節 土地

第五條 清算金ニ剩餘ヲ生シタルトキハ其ノ剩餘金ハ整理施行者カ行政官廳ナルトキハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ナルトキハ其ノ公共團體ニ歸屬ス

第六條 土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徵收セラレ又ハ交付セラレヘキ場合ニ於テ其ノ權利ヲ讓渡シタルトキハ當事者雙方連署ヲ以テ遲滞ナク整理施行者ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第七條 前條ノ規定ハ土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徵收セラレ又ハ交付セラレヘキ場合ニ於テ其ノ權利ノ分割讓渡ニ付第一項ノ届出アリタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク各當事者ヨリ徵收スヘキ清算金額又ハ各當事者ニ交付スヘキ清算金額ヲ通知スヘシ

第七條 前條ノ規定ハ土地ニ關スル權利ニ付清算金ヲ徵收セラレ又ハ交付セラレヘキ場合ニ於テ其ノ權利ノ消滅シタル場合ニ之ヲ準用ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ伴フ清算金及補償金ニ關スル法律施行規則

○内務省令第四十五號 大正十五年九月十四日

改正 昭和八年第一三號

六五二

第一條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ伴フ清算金及補償金ニ關スル法律(以下單ニ法ト稱ス)第三條ノ規定ニ依ル清算金ノ分納ヲ求ムトスル者ハ整理施行者ノ指定スル期限内ニ分納ヲ求ムトスル清算金額ニ清算金ヲ徵收セラレヘキ土地ニ關スル權利ノ種別及其ノ目的タル土地ノ所在ヲ具シ申請スヘシ

第二條 整理施行者清算金ノ分納ヲ認ムル場合ニハ毎回ノ納付金ノ額及其ノ納付期限ヲ指定スヘシ

第三條 整理施行者清算金(滞納セル清算金ヲ除ク)ノ分納ヲ認ムル場合ニハ其ノ分納ノ期間ハ左ノ區分ニ依ルベシ

- 一 分納ヲ認ムル清算金ノ總額五十圓未満ナルトキ 半年
二 分納ヲ認ムル清算金ノ總額五十圓以上百圓未満ナルトキ 一年以内
三 分納ヲ認ムル清算金ノ總額百圓以上百五十圓未満ナルトキ 一年半以内
四 分納ヲ認ムル清算金ノ總額百五十圓以上二百圓未満ナルトキ 二年以内
五 分納ヲ認ムル清算金ノ總額二百圓以上二百五十圓未満ナルトキ 二年半以内
六 分納ヲ認ムル清算金ノ總額二百五十圓以上三百圓未満ナルトキ 三年以内

〔文會例〕

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和八年内務省令第十三號)

第三條ノ分納期間ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ起算ス 昭和八年法律第四十九號大正十五年法律第五十二號特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ伴フ清算金及補償金ニ關スル件第三條ノ改正規定ニ依ル清算金ノ分納ヲ求メントスル者ハ大正十五年内務省令第四十五號第一條ノ規定ニ依リ申請スベシ

内務省所管ノ土地水面ヲ使用埋立所管轉換ノ場合ハ地方長官ヘ協議方ノ件

○内務大臣通牒元理第三百二十三號 大正二年一月十一日

各處所用ノ爲土地水面需用ノ場合ニ於ケル取扱方ニ付テハ明治三十年三月庶第四一號ヲ以テ及通牒置候處當省所管ノ土地水面ヲ所管轉換ヲ爲サスシテ使用シ又ハ埋立テ若クハ埋立成功シタル土地ノ所管轉換ヲ爲ス場合ニ於テハ自今當省ヘ照會ニ及ハス直接地方長官ヘ協議セシメラレ度此段及通牒候也

追テ從來當省ヘ御送付相成候必要書類及圖面ハ地方長官ヘノ協議書類ニ添附相成度候

(參考)

六五三

第八章 國有財産 第二節 土地

前項ノ規定ハ法第七條ノ規定ニ依ル届出書ニ之ヲ準用ス

第七條 納付金ヲ滞納シタルトキハ整理施行者ハ未納ノ清算金ヲ繰上ケ徵收スルコトヲ得

第八條 清算金ノ分納ヲ認メラレタル者其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク整理施行者ニ届出ツヘシ

第九條 法第六條第一項ノ届出書ニハ土地ニ關スル權利ノ種別及其ノ目的タル土地ノ所在ヲ記載スヘシ土地ニ關スル權利ヲ分割讓渡シタル場合ニ於ケル届出書ニハ分割前ノ面積及分割後ノ各面積ヲ併セ記載シ且其ノ圖面ヲ添付スヘシ

七 分納ヲ認ムル清算金ノ總額三百圓以上三百五十圓未満ナルトキ 三年半以内

八 分納ヲ認ムル清算金ノ總額三百五十圓以上四百圓未満ナルトキ 四年以内

九 分納ヲ認ムル清算金ノ總額四百圓以上五百圓未満ナルトキ 四年半以内

十 分納ヲ認ムル清算金ノ總額五百圓以上ナルトキ 五年以内

第一回ノ納付金ヲ除キタル各回ノ納付金ノ納付期限ハ前回ノ納付金ノ納付期限ノ翌日ヨリ起算シ毎六箇月トス

第四條 第一回ノ納付金ノ額ハ分納ノ回數ヲ以テ分納ヲ認ムル清算金ノ總額ヲ除シテ得タル金額ヲ下ルコトヲ得ス

第二回以後ノ納付金ノ額ハ利子ヲ併セ毎回均等トス

第五條 清算金ニ附スベキ利子ノ割合ハ年六分トス

第六條 清算金ノ分納ヲ認メラレタル者ハ整理施行者ノ承認ヲ經テ未納ノ清算金ノ全部又ハ一部ヲ繰上ケ納付スルコトヲ得

第八章 國有財產 第二節 土地

●土地、公有水面使用等ノタメ請求スル場合圖面添付方ノ件

○內務次官通牒海甲第三十三號ノ內 明治三十八年九月二十七日

(司法次官)

貴省ニ於テ所用ノ爲メ土地ヲ要シ又ハ公有水面ノ埋立若ハ使用等ニ關シ當省ヘ請求相成候場合ニ於テハ其關係箇所ハ勿論該箇所ハ何レノ地方何レノ沿海ニ當ルヤ一般ノ地形ヲ知り得ヘキ圖面添付相成度此段申進候也

●土地收用法

○法律第二十九號 明治三十三年三月七日

改正 大正三年第一五號、昭和二年第三九號、六年第五三號

土地收用法

- 第一章 總則……………六五四
- 第二章 事業ノ準備……………六五五
- 第三章 事業ノ認定……………六五五
- 第四章 收用ノ手續……………六五六
- 第五章 收用審査會……………六五八
- 第六章 損失ノ補償……………六五九
- 第七章 收用ノ效果……………六五九
- 第八章 費用ノ負擔……………六六〇
- 第九章 監督、強制及罰則……………六六一

第十章 訴訟及訴訟

- 附則……………六六一
- 附則……………六六二

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業
- 二 皇室陵墓ノ警備又ハ神社若ハ官公署ノ建設ニ關スル事業
- 三 社會事業又ハ教育若ハ學藝ニ關スル事業
- 四 鐵道、軌道、索道、專用自動車道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、國立公園、市場、電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場ニ關スル事業
- 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國道府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業
- 第二條ノ二 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ供スル土地ハ特別ノ必要アル場合ニ非ザレバ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ス
- 第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス
- 第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其

〔文會例〕

ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第六條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スルキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スルキ土地又ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地又ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第七條ノ二 本法ハ第二條ニ規定スル事業ノ用ニ供スベキ土地ニ定著スル物件又ハ之ニ關スル權利ヲ其ノ事業ノ用ニ供スル爲ニ收用又ハ使用スル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業者ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

第八章 國有財產 第二節 土地

〔文會例〕

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日目前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第九條ノ場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スヘシ

第九條ノ規定ニ依リ測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日目前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ內務大臣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者ガ前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ內務大臣ニ申請スベシ但シ起業者ガ宮内省又ハ國ナルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ內務大臣ニ請求スベシ

第十四條 内務大臣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ市町村長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ事業ガ宮内省、國又ハ道府縣ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣、主務大臣又ハ道廳長官府縣知事ハ事業ノ種類、使用スベキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ市町村長ニ通知スベシ

前二項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ市町村長ニ通知スヘシ

第十六條 起業者カ市町村長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ市町村長ニ申請スヘシ

第十七條 市町村長カ認定ヲ爲シタルトキ又ハ第十五條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

市町村長カ第十五條第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内務大臣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

第四章 収用ノ手續

第十九條 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ収用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

〔文會例〕

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ収用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十九條ノ二 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ土地所有者及關係人ハ事業ニ支障ヲ及ボス虞ナキ場合ヲ除クノ外行政廳ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ収用又ハ使用スベキ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ第七條ノ二ノ物件ヲ損壞若ハ除去スルコトヲ得ズ

第二十條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ土地所有者及關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルベシ

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人ガ調査ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキ其ノ他之ト共ニ調査ヲ作ルコト能ハザルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルベシ市町村長ガ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ゲタル關係ヲ有スルトキハ起業者ノ申請ニ依リ地方長官立會人ヲ指定スベシ

起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作りタル調査ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述ブルコトヲ得ズ

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收

〔文會例〕

用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 収用審査會ノ裁決ヲ求ムトスルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

- 一 事業計畫書及圖面
- 二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

収用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目

収用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數

量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

収用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

第三十一條ノ規定ニ依ル土地物件ニ關スル調査又ハ其ノ爲

収用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 地方長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ市町村長ニ送付スベシ但シ同條第一項第三號ノ書類ハ此ノ限ニ在ラズ

市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ遅滞ナク公告ヲ爲シ公告ノ日ヨリ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スベシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後収用審査會ヲ開クヘシ

第八章 國有財産 第二節 土地

第二十七條 収用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 収用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ収用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

収用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 収用審査會カ召集ニ應セス又ハ成立セザルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 収用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ収用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲土地ヲ収用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ

本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 市町村長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第二項若ハ第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ

收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域

二 損失ノ補償

三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及道府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ道府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戶主、

家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

一 道府縣名譽職參事會員

二 道府縣名譽職參事會員ノ補充員

三 道府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ニ掲グル者以外ノ者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

〔文會例〕

工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用カ三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七節 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

第八節 國有財産 第二節 土地

第六十一條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵其ノ他ノ

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

第五十條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受ケタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第六節 損失ノ補償

〔文會例〕

工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用カ三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

- 一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルト能ハサルトキ
- 二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
- 三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
- 四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ
- 第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス
 - 一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
 - 二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ
- 第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
- 第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

〔文會例〕

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年內ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第一項ノ期間內ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クとも三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月內又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月內ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要

〔文會例〕

- シタル費用ハ各其ノ負擔トス
- 第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除ク外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ
- 第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス
- 第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ら執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス
- 府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得
- 第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス
- 前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス
- 第九章 監督、強制及罰則
- 第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得
- 第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間內ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ら之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得
- 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セ

サル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 第九條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ行政廳ノ許可ヲ得ズシテ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知アリタルコトヲ知りタル者第十九條ノ二ノ規定ニ違反シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十七條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第七十九條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第八十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第十章 訴訟及訴訟

第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八章 國有財產 第二節 土地

前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週
間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ
行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通
常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三
箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス
第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス
第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使
用ヲ停止セス

附則

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ
使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタル
モノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關
シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有
タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 第十五條乃至第十七條及第三十三條ノ規定ニ依リ町村長ノ爲
スベキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長之ヲ行フ
本法ニ依リ町村長ノ爲スベキ職務ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村

〔文會例〕

長ニ準ズベキ者之ヲ行フ

第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ
他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五
十四號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和二年法律第三十九號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和二年勅令第二百七十二號ヲ以テ昭和二年
九月十五日ヨリ施行)

大正十五年法律第七十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前收用審査會ノ裁決ヲ求メタル收用又ハ使用ニ付テハ第四十三條
ノ規定ヲ除クノ外仍從前ノ例ニ依ル但シ第三十五條第二項ノ規定ニ依リ却
下ノ裁決アリタルモノニ付テハ其ノ裁決ニ對シ訴願訴訟ヲ爲ス場合ヲ除ク
ノ外此ノ限ニ在ラス

本法施行前從前ノ第七十八條又ハ第八十條ノ規定ニ該當スル行爲ヲ爲シタ
ル者ニシテ本法施行ノ際未ダ其ノ裁判ヲ受ケザル者ハ本法ニ依リ處罰ス但
シ過料ノ額ハ同條ノ罰金ノ額ヲ超ユルコトヲ得ズ

●土地收用法施行令

○勅令第九十九號 明治三十三年三月三十一日

改正 昭和二年第二七三號

第一條 土地收用法第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長
之ヲ行フ

第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ
爲シタル立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

〔文會例〕

三 土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所並ニ其ノ權利ノ種類及内容

四 調書ヲ作りタル年月日

五 其ノ他必要ナル事項

物件調書ニハ收用若ハ使用又ハ移轉セントスル物件ニ付左ノ事項ヲ記載
スベシ

一 物件ノ在ル土地所在ノ郡、市、區、町村及字並ニ土地ノ番號及地目

二 物件ノ種類及數量並ニ其ノ所有者ノ名及住所

三 物件ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所並ニ其ノ權利ノ種類及内容

四 調書ヲ作りタル年月日

五 其ノ他必要ナル事項

物件ガ建物ナル場合ニ在リテハ物件調書ニハ前項ニ掲グルモノノ外建物
ノ種類ニ區別シ其ノ構造及建坪ヲ記載シ實測平面圖ヲ添附スベシ

土地收用法第七條ノ規定ニ依リ權利ヲ收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調
書ニ關シテハ第二項ノ例ニ依ル

土地收用法第七條ノ二ノ規定ニ依リ物件ニ關スル權利ヲ收用又ハ使用ス
ル場合ニ於ケル調書ニ關シテハ第三項及第四項ノ例ニ依ル

調書ニハ調書ヲ作りタル起業者、土地所有者及關係人記名捺印スベシ立
會人アルトキハ立會人モ亦之ニ記名捺印スベシ

第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村
長ハ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スベシ

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトス
ル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

一 工事ノ種類

〔文會例〕

障害物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第三條 起業者ガ内務大臣ノ認定ヲ受ケントスル場合ニ於テ起業地内ニ左
ニ掲ゲタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ申請書ニ添附
スベシ

一 御料地及皇族所有地

二 國有地

三 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ供スル土地

四 寺院境内地

五 名所、舊蹟及古墳墓

前項ニ規定スル調書ニハ其ノ土地ヲ起業地ニ編入スルニ付土地管理者ノ
意見ヲ記載スベシ

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收
用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地
方長官ニ届出ツヘシ

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依ル調書ハ土地調書及物件調書ト
ス

土地調書ニハ收用又ハ使用セントスル土地ニ付左ノ事項ヲ記載シ實測平
面圖ヲ添附スベシ

一 土地所在ノ郡、市、區、町村及字、土地ノ番號、地目及面積並ニ土
地所有者ノ名及住所

二 收用又ハ使用セントスル土地ノ面積

第八章 國有財產 第二節 土地

- 二 取用又ハ使用スヘキ土地ノ細目
- 三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係
- 本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス
- 第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ取用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
- 第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ取用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
- 地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
- 第十一條 取用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス
- 第十二條 取用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル
- 高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル
- 第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ鐵道賃及船賃ハ二等以下ノ運賃ニ於テ、車馬賃(汽船ヲ通ゼザル水路ノ船賃ヲ含ム)ハ一里ニ付七十五錢以下ニ於テ取用審査會ノ定ムル所ニ依ル
- 通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス
- 第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日二圓乃至十圓ノ範圍内ニ於テ取用審査會ノ定ムル所ニ依ル
- 鑑定ヲ爲スニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

〔文會例〕

- 第十五條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官カ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル
 - 第十六條 土地收用法第十九條ノ二及第五十六條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置其ノ他輕易ナル事項ニ關シテハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ委任スルコトヲ得
 - 第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 - 第十八條 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ
- 附則
- 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件
- 勅令第百號 明治三十三年三月三十一日
- 第一條 本令ハ土地收用法又ハ土地收用法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテ之ヲ適用ス
 - 第二條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス
 - 第三條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 前項ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス

〔文會例〕

- 第四條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス但シ行政廳ニ對スル期間ハ其ノ末日カ行政廳ノ休日ニ當ルトキハ其ノ休日ノ終了シタル翌日ヲ以テ滿了ス
- 第五條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス
- 第六條 月又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ起算セザルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス
- 第六條 土地收用法第十八條第二十五條及第三十四條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類ヲ差出シタル場合ニ於テハ其ノ送達ニ要スル日時ヲ算入セス
- 第七條 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ内務大臣カ定メタル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 第八條 書類ノ送達ニシテ送達者自ら送達セザル場合ニ於テハ使丁又ハ書留郵便ニ依ルコトヲ得
- 第九條 數人カ一人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ一通ノ書類ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 一人カ數人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 委任ニ因ル代理人アル場合ニ於テモ其ノ委任者ニ爲シタル送達ハ其ノ效力ヲ妨ケス
- 第十一條 無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲スヘシ但シ委任ニ因ル代理人アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 法人又ハ組合ニ對スル送達ハ其ノ代表者又ハ業務執行者ニ之ヲ爲スヘシ

- 前項ノ代表者又ハ業務執行者數人アル場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 組合ニシテ業務執行者ヲ定メサル場合ニ於テハ送達ハ其ノ組合員ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十二條 現役及召集中ノ豫備、後備ノ軍籍ニ在ル下士以下ノ軍人ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十三條 在監人ニ對スル送達ハ其ノ監獄ノ首長ニ之ヲ爲スヘシ
- 第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ現所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セス
- 第十五條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所、居所又ハ事務所ニ在ラザルトキハ其ノ送達ハ現場ニ在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務執行者事務所ニ在ラザルトキハ送達ハ現場ニ在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 前二項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ送達ハ交付スヘキ書類ヲ其ノ地ノ市町村長ニ預ケ送達ノ告知書ヲ作り之ヲ住所又ハ居所ノ門戸ニ貼付シ且近鄰ニ住居スル者二人以上ニ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得
- 第十六條 法令上ノ理由ナクシテ送達書類ヲ受領セス又ハ受領スルコト能ハザルトキハ其ノ書類ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ
- 第十七條 書類ノ送達ヲ受領シタル者ハ其ノ場所及年月日時ヲ記載セル受

領證ヲ交付スヘシ
 前項ノ受領證ヲ交付セヌ又ハ交付スルコト能ハサルトキ又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲シタルトキハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ
 第十八條 送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所又ハ事務所不明ナルトキハ取用又ハ使用スヘキ土地所在ノ市町村長ニ於テ之ヲ公告スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ公告ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタルトキハ送達ヲ爲シタルモノト看做ス
 第十九條 書類ノ送達ニ關スル規定ハ通知ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第二十條 訴訟及訴訟提起期間ノ計算法ハ訴訟法行政裁判法及民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス
 第二十一條 書留郵便ニ依リテ爲ス送達ニ付テハ郵便ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス
 附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第四十六條ニ依リ合同收用審

査會ニ關スル件

○勅令第百一號 明治三十三年三月三十一日
 第一條 合同收用審査會ヲ開カムトスルトキハ關係地方長官協議ヲ爲シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ
 第二條 合同收用審査會會長ハ開會地ノ地方長官ヲ以テ之ニ充テ其ノ委員ハ關係府縣收用審査會委員ヲ以テ之ニ充ツ
 第三條 土地收用法第二十六條乃至第二十九條ニ規定シタル地方長官ノ職

●土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ

發スル命令ノ件

○勅令第百三號 明治三十三年三月三十一日
 明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ外土地收用法第八十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス
 一 公用土地買上規則第四則但書又ハ第八則ノ規定ニ依ラスシテ買上ケタル土地
 二 府縣都市町村其ノ他公共團體ニ於テ土地收用法施行ノ際現ニ修理保存費ヲ負擔スル土地
 三 明治三十二年勅令第三百三十三號第一條ノ規定ニ依リ帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ土地
 四 土地收用法施行前不用ニ歸シタル土地
 五 土地收用法施行前第三者ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタル土地
 附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●道路法

○法律第五十八號 大正八年四月十一日
 第一章 總則
 第一條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ一般交通ノ用ニ供スル道路ニシテ行政廳ニ於テ第二章ニ依リ認定ヲ爲シタルモノヲ謂フ
 第八章 國有財產 第二節 土地

權ハ合同收用審査會ヲ開キタル場合ニ於テハ開會地ノ地方長官之ヲ行フ
 第四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ府縣ノ負擔スヘキモノノ中等文官ニ非サル委員ノ旅費ハ其ノ所屬府縣ノ負擔トシ其ノ他ハ關係府縣ノ負擔トス
 附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件

○勅令第百二號 明治三十三年三月三十一日
 第一條 收用審査會ノ費用中左ニ掲ケタルモノハ起業者ノ負擔トス
 一 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當
 二 裁決書謄本ノ調製費
 三 郵便及電信料
 四 備入料
 五 其ノ他内務大臣ノ指定シタルモノ
 第二條 收用審査會ノ費用中收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨ス
 第三條 土地收用法第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス
 附則
 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔文會例〕

第二條 左ニ掲ケタルモノハ道路ノ附屬物トシ道路ニ關スル本法ノ規定ニ從フ但シ命令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得
 一 道路ヲ接續スル橋梁及渡船場
 二 道路ニ附屬スル溝、竝木、支壁、柵、道路元標、里程標及道路標識
 三 道路ニ接スル道路修理用材料ノ常置場
 四 前各號ノ外命令ヲ以テ道路ノ附屬物ト定メタルモノ
 第三條 本法ニ於テ橋梁又ハ渡船場ト稱スルハ前條第一號ノ橋梁又ハ渡船場ヲ謂フ
 本法ニ於テ渡船場ト稱スルハ渡船ヲ包含ス
 第四條 本法ニ於テ他ノ工作物ト稱スルハ堤防、堰堤、護岸、鐵道用橋梁其ノ他命令ヲ以テ定ムル工作物ヲ謂フ
 第五條 本法ニ於テ道路ニ關スル工事ト稱スルハ道路ノ新設、改築及修繕ニ關スル工事ヲ謂フ
 第六條 道路ヲ構成スル敷地其ノ他ノ物件ニ付テハ私權ヲ行使スルコトヲ得ス但シ所有權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定若ハ移轉ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ
 第七條 道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ニ關スル本法ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ新ニ道路、沿道又ハ道路ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得
 第二章 道路ノ種類、等級及路線ノ認定
 第八條 道路ヲ分チテ左ノ四種トス
 一 國道
 二 府縣道

三 市道

第九條 道路ノ等級ハ前條記載ノ順序ニ依ル

第十條 國道ノ路線ハ左ノ路線ニ就キ主務大臣之ヲ認定ス

- 一 東京市ヨリ神宮、府縣廳所在地、師團司令部所在地、鎮守府所在地又ハ樞要ノ開港ニ達スル路線
- 二 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル路線

第十一條 府縣道ノ路線ハ左ノ路線ニシテ府縣内ノモノニ就キ府縣知事之ヲ認定ス

- 一 府縣廳所在地ヨリ隣接府縣廳所在地ニ達スル路線
- 二 府縣廳所在地ヨリ府縣内郡市役所所在地ニ達スル路線
- 三 府縣廳所在地ヨリ府縣内樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

四 府縣内樞要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

五 府縣内樞要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

六 府縣内樞要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地又ハ港津ニ達スル路線

七 數市町村ヲ連結スル重要ナル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地、港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

八 樞要ノ港津又ハ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル國道又ハ府縣道ニ連結スル路線

九 地方開發ノ爲必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線

第十二條 削除

第十三條 市道ノ路線ハ市内ノ路線ニ就キ市長之ヲ認定ス

第十四條 町村道ノ路線ハ町村内ノ路線ニ就キ町村長之ヲ認定ス

第十五條 市町村長ハ市町村ノ爲特ニ必要アル場合ニ限り市町村外ノ路線ニ就キ地元市町村長ノ意見ヲ聞キ路線ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ路線ニシテ市長ノ認定シタルモノハ市道ノ路線、町村長ノ認定シタルモノハ町村道ノ路線トス

第十六條 上級ノ道路ト下級ノ道路ト路線カ重複スル場合ニ於テハ其ノ重複スル部分ハ上級ノ道路トス

第三章 道路ノ管理

第十七條 國道ハ府縣知事、其ノ他ノ道路ハ其ノ路線ノ認定者ヲ以テ管理者トス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ其ノ市内ノ國道及府縣道ハ市長ヲ以テ管理者トス

第十八條 道路ニシテ行政區劃ノ境界ニ係ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ管理者タル關係行政廳ノ一ヲ以テ管理者ト爲スコトヲ得

道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ其ノ道路及工作物ノ管理ニ付前項ノ規定ヲ準用ス但シ私人ヲ管理者ト爲スコトヲ得ス

第十九條 道路ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第二十條 道路ノ新設、改築、修繕及維持ハ管理者之ヲ爲スヘシ主務大臣必要アリト認ムルトキハ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ道路管理者ノ權限ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣之ヲ行

コトヲ得 前項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ職權ノ一部ハ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

管理者ハ道路ノ占用ニ付占用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前二項ノ規定ニ依ル占用ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 前條第一項ノ規定ニ依ル占用カ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル公共ノ利益トナルヘキ事業ニ係ルモノナル場合ニ於テ管理者正當ノ事由ナクシテ其ノ許可若ハ承認ヲ拒ミ又ハ不相當ナル占用料ヲ定メタルトキハ主務大臣ハ事業者ノ申請ニ依リ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ占用料ヲ定ムルコトヲ得

第三十條 管理者ハ其ノ管理ニ屬スル道路ノ臺帳ヲ調製スヘシ臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 道路ノ構造、維持、修繕及工事執行方法ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 道路ノ管理ノ爲必要ナル吏員ノ設置及其ノ職務權限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 道路ニ關スル費用及義務

第三十三條 主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス第二十條第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外道路ニ關スル費用ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ負擔トス但シ行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ關スル費用ノ負擔ニ付テハ關係行政廳ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣

- 第二十一條 道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テハ管理者ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得但シ河川法第十條第一項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル
- 第二十二條 他ノ工事又ハ行爲ノ爲必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ハ管理者其ノ工事執行者又ハ行爲者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得
- 第二十三條 前二條ノ規定ニ依ル場合ノ外特別ノ事由アル場合ニ於テハ管理者タル行政廳ハ下級行政廳又ハ私人ヲシテ道路ノ修繕ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第二十四條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ道路ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路ノ維持ヲ爲スコトヲ得
- 第二十五條 道路ニ關スル工事ノ爲必要ヲ生シタル他ノ工事ハ管理者道路ニ關スル工事ト共ニ之ヲ執行スルコトヲ得
- 第二十六條 管理者ニ非サル者ハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ得テ一定ノ期間橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スルコトヲ得ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得前項ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ハ徵收期間内橋梁又ハ渡船場ノ維持及修繕ヲ爲スヘシ
- 第二十七條 管理者ハ特別ノ事由アル場合ニ限り橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ得
- 第二十八條 管理者ハ交通ヲ妨ケサル限度ニ於テ道路ノ占用ヲ許可又ハ承認スルコトヲ得
- 國ノ事業ニ付テハ當該官廳ハ主務大臣ト協議シテ前項道路ノ占用ヲ爲ス

之ヲ決定ス
第二十條第二項ノ規定ニ依ル國道ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ヲシテ其ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 前條ノ場合ニ於テ道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルモノナルトキハ其ノ費用ノ負擔ニ付テハ前條第二項但書ノ規定ヲ準用ス但シ河川法第三十條ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ規定ニ依ル

第三十五條 第三十三條第二項ニ規定スル費用ニシテ國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得特別ノ事由アル場合ニ於テ府縣道以下ノ道路ノ新設又ハ改築ニ要スル費用ニ付亦同シ

第三十六條 第二十四條ノ規定ニ依ル道路ニ關スル工事若ハ道路ノ維持ニ要スル費用又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ設ケル橋梁若ハ渡船場ニ關スル費用ハ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ負擔トス

第三十七條 他ノ工事又ハ行為ノ爲ニ必要ヲ生シタル道路ニ關スル工事ノ費用ハ管理者他ノ工事又ハ行為ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

第三十八條 特別ノ事由アル場合ニ於テハ第二十三條ノ規定ニ依ル道路ノ修繕ニ關スル工事又ハ道路ノ維持ニ要スル費用ハ管理者同條ノ下級行政廳ノ統轄スル公共團體又ハ同條ノ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十九條 道路ニ關スル工事ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ管理者ハ其ノ者ヲシテ利益ヲ受クル限度ニ於テ道路ニ關スル工事ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

〔文會例〕

第四十五條 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要アルトキハ管理者ハ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ立入り又ハ使用ヲ爲サントスルトキハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ通知スルコトヲ要ス

第四十六條 非常災害ノ爲ニ必要アルトキハ管理者ハ道路附近ニ居住スル者ヲ使役シ、道路附近ノ土地ヲ一時使用シ又ハ土石、竹木其ノ他物品ヲ使用若ハ取用スルコトヲ得

第四十七條 前二條ノ規定ニ依リ立入り、使用、使役又ハ取用ニ因リ現ニ生シタル損害ハ立入り、使用、使役又ハ取用ノ後三月内ニ管理者之ヲ補償スヘシ

第四十八條 沿道ノ土地、竹木又ハ工作物ノ管理者ハ其ノ土地、竹木又ハ工作物ノ道路ニ及ホスヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第四十九條 道路ノ使用又ハ道路若ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム沿道ノ土地ニ於ケル工作物ノ建設其ノ他ノ作爲又ハ不作爲ノ制限ニシテ道路又ハ其ノ交通ノ保全ノ目的ヲ以テスルモノニ付亦同シ

第五十條 沿道ノ區域ハ管理者之ヲ定ム

第五十一條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ管理者ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル許可承認ヲ取消シ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、道路ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築除却セシメ若ハ之ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原

第四十條 特ニ道路ヲ損傷スル原因ト爲ルヘキ事業ヲ爲ス者アル場合ニ於テ管理者ハ之カ爲ニ要スル道路ノ維持又ハ修繕ノ費用ノ一部ヲ其ノ事業者ニ負擔セシムルコトヲ得

第四十一條 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ管理者特別ノ事由アル場合ニ於テ他ノ工事ニ付費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムル場合ヲ除クノ外道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシム

第四十二條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依ル義務ヲ履行スル爲ニ必要ナル費用ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外義務者ノ負擔トス

第四十三條 道路ニ關スル費用ノ負擔金ハ費用負擔者カ道路ニ關スル工事ノ執行又ハ道路ノ維持ヲ爲ス場合ヲ除クノ外第三十三條第一項ノ主トシテ軍事ノ目的ヲ有スル國道其ノ他主務大臣ノ指定スル國道ノ新設又ハ改築ニ要スルモノニ在リテハ國庫、其ノ他ノモノニ在リテハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス

第四十四條 道路ノ占用料其ノ他道路ヨリ生スル收益ハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ收入トス但シ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ得テ徵收スル橋錢又ハ渡錢ハ其ノ許可又ハ承認ヲ得タル者ノ收入トス

第四十五條 道路ニ關スル法令ノ規定ニ違反シタルトキ
一 道路ニ關スル法令ノ規定ニ違反シタルトキ
二 道路ニ關スル法令ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ノ條件ニ違反シタルトキ
三 詐欺ノ手段ヲ以テ道路ニ關スル法令ノ規定ニ依リ許可ヲ得タルトキ
四 道路ニ關スル工事ノ爲ニ必要アルトキ
五 公益上必要ト認ムルトキ

〔文會例〕

第四十六條 前項第五號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ管理者ハ道路ニ關スル工事ノ費用ヲ負擔スル者ヲシテ其ノ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第四十七條 前二項ノ規定ハ主務大臣カ第二十九條ノ規定ニ依リテ其ノ爲シタル許可若ハ承認ヲ取消シ、其ノ效力ヲ停止シ又ハ其ノ條件ヲ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條 左ニ掲ケル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ハ第一號ニ在リテハ行政廳ニ於テ、其ノ他ニ在リテハ管理者ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ主務大臣ハ輕易ナル事件ニ限り命令ヲ以テ認可ヲ受ケシメサルノ定メ爲スコトヲ得

第四十九條 一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト
二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト
三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト
四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト
五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ爲スコト

第五十條 一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト
二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト
三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト
四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト
五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ爲スコト

第五十一條 一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト
二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト
三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト
四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト
五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ爲スコト

第五十二條 一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト
二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト
三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト
四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト
五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ爲スコト

第五十三條 一 國道以外ノ道路ノ路線ヲ認定スルコト
二 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定ムルコト
三 道路ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト
四 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ道路ニ關スル工事ヲ執行セシメ又ハ道路ノ維持ヲ爲サシムルコト
五 第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ爲スコト

- 六 第二十五條ノ規定ニ依リ他ノ工事ヲ執行スルコト
- 七 第二十七條ノ規定ニ依リ橋錢又ハ渡錢ヲ徵收スル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコト
- 八 第二十八條ノ規定ニ依リ道路ノ占用ヲ許可若ハ承認シ又ハ道路ノ占用料ヲ徵收スルコト
- 九 第三十七條乃至第四十一條ノ規定ニ依リ費用ヲ負擔セシムルコト
- 十 前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲スコト
- 第五十三條 監督官廳ハ監督上必要ト認ムルトキハ前條ノ行政廳又ハ管理者ニ對シ前條各號ニ掲グル事項又ハ其ノ變更廢止若ハ取消ヲ命シ其ノ他命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第五十四條 行政執行法第五條及第六條ノ規定並之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ管理者カ強制スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第五十五條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ義務ニ屬スル負擔金、占用料、橋錢、渡錢其ノ他ノ費用ハ管理者國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ徵收金ノ先取特權ノ順位並其ノ追徵還付及時效ニ付テハ管理者タル行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル
- 第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 一 許可ヲ得スシテ道路若ハ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ執行シ又ハ道路若ハ其ノ附屬物ヲ占用シタル者
- 二 許可ヲ得スシテ橋梁又ハ渡船場ノ使用ニ對シ橋錢、渡錢其ノ他ノ財

〔文會例〕

- 物ノ交付ヲ請求シタル者
- 三 道路ノ使用ニ對シ路錢其ノ他ノ財物ノ交付ヲ請求シタル者
- 四 詐欺ノ手段ヲ以テ許可ヲ得タル者
- 五 正當ノ事由ナクシテ第四十六條ノ規定ニ依リ管理者ノ命ニ從ハサル者
- 六 第四十八條又ハ第二條及第四十八條ノ規定ニ違反シテ道路又ハ其ノ附屬物ニ及ボスヘキ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲ササル者
- 第六章 訴訟及訴訟
- 第五十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴訟スルコトヲ得
- 本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得
- 第五十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ管理者ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第五十九條 第四十七條ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ補償ニ不服アルトキハ通知後六月内ニ、同條ノ規定スル期間内ニ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ期間經過後六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴訟シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第七章 雜則
- 第六十條 本法中府縣、府縣知事、府縣廳又ハ府縣道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ道、道廳長官、道廳又ハ地方費道ニ關シ市、市長、市役所又

〔文會例〕

- ハ市道ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ區、區長、區役所又ハ區道ニ關シ郡役所ニ關スル規定ハ北海道ニ付テハ支廳、島ニ付テハ島廳ニ關シ之ヲ適用ス
- 第六十一條 北海道ニ付テハ道路ノ種類、等級及路線ノ認定並第三十三條乃至第三十六條、第四十三條、第四十四條及第五十二條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得
- 第六十二條 道路ノ路線ノ認定ノ變更廢止其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件並材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得
- 前項ノ變更廢止ノ場合ニ於テ道路及其ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ勅令ヲ以テ定ムル期間ノ滿了スル迄第六條ノ規定ヲ之ニ準用シ土地收用法中第六十六條ノ規定及之ヲ準用スル規定ノ適用ニ付テハ不用ニ歸セサルモノト看做ス
- 第六十三條 左ニ掲グル法令ノ規定ハ本法ニ依リ道路ニ關シ之ヲ適用セ
- 一 明治四年十二月十四日布告治水修路架橋等運輸ノ便利ヲ興ス者ニ税金取立方許可ニ關スル件
- 二 明治十一年七月二十二日達郡區町村編制府縣會規則地方稅規則施行順序ニ關スル件第十二項
- 三 明治十二年二月二十七日達河港道路堤防橋梁費ヲ舊慣ニ因リ支辨シ得ル件
- 四 陸地測量標條例第二條
- 五 水路測量標條例第二條

- 六 電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條
- 七 軍用電信法第四條第二項ノ規定ニ依リ準用スル電信線電話線建設條例第一條、第四條及第五條
- 八 河川法第十條第二項、第十一條及第三十二條
- 九 砂防法第八條及第十六條
- 十 私設鐵道法第四十二條
- 十一 輕便鐵道法第五條ノ規定ニ依リ準用スル私設鐵道法第四十二條
- 十二 電氣事業法第九條
- 十三 大正三年法律第三十七號
- 附則
- 第六十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正八年十一月勅令第四百五十九號ヲ以テ九年四月一日ヨリ施行)
- 第六十五條 左ニ掲グル法令ハ之ヲ廢止ス
- 一 明治五年第三百二十五號布告
- 二 明治六年第四百四十六號布告
- 三 明治六年第四百十三號達
- 四 明治九年第六十號達
- 五 明治十八年第一號布達
- 六 明治二十年勅令第二十八號
- 第六十六條 本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス
- 第六十七條 本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受クヘキ事項ニシテ本法

施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス但シ管理者ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ六月ヲ下ラサル期間ヲ指定シ其ノ期間經過後ハ許可又ハ承認ノ效力ヲ失フヘキ旨ヲ告示スルコトヲ得

第六十八條 本法施行前爲シタル處分ニ關スル訴訟又ハ行政訴訟ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十一年法律第三號)

本法中第二十條、第三十三條、第四十三條及第六十條ノ改正規定ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十一年八月勅令第三百八十三號ヲ以テ同十二年四月一日ヨリ施行) 其ノ他ノ規定ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十二年四月一日) 但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●道路法中特例ニ關スル件

○法律第三十五號 昭和七年九月十四日
東京市區域擴張ノ際東京府知事カ現ニ執行シ又ハ既定繼續費ヲ以テ執行セシトスル道路ニ關スル工事ハ引續キ東京府知事之ヲ執行スルコトヲ得此場合ニ於ケル道路管理者ノ權限ハ命令ノ定ムル所ニ依リ東京府知事之ヲ行フ

附則

本法ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔文會例〕

●道路法施行令

○勅令第四百六十號 大正八年十一月五日
改正 大正十一年第三八四號、一五年第二四一號

第一條 創設

第二條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲サムトスルトキハ府縣道ニ付テハ府縣會、市道ニ付テハ市會、町村道ニ付テハ町村會ニ之ヲ諮問スヘシ但シ重要ナラサル變更又ハ廢止ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル諮問ハ道路法第十七條但書ノ規定ニ依ル府縣道ニ付テハ府縣會及市會ニ之ヲ諮問スヘシ

第三條 國道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第四條 府縣道以下ノ道路ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第五條 市町村長道路法第十五條ノ規定ニ依リ市道町村道ノ路線ノ認定又ハ其ノ變更若ハ廢止ヲ爲シタルトキハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六條 前三條ノ告示ニハ路線名並路線ノ起點終點及重要ナル經過地ヲ表示スヘシ

第七條 府縣廳、師團司令部、鎮守府又ハ市役所ノ所在地ヲ國道又ハ府縣道ノ路線ノ起點終點ト爲ストキハ市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ依ルヘシ

〔文會例〕

第八條 東京市ニ於ケル道路元標ノ位置ハ日本橋ノ中央トス

市町村ニ於ケル道路元標ノ位置ハ前項ニ規定スルモノヲ除クノ外府縣知事之ヲ定ム

第九條 道路元標ハ各市町村ニ一箇ヲ置ク

道路元標ノ様式ハ內務大臣之ヲ定ム

道路元標ハ管理者之ヲ建設スヘシ等級ヲ異ニスル道路ニ係ルモノナルトキハ上級道路ノ管理者之ヲ建設スヘシ

第十條 道路又ハ沿道ノ區域ヲ定メタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ內務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ區域ヲ定メタルトキ亦同シ

第十一條 內務大臣道路法第二十條第二項ノ規定ニ依リ國道ノ新設又ハ改築ヲ爲ストキハ豫メ官報ヲ以テ其ノ道路ノ路線名、區間及工事開始ノ期日ヲ告示スヘシ

前項ノ國道ノ新設又ハ改築ノ全部又ハ一部ヲ廢止又ハ終了スルトキハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ告示スヘシ

第十二條 道路ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキハ管理者タル行政廳ハ豫メ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ內務大臣ノ指定スル道路附屬物ノ供用ヲ開始シ又ハ廢止スルトキ亦同シ

第十三條 道路法第二十六條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルコトヲ許可又ハ承認シタルトキハ管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ設置者並橋錢又ハ渡船ノ額及徵收期間ヲ告示スヘシ同法第二十七條ノ規定ニ依ル橋梁又ハ渡船場ヲ設クルトキ亦同シ

第十四條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡船ノ徵收スルコトヲ得ス

第十五條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡船ノ徵收スルコトヲ得ス

第十六條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡船ノ徵收スルコトヲ得ス

第十七條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡船ノ徵收スルコトヲ得ス

第十八條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡船ノ徵收スルコトヲ得ス

第十九條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡船ノ徵收スルコトヲ得ス

第二十條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡船ノ徵收スルコトヲ得ス

第二十一條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡船ノ徵收スルコトヲ得ス

第二十二條 左ニ掲クルモノニ付テハ橋錢又ハ渡船ノ徵收スルコトヲ得ス

利害關係人ハ道路臺帳ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル道路ニ關シ告示スヘキ事項ハ道路法第十八條第二項ノ規定ニ依リ他ノ工作物ノ管理者タル行政廳ヲ以テ道路及工作物ノ管理者ト爲シタル場合ニ於テハ其ノ管理者同法第十七條ノ規定ニ依リ管理者タルヘキ行政廳ニ之ヲ通知シ通知ヲ受ケタル行政廳本令ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第十七條 第五條ノ規定ハ道路法第十五條若ハ第十八條第一項ノ規定ニ依ル道路ニ關シ第十條、第十一條、第十二條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル道路ニ關シ前條ノ規定ニ依ル告示ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 道路法第四十五條ノ規定ニ依ル通知ハ三日前ニ場所及日時ヲ指定シ之ヲ爲スヘシ

道路法第四十五條ノ規定ニ依リ邸内ニ立入ル場合ニ於テハ日出前日没後ハ占有者ノ意ニ反シテ立入ルコトヲ得ス

第十九條 道路ノ路線ノ認定者及道路ノ管理者ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ監督ス
一 市町村長認定者又ハ管理者ナルトキハ第一次ニ府縣知事、第二次ニ内務大臣
二 前號ニ規定スル以外ノ者認定者又ハ管理者ナルトキハ内務大臣

第二十條 左ニ掲クル事項又ハ其ノ變更、廢止若ハ取消ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
一 市長ヲ以テ管理者トスル國道又ハ府縣道ノ新設又ハ改築ヲ爲スコト
二 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二府縣以上ニ互ル路線ヲ認定スルコト

〔文會例〕
二 道路法第十五條ノ規定ニ依リ二府縣以上ニ互ル路線ヲ認定スルコト

〔文會例〕

●道路管理者特別規程

○勅令第四百七十二號 大正八年十一月二十六日

改正 大正一五年第二九二號

第一條 行政區劃ノ境界ニ係ル道路ニ付道路法第十八條第一項ノ規定ニ依リ關係管理者カ其ノ一ヲ以テ管理者ト爲ス必要アリト認ムルトキハ關係管理者ノ協議ニ依リ管理者ト爲ルヘキ者及其ノ管理スヘキ區間ヲ定ムヘシ協議調ハサルトキハ關係管理者タル行政廳ヲ併セテ監督スル行政官廳ノ指揮ヲ請フヘシ

第二條 道路ト他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌル場合ニ於テ道路法第十八條第二項ノ規定ニ依リ道路管理者又ハ工作物管理者カ其ノ一ヲ以テ道路及工作物ノ管理者ト爲ス必要アリト認ムルトキハ道路管理者及工作物管理者ノ協議ニ依リ管理者ト爲ルヘキ者及其ノ管理スヘキ區間ヲ定ムヘシ協議調ハサルトキハ道路管理者及工作物管理者ヲ併セテ監督スル行政官廳ノ指揮ヲ請フヘシ監督行政官廳タル主務大臣異ナルトキハ關係主務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第三條 前二條ニ規定スル監督行政官廳必要ト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ拘ラス道路法第十八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ管理者及管理區間ヲ定ムルコトヲ得

第四條 前三條ノ規定ニ依リ管理者及管理區間定リタルトキハ第一條ニ規定スル關係管理者タル行政廳又ハ第二條ニ規定スル道路管理者タル行政廳ハ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ
第一條及第二條ノ規定ニ依リ管理者ヲ協議ニ依リ定メタルトキハ管理者ハ管理スヘキ區間ヲ具シ之ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

第二十四條 本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正九年四月一日)

第二十五條 道路法施行ノ際認定スヘキ國道ノ路線ニ關シ豫メ道路會議ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

第二十六條 道路法施行ノ際認定スヘキ府縣道又ハ地方費道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會又ハ道會ニ諮問シタルモノハ本令ニ依リ諮問シタルモノト看做ス郡、道、市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ノ諮問ニ付亦同シ

第二十七條 市道、區道又ハ町村道ノ路線ノ認定ニ付テハ道路法施行ノ際ニ限リ第六條ノ規定ニ拘ラス平面圖ヲ公衆ノ縦覽ニ供シ其ノ旨ヲ告示スルコトヲ得

前項ノ平面圖ニハ路線ノ位置並路線ノ交叉點及兩端ノ地番若ハ地先地番ヲ表示スヘシ別ニ地番圖書ヲ製シ平面圖ニ添附スルコトヲ妨ケス

第二十八條 市區町村ニ於ケル道路元標ノ位置ニ付本令施行前道廳長官又ハ府縣知事ノ定メタルモノハ本令ニ依リ定メタルモノト看做ス

附則 (大正十一年勅令第三百八十四號)

本令中第十條ノ二ノ規定並第十七條及第二十三條ノ改正規定ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス其ノ他ノ規定ハ大正十年法律第六十三號第一條施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正十二年四月一日ヨリ施行)但シ同法附則但書ノ規定ニ依リ別ニ其ノ施行ノ期日ヲ定ムル府縣ニ付テハ其ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正十一年法律第三號中第十一條ノ改正規定施行ノ際認定スヘキ府縣道ノ路線ニ關シ本令公布後ニ於テ豫メ府縣會ニ諮問シタルモノハ道路法施行令第二條ノ規定ニ依リ諮問シタルモノト看做ス

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●道路法第六十二條ノ規定ニ依ル不用物件等ノ管理及處分ニ關スル件

勅令第四百七十四號 大正八年十一月二十六日

改正 大正一〇年第一〇號

第一條 道路ノ路線ノ認定ノ變更又ハ廢止ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路又ハ其ノ附屬物ヲ構成シタル物件ハ其ノ道路ノ管理者タリシ者之ヲ管理處分ス

第二條 道路法第六十二條第二項ノ期間ハ國道、府縣道及地方費道ニ關シテハ八月、其ノ他ノ道路ニ關シテハ四月トス

第三條 第一條ノ物件前條ノ期間満了前ニ定リタル道路又ハ其ノ附屬物ノ區域内ニ在ルトキハ其ノ管理者ニ之ヲ引渡スヘシ

第四條 第一條ノ物件他人ノ所有ニ屬スルモノナルトキハ前條ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ所有者ニ之ヲ還付スヘシ

第一條ノ物件官有財產トシテ存置スルノ必要アルモノナルトキハ前條ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外主務大臣ニ之ヲ還付スヘシ

道路附替ノ場合ニ於テハ其ノ附替ニ依リ不用ニ歸スル第一條ノ物件ハ新ニ道路又ハ其ノ附屬物ヲ構成スル物件ト第二條ノ期間内ニ於テ交換スルコトヲ得

〔文會例〕

ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲クル事項並ニ其ノ變更、停止及廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 河川ノ區域、河川ノ支川及派川並ニ河川ノ附屬物ノ認定

二 河川(支川及派川ヲ含ム)又ハ河川ノ附屬物ノ全部又ハ一部ニ付大體ニ涉ル一定ノ計畫ニ基テ改良工事及河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ボスノ虞アル工事ノ計畫並ニ施行

三 河川法第十七條及第十八條ノ規定ニ依ル許可ニシテ河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ボス虞アルモノ

四 河川法第二十條ノ規定ニ依ル處分ニシテ内務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關スルモノ

五 河川法第二十九條ノ費用ニシテ河川法第八條第一項又ハ本條第一項第二號ノ工事ニ關スルモノノ負擔方法

六 河川法第三十二條第一項ノ費用ニシテ國ニ於テ施行スル工事ニ原因スルモノノ負擔方法

七 河川法第四十二條ノ規定ニ依ル使用料又ハ占用料ノ徵收ニシテ發電ノ爲ニスル河川使用ニ關スルモノ

前項第二號及第三號ノ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

第三條 河川法第二十二條及第四十六條第一項ノ規定ニ依ル下級行政廳ノ處分並ニ其ノ變更、停止及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 本令ニ依リ認可ヲ要スル事項ニ付テハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ輕易ナル事項ニ限リ認可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第五條 北海道ニ付テハ本令中府縣知事ニ關スル規定ハ北海道廳長官ニ關

第五條 第一條ノ物件前二條ニ該當セサル場合ニ於テハ道路ノ費用ヲ負擔シタル公共團體ニ之ヲ交付スヘシ土地收用法第六十六條第一項又ハ民法第五百七十九條ノ規定ニ依ル賣渡ハ交付ヲ受ケタル公共團體之ヲナスヘシ

前項ノ場合ニ於テ二以上ノ公共團體アルトキハ第一條ノ管理者ハ監督官廳ノ認可ヲ得テ交付ノ割合ヲ定ムヘシ

第六條 前數條ノ規定ニ依ルモノヲ除クノ外道路又ハ其ノ附屬物ノ區域ノ變更其ノ他ノ場合ニ於テ不用ニ歸シタル道路又ハ其ノ附屬物ヲ構成シタル物件及材料器具機械等ノ管理及處分ニ付テハ第一條、第四條及前條ノ規定ヲ準用ス

第七條 本令ニ依ル管理若ハ處分ノ費用又ハ管理中ノ收益ニ關シテハ道路ニ關スル費用又ハ道路ヨリ生スル收益ト看做ス

第八條 道路法施行令第十九條乃至第二十二條ノ規定ハ本令ニ規定スル管理者ノ監督ニ付之ヲ準用ス

附則

本令ハ道路法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正九年四月一日ヨリ施行)

●河川行政監督令

勅令第二百九十號 大正十五年八月二十七日

改正 昭和九年第三〇五號

第一條 河川法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命令又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次

〔文會例〕

シ、水利組合ニ關スル規定ハ土功組合ニ關シ之ヲ適用ス

本令ハ昭和九年法律第二十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●砂防行政監督令

勅令第二百九十一號 大正十五年八月二十七日

改正 昭和九年第三〇五號

第一條 砂防法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル砂防行政及府縣知事ノ命令又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲クル事項並ニ其ノ變更、停止及廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 砂防法第三條ノ規定ニ依ル準用

二 砂防法第四條ノ規定ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲

三 砂防法第七條ノ規定ニ依ル砂防工事ノ施行ニ關スル府縣知事ノ處分但シ輕易ナル修繕工事ニ關スルモノヲ除ク

四 砂防法第十三條ノ規定ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防工事ノ計畫但シ一設計内ニ於ケル變更ニシテ當初計畫ノ目的ヲ達シ得ベキモノヲ除ク

五 砂防法第十五條ノ費用ノ負擔方法但シ砂防設備ノ維持又ハ輕易ナル修繕工事ニ係ルモノヲ除ク

六 砂防法第十六條ノ費用ニシテ國ニ於テ施行スル工事ニ原因スルモノノ負擔方法

七 國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止

第三條 左ニ掲クル事項並ニ其ノ變更、停止及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

一 砂防法第二十三條ノ規定ニ依リ下級行政廳ノ爲スヘキ障害物ノ除却

二 砂防法第三十條ノ規定ニ依リ下級行政廳ノ處分

第四條 本令ニ依リ認可ヲ要スル事項ニ付テハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ輕易ナル事項ニ限り認可ヲ受ケシメサルコトヲ得

●公有林野官行造林法

○法律第七號 大正九年七月二十七日

第一條 國ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公共團體トノ契約ニ基キ收益ヲ分收スルノ條件ヲ以テ公有林野ニ造林ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依リ造林ニ係ル樹木ハ國ト公共團體トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ歩合ニ均シキモノトス

第三條 國ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ニ同條ノ契約ノ存續期間中地上權ヲ有ス

第四條 公共團體ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野又ハ第二條ノ規定ニ依リ持分ヲ處分スル場合ニ於テハ國ノ承認ヲ受ケヘシ

第五條 第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ノ產物ニ關スル權利ニシテ國ニ屬スルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該公共團體ニ之ヲ讓與スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正九年九月勅令第四百二十五號ヲ以テ同十

月一日ヨリ施行ス)

(參照)

○民法第二百五十六條

各共有者ハ何時ニテモ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得但五年ヲ超エサル期間内分割ヲ爲ササル契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

此契約ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

●公有林野官行造林法施行令

○勅令第四百二十六號 大正九年九月二十五日

第一條 國ハ造林地ノ植樹、補植、手入、防火線ノ設置其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲ス

第二條 公共團體ハ造林地保護ノ爲左ノ事項ヲ行フノ義務ヲ負フ

一 火災ノ豫防及消防

二 盜伐、誤伐、侵墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止

三 有害鳥獸ノ驅除

四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五 大林區署長ノ指定ニ依リ看守人ヲ配置スルコト

第三條 公共團體ハ左ノ產物ヲ採取スルコトヲ得

一 下草、落葉及落枝

二 樹實及菌蕈ノ類

三 手入ノ爲伐除スル枝條ノ類

〔文會例〕

四 植樹後二十年内ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木

第四條ノ造林著手後天然ニ生シタル樹木ハ之ヲ造林契約ニ依リ造林ニ係ル樹木ト看做ス造林著手前ヨリ存スル樹木ニシテ造林ニ係ル樹木ト共ニ生育セシムルモノ亦同シ

第五條 根株ハ別段ノ契約アル場合ヲ除クノ外公共團體ノ所有トス

第六條 造林地ノ收益分收ノ歩合ハ國及公共團體各十分ノ五ヲ標準トシ地代、造林費其ノ他造林契約ノ實行ニ要スル費用ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第七條 造林地ノ收益分收ハ其ノ樹木ノ賣拂代金ヲ以テ之ヲ爲ス但シ大林區署長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ材積ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第八條 賣拂代金ヲ以テ收益分收ヲ爲ス場合ニ於ケル樹木ノ賣拂及材積ヲ以テ收益分收ヲ爲ス場合ニ於ケル分收樹木ノ指定ハ當該官廳之ヲ行フ

第九條 造林ニ係ル樹木ニ關シ第三者ヨリ受ケタル賠償金其ノ他ノ金額ハ其ノ請求ニ要シタル費用ヲ控除シ收益分收ノ歩合ニ依リ之ヲ分收ス

第十條 公共團體造林地ノ土石ヲ處分セムルトキハ當該官廳ノ承認ヲ受ケヘシ

第十一條 公用若ハ公益事業ノ爲必要アルトキ又ハ造林地ノ經營ニ支障ナキトキハ當該官廳ハ造林地ヲ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル貸付料又ハ使用料ハ公共團體ノ收入トス

第十二條 左ノ場合ニ於テハ大林區署長ハ造林契約ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 公共團體自ら造林地ノ經營ヲ爲サムトスル場合ニ於テ經營ノ能力確

〔文會例〕

實ナリト認メタルトキ

三 契約ノ目的ヲ達スルコト能ハスト認メタルトキ

四 公共團體造林地又ハ造林ニ係ル樹木ノ持分ヲ處分シタルトキ

五 造林地ヲ林野以外ノ用途ニ供スヘキ特別ノ必要アルトキ

第十三條 前條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ直ニ收益分收ヲ爲ス

前條第二號又ハ第四號ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ公共團體ハ大林區署長ノ指定ニ從ヒ造林ニ係ル樹木ニ付國ノ旨スル持分ノ價額ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ但シ其ノ金額カ造林ノ爲國ノ支出シタル金額ト之ニ對スル重利計算ニ依ル年五分ノ利息ニ相當スル金額トノ合算額ニ達セザルトキハ其合算額ヲ納付スヘシ

公共團體前項ノ規定ニ依リ金額ヲ納付シタルトキハ造林ニ係ル樹木ニ付國ノ有スル權利ヲ取得ス

附則

本令ハ公有林野ノ官行造林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正九年十月一日)

一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 公共團體自ら造林地ノ經營ヲ爲サムトスル場合ニ於テ經營ノ能力確

第三節 建物

●官舎貸渡規則

○太政官達第五十三號 明治九年五月十五日

改正 明治一〇年第三七號 第八七號

七年七月第九十三號、八年五月第八十八號達ヲ廢シ更ニ官舎貸渡規則別紙ノ通相設條條從來ノ官舎或ハ官廳附屬ノ家屋等貸渡候向ハ本年一月一日ヨリ宿代取立大藏省ヘ可相納元金建坪等取調ノ儀院省(使)ハ大藏省廳府縣ハ内務省ヘ申出ツヘシ

但借地料ノ儀ハ八年第百十四號布告官有地第二種但書ノ通相心得ヘシ

(參照)

明治八年第百十四號布告官有地第二種但書ハ左ノ如シ
但此ノ地ニ在ル官舎ヲ貸渡ストキハ借地料ヲ賦スヘシ

(別紙)

○官舎貸渡規則

第一條 官舎貸渡ス時ハ毎月宿代取立ツヘシ

但シ獄舎(懲役場)倉庫定番見張番等並鐵道各驛長各所燈明番等ハ此ノ限ニアラス其ノ他公務ノ都合ヲ以テ官舎貸渡ス者ト雖宿代取立ルハ勿論ナレ共該官舎ノ内公用私用ニ供スル間席ヲ區別シタル向ハ其ノ私用ニ供スル間席ノミ宿代取立ツヘシ

第二條 宿代ハ元金ノ八分ヨリ一割迄ヲ制限トシ適宜斟酌シテ取立ツヘシ
(右取立高ノ内七分ハ上納三分ハ其ノ庫ニ備置修繕費ニ充ツヘシ)

第三條 官舎新營ノ分ハ其ノ建築費ノ總額古家作ノ分ハ買上値段或ハ當時

第八章 國有財産 第三節 建物

〔文會例〕

賣買スヘキ値段ヲ以テ滿三年間ノ元金ト定メ爾後滿三年毎ニ一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ自今新營或ハ買上ノ年度ヨリ既ニ滿三年ヲ過ルモノハ此ノ節一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ但新營ノ分元金ハ石礎入費ヨリ計算スヘシ且貸渡ノ節修繕ノ分ハ其ノ費額ヲ元金ニ加ヘ爾後修繕ノ費額ハ加ヘサルヘシ

第四條 宿代ハ年ヲ以テ計算スヘシト雖取立方ハ月割タルヘシ但シ十六日以後ニ貸渡シタル時又ハ十五日以前ニ返却シタル時ハ半月分取立ヘシ

第五條 宿代上納方ハ三ヶ月毎ニ取調修繕費遣拂ノ分ハ毎年六月迄ニ精算帳差出シ殘金アラハ後日ノ費用ニ充置スヘシ

第六條 官舎外廻リ雨漏又ハ臨時大破ノ外一切ノ修繕ハ自費タルヘシ

第七條 拜借人自費建増等願出ル時ハ實地検査ノ差支ナキ分ハ允許スヘシ

第八條 拜借人交換ノ節ハ篤ト検査ヲ遂ケ若シ毀損スル所アルカ又ハ附屬品等不足スル時ハ辨償セシムヘシ但自費建増等ノ存廢ハ新舊拜借人ノ示談ニ任スヘシ

(參照)

官舎障子紙ノ張替ハ自費ヲ以テ支辨スヘシ(明治三十五年十一月五日
文部次官裁定)

●官舎貸渡内規

○内閣通達 明治二十一年十二月二十七日

改正 明治二十二年五月、中略昭和二十二年二月

明治九年太政官達第五十三號官舎貸渡規則ノ不完全ナルニヨリ管理上不都

文部大臣

合不給ニ付今般別紙ノ通内規ヲ定メ其ノ足ラサル所ヲ補ヒ明治二十二年一月一日以降之ヲ施行ス依テ此ノ意ヲ諒セラルヘシ

(別紙)

○官舎貸渡内規

- 第一條 別表ニ掲クル所ノ官吏ハ官舎ニ居住スヘキモノトス但シ公務上差支ナキ者ハ所屬長官ノ意見ニ由リ又ハ其ノ認許ヲ經テ官舎ニ居住セサルモ妨ナシ
- 第二條 官舎相當ノ建具、疊、敷物、窓掛、暖爐、通信器、點火器及對客室必要ノ椅卓ニ限リ官費ヲ以テ之ヲ設クルモノトス但シ大臣ノ官舎ニ限リ以上物品ノ外接客用飲食器、接客室ニ備フル所ノ花瓶、書棚、物置臺、鏡、時計ハ官費ヲ以テ之ヲ設ケ且ツ公用室、客室及館外ノ點火竝公用室ノ石炭ハ官費供用スルコトヲ得
- 第三條 官舎及官舎附屬ノ建物物品等ノ保存上必要ナル手入ハ一切居住人ノ自費トシ天災若クハ自然ノ腐朽ニ由リ修繕ヲ加フルコトヲ必要トスル時ハ官費ヲ以テ支辨ス
- 第四條 官舎居住人ノ不注意ニ因リ官舎及其ノ附屬ノ物品ヲ毀損シタルトキハ自費ヲ以テ支辨セシム
- 第五條 各廳ノ便宜ニ由リ其ノ長官ニ於テ別表外ノ官吏ヲ官舎ニ居住セシムル時ハ總テ官舎貸渡規則ニ據ルヘキモノトス

(別表)

- 總理大臣
- 各省大臣
- 内閣書記官長
- 内閣書記官ノ内一名若クハ二名

[文會例]

- 法制局長官
- 印刷局長若クハ印刷局事務官ノ内一名
- 樞密院議長
- 樞密院書記官長
- 樞密院書記官ノ内一名
- 樞密院秘書官
- 大臣秘書官
- 外務次官
- 外務大臣官房電信課、文書課、人事課又ハ會計課ノ職員ノ内職務ニ由リ外務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 内務大臣
- 内務大臣官房秘書課、文書課又ハ會計課職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 内務省地方局長
- 内務省警保局長
- 内務省警保局職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 内務省土木出張所職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 内務省衛生局長
- (社會局長官明治神宮造營局職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者)
- 國立感化院職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者

[文會例]

- 者
- 國立癩療養所職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 衛生試驗所職員ノ内職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- (内務省地理局測候所事務ノ技師及技手)
- (内閣官報局長若クハ局長)
- (大藏省、金庫局長若クハ局長)
- 大藏大臣官房臨時建築課出張所職員ノ内職務ニ由リ大藏大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 造幣局職員ノ内職務ニ由リ大藏大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 陸軍次官
- 海軍次官
- 陸海軍武官ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 陸軍監獄職員ノ内職務ニ由リ陸軍大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 司法大臣官房職員課長
- 司法省(各始審裁判所)豫審判事及上席檢事
- 司法大臣ニ於テ指定スル島嶼ニ在勤スル判事檢事及裁判所書記
- 少年審判所及矯正院ノ職員ノ内職務ニ由リ司法大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- (内務省)司獄官吏ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 文部省直轄各學校圖書館氣象臺緯度觀測所及測地學委員會職員ノ内職務ニ由リ文部大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 種牛牧場員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者

- 農林大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル毛皮獸養殖所職員
- 農商務省鳥獸實驗場員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 燃料研究所職員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 工藝指導所職員ニシテ商工大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 鐵道調査ニ從事職員ノ内農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 農商務省(山林局試驗場)詰官吏
- 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル食糧局出張所職員
- 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル茶業試驗場職員
- 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル種羊場職員
- 農林大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル在青島帝國總領事館附獸疫調査所職員
- 商工大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル工業試驗所職員
- 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル陶磁器試驗所職員
- 農商務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル花藍検査所職員
- 小林區署各官舎詰官吏
- 種馬牧場種馬育成所及種馬所員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- (製鐵所長官同事務官二名同書記ノ内十五名)
- (製鐵所職員中特ニ官舎居住ヲ命スル者)
- 水産講習所職員ニシテ特ニ官舎居住ヲ命スル者一名
- 逓信次官
- 逓信大臣官房秘書課文書課職員ノ内職務ニ由リ逓信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
- 逓信省通信局及經理局職員ノ内職務ニ由リ逓信大臣ニ於テ特ニ官舎居住

ヲ命スル者
貯金支局職員ノ内職務ニ由リ通信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
航路標識管理所職員ノ内職務ニ由リ通信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
臨時電信電話建設局出張所職員ノ内職務ニ由リ通信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者

選信局職員ノ内職務ニ由リ通信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者
一、二等郵便局電信局職員ノ内職務ニ由リ通信大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル者

高船學校學生監ノ内二名
(鐵道局)各課長若クハ助役
(帝國鐵道總裁、副總裁)、(工務部長)(運輸部長)(計理部長)管理局長、營業事務所長及(通信大臣ニ於テ指定スル)奏任以下ノ(帝國鐵道廳)職員

警視總監(及副總監)
警視廳(一等警視以下)並沖繩縣警察官吏ノ内職務ニ由リ特ニ官舎居住ヲ命スル者
北海道廳長官府縣知事(警部長)
(北海道尋常師範學校長會監)

北海道廳及沖繩縣(司獄官吏及北海道廳鐵道部員ノ内)特ニ官舎居住ヲ命スル者
港務部長並内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スル港務部職員及海港檢疫所職員

北海道廳府縣職員ノ内賑恤救濟、土木、會計、兵事、産業、拓殖、警察又ハ衛生ニ關シ急務ヲ要スルコトアルヘキ事務又ハ技術ニ從事スル者ニシテ職務ニ由リ内務大臣ニ於テ特ニ官舎居住ヲ命スルモノ

沖繩縣官吏ノ内特ニ官舎居住ヲ命スル者
其ノ他各廳ノ技術員ニシテ必要アルトキ各廳長官ニ於テ大藏大臣ト協議ノ上官舎居住ヲ命スル者
帝室費及地方稅經濟ニ屬スル官舎ハ本表ノ外トス

(參照)
江田島兵學校勤務ノ教官ニ限リ文官ト雖トモ官舎貸渡内規第一條ニ準シ官舎居住ヲ認許ス
(參考)
●官舎名稱改定ノ件
○内務省會計課通牒第二九九十一號 大正六年九月十七日

本省所管官舎名稱ハ從來區々ニ互リ附屬官舎其他第一號第二號等ノ名稱ノ下ニ部長理事官等居住ノ向モ有之調査上不便不少ニ付高等官居住ノ官舎名稱ハ自今其官職名ヲ冠スル事ニ一定セラレ候條及通牒候也
追テ右ノ主旨ニ合致セサル向ハ此際御改定ノ上直ニ報告相成度申添候

●官舎調査提出方照會ノ件

○會計課長照會直照會十一號 大正十四年五月十五日

〔文會例〕

大正十四年三月三十一日現在實學(校、寮、等)所屬官舎調査記様式ニ依リ御取調ノ上御送付相成度、尙爾後異動ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ都度左

記様式ニヨリ御報告相成度此段照會ス

官舎調査

所在地	口座名	官舎名 稱番號	坪數	價 格	義務又ハ 有料官舎	貸付料金	居住任命又ハ 貸付年月日	居 住 年 月 日	居 住 者 氏 名	備 考

備考

- 一 官舎ハ一棟毎ニ記載スルコト、但シ一棟ニシテ二戸以上ノモノハ區分記載ノコト、官舎ニ附屬物アルトキハ備考欄ニ棟數、坪數、價格ヲ附記スルコト、現ニ居住セサル官舎モ掲上スルコト
- 二 公用、私用ノ間區分ノ官舎ニ付テハ備考欄ニ公用間、私用間坪數ヲ附記スルコト
- 三 官舎敷地面中ニ所在地、官舎敷地、坪數、官舎建物、名稱番號、坪數及疊數(外國人官舎ニシテ疊ナキモノハ坪數ノミ)ヲ掲上シタル各棟毎ノ詳細平面圖ヲ添付スルコト

●當分ノ内家屋ノ賃貸價格ノ改訂ヲ行ハザルノ件

○勅令第二百五號 昭和十三年三月三十一日
家屋ノ賃貸價格ノ改訂ハ大正十五年勅令第三百三十九號第三條及第二十九條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内之ヲ行ハズ但シ特別ノ事情アルトキハ府縣條例(府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ在リテハ市條例)又ハ北海道條例ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フコトヲ得

第八章 國有財産 第三節 建物

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十二年勅令第三百九號ハ之ヲ廢止ス

(參照)
○大正十五年十一月十日勅令第三百三十九號抄錄
第三條 家屋ノ賃貸價格ハ五年度毎ニ一般ニ之ヲ改訂ス但シ特別ノ事情アルトキハ府縣條例(府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ニ在リテハ市條例)ノ定ムル所ニ依リ改訂期間ヲ短縮スルコトヲ得

前項ノ改訂ハ改訂スベキ年度ノ四月一日現在ノ家屋ニ付之ヲ行フ
改訂シタル家屋賃賃格ハ改訂シタル年度ノ翌年度分ヨリ之ヲ家屋
税ノ課税標準トス但シ府縣條例(府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市
ニ在リテハ市條例)ノ定ムル所ニ依リ改訂シタル年度分ヨリ之ヲ課
税標準ト爲スコトヲ妨グズ

第二十九條 本令中府縣知事、府縣條例又ハ町村ニ關スル規定ハ北海
道ニ付テハ各北海道、北海道廳長官、北海道條例又ハ町村ニ準ズル
モノニ之ヲ適用ス

昭和十二年三月三十日勅令第三十九號ハ家屋ノ賃賃格ノ改訂ニ關スル
件ナリ

●本省ニ於テ施行ノ工事ニ伴ヒ既設建物等

ニ異動ヲ生スル場合ノ取扱方ノ件

○會計課長通牒發會百八十八號 昭和九年五月二十五日
從來本省ニ於テ施行スル工事ニ伴ヒ貴官管理ニ屬スル土地ノ用途變更又ハ
既設建物ノ移轉、移築及取毀等ヲ要スル場合往々之カ手續無之向モ有之タ
ル處斯クテハ整理上支障尠カラサルニ付爾今右ノ場合ニ於テハ大學並學校
及圖書館特別會計(文部省所管一般會計)所屬國有財產管理規程第三條ニ依
リ事前ニ於テ遺漏ナク御手續相成様致度依命此段通牒ス

●建物引渡其他國有財產増減報告等ニ關スル件

從來宮城外濠ニ近接セル地域ニ造營ノ政府所管建造物ニ付テハ相當御考
慮ノ上御設計相成居候儀ニ有之候トハ存シ候モ宮城ヲ俯瞰スル處アルモ
ノ又ハ外濠ノ風致ヲ害スルカ如キモノ等ノ築造ハ回避致度希望ニ有之候
付テハ當省ニ於テ豫メ設計等ヲ承知致置必要有之候間御計畫ノ際ハ前以
テ公文ニテ御協議ヲ得此旨政府各省へ御通牒相煩度及御依頼候

●學校體操場ノ使用ニ關スル件

○次官通牒發會六十三號 昭和十三年五月九日

直轄學校長

我國民體位ノ現状ニ鑑ミ國民ノ體育運動ヲ獎勵スル爲官公私立學校ノ體操
場ヲ一般國民ニ使用セシメ以テ國民體位ノ向上ヲ圖ルコトハ現下緊要ノ要
務ト存セラルルニ付學校教育及管理上支障ナキ限リ左記要項ニ依リ之ヲ使
用セシムルコトト致度右實施方ニ關シ可然御配慮相成度依命此段通牒ス

記

- 一、學校ノ屋外體操場ハ男女青少年團體、在郷軍人會、體育團體會社、銀
行、工場等ノ職員、従業員ノ組織スル俱樂部等ニシテ學校長ニ於テ適當
ト認ムル團體ニ對シ之ヲ使用セシムルコト
- 二、屋外體操場ヲ使用セシムルハ休業日、放課後等學校ノ授業又ハ諸行事
ニ支障ナシト認ムル場合ニ限ルコト
- 三、屋外體操場、運動器具、機械其他學校設備ヲ使用セシムル場合ニ於テ
必要ト認ムル事項ニ關シテハ學校長ニ於テ豫メ之ガ規定ヲ設クルコト
- 四、屋内體操場、武道場、プール等ノ特殊設備ノ使用ニ付テハ學校管理者
ニ於テ團體ニ適當ナル指導者アリト認ムル場合ニ限リ前各項ヲ參照シ可

○會計課長通牒發會七十八號 大正十二年三月四日

本省ヨリ工事落成引渡ヲ受ケタル場合其ノ領收書ニハ土地種目及建物番號
等記入ノ上御送付相成度旨大正十一年七月五日付發會第二二九號ヲ以テ申
進メ置キタルモ往々右記載ヲ脱漏スル向モ有之尙大學並學校及圖書館特別
會計所屬國有財產管理規程第五條ニ依リ増減異動報告ヲナス場合延坪口座
名等ヲ脱漏シ又ハ國有財產ノ處分買入等認可済ノモノニ對シ實行濟報告ノ
遅延シ或ハ全然之ヲナササル向モ有之整理上差支ヲ生スルニ依リ今後ハ右
脱漏報告洩等無之様一層御注意相成度此段申進ム

●宮城外濠ニ近接セル地域ニ造營ノ建造物

ニ關スル件

○會計課長移牒發會二百二號 昭和四年十月十四日
首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通り内閣書記官長ヨリ當省次官宛通知有之タルニ
付御了知相成度此段移牒ス

(別紙寫)

○内閣書記官長通牒内閣宮乙三十五號 昭和四年九月二十七日

文部 次官

宮城外濠ニ近接セル地域ニ造營ノ建物ニ關シ別紙ノ通宮内次官ヨリ申越
有之候條御了知相成度尙右ハ貴管下關係ノ向ヘモ夫々通達有之度爲念申
添候

(別紙)

○宮内次官通牒發會五百三十三號 昭和四年九月十八日

内閣書記官長

〔文部省〕

成本文趣旨ノ實現ヲ期スル様配意アリタキコト

備考

右ノ中「體操場」ノ名稱ハ大學宛ニ限リ「運動場」トス

第四節 雜

●工作物用途廢止ノ場合ニ於ケル取扱方ノ件

○會計課長移牒官會八十三號 昭和三年五月八日
本年四月二十一日付藏管第九二七號ヲ以テ大藏大臣ヨリ別紙ノ通り通牒アリタルニ付移牒ス

(別紙)

○大藏大臣通牒藏管第九百二十七號 昭和三年四月二十一日

文部大臣

今般内務省ヨリ公用財産タル立木竹(但土地ト共ニ其ノ用途ヲ廢止シタル場合ヲ除ク)及工作物用途廢止ノ場合ニ於ケル取扱方ニ付協議有之候處右ニ付テハ「立木竹ノ内庭木其他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ樹木及工作物中臺帳價格千圓以下ノ工作物ニ付取費ノ目的ヲ以テ用途廢止ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ各省部局長ヨリ所轄稅務監督局長ニ對シ事前ノ通知ヲ爲シ以テ國有財産法施行令第二條第一項ノ手續ヲ了スルコト」ニ決定致候條今後貴省ニ於テ右公用財産ニ付用途廢止ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ右ニ依

リ御取扱相成度此段及通牒候也

追テ右工作物ノ用途廢止ハ兼ニ貴省ト協定濟ニ係ル取費ノ目的ヲ以テ其ノ用途ヲ廢止スル場合ノモノニシテ其ノ内臺帳價格千圓以下ノ工作物ニ付テハ貴省部局長ヨリ所轄稅務監督局長ニ對シ單ニ事前ノ通知ニ止メ之カ引繼ヲ爲ササル儀ニ付御了知相成度爲念申添候

●演習林立木減少報告ニ關スル件

○會計課長通牒發會二百九十六號 昭和四年五月十日
演習林ニ於ケル立木ハ從來伐採等ノ場合減少報告ヲ爲ササリシ向モ有之タル處賣却又ハ經營上伐採枯損等ニ依リ立木トシテ事實上減滅シタルモノ或ハ離權シタルモノハ總テ國有財産臺帳ヨリ減少スルヲ至當ト存セラレルニ付今後ハ右等ノ場合ハ其ノ都度(但シ少額ノモノハ一月又ハ一年ニ一回或ハ二回ニ取纏メテ報告ノコト)左記様式ニ依リ減少報告相成度又成長ニ依ル増加ノ分ニ付テハ毎五年ニ於ケル國有財産土地立木價格改定ノ際調査ノ上臺帳ニ掲記相成度昭和三年度中ニ於ケル減少ニ付テハ此際一括御報告ノ上(既ニ報告済ノモノハ除ク)同年度國有財産増減報告書並同計算書ニモ掲記相成度

口座名 (演習林名)		數量	臺帳價格	年月日	減少理由	處分方法	處分數量	處分價格	買受人	備考
立木ノマ、賣却	立木ノマ、賣却				經營上却	製造、薪材				

	枯伐等採	造林ノタメ貯 藏(即チ翌年 度へ持越ノモ 等)

備考

- 一 立木ノマ、賣却スルモノハ減少理由、處分方法共立木ノ儘賣却トス
- 一 經營上伐採シタルモノノ内造林ノ上貯藏賣却若ハ消費シタルモノ製炭材又ハ薪材トシテ貯藏賣却若クハ消費セシモノ等アル場合ハ處分方法以下ノ欄ニ其ノ旨區分シテ記載ノコト

●國有財産タル竹ノ數量單位算出方ニ關スル件

○會計課長移牒 昭和七年八月六日

○大藏省管轄管財局總務部長通知管管第千八百九號ノ二 昭和七年八月一日

今般司法省ヨリ國有財産タル竹ノ數量ノ單位「束」ノ算出方ニ關シ別紙甲號ノ通照會有之乙號ノ通回答致候ニ付爲念及御通知候也

(別紙)

(甲號)

國有財産立木竹ノ材積ハ樹木ハ石、竹ハ束ヲ以テ數量ノ單位ト爲スヘキ記載例ニ有之候處從來竹ニ付テハ未ダ曾テ報告ノ例ナク又記載例ニ於テモ算出ノ基準ニ關シ何等明示無之候ヘトモ逕回昭和七年三月末日國有財産現在額報告書ニ於テ之カ報告ヲ要スルモノ相生シ候處竹ノ一束トハ如何ナル方法ニ依リ算出スヘキモノナル哉其ノ基準ニ付聊カ疑義有之候條至急何分ノ御回示煩度候也

(乙號)

(文會例)

(文會例)

教練振作ニ要スル狹窄射擊場ノ標準ニ關シ内務省管保局長ヨリ廳府縣長官宛別紙寫ノ通リ通牒有之タルニ付爲念申進ム
(別紙寫)

○内務省管保局長通牒管保局甲三十二號 大正十五年四月二十一日 廳府縣長官

現役陸軍將校ヲ配置セル中等以上ノ學校ニ於テ教練振作ノ爲其ノ校庭ニ狹窄射擊場ヲ設置スル向有之候處ニ候處右ハ大體別紙標準ニ依リ設置セシムル様御措置相成度

追テ本件ハ陸軍及文部兩當局トモ打合濟ニ有之候間申添候
(別紙)

狹窄射擊場設置標準

- 一 狹窄射擊場ノ構造ハ大體別紙圖例ニ依ルコト
- 二 射擊場ハ危害ヲ生スル虞ナキ場所ヲ選定スルコト
- 三 標的ノ後方ニ天然又ハ人造ノ掩體存在シ危害ヲ發生スル虞全然ナキ時ハ射擊場ノ設置ヲ省略スル得ルコト
- 四 三ニ該當セサル場所ニ射擊場ヲ設置シタル場合發射臺ニ立チテ射擊ノ後方ヲ望見シ狹窄實包有發著彈距離(三八式約二百四十メートル、三十年式約九十メートル)内ニ土地又ハ建築物ヲ踏透シ得ル時ハ之ヲ踏透スコトヲ得サル程度ノ高サヲ有スル防彈牆ヲ射擊ノ後方ニ設ケタルコト
- 五 防彈牆ハ三センチメートル松板ノ裏面ニ三ミリメートルノ亞鉛引鐵板ヲ打付ケタルモノ又ハ二十センチメートルノ松板(薄キ松板ヲ數枚重ねテ以上ノ寸法トスルモ差支ナシ)ヲ以テ構造スルコト
- 五 射擊ノ内射面其ノ他射擊場内ニハ岩石ノ類ヲ露出セサルコト

七月十八日附司法省會甲二〇三七號ヲ以テ國有財産タル竹ノ數量ノ單位「束」ノ算出方ニ關シ御照會相成候處右ハ「三尺繩」ヲ以テ一束トシテ御取扱相成可然ト存候此段及回答候也
(參考)

●船舶ヲ國有財産ニ編入整理スルノ件

○司法省會計課長通牒會甲第四百八十八號 昭和五年二月二十日

從來船舶ノ取扱ハ區々ニ相成居候ヘトモ右ハ船舶法ニ據ル船舶ノミナラス小蒸氣船、發動機船、船艙ニテ運轉スル舟、短艇等總テ之ニ包含スル義ニ有之候間右ニ該當スル船舶ヲ物品トシテ處理セラレアル向ハ昭和四年度ニ於テ國有財産ニ編入整理相成度候

追テ右ハ國有財産整理種目表ニ基キ受入事由ヲ「國有財産ニ編入」トシテ臺帳ニ登錄相成度爲念申添候

●狹窄射擊場設置標準ニ關スル件

○次官通牒會百六號 大正十五年六月十八日

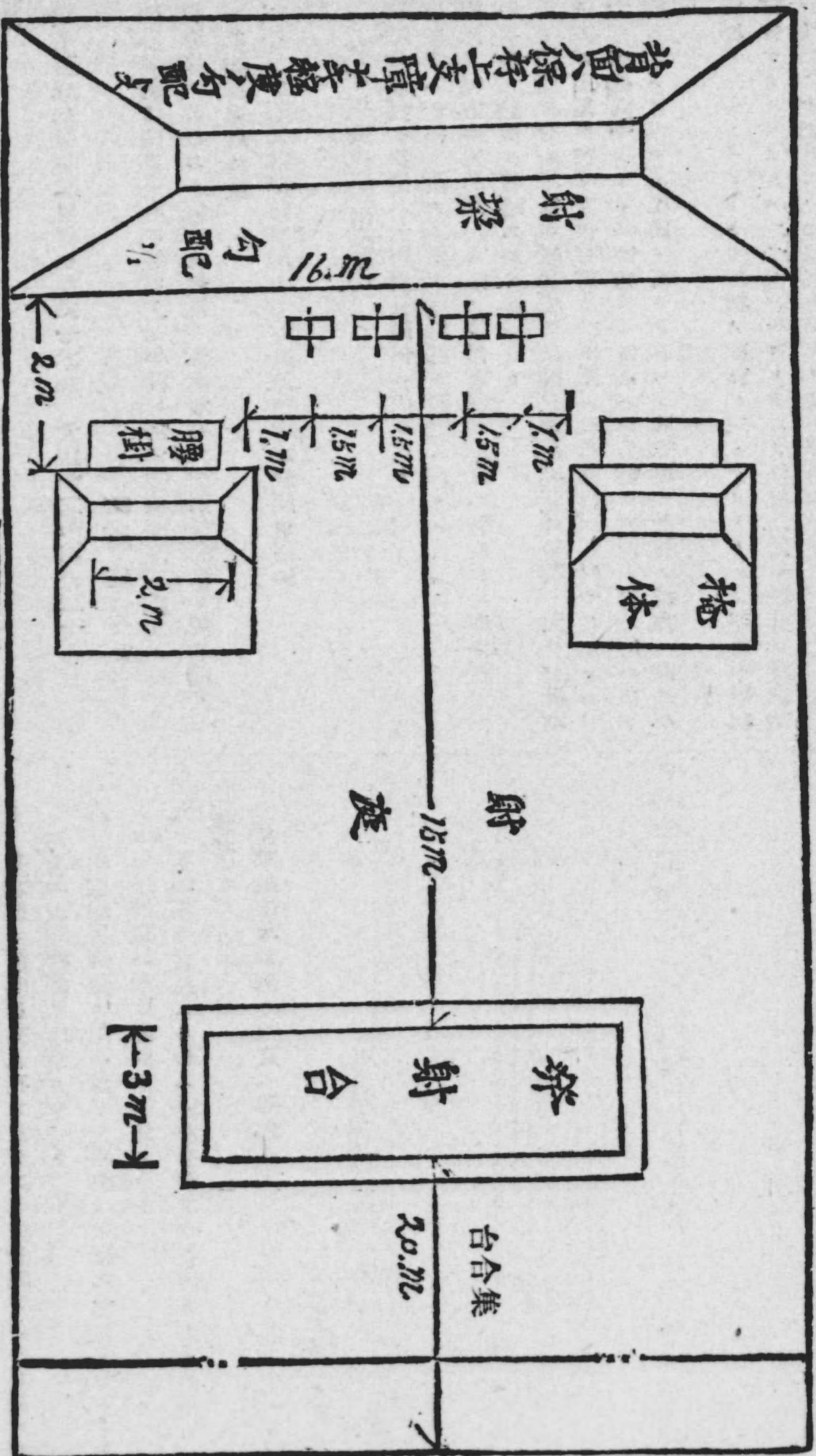
直轄部局長

(文會例)

(文會例)

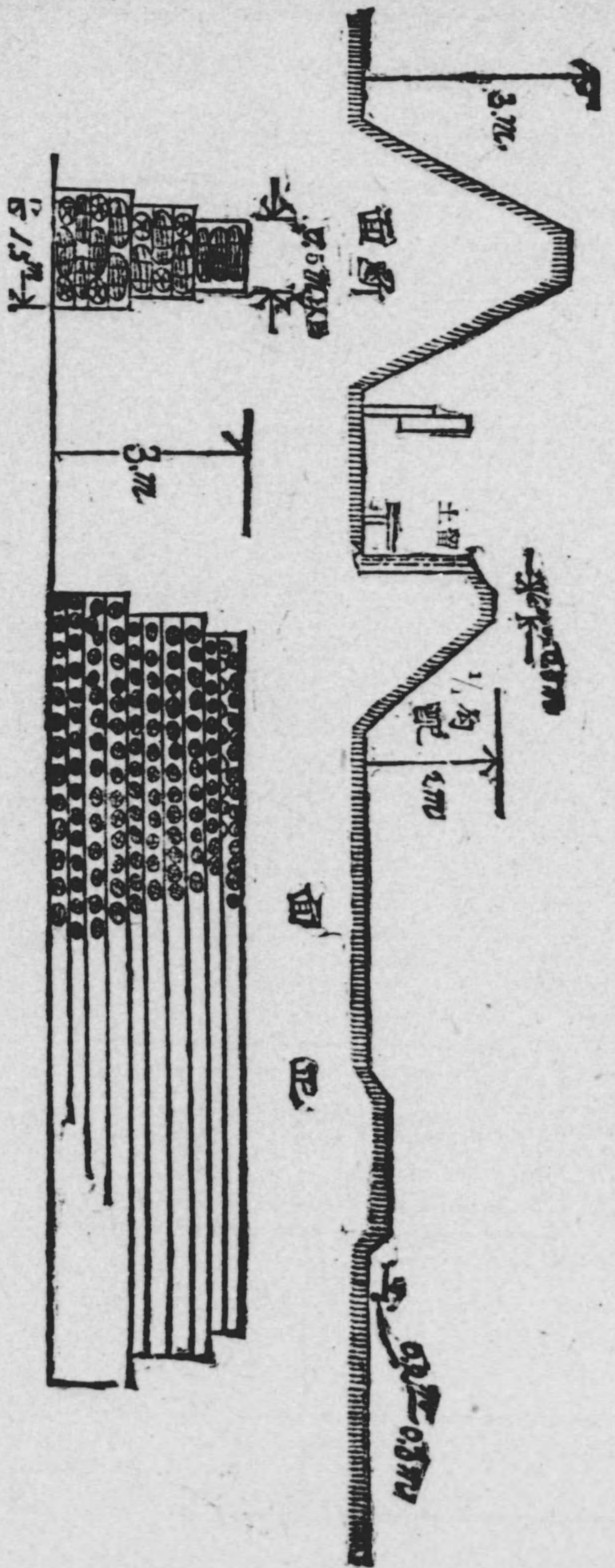
- 六 射擊場ノ構築物ニシテ發射臺ニ面スル側ニハ金具類ヲ露出セサルコト
- 七 射擊脚ニ標的脚挿入孔ヲ設ケ之ニ標的脚ヲ挿入シ又ハ植杭シテ之ニ結著スル等標的ヲ固定スルコト
- 八 兩監的場掩體ノ間ニ設ケル標的(大體九十センチメートル方形トスルコト)數ハ最大限四箇ト爲スコト
- 九 監的所ニ交通スル時ハ一時射擊ヲ中止スルコト
(備考)

狹窄射擊場圖例ハ次頁ニ掲記ス



〔文會例〕

〔文會例〕



第九章
物
品

第九章 物品

●物品會計規則

○勅令第八十四號 明治二十二年六月十二日

改正 明治二十四年第七號、明治三十三年第三一八號、大正一一年第四八號、昭和六年第一三三號

第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關スルモノハ各其ノ規則ニ依ル

政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ各省大臣ヨリ會計検査院ヘ通知スヘシ

第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス

第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ

第五條ノ二 所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ專賣官署ノ事務員ヲシテ物品ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大臣大臣ト協議シ其ノ應ノ事務員ヲシテ物品ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第五條ノ三 前條ノ規定ニ依リ物品ノ出納保管ニ關スル事務ノ分掌ヲ命セ

第九章 物品

〔文會例〕

ラレタル事務員ハ物品會計官吏所屬ノ物品出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

第六條 物品會計官吏又ハ物品出納員ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏又ハ物品出納員ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス

第十條 物品會計官吏又ハ物品出納員ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其ノ他物品會計官吏又ハ物品出納員ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十條ノ二 各省大臣ハ検査ノ官吏ヲ命シ四年以内ヲ以テ一期トシ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ保管スル物品ノ全部ヲ精細ニ検査セシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ但シ廳費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ニ検査ノ方法ヲ設クヘシ

第十一條 常時出納ヲナササル倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目錄ト現在品ノ照合ヲ

ナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十三條 各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査ノ官吏ヲ命シテ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ帳簿物品ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十四條 第十條ノ二、第十一條、第十二條及前條ノ調書ニハ検査官吏及検査ヲ受ケタル物品會計官吏又ハ物品出納員若ハ特ニ命セラレタル立會人ノ署名スヘシ

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲物品出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ差出スヘシ

第十六條 物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十七條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十八條 常時出納ヲナササル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除

〔文會例〕

ルモノヲ共用備品トシ職員各自ニ專用スルモノヲ專用備品トス但備品、消耗品ノ種別ハ會計課長之ヲ定ムヘシ

第三條 各物局通常所要ノ備品及消耗品ハ會計課長其ノ員數ヲ豫定スヘシ

第四條 物品出納ノ命令ハ會計課長之ヲ發シ物品會計官吏ノ職務ハ會計課長用度掛長之ヲ執行スヘシ但必要アルトキハ一部局ヲ限リ特ニ物品會計官吏ヲ置クコトアルヘシ

第五條 第二款 出納

第六條 通常所要ノ物品ハ會計課長其ノ定數以內ニ於テ直ニ出納ノ命令ヲナスヘシ

第七條 臨時所要ノ物品ハ各物局長ノ請求ニ依リ會計課長之ヲ監査シ出納ノ命令ヲナスヘシ但會計課長ニ於テ必要ト認メサルトキハ其ノ請求ニ應セヌ又ハ文部大臣ノ裁定ヲ乞フヘシ

第八條 各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査ノ官吏ヲ命シテ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ帳簿物品ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第九條 物品ノ修理及運搬等ハ第七條ノ例ニ依ル

ヲ會計検査院ヘ求ムルコトヲ得

第十八條ノ二 會計検査院法第十六條ニ依リ委託検査ニ付シタル物品ニ對シテハ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明セシメ第十五條ノ計算書ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 會計規則第七十五條、第二百二十五條、第二百二十六條、第三百二條乃至第三百三十五條及第四百十四號ハ物品會計官吏又ハ物品出納員ニ準用ス

第二十條 物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ様式ハ各省大臣之ヲ定メ發布前會計検査院ヘ通知スヘシ

第二十一條 官吏ノ職務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

●文部本省物品會計規程

○大臣裁定 明治二十三年三月三十一日

附則 明治三十八年三月

第一條 本省ノ所有ニ屬スル物品ハ會計課長之ヲ管理シ其ノ保管及出納ハ物品會計規則ニ基キ此ノ規程ニ從ヒ處理スヘシ但記録管理ノ書冊ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二條 物品ヲ大別シテ備品、消耗品ノ二種トシ又備品ノ各物局共用ニ係任スルコトヲ得

〔文會例〕

第三條 賣却ニ係ル物品ハ代價徴收ノ後ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第四條 各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査ノ官吏ヲ命シテ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ帳簿物品ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第五條 各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査ノ官吏ヲ命シテ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ帳簿物品ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第六條 各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査ノ官吏ヲ命シテ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ帳簿物品ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第七條 各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査ノ官吏ヲ命シテ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ帳簿物品ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第八條 各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査ノ官吏ヲ命シテ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ帳簿物品ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第九條 各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査ノ官吏ヲ命シテ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ帳簿物品ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十條 各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査ノ官吏ヲ命シテ物品會計官吏又ハ物品出納員ノ帳簿物品ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第九章 物品

任者ヲ置ク

一 監 督 各局長若クハ上席者

一 物品監守者 屬 僚

一 物品取扱主任者 同 上

第十六條 各局長ハ其ノ部局ノ狀況ニ應シ一名若クハ二名以上物品監守者及物品取扱主任者ヲ選定シ該官氏名ニ印鑑ヲ添ヘテ會計課ニ通報スヘシ但シ變更シタルトキハ其ノ都度本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 共用物品ノ監守及取扱上不完全ノ廉アルトキハ其ノ輕重ニ依リ當該監督又ハ監守者又ハ取扱主任者其ノ責ニ任スヘシ

第十八條 専用物品ハ各自之ヲ監守シ其ノ責ニ任スヘシ

第十九條 各部局ニ於テ物品ノ毀損又ハ紛失アルトキハ物品監守者ニ於テ其ノ實況ヲ詳記シ當該監督之ヲ證明シテ會計課ニ通報スヘシ

第二十條 物品ヲ毀損シ或ハ紛失シタルトキハ其ノ實況ニ依リ該毀損者若クハ紛失者又ハ監守者若クハ取扱主任者ヲシテ修理セシメ又ハ代品若クハ代價辨償セシムルモノトス但本文ノ場合ニ於テハ物品檢閲委員ノ審議ヲ經テ會計課長之ヲ處理スヘシ但シ其ノ事項ノ重キモノハ文部大臣ノ裁定ヲセフヘシ

第二十一條 各部局ニ於テ不用ニ屬シタル物品アルトキハ直ニ會計課ニ返付スヘシ豫備等ノ名ヲ以テ之ヲ置クコトヲ得ス

第四款 削除

第二十二條 削除

第二十三條 削除

第二十四條 削除

第二十五條 削除

第五款 檢 閱

第二十六條 文部大臣ハ物品檢閲委員長一名委員若干名ヲ設ケテ本省所有物品ノ保管及使用並消費上ノ可否ヲ檢査セシムヘシ

第二十七條 檢閲ヲ分チテ定期、臨時ノ二トス

第二十八條 定期檢閲ハ毎年六月其ノ時日ヲ定メテ之ヲ施行シ臨時檢閲ハ臨時之ヲ施行スヘシ

第二十九條 物品檢閲委員長及委員ハ毎年之ヲ任命シ其ノ任期ハ一年トス

第三十條 物品檢閲ノ期日及檢閲委員氏名ハ檢閲委員長ヨリ豫メ各局長ニ通報スヘシ

第三十一條 物品檢閲委員ノ檢査スヘキ要領左ノ如シ

一 物品保管ノ適否

一 物品使用ノ適否

一 消耗品消費ノ適否

一 物品毀損ノ有無

一 備品及消耗品支給定數ノ過不足

第三十二條 物品檢閲ノ際ハ在庫ノ物品ニ付テハ物品會計官吏若クハ代理者使用中ノ物品ニ付テハ物品監守者又ハ物品取扱主任者其ノ席ニ列シ檢閲委員ノ質問ニ答フヘシ但檢閲委員長ハ時宜ニ依リ直ニ監督ニ質義ヲナスヘシ

第三十三條 物品檢閲委員ニ於テ檢閲上故障ナシト認定シタルトキハ帳簿ニ檢印シテ之ヲ證スヘシ若シ故障アルトキハ當該責任者ヨリ願末書ヲ差出サシムルコトヲ得但該願末書ニハ當該監督ニ於テ檢印スヘシ

〔文會例〕

〔文會例〕

第三十四條 物品檢閲委員其ノ檢閲ヲ終リタルトキハ檢閲狀況及物品一般ノ現狀並物品ノ使用及支給上ノ當否等ニ付意見ヲ具シ文部大臣ニ申報スヘシ

第六款 帳 簿

第三十五條 物品會計官吏ハ物品ノ出納保管ヲ明確ニスル爲メ左ノ帳簿ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

一 物品出納簿

一 證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ及在庫並使用物品ノ現在ヲ明ニス

一 備品支給簿

一 命令文書ニ基キ使用ニ供シタル物品ヲ記入シ監守者若クハ取扱主任者ヲシテ受領ノ印證ヲ捺シテ受領ノ印證ヲ捺セシム

一 消耗品支給簿

一 命令文書ニ基キ支給ノ物品ヲ記入シ取扱主任者ヲシテ受領ノ印證ヲ捺セシム

前項ノ外補助簿ハ適宜之ヲ設ケヘシ

第三十六條 各局課ニ於テハ備品監守簿及消耗品受拂簿ヲ備ヘテ物品ノ現存及受領ヲ明確ナラシムヘシ

第七款 報告書及計算書

第三十七條 削除

第三十八條 削除

第三十九條 削除

第四十條 物品出納計算書ノ下檢査ハ會計課長之ヲ執行スヘシ

第四十一條 各部局ニ於テハ毎月五日迄ニ前月中消耗品ノ受拂表ヲ調製シ

第九章 物品

第九章 物品

第九章 物品

會計課ニ報告スヘシ

第八款 附 則

第四十二條 本規程施行ニ要スル帳簿及諸表ノ様式ハ會計課長之ヲ定メテ文部大臣ノ裁決ヲ經ヘシ

第四十三條 物品ノ種別ヲ定メ又ハ其ノ員數ヲ豫定シタルトキハ其ノ都度文部大臣ニ開申スヘシ

●文部省直轄各部物品會計規程

○大臣裁定 明治二十三年三月三十一日

改正 明治三十六年九月

第一條 本省直轄各部ノ所有ニ屬スル物品ハ當該各部長之ヲ管理シ其ノ保管及出納ハ物品會計規則ニ基キ此ノ規程ニ從ヒ處理スヘシ

第二條 物品ヲ大別シテ備品、消耗品ノ二種トシ又備品ノ各室共用ニ係ルモノヲ共用備品トシ職員各自ニ專用スルモノヲ專用備品トス

第三條 通常所用ノ備品及消耗品ハ直轄各部長其ノ員數ヲ豫定スヘシ但學術用器械標本等ニシテ豫定シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第四條 直轄各部長ハ部内ノ狀況ニ依リ重ナル職員ニ物品ノ區域ヲ定メテ之ヲ管理ヲ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨文部大臣ニ開申スヘシ

第五條 物品出納ノ命令ハ直轄各部長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ發スヘシ

第九章 物品

- 第六條 物品會計官吏ハ直轄各部長之ヲ命スヘシ
直轄各部ニ於テハ部内ノ狀況ニ依リ物品ノ區域ヲ定メテ物品會計官吏ヲ分置スルコトヲ得
- 第七條 支給ノ物品ハ總テ責任アル職員ニ渡シ受領ノ證トシテ帳簿ニ捺印セシメ若クハ別ニ領收證書ヲ徴スヘシ
- 第八條 各室共用ノ物品ハ之ヲ監守及取扱ノ主任者ヲ定メ置キ該物品ノ監守又ハ取扱ニ關スル責ニ任セシメ又職員各自專用ノ物品ハ各自監守ノ責ニ任セシムヘシ
- 第九條 物品會計官吏ハ物品ノ出納保管ヲ明確ニスル爲メ出納簿其ノ他ノ帳簿ヲ設ケテ物品ノ出納又ハ在庫並使用物品ノ現在及物品ノ受授ヲ登記シ物品監守者ハ物品監守簿ヲ設ケテ其ノ監守スル物品ノ品名員數及受授ノ年月日等ヲ詳記スヘシ在庫及使用中ノ備品ハ物品會計官吏ニ於テ時々修理ヲ要スルモノノ員數ヲ調査シ修理ノ手續ヲナスヘシ
- 第十條 物品ノ購買、修理、賣却等ハ成規ニ依リ之ヲ執行スヘシ但賣却シタル物品ハ代價徴收ノ後ニアラサレハ引渡スコトヲ得ス
- 第十一條 削除
- 第十二條 物品會計官吏保管ノ物品ヲ亡失毀損シ又ハ第九條ニ掲クル使用物品ニ付テ其ノ監督ヲ怠リタルトキハ當該直轄各部長其ノ事實ヲ審査シ故意怠惰ニ出タルモノト認ルトキハ文部大臣ニ具申スヘシ
- 第十三條 物品ヲ毀損シ或ハ紛失シタル者アルトキハ其ノ實況ニ依リ該毀損者若クハ其ノ紛失者又ハ監守者若クハ取扱主任者ヲシテ修理セシメ又ハ代品若クハ代價ヲ辨償セシムヘシ
- 第十四條 直轄各部長ハ物品檢關委員ヲ設ケ毎年一回以上物品ノ保管出納

及監守取扱ニ關スル實況ヲ検査セシムヘシ但時トシテ文部大臣ヨリ檢關委員ヲ派遣シテ之ヲ検査セシムルコトアルヘシ
物品會計規則第十條ノ二ノ検査ヲ爲シタル年ニ於テハ廳費ニ屬スル物品ヲ除キ前項ノ検査ヲ省略スルコトヲ得
第十四條ノ二 物品會計規則第十條ノ二ニ依ル検査ノ官吏ハ四年毎ニ直轄各部長之ヲ命シ其ノ調書ハ文部大臣ニ進達スヘシ

第十五條 削除
第十六條 削除
第十七條 物品出納計算書ノ下検査ハ直轄各部長若クハ第四條ニ據リ管理ノ責任アル官吏之ヲ執行スヘシ
第十八條 本規程施行ニ要スル細則並帳簿及諸表ノ様式ハ直轄各部長之ヲ定メ文部大臣ノ裁決ヲ經ヘシ

第十九條 削除

●文部省圖書會計規程

- 大臣裁定 昭和六年五月十一日
- 第一條 本省所屬ノ圖書ハ會計課長之ヲ管理シ其ノ保管及出納ハ物品會計規則ニ基キ此ノ規程ニ從ヒ物品會計官吏之ヲ處理スヘシ
- 第二條 圖書出納ノ命令ハ會計課長之ヲ發スヘシ
- 第三條 圖書ニ關スル物品會計官吏ハ會計課職員中ヨリ之ヲ命ス
本規程ニ於テ物品會計官吏ト稱スルハ前項ノ圖書ニ關スル物品會計官吏ヲ謂フ

〔文會例〕

- 第四條 物品會計官吏圖書ヲ受入レタルトキハ直ニ圖書原簿ニ番號受入年月日圖書名著譯編者氏名發行者氏名出版地出版年月價格部冊數排列等ヲ登錄シ別ニ分類目錄及カード目錄ヲ調製スヘシ
- 第五條 前條ノ手續ヲ了ヘタルトキハ圖書ニ排列番號ヲ記入シタル札ヲ貼付シ書庫ニ藏置スヘシ
- 第六條 本省職員執務上必要ナル圖書ハ各自之ヲ借受クルコトヲ得
部局ニ於テ共用スル圖書ハ各部局之ヲ借受クルコトヲ得
前項ノ圖書ハ當該部局長圖書取扱主任ヲシテ之ヲ借受ケシムヘシ
- 第七條 圖書取扱主任ハ部局長當該部局職員中ヨリ之ヲ命スヘシ
部局長圖書取扱主任ヲ命シタルトキハ直ニ其ノ官職氏名ニ印鑑ヲ添ヘ會計課長ニ通知スヘシ
- 第八條 圖書ヲ借受ケントスル者ハ所定ノ様式ニ依ル借用證書ヲ提出スヘシ
- 第九條 第六條第一項ニ依ル圖書借受ノ期間及冊數ハ左ノ如シ但特別ノ必要アリ會計課長ノ承認ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス
一、期 間 三十日以内
一、冊 數 十冊以内
- 第十條 借受ケタル圖書ニツキ物品會計官吏ヨリ返還ヲ求メラレタルトキハ借受人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十一條 凡テ借受ケタル圖書ハ他ニ轉貸スルコトヲ得ス
- 第十二條 部局共用ノ圖書ハ溢ニ帶出スルコトヲ得ス
- 第十三條 圖書ヲ借受ケタル者ハ其ノ保管ノ責ニ任シ亡失毀損ヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ旨物品會計官吏ニ通知スヘシ

第九章 物品

前項ノ保管ノ責任ヲ怠リ圖書ヲ亡失毀損シタルトキハ代價若クハ代品ヲ以テ辨償セシムルコトアルヘシ

第十四條 物品會計官吏ハ圖書保管ニ關シ左ノ事項ヲ執行スヘシ
一、毎年一回圖書ヲ爲シ圖書原簿ト照合スヘシ
二、各部局共用ノ圖書ハ毎年一回以上點檢スヘシ
三、貸付ケタル圖書ハ常ニ貸付期限ニ注意シ必要ト認ムルトキハ貸付期限内ト雖臨時返還セシメテ之ヲ點檢スヘシ

第十五條 本規程ニ定メサルモノハ文部省物品會計規程ノ定ムル所ニ依ル

附 則
本規程ハ昭和六年五月十一日ヨリ之ヲ施行ス
文部省書庫備付圖書取扱規程ハ之ヲ廢止ス

●文部省建築用物品出納規程
○大臣裁定 明治三十五年一月三十一日

第一條 建築用物品ハ總務局建築課長之ヲ管理シ物品會計規則ニ基キ此ノ規程ニ從ヒ處理スヘシ
但設備費ニ屬スル物品ハ建築用物品以外トス

第二條 建築用物品ヲ別チ建築材料、建築用具、事務用備品、消耗品ノ四種トス

第三條 建築用物品ノ出納命令ハ建築課長又ハ其ノ委任ニ依リ建築課出張所長之ヲ發スヘシ

第四條 建築課及建築事務所ノ建築用物品ハ建築課ニ物品會計官吏ヲ置キ建築課出張所ノ建築用物品ハ出張所ニ物品會計官吏ヲ置キ之ヲ保管セシム

但工事實施ノ狀況ニ依リ分任物品會計官吏ヲ置クコトアルヘシ

第五條 建築事務所ノ物品ニ對シテハ物品取扱主任ヲ置キ物品會計官吏ニ專屬セシム

第六條 職員ノ專用品ハ當該使用者、職員ノ共用品ハ當該職員ノ上席者監守ノ責ニ任スヘシ

第七條 前條ノ職員故意怠惰ニ依リ監守ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ排償ノ責ニ任スヘシ

第八條 物品會計官吏ハ物品出納簿ヲ設ケ共用品監守者ハ共用品監守簿ヲ設ケ其ノ受拂ヲ明ニスヘシ但補助簿ハ建築課長ニ於テ適宜之ヲ設ケシムルコトヲ得

第九條 工事ノ廢止設計ノ變更等ニヨリ不用ニ歸シタル物品及一費目ノ工事竣功後ノ殘品若クハ貯藏中性效ヲ失シ使用ニ堪ヘサルモノヲ生シタルトキハ建築課長會計課長合議ノ上之カ處分ヲナスヘシ

第十條 物品ヲ亡失シ或ハ毀損シタルモノアルトキハ建築課長其ノ事實ヲ審査シ故意怠惰ニ出タルモノト認ムルトキハ責任者ヲシテ之ヲ修理セシメ又ハ代品若クハ代價ヲ辨償セシムヘシ但物品會計官吏及分任物品會計官吏ノ責任ニ對シテハ文部大臣ノ裁定ヲ經テ之ヲ處分スヘシ

第十一條 建築課長ハ毎年一回以上實施ニ臨ミ又ハ課員ヲ派遣シ建築用物品ノ出納保管ニ關スル實況ヲ検査スヘシ

但文部大臣ハ繼續工事ノ最終其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テ特ニ検査ノ

〔文會例〕

今般内務省及所管廳物品取扱規程改正ニ付テハ政府ノ保管ニ屬スル物品ハ其廳長官ニ於テ保管ノ方法ヲ設ケ不取締ナキ權取扱ハシムヘシ

〔文會例〕

●物品出納命令官ト物品會計官吏ト相兼又ルヲ得サル件

○會計検査院決議第九十號 明治二十四年八月

物品出納命令官ト物品會計官吏ト相兼スルヲ得ルヤ否ヤハ法規上據ルヘキ正條ナシト雖法規ノ精神ヨリ見ルモ事務ノ性質ヨリ云フモ自ラ確然タル區分ノ存スルノミナラス命令出納互ニ相制裁スルノ必要アルニ依リ兩者固ヨリ相兼スルヲ得サルヤ明カナリ但シ區裁判所(小林區署)等入少ノ官衙ニアリテハ物品會計規則第六條第十二條ノ規定アルヲ以テ本決議ノ爲メ支障ナク此他臨時兼掌セシモノハ其事情ニ從ヒ之カ當否ヲ検査スルハ勿論ナリ

●航海練習所所屬練習船物品出納命令官ニ關スル件

○大臣裁定發會二百九十六號 昭和五年六月十二日

航海練習所所屬練習船ノ物品ニ關スル文部省物品會計規程上ノ會計課長ノ職務ハ各船長之ヲ執行スベシ

●美術研究所長ヲシテ同所所屬物品ヲ管理、出納セシムルノ件

官吏ヲ命ジ之ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第十二條 物品出納計算書ノ下検査ハ建築課長之ヲ執行スヘシ

第十三條 本規程施行ニ要スル手續及帳簿諸表ノ様式等ハ建築課長之ヲ定ムヘシ

(參考)

●物品會計規則第一條範圍ノ物品及其取扱方

○内務省會計局通知局第五百四號 明治二十二年十月九日

物品會計規則第一條範圍内ノ物品中疑義ノ廉其筋ヘ承合シタルニ左ノ趣意ナリトス

一、書籍及新聞雜誌諸帳簿郵便切手ノ類モ渾テ物品會計規則第一條ノ範圍内ニ有之候

一、警備工事用木石材、敷物、硝子板、釘等ノ類ニテ入用ノ時々使用スル物品モ前項同様ニ有之候

一、報告書及計算書ヘ記入スヘキ用紙其他ノ物品ニシテ品質ヲ異ニセサルモノハ便宜集合相成モ差支ナシ假令ハハ美濃十三行同十行同八行ノ各野紙ヲ單ニ美濃野紙トスルカ如シ

一、他官廳ヘ貸與セシ物品ハ所有權ヲ轉換セサルモノニ付補助簿ヘ記入シ置迄ニテ報告書計算書等ニハ出納ノ記入ニハ不及候

一、各種ノ標本類ハ官有財産管理規則部内ノモノニ可有之ニ付該規則發布迄ハ先以テ從前ノ通御取扱相成可然候

(參考)

●政府ノ保管ニ屬スル物品取扱方

○内務省内調第七十四號 明治三十五年三月二十八日

○會計課長通牒 昭和十三年五月二日

美術研究所長

昭和十三年五月二日付ヲ以テ貴所々屬物品ハ貴官限り之ガ管理、保管及出納セシムルコトニ決定相成タルニ付爾今文部省物品會計規程ニ準據シ物品會計官吏ヲ設置ノ上可然御處理相成度依命此段通牒ス

●遺失物法

○法律第八十七號 明治三十二年三月二十四日

改正 大正二年第四號

第一條 他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ遺失者又ハ所有者其ノ他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其ノ物件ヲ返還シ又ハ警察官署ニ之ヲ差出スヘシ但シ法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ハ返還スルノ限ニアラス

物件ヲ警察官署ニ差出シタルトキハ警察官署ハ物件ノ返還ヲ受クヘキ者ニ之ヲ返還スヘシ若シ返還ヲ受クヘキ者ノ氏名又ハ居所ヲ知ルコト能ハサルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲スヘシ

第二條 警察官署ハ其ノ保管ノ物件滅失又ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不當ノ費用若ハ手數ヲ要スルトキハ命令ノ定ムル方法ニ從ヒ之ヲ賣却スルコトヲ得

賣却ノ費用ハ賣却代金ヨリ支辨ス

賣却費用ヲ控除シタル賣却代金ノ殘額ハ拾得物ト看做シテ之ヲ保管ス賣却處分ニ對シテハ出訴スルコトヲ得ス

第三條 拾得物ノ保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ物件ノ返還ヲ受クル者又ハ物件ノ所有權ヲ取得シ之ヲ引取ル者ノ負擔トシ民法第二百九十五條乃至第三百二條ノ規定ヲ適用ス

第四條 物件ノ返還ヲ受クル者ハ物件ノ價格百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル報勞金ヲ拾得者ニ給スヘシ但シ國庫其ノ他公ノ法人ハ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 第二條ニ依リ賣却シタル物件ニ付テハ賣却代金ノ額ヲ以テ物件ノ價格トス

第六條 第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ハ物件ヲ返還シタル後一箇月ヲ過クルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條 拾得者ハ豫メ申告シテ拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免ルルコトヲ得

第八條 物件ノ返還ヲ受クヘキ者ハ其ノ權利ヲ拋棄シテ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金辨償ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

物件ノ返還ヲ受クヘキ各權利者其ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ拾得者其ノ物件ノ所有權ヲ取得ス但シ拾得者其ノ取得權ヲ拋棄シ第一項ノ例ニ依ルコトヲ得

法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ヲ拾得シタル者ハ所有權ヲ取得スルノ限ニアラス

第九條 拾得物其ノ他本法ノ規定ヲ準用スル物件ヲ橫領シタルニ依リ處罰セラレタル者及拾得ノ日ヨリ七日内ニ第一條第一項又ハ第十一條第一項ノ手續ヲ爲ササル者ハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ受クルノ權利並ニ拾得物ノ所有權ヲ取得スルノ權利ヲ失フ

〔文會例〕

第十條 管守者アル船車建築物其ノ他公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者ハ其ノ物件ヲ管守者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船車建築物等ノ占有者ヲ以テ拾得者トス自己ノ管守スル場所ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者亦同シ

本條ノ場合ニ於テ報勞金ハ前項ノ占有者ト現ニ物件ヲ拾得シタル者ト折半スヘシ

第十一條 犯罪者ノ置去リタルモノト認ムル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ其ノ物件ヲ警察官署ニ差出スヘシ

前項ノ物件ニ關シテハ法律ノ規定ニ依リ沒收スルモノヲ除ク外本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ公訴權消滅ノ日ヨリ一箇年間還付ヲ受クル者ナキトキニ依リ拾得者ニ於テ所有權ヲ取得ス

犯罪捜査ノ爲必要ナルトキハ警察官署ニ於テ公訴權消滅ノ日マデ公告ヲ爲ササルコトヲ得

第十二條 誤テ占有シタル物件他人ノ置去リタル物件又ハ逃走ノ家畜ニ關シテハ本法及民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ誤テ占有シタル物件ニ關シテハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 埋藏物ニ關シテハ第十條ノ外本法ノ規定ヲ準用ス

學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物ニシテ其所有者知レサルトキハ其ノ所有權ハ國庫ニ歸屬ス此ノ場合ニ於テハ國庫ハ埋藏物ノ發見者及埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ニ通知シ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ給スヘシ

埋藏物ノ發見者ト埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ト異ルトキハ前項ノ金額ハ折半シテ之ヲ給スヘシ

〔文會例〕

本條ノ金額ニ不服アル者ハ第二項ノ通知ノ日ヨリ六箇月内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 本法及民法第二百四十條第二百四十一條ノ規定ニ依リ物件ノ所有權ヲ取得シタル者取得ノ日ヨリ六箇月内ニ物件ヲ警察官署ヨリ引取ラサルトキハ所有權ヲ喪失ス

第十五條 本法ノ規定ニ依リ警察官署ニ保管スル物件ニシテ交付ヲ受タル者ナキトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス

第十六條 削除

附則

第十七條 明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

(參考)

●學術技藝若ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物發見ノトキ
取扱方

○内務省内訓第九百八十五號 明治三十二年十月二十六日

廳 府 縣

遺失物法第十三條ニ依リ學術技藝若ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物ヲ發見シタルトキハ其ノ品質形狀發掘ノ年月日場所及口碑等徵證トナルヘキ事項ヲ詳記シ模寫圖ヲ添ヘ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ通知スヘシ

一古墳關係品其他學術技藝若ハ考古ノ資料トナルヘキモノハ宮内省
一石器時代遺物ハ東京帝國大學

宮内省又ハ東京帝國大學ヨリ前項埋藏物送付ノ通知ヲ受ケタルトキハ假領收證書ヲ發シ物品ノ毀損セザル様裝置シテ之ヲ送付スヘシ運送ニ

關スル費用ハ警察費ヲ以テ支辨シ宮内省又ハ東京帝國大學ニ要求スヘシ

宮内省又ハ東京帝國大學ヨリ貯藏ノ必要アル旨通知ヲ受ケタル埋藏物ニシテ公告後法定ノ期間ヲ經過シ所有者發見セス所有權國庫ニ歸屬シタルトキハ其ノ宮内省ニ保ルモノハ相當代價ヲ以テ同省ニ讓渡シ東京帝國大學ニ保ルモノハ同學ニ保管轉換ノ手續ヲ爲シ當省ヘ報告スヘシ

宮内省又ハ東京帝國大學ヨリ貯藏ノ必要ナキ旨通知ヲ受ケタル埋藏物ハ學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ物件ノ取扱ヲ爲サス法定期間經過後發見者ニ交付スル等便宜ノ處分ヲ爲スヘシ

(參考)

●學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物取扱方

○内務省内訓第二百二十一號 明治三十四年四月一日

廳 府 縣 (東京府)

遺失物法第十三條ニ依リ學術技藝若ハ考古ノ資料ニ供スヘキ埋藏物取扱方ニ關シテハ三十二年十月訓第九八五號ヲ以テ訓令及置候處宮内省又ハ帝國大學ニ於テ保管ノ必要ナシト認メタル物件ニシテ地方長官ニ於テ教育其ノ他ノ參考トシテ保存ヲ要スト認ムルトキハ内務大臣ニ報告シ遺失物法第十三條第二項ニ依リ取扱ヒ廳府縣ニ於テ保管スルハ差支無之候而シテ發見者又ハ發見シタル土地所有者ニ給付スル相當代價ハ國庫費中(遺失物取得費)ノ目ヨリ支出スヘシ

(參考)

第九章 物品

●學術技藝者ハ考古ノ資料トナルヘキ埋藏物ニシテ東京帝國大學職員ニ於テ發掘ノ場合取扱方 (其ノ一)

○内務省訓令第六百五十五號 明治四十一年八月六日

警視廳
北海道廳
府縣(東京府ヲ除ク)

遺失物法第十三條ニ依リ學術技藝者ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物發見ノ場合ニ於ケル取扱方ニ付テハ明治三十二年十月二十六日付訓令九八五號ヲ以テ訓令ノ次第モ有之候處自今東京帝國大學職員發掘ノ場合ニ於テハ同訓令ニ依ルノ外左ノ通り取扱フヘシ

一 東京帝國大學職員ノ發掘シタル埋藏物ニシテ携帶歸學ノ必要ヲ申出タルモノアルトキハ假令收證書ヲ發シ便宜之レヲ交付スルコトヲ得但古墳ノ疑アル場合ニ於テハ同職員ニ於テ豫メ宮内省ノ同意ヲ得テ發掘ニ着手シタルコトヲ明記セシムヘシ

二 前項ノ取扱ヲ爲シタルトキハ同大學職員名、同大學ニ於テ宮内省ノ同意ヲ得タルニ付携帶歸學ヲ認メタルコト、發掘ノ年月日、場所及口碑等發掘トナルヘキ事項ヲ詳ニシ且ツ埋藏物ノ品質、形狀等ヲ明ニシ模寫圖ヲ添ヘ當省及宮内省ニ通報スヘシ

(參考)

●學術技藝者ハ考古ノ資料トナルヘキ埋藏物ニシテ東京帝國大學職員ニ於テ發掘ノ場合取扱方 (其ノ二)

○内務省警保局通牒東巳第十一號 明治四十一年八月六日

○次官裁定 明治二十七年十月三日

改正 明治二十九年四月

品名	局課名	用途
硯石	秘書課	辭令書認用
	專門學務局	教員免許狀認用
	教員檢定委員會	同上
硯	文書課	書類受渡用
	會計課	金券受拂所用
	建築課	圖書受渡用
製圖用具	建築課	繪圖面作成用
筆刷版用	各部局	印刷用
筆ペン	各部局	印刷用
留鉛筆	會議室	辭令書認用
毛筆、墨	秘書課	辭令書認用
	專門學務局	同上
	教員檢定委員會	同上
簿記用	會計課	簿記用
ペン先	會計課	簿記用

●維新史料編纂事務局兼墨特別支給方ノ件

○次官裁定 明治四十四年十一月十五日

本會編纂ニ屬スル寫字生淨書用筆墨ハ從來各自々辨ナルニ依リ鄭重ナル淨

第九章 物品

七〇八

府縣(東京府ヲ除ク)

東京帝國大學職員發掘ニ係ル埋藏物取扱方ニ付テハ別紙訓令相成候處右ハ古墳關係品タルト石器時代ノ遺物タルトヲ問ハス一旦携帶歸學スル義ニハ候ヘ共必ラスシモ同大學ニ於テ貯藏ノ必要有無ヲ判別スルモノ無之ニ付或ハ宮内省ヨリ同物件ニ對スル貯藏ノ要否ヲ申出候場合モ無論有之候次第ニ付テハ其ノ執レヨリ通報アル場合ニ於テモ明治三十二年十月二十六日付訓令九八五號訓令ニ依リ所有權歸屬ノ手續有之候様致度依命此段及通牒候也

(參考)

●學術技藝者ハ考古ノ資料ト爲ルヘキ埋藏物發見ノトキ取扱方

○内務省警保局通牒警甲第七號ノ内 明治三十四年四月一日

府縣(東京府ヲ除ク)

遺失物法第十三條第二項ニ依リ取扱フヘキ埋藏物中宮内省又ハ帝國大學ニ於テ保管ノ必要ナシト認メタル物件ニシテ參考用トシテ府縣ニ於テ保存スル場合ニ於ケル取扱方ニ關シ本日訓令相成候處右ニ依リ府縣ニ於テ保存セントスルトキハ可成豫メ宮内省又ハ帝國大學ニ依リ申シ其ノ適否ノ鑑別ヲ受ケ候上保存候事ニ御取扱相成様致度依命此段及通牒候也

●文部本省備付特別用文具

[文會例]

寫ヲ爲サシメンニハ勢ヒ特別支給ヲ要シ候次第ニシテ殊ニ本會史料ノ底本ハ一般書類ト異リ凡テ楷書ヲ用ヒ文字ノ大小ヲ一定スルノ必要アルカ故ニ筆墨モ亦從テ定メ置クコトヲ要シ候ニ付右ノ二種特別支給相成度仰裁可候也

●直轄各部局ヘ委託工事ノ物品取扱方ノ件

○文部大臣訓令會千三百十七號 明治三十四年十月八日

本省

直轄各部

直轄部局ニ委託セル工事ニ屬スル物品及購入委託ノ物品ハ自今購入ト同時ニ當該部局ニ交付ス

直轄各部

○次官通牒 明治三十四年十月八日會甲一三一七號ヲ以テ直轄各部局ニ委託セル工事ニ屬スル物品及購入委託ノ物品交付方訓令相成候處工事用ノ材料ハ右物品中ニ合入不致候ニ有之候條爲念此段御通牒候也

(參考)

●[監製]直轄工事ニ使用スル物品整理方

○司法省監獄局長會計課長通牒會檢甲第六十九號 明治三十四年五月十五日

直轄工事ニ使用スル爲メ新營費、修繕費ヨリ購買シ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ取得シタル物品ハ應用品ノ類中備品ニ於テ建築器具、同消耗品ニ於テ建築材料ノ部類ヲ明ニシ整理相成可然此段及御通牒候也

七〇九

追テ建築器具トハ工事ニ要スル器具器械ノ類建築材料トハ營造スヘキ目的物トナルヘキ木材金物等ノ類ニ有之何レモ一品目毎ニ區分整理スヘキモノニ候條爲念申添候也

●農科大學學術實驗生產品ハ物品出納ノ手續ヲ爲ササル件

○會計検査院部長回答 明治二十五年三月十九日 貴學々術實驗上ヨリ生産スル物品及試驗用材料ノ爲メ購入スル物品取扱ノ件ニ付御照會ノ趣了承右ハ來示ノ通御取計相成可然存候此段及御回答候也

○農科大學物品會計官吏照會 明治二十五年三月十四日 本學々術實驗上ヨリ生産スル物品即チ牛乳糖乳鶏卵果物蔬菜茶種苗等ノ特別取扱ヲ要スルモノノカ賣拂ノ場合ニ於テ普通物品ト同シク物品會計官吏ニ於テ成規ノ取扱ヲ爲ストキハ腐敗枯凋ノ虞有之且右等生産品ハ果シテ公衆ノ嗜好ニ適スルヤ否其ノ價格ノ費用ヲ價テ利益アリヤ否ヲ精考シ將來生産上ノ資料ニ供スルハ元來本學ノ目的ニ有之因テ物品會計規則施行前ハ主任教官ニ於テ直接販賣致候儀モ有之候然ルニ物品會計規則施行以來同規則ニ拘ハリ物品會計官吏ノ手ヲ經テ賣拂致候儀メ腐敗若クハ枯凋シ損廢ニ屬シ候モノ往々有之膏ニ手續ノ繁冗ノミナラス本學全體ノ目的ニ對シ妨碍不抄候ニ付自今物品會計官吏ニ於テ物品出納ノ手續ヲ爲サス主任教官ニ於テ直ニ賣拂爲致度又獸醫學實驗之試驗用材料トシテ購入スル牛馬等ノ類購入同時ニ試驗ニ供シ直ニ消滅スルモノモ前項同様物品會計官吏ニ於テ

〔文會例〕

物品出納ノ手續ヲ爲サス候條致度差支無之儀トハ存候得共一應御意見承知致度此段及御照會候也 追テ本文前段賣拂ノ場合ニ於テ代金收入ノ手續ハ成規ニ據リ收入官吏ニ於テ取扱候趣旨ニ有之候

●物品出納證明規程中贈與拂ニ關スル件

○會計課長決定 明治二十八年七月十五日 本年會計検査院達第二號物品出納證明規程第三條中贈與拂ノ物品ニ對シテハ云々ト有之右ハ物品會計官吏保管ノ物品中命令(即決議)ニ基キ拂出シタルモノヲ指シタル儀ニテ贈與ノ事項ヲ生シタル際購入シ直ニ配付(定委員ニ贈與スル)スルモノハ物品會計官吏ノ保管セサルモノニ付出納計算書ニ掲記セサル旨同院屬河原作ニ協議濟ニ依リ自然直轄各學校等ヨリ問合ノ節ハ右ノ旨答辯可致存候

●物品ハ品目別ニ記帳方ノ件

○次官裁定 大正六年一月二十三日 機械器具類ヲ使用スル學科毎ニ分類整理セルハ物品ノ箇數調査等ニ多大ノ手数ヲ要シ支障少カラサルニ付品目毎ニ分類整理ヲ要ス

●物品會計官吏交替ノ場合ニ於ケル物品出納簿記帳方ノ件

○司法省會計課長通牒會甲第八百九十號 大正二年十月十五日 物品會計官吏交替ノ場合ニ於ケル物品出納簿記帳方區々ニ相成リ居リ候ニ付右ハ自今引繼ノ際物品出納簿各口座ニ於ケル殘高ト現品トヲ對照シ該口座ノ受拂高ヲ計算シテ合計ヲ附シ其下ニ二線ヲ畫シ引繼年月日ヲ記入シ前任者後任者署名捺印ノ上受授セシメ候條御取計相成度依命此段及通牒候也

〔文會例〕

(別紙)

○內務省總務局長照會 明治二十二年四月十八日 今般閣令第十五號ヲ以テ明治十年十月太政官達第七十七號同十一年四月同第十號ヲ廢セラレタルヲ以テ自今各官廳へ圖書諸器物等ヲ寄附シ若クハ官費支辨ノ事業ニ對シ金穀其他ノ物件ヲ寄附スルモノアルトキ取扱方ノ儀別紙ノ通達廳府縣へ訓令相成候ニ付受領都度左ノ事項ヲ具シ本人所在ノ地方廳へ御通知相成候條致度此段及御照會候也但シ年賦寄附ニ係ルモノハ滿限ノ上其數十年ニ涉ルモノハ十年ヲ一期トシ御通知有之度候也 本籍身分及現住所

- 一 官位勲爵氏名(町村會社等ノ名義ヲ以テ寄附シタルモノ)
一 寄附者ノ指定シタル用途
一 受領年月日

(別紙)

○內務省訓令第十八號 明治二十二年四月十八日

北海道廳 府 縣

閣令第十五號ヲ以テ明治十年十月太政官達第七十七號同十一年四月同第十三號ヲ廢セラレタルヲ以テ自今各官廳へ圖書等諸器物等ヲ寄附シ若クハ官費支辨ノ事業ニ對シ金穀其他ノ物件ヲ寄附スル者アリタルトキハ之ヲ受領シタル官廳ヨリ本人所在ノ地方廳へ通知可相成ニ付右通知ヲ受ケタルトキハ(明治十六年第一號布告及同年太政官達第十七號)

●文部省直轄諸學校圖書館教育博物館等へ圖書物品類寄附方ノ件

○文部省告示第一號 明治十六年八月二十八日 從來當省直轄學校圖書館教育博物館等へ圖書物品ノ類ヲ寄附候節ハ管轄廳ヲ經由シ來リ候處自今本人ノ便宜ニ依リテハ直ニ其學校館等へ申出ルモ不苦候條此旨告示候事

(備考)

●寄附物件受領シタルトキ地方廳へ通知ノ件

○司法省總務局長通牒文第三百四十八號 明治二十二年四月二十三日 別紙ノ通內務省總務局長ヨリ照會有之候ニ付自今寄附物件受領シタルトキハ別紙附記ノ事項ヲ具シ本人所在ノ地方廳へ通知可相成此段及通牒候也

ニ據リ取計フヘシ

(備考)

●寄附物件受領ノ都度地方廳へ通知方ノ件

○司法省會計課長通牒會甲第三百五十一號 大正二年七月二十九日
寄附物件ヲ受領シタルトキハ其都度寄附者所在ノ地方廳へ通知相成度
依命此段及通牒候也

●郵便切手類等取扱方

○官報 大正元年十一月十六日
内務省ニ於テハ物品取扱上郵便切手類及收入印紙等ハ從來數量ヲ以テ出納
セシモ事務簡捷ノため爾今金額ニ見積リ出納スルコトニ決定セリ

●【圖書課】保管記録書類中消耗品ニ供セザル書冊ニ係ル分ヲ物品會計官吏ノ保管ニ移スノ件

○文部大臣通牒 明治二十七年十月二十四日
會計検査院部長

(前略) 明治十七年太政官第十一號達第一項但書ノ記録書類ハ物品會計官吏ノ保管ニ付スルヲ要セストノ御意見ナル哉ニ候得共右ハ彼ノ際寫代用塗抹、切張、付箋等ノ用ニ供シテ消耗ニ立テ若クハ現ニ消耗品ニ供セラレル書冊ハ格別荷毛簿簿記冊ノ實體ヲ爲シタルモノハ物品會計規則ノ下ニ管理

一 物品會計官吏ハ毎年度末一回前項合計ヲ總計シタル員額ヲ備品出納簿ニ登記シ會計検査院へ證明スル調書ハ本簿ニ據リ調製スル事

●圖書購入ニ關スル件

○會計課長通牒發會二百八十九號 昭和九年七月二十一日

省内各局長

圖書購入ニ關スル手續ハ各局ノ請求ニ應ジ當課ニ於テ之カ起案ヲナシ次官ノ裁定ヲ經テ然後納入スルモノナルニ不拘屢々各局ニ於テ該手續ヲ履マシテ直接商人ヨリ取寄セ其ノ後數ヶ月甚敷ハ一ケ年モ經過シタル後既ニ現品ハ新本トシテノ價值無キニ到リテ初メテ商人ヨリ代金ノ請求ニ遇ヒ漸ク本課ニ請求スルモノ少カラサル状態今尙其ノ跡ヲ絶タス、處理上大ナル支障ヲ來シ會計手續上ノ反則トシテ會計検査院等ヨリモ非難ヲ蒙ル次第ニ付右御含ミノ上今後購入手續ヲ履マシテ絕對ニ受入相成ラサル様貴官ヨリ貴課員ニ對シ御嚴達方特ニ御配慮相煩度

●馬ニ關スル簿籍ノ整備並ニ其取扱ニ關スル件

○陸軍次官通牒陸普第九百九十三號 大正十一年三月八日
農ニ馬籍法ヲ制定セラレ候處同法ハ國ノ所有ニ係ル馬ニ適用セラレザルニ付テハ貴所管内ニ於テ國有馬ヲ飼養セラレル場合ハ同法施行ト共ニ馬ヲ直接管理スル各局ニ於テ馬籍法規定ノ事項ヲ具備スル簿籍ヲ整備シ置キ以テ諸般ノ調査ニ資スルト共ニ當該馬籍法ノ適用ヲ受タルニ至レハ其ノ簿籍

セラレヘキモノニシテ太政官達トハ毫モ關係無之儀ト被存候トノ注意ニ對シ右ハ消耗品ニ供セザル書冊ニ屬スル分ハ總テ物品會計官吏ノ保管ニ移シ且將來モ同様取扱候事ニ相改メ候旨通牒相成タリ

●書冊類取扱方ノ件

○文部大臣通知 明治二十七年十一月三十日

會計検査院

一 從來圖書課ニ於テ保管セシ書冊ハ原簿ヲ置キ各登記ヲ了シ整理シアルヲ以テ此際特ニ物品會計官吏へ引繼ノ手續ヲナス便宜上該原簿ヲ以テ「記録書類出納簿」トナシ監守簿並支給簿ニ兼用スル事
一 記録書類出納簿ニハ代價ノ掲記ヲ要スルニ依リ左ノ方法ニ基キ此ノ際該原簿ニ計上スル事
一 購入價格判明ナルモノハ其ノ價格ニ據ル
一 在來品及自今寄贈ニ係ルモノニハ定價掲記アルモノハ其ノ價格ニ據ル
一 在來品及自今寄贈ニ係ルモノニハ定價掲記ナキモノニハ主任ニ於テノ見積價格ニ據ル
一 新ニ購入スルモノハ會計課ヨリ圖書課へ現品送付ノ際支出傳票ヲ添附シ圖書課監守者ハ該傳票ニ據リ記録書類出納簿ニ品名員數代價ヲ掲記スル事
一 記録書類出納簿ハ(和洋ヲ區別シ和書ハ取扱上)毎年度末日ニ於テ員數及代價ヲ合計シ而テ前年度ヨリ越高其ノ年度内購入及寄贈ノ分ヲ内譯トシ並減シタルモノアレハ其ノ員數代價ヲ掲ル事

〔文會例〕

又ハ寫ヲ馬ト共ニ所有者ニ交付シ以テ馬籍法ノ運用ヲ圓滑ナラシムル様致度此旨貴廳所管各局へモ通達方御取計相成度及通牒候也

●官廳加入電話讓渡ニ關スル件

○内閣通牒 大正十三年八月七日

文部次官

官廳加入電話讓渡ニ關シ去ル本月二日次官會議ニ於テ別紙ノ通申合致候(別紙)
第一 官廳加入電話ハ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス但シ電話ノ讓渡ヲ爲スモ官廳事務上差支ナキ場合ニシテ讓渡ヲ受クヘキ者カ左記各號ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限りニ在ラス
一 在官二十年以上ノ者ナルコト
二 現ニ使用スル電話カ其ノ使用開始後五年ヲ經過シタルモノナルコト
三 過去一年內ニ於テ自己名義ノ加入電話ヲ他人ニ名義變更シタルコトナキコト
四 現ニ自己名義ニ屬スル加入電話ヲ有セザルコト
第二 官廳加入電話ニシテ事實官吏タル個人ニ於テ使用料ヲ納付スルモノナルトキハ從來架設濟ノモノニ限り其ノ官吏ニ之ヲ讓渡スルヲ妨ケス
第三 前二項電話讓渡ニ關シテハ豫メ通信大臣ニ協議スルモノトス

●配屬將校ニ物品ノ監守者ヲ命セザルノ件

○會計課長通牒陸農會三十四號 大正十五年六月四日

配屬將校ニ兵式教練ニ關スル物品ノ監守者ヲ命スルノ件ニ付盛岡高等農林學校長ノ何ニ對シ別紙ノ通過牒相成タルニ付爲念此段通牒ス

(別紙)

○盛岡高等農林學校長照會

本校ニ於テ從來物品監守ヲ命スルニハ責任アル職員ヲ以テ之ニ充テ居リ候處本年軍事教育施行以來相當物品ノ數モ増加候ノミナラス之カ監理上ニ於テモ直接其ノ衝ニ當ル配屬將校ヲシテ監守セシムルコトノ至便ナルヲ認メ候條同將校ヲ文部省直轄各部物品會計規程第七條ノ責任アル職員ト看做シ軍事教練ニ關スル物品ノ監守者タラシムルコト差支無之哉陸軍當局ト御協議ノ上何分ノ御指示相成度此段相伺候也

○會計課長回答

客年十二月二十四日付盛岡會第一九五號ヲ以テ配屬將校ニ兵式教練ニ關スル物品ノ監守者ヲ命スルノ件何出ノ處直轄各部ノ責任アル職員ト看做シ經理上ノ責任ヲ負擔セシムルコトハ陸軍省ニ於テ同意無之ニ付管理上ノ援助ヲ爲サシムル程度ニ止メラレ度依命此段通牒ス

●會計課長印ヲ用度掛長ヲシテ押捺セシムル件

○會計課長決定 明治二十九年二月

一 諸書類及諸表等貸寫請求ノ檢印
但御用多端ニテ寫字生ニ於テ謄寫等手廻リ難キモノニシテ至急ヲ要スル場合ニ限ル

〔文會例〕

一 各地方へ運搬ヲ要スル物品ノ荷造並運送請求ノ檢印
但教員免許狀、圖書及諸規則書等通常ノモノニ限ル

一 人夫及荷車等備入ノ事

但倉庫等ノ掃除又ハ物品取片付ノ爲人夫ヲ要スルトキ又ハ帝國圖書館等

へ圖書類返付ノ場合ニ限ル

一 消耗品受拂報告簿ノ檢印

一 郵便切手遺拂簿ノ檢印

一 別何濟ノモノニ係ル請求書ノ檢印

一 豫定數以內ノ物品購入何濟ノ上受入命令ノ檢印

一 一時用備品貸付ノ件

一 物品返付ノ檢印

一 東京橫濱間電話ノ檢印

但通常事務用ノモノニ限ル

一 乘車請求書檢印

但通常ノ事項ニ限ル

一 常用品修理請求書ノ檢印

但數個ノ物品ヲ取置メ一時ニ修理ヲ要スルトキハ此ノ限ニアラス

一 東京府内運搬請求書ノ檢印

一 本省ニ關係アル諸法規類ニシテ官報掲載ノ都度先例ニ依リ文書課ヨリ

百部宛請求書ノ檢印

一 各部ヨリ請求ニ係ル物品ニシテ在庫物品ヲ以テ支給スル命令ノ檢印

但異例ノモノヲ除ク

一 小破修繕請負簿ノ檢印

〔文會例〕

●國產自動車使用普及ニ關スル件(其ノ一)

○會計課長移牒官會二十四號 昭和十三年三月十日

收支ヲ取扱フ直轄各部局長
標記ノ件ニ對シ別紙ノ通商工次官ヨリ國產自動車使用普及方策適有之タルニ付此ノ際特ニ右趣旨ニ添フ様取計ヲハレ度此段依命移牒ニ及ブ

(別紙)

○商工次官通牒一三工第千七百三號 昭和十三年二月十二日

昭和十一年自動車製造事業法施行以來政府ニ於テハ本邦自動車製造事業ノ確立ト國產自動車ノ使用普及ニ努メツツアル處今次ノ事變ニ際シ特ニ國際收支ノ改善ヲ圖ル必要アルニ鑑ミ貴處及所管官廳ニ於テ新ニ自動車ヲ購入セラルル場合ハ卒先シテ國產自動車ヲ使用セラルル様特別ノ御配慮相煩度此ノ際特ニ及御依頼候也
追而外國製中級以上ノ自動車ノ輸入ニ付テハ現在爲替ノ許可ニ關シ強度ノ制限ヲ爲スコトト相成居候右爲念申添候

●國產自動車使用普及ニ關スル件(其ノ二)

○專門學務局長 移牒官會二十四號 昭和十三年三月十日

公私立大學
高等學校
專門學校長

○商工次官通牒一三工第千七百三號 昭和十三年二月十二日

〔文會例〕

昭和十一年自動車製造事業法施行以來政府ニ於テ本邦自動車製造事業ノ確立ト國產自動車ノ使用普及ニ努メツツアル處今次ノ事變ニ際シ特ニ國際收支ノ改善ヲ圖ル必要アルニ鑑ミ貴(大學、校)ニ於テ新ニ自動車ヲ購入セラル、場合ハ卒先シテ國產自動車ヲ採用セラル、様御配慮相煩度

●石油及石炭ノ消費節約ニ關スル件

○次官通牒官會二百十四號 昭和十三年一月二十一日

公私立大學
高等學校
專門學校長

時局ニ鑑ミ一般物資ノ節約ニ關シテハ夫々御配意中ノコト、存セラル、モ今般特ニ石油及石炭ニ關シ官民協力消費節約ヲ實施致スコト、相成タルニ付左記要領ニ基キ可然御勵行相成度此段通牒ス

記

- 一、石油ハ艦船、飛行機、戰車自動車等ニ缺クベカラザル液體燃料トシテ近代戰爭ニ重要ナル地位ヲ占メ石炭モ亦石油ト共ニ時局ニ伴フ軍需資材ノ製造ニ活躍スル我カ工業ニ必要缺クベカラザルモノナリ故ニ是等工業界ノ緊急ナル需要ヲ充シ一方國際收支ノ關係ヨリ海外拂フ節シ此ノ非常時局ヲ克服セザルベカラズ依テ自ラノ消費ヲ節約スルバ勿論之ヲ國民精神運動ノ一部トシテ一般國民ノ協力ヲ求ムル様スルコト
- 二、國產代用燃料並ニ代用内燃機關ノ使用ヲ考究シ來ルヘキ本格的消費節約ニ應ジ得ル様ニ諸般ノ準備ヲ爲スコト、
- 三、石炭ノ消費節約ニ就テハ次ノ事項ヲ實施スルコト

(一) 石炭ノ合理的選擇
消費者ハ用途ニ應ジ最モ適合シタル種類(塊炭、切込炭、粉炭等)品質(水分、揮發分、固定炭素、灰分、發熱量、粘結性等)ノモノヲ調査選定シ購入規格ヲ作り之ニ基キテ石炭ノ購入ヲ爲スコト

(二) 熱効率ノ増進
焚燒方法ノ合理化、焚燒設備ノ改良保全等ニ依リ熱効率ノ増進ヲ圖ルコト、而シテ焚燒方法ノ合理化、焚燒設備ノ保全ニ付テハ左ノ諸點ニ注意スルコト

(1) 石炭ノ焚燒
「メカニカルストーカー」ニ依ルヲ可トス尙手焚ノ場合ニハ成ル可ク少量宛投入シ火床ハ常ニ整一ニ保持スルコト

(2) 通風ノ調節
焚燒ニ必要ナル適當量ノ空氣ヲ送ル様調節スルコト而シテ之カ爲ニハ主風戸ノ開閉ヲ調節スル裝置ヲ設クルノ外爐壁ヨリ冷氣ノ漏入ヲ防止スルト共ニ煙路ノ漏洩ヲ絶無ナラシメ尙投資ニ際シ冷氣ノ侵入ヲ防止スル爲副風戸ヲ設クルコト而シテ過負荷ノ場合ニハ強壓通風ヲ行フコト

(3) 熱氣及蒸氣ノ漏洩
蒸氣管等ニ於テ漏洩部ヲ絶無ナラシムルト共ニ保温裝置ヲ完全ニシ以テ熱ノ放散、蒸氣ノ漏洩ヲ防止スルコト

(4) 罐水ノ純良化
罐ニ供給スル水ハ純良ナルヲ要シ不純物ヲ含ム場合ニ於テハ之ヲ純良化スル爲適切ナル方法ヲ講ズルコト

〔文會例〕

直轄部局長

〔文會例〕

標記ノ件ニ關シ内閣書記官長ヨリ八月十八日次官會議ニ於テ別紙ノ通申合有之タル趣ヲ以テ之ガ實施方申越シタルニ付右御了知ノ上勵行方可然御配意相煩度

追テ右申合ニ關シテハ貴關係ノ各種團體等ニ對シテモ之ガ勵行方御通達相煩度

(別紙)

○用紙ノ使用節約ニ關スル申合(昭和十三年八月十八日)
次官會議

官廳用紙ノ節約ニ關シテハ曩ニ別紙(一)ノ通申合ノ次第モ有之之ガ勵行ニ努メ來タル處ナルガ今般新聞用紙ニ關シテハ別紙(二)ノ通使用節約ヲ爲サシムルコトト相成尙雜誌ニ付テモ二割ノ用紙使用節約及規格判ノ採用ヲ爲サシムル豫定ナルヲ以テ各廳ノ監督下ニ在ル公共團體及各種團體等ニ於テモ事務用紙及其ノ刊行ニ係ル雜誌、會報類等ノ用紙ニ付右ニ準ジ節約ヲ行ハシムルコトト致度

(參照)

(一) 官廳用紙ノ節約ニ關スル申合(昭和十三年六月二十三日)寫
紙及バルブノ輸入抑制ノ結果下半年ニ於テハバルブノ供給不足ノ爲一般ニ紙ノ消費節約ヲ強化スルノ要アリ斯ル情勢ニ鑑ミ特ニ官廳ニ於テハ率先之ガ消費節約ヲ爲スル必要ト被認仍テ此ノ際左記各項ノ實行ニ依リ消費節約ノ實ヲ舉グル様努ムルコトト致度

(3) 罐要部ノ清掃
罐ノ内部ニ「スケール」ノ附著ナカラシムルト共ニ其ノ外部、饋道等ニ煤ノ堆積ナカラシムルコト

(4) 管理方法ノ合理化
熱効率ヲ増進シ消費節約ノ徹底ヲ期スル爲管理方法ヲ合理的ナラシムルコト而シテ之ガ爲ニハ左ノ諸點ニ注意スルコト

(5) 標準效率及標準操作方法ノ指示
消費者ハ直接操作ニ從事スル者ニ對シ焚燒設備ノ標準ト爲ルベキ效率並ニ其ノ效率ヲ維持スル爲ノ標準操作方法ヲ指示スルコト

(6) 管理班ノ設置
石炭使用ニ關聯シ擔任者ヲ定メ其ノ規正ヲ圖ルコト

(7) 管理記録ノ整備
焚燒設備ニ於ケル各種計器類ノ指針ヲ定時刻ニ點檢記録スルノミナラズ蒸發率、蒸氣原價ニ對スル石炭消費量等ノ算出記録シ管理ノ趣旨ノ徹底ヲ圖ルコト

(8) 檢査ノ勵行
焚燒設備ニ於ケル漏氣ノ原因ニ依リ損傷ノ有無、傳熱面等ノ檢査ヲナス爲檢査ノ箇所及方法ニ付檢査要項ヲ定メ其ノ勵行ヲ圖ルコト

●用紙ノ使用節約ニ關スル件

○文部大臣官房文書課長通牒官文二百八十五號 昭和十三年九月一日
會計課長

〔文會例〕

記

一、事務用紙及封筒

- 1、使用ノ節約
- 2、紙質ノ低下
- 3、規格判ノ採用

二、刊行物

- 1、紙質ノ低下
- 2、頁數ノ減少
- 3、部數ノ減少
- 4、刊行ノ合理化

尙反古紙及保存年限經過ノ文書類ニ付テモ特ニ支障アルモノヲ除キ再生紙原料トシテ印刷局ニ交付スルコトト致度

二 新聞用紙ノ節約實施方法

新聞用紙ノ節約ニ關シテハ製紙會社ヲシテ左記事項ヲ實施セシムルコトトセリ

- (1) 昭和十三年七月乃至昭和十四年五月ノ期間(本期)ニ於ケル新聞用紙ノ供給數量ヲ昭和十二年七月乃至昭和十三年六月ノ期間(前期)ニ於ケル供給數量ノ百分ノ八十八以内トスルモ七、八兩月ハ前期ノ供給數量ノ十二分ノ二迄供給スルモ差支ヘナキコト
- (2) 前期ニ於テ輸入紙ヲ使用シタルモノ他人ニ轉賣シタルモノ又ハ他人ヨリ轉買シタルモノ等ニ付テハ前期ニ於ケル實際消費高ヲ斟酌シテ本期ノ供給數量ヲ定ムルコト
- (3) 前期ノ消費高一萬二千連ヲ超エザルモノニ對シテハ一萬二千連

第九章 物品

ヲ超エザル範圍内ニ於テ供給スルコト
前期ノ消費高一萬二千連ヲ超ユルモノニシテ其ノ百分ノ八十八ニ
相當スル數量ガ一萬二千連ニ達セザルモノニ付テハ一萬二千連迄
ノ供給ヲ爲スコトヲ得ルコト

●文部本省守衛長以下雇員備人被服規程

○文部省訓令 昭和十二年七月二十二日

第一章 通則

第一條 守衛長以下雇員備人ニ對シテハ別表第一號表ニ依ル被服類ヲ貸與シ勤務中ニ着テ用セシム但シ給仕ニ對シテハ被服類貸與ニ代ヘ被服代料ヲ支給ス

第二條 被服ノ着用期間ハ左ノ通トス
夏服 六月一日ヨリ九月三十日迄
冬服 十月一日ヨリ翌年五月三十一日迄

第二章 貸與

第三條 貸與品ハ特別ノ事情アル場合ノ外着用期間ノ始又ハ新ニ任命シタルトキニ於テ之ヲ交付ス
第四條 新任者ニ對シテハ在庫品ヲ貸與ス但シ在庫品ヲ使用シ得ザル事由アルトキハ新品ヲ貸與ス
第五條 貸與品ハ帽章ヲ除クノ外貸與期間經過後ニ於テ之ヲ給與ス
第六條 貸與期間中ニ於テ退職シタルトキハ貸與品ハ之ヲ返納セシム但シ在職中死亡シタルトキハ帽章ヲ除クノ外此ノ限ニ在ラズ

本規程施行ノ際現ニ貸與中ノ被服類ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル給仕被服代料ニ關シテハ昭和十二年度ノ支給ニ限リ亦同ジ

別表第一號表

職名	種別	員數	貸與期間	地質	制式
守衛長	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
守衛	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
自動車運轉手	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
自動車運轉手	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同

第九章 物品

第七條 貸與品ノ修理及洗濯ハ貸與ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ爲スモノトス
第八條 故意又ハ過失ニヨリ貸與品ヲ亡失シ又ハ汚損ノタメ使用ニ堪ヘザラシメタルトキハ之ヲ辨償セシムルコトアルベシ
第九條 貸與品ハ私ニ交換貸借ヲ爲スコトヲ得ズ
第十條 兼務者ニ對シテハ本務ニヨリ被服類ヲ貸與ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第十一條 守衛、自動車運轉手及小使ニ對シテハ特ニ第二號表ニ依ル被服類ヲ共用セシム

第三章 給仕被服代料

第十二條 第一條ノ規定ニヨリ給仕ニ支給スベキ被服代料ハ左ノ通トス

區分	支給金額	支給回数
冬服代料	一四〇〇〇年	一回
夏服代料	七〇〇〇年	一回

第十三條 被服代料ハ着用期間ノ始又ハ新ニ任命シタルトキニ於テ之ヲ支給ス但シ四月一日ヨリ五月三十一日迄及九月一日ヨリ九月三十日迄ノ間ニ於ケル新任者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ
第十四條 被服代料ノ支給ヲ受ケ其ノ着用期間中ニ於テ退職シタルトキハ時宜ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ返納セシムルコトアルベシ

附則

昭和十年五月文部本省守衛長以下雇員備人被服類貸與ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

〔文會例〕

職名	種別	員數	貸與期間	地質	制式
昇降機	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
運轉手	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
交換手	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
小使	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
掃除婦	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
印刷工	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
手長工	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
習字工	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
製本工	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
機械工	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同
電氣工	冬服	二期	二期	黒セリ絨	詰襟 釦金色
	夏服	二期	二期	黒セリ絨	同

職名	種類	共用範圍	地質	制式
園丁	帽子	一年	茶褐色 防水木綿	丸庇 帽章眞鍮金色
	夏帽子	一期	麥葉 茶褐色 防水木綿	丸大庇
	雨衣	二年		頭巾並バンド付

別表第二號表

職名	種類	共用範圍	地質	制式
守衛	外套	三人ニ付一組	黑絨	外釦金色二行
	雨衣	三人ニ付一組	茶褐色 防水木綿	マント型頭巾付
自動車 運轉手	修理服	五人ニ付一組	茶褐色 木綿	續キ服バンド付
	靴	五人ニ付一組	長靴	

小使	外套	雨衣	靴
二人ニ付一組	二人ニ付一組	二人ニ付一組	二人ニ付一組
黑絨	茶褐色	防水木綿	防水木綿
袖角型内釦	マント型頭巾付	長靴	

航海練習所練習船乗組員被服規程

○實業事務局長決定 昭和五年五月十六日
 第一條 航海練習所練習船乗組員ニハ本規定ノ被服ヲ貸與シ乗組中之ヲ
 借用セシム但シ臨時傭人ニハ之ヲ貸與セサルコトアルヘシ
 第二條 被服ノ種類、地質、制式、貸與員數、貸與期間ハ左ノ區分ニ依ル

種類	種類	地質	制式	員數	貸與期間
帽 (日覆共)	紺 (日覆ハ白木綿)	大黒型前面ニ金織或ハ金屬製徽章ヲ附ス 形狀第一圖(イ)及(ロ)ノ如シ	一	三箇年	
夏帽	麥葉	大黒型 丸庇 前面ニ船名ヲ打込ミタル黒平紐ヲ附ス 形狀第二圖ノ如シ	一	二箇年	
事業帽	白 (但シ機關倉部ハ茶色)	鳥打型 形狀第三圖ノ如シ	二	一箇年	

〔文會例〕

〔文會例〕

冬服	夏服		外 套 (頭巾付)			雨 衣		
	上 衣	袴	上 衣	袴	上 衣	袴	上 衣	袴
紺ヘル地	同 右	同 右	白葛城織	同 右	紺大絨	同 右	白天然木綿	同 右
堅襟ジャケット型 左腕ニ腕章ヲ附ス表隱シ右下部各一個、胸鈕釦、 錢銀所章打出シ、五個單行 形狀第四圖(イ)ノ如シ	普通仕立、鈕釦黑色角 形狀第四圖(ロ)ノ如シ	冬服ニ同シ	同 右	折襟、胸二重、鈕釦、白色角五個二行 形狀第六圖(イ)ノ如シ	普通仕立、鈕釦、白色角 但シ胸ヲ紐ヲ以テ結フ様紐ヲ中繼トス 形狀第六圖(ロ)ノ如シ	フロック型(給仕ヲ除ク)表隱シ左胸部一個 ジャケット型(給仕ニ限ル)鈕釦、白色角、七個單 行 形狀第七圖(イ)ノ如シ	二	一箇年
一	一	一	二	一	一	一	一	一
三	三	三	二	四	三	三	三	三
年	年	年	年	年	年	年	年	年

事 業 服

前	袴	右	ジヤンパー仕立 形状第七圖(ロ)ノ如シ	二	一	箇	年
垂	同	右	形状第七圖(ハ)ノ如シ	二	一	箇	年
同							
右							

備 考

一、右表種類欄中夏帽及雨衣ハ甲板部員ニノミ同前垂ハ料理人ニノミ貸與ス
 一、右表制式欄帽章中金縷或ハ金屬製着用ノ區別ハ航海練習所長之ヲ定ム

(圖省略)

第三條 冬服及夏服ノ着用時期ハ當該船長ニ於テ其ノ都度適宜之ヲ定ムヘシ

第四條 第二條ニ掲クル表中腕章ハ冬季用ノモノハ黒絨ノ上ニ赤羅紗夏季用ノモノハ白葛城織ノ上ニ黒羅紗ヲ以テ各徽章ヲ縫ヒ付ク其ノ形状別圖ノ如シ

第五條 貸與シタル被服ニシテ所定ノ貸與期間ヲ經過シタルトキハ最後ニ貸與ヲ受ケタル者ニ之ヲ給與ス

第六條 前條ノ場合ニ於テ貸與期間中貸與ヲ受ケタル者ノ轉免死亡ニヨリ前任者ノ被服ヲ後任者ニ貸與セラレタルモノナルトキハ前任者ノ既ニ貸與セラレタル期間ハ所定ノ貸與期間ヨリ之ヲ控除スルモノトス

第七條 故意又ハ怠慢ニ依リ被服ヲ亡失シ若ハ毀損汚穢シテ着用ニ堪ヘサラシメタルトキハ左ノ價格ヲ辨償セシム

一 其ノ原價ヲ貸與期間ノ日數ニテ除シ得タル商ニ殘餘ノ保存日數ヲ乘シタル額

二 前號ニ依リ難キトキハ航海練習所長ニ於テ相當ト認ムル價格

第八條 貸與シタル被服ニハ凡テ指定ノ箇所ニ各自ノ氏名ヲ記入スヘシ

附 則

本規定ハ昭和五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔文會例〕

第十章
規
格

第十章 規格

●政府ニ於テ製造若ハ購入シ又ハ使用スル印刷用紙、印刷物、證券、事務用紙、製圖

〔文令例〕

用紙、便箋等ノ寸法ノ規格

○商工省告示第十一號 昭和六年二月十日
 政府ニ於テ製造若ハ購入シ又ハ使用スル印刷用紙、印刷物、證券、事務用紙、製圖用紙、便箋等ノ寸法ハ左ノ規格ニ依ル但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

紙ノ仕上寸法

(日本標準規格第 92 號)

單位 mm

列 番 號	A	B
0	841 × 1189	1030 × 1456
1	594 × 841	728 × 1030
2	420 × 594	515 × 728
3	297 × 420	364 × 515
4	210 × 297	257 × 364
5	148 × 210	182 × 257
6	105 × 148	128 × 182
7	74 × 105	91 × 128
8	52 × 74	64 × 91

- 一、本表ハ書籍、雜誌、證券、事務用紙、圖面、便箋等ノ仕上寸法ニ之ヲ適用ス
- 二、特ニ細長キ寸法ヲ必要トスル場合ニハ長手ニ半截、四截等ニシタル寸法ヲ用ケ
- 三、複寫簿ノ如ク紙片ヲ切取ルモノニ在リテハ其ノ切取ルヘキ紙片ノ大サヲ仕上寸法ト爲スモノトス
- 四、裝釘シタル書籍ニ在リテハ表紙ノ大サヲ仕上寸法ト爲スモノトス
- 五、仕上寸法ノ公差ハ次ノ通りトス
 0 番乃至 5 番 — 1.5mm
 6 番乃至 12 番 — 1 mm

9	37 × 52	45 × 64
10	26 × 37	32 × 45
11	18 × 26	22 × 32
12	13 × 18	16 × 22

主ナル用途	寸法mm	公差mm
A列5番型 書籍雜誌用	630 × 880	+ 6
B列6番型 書籍雜誌用	770 × 1090	+ 6

備考

1. 縦ト長トノ比ハ、1:√2ナリ
2. A列0番ノ面積ハ約1m²、B列0番ノ面積ハ約1.5m²ナリ

●事務用紙類標準規格規程

○文部省訓令第四號 昭和十一年三月十九日

文部 本部 各省

- 第一條 事務用紙ハ特別ノ規定アルモノノ外本規程ノ定ムル寸法及様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 事務用紙ノ寸法ハ昭和六年商工省告示第十一號ニ掲クル紙ノ仕上寸法(日本標準規格第九二號)ニ依ルヘシ
- 第三條 左ノ事務用紙ハ別表ニ掲クル寸法及様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
 - 一 罫紙、辭令簿用紙及命令簿用紙
 - 二 議案用紙
 - 三 辭令用紙及指令用紙
 - 四 出勤簿用紙
 - 五 物品請求書用紙
 - 六 物品返付書用紙

- 七 消耗品受拂簿用紙
- 八 郵便切手類受拂及郵便發送簿用紙
- 九 旅行日記用紙
- 十 購入及支拂傳票用紙
- 十一 支出計算書附屬證據書表紙
- 十二 納入告知書用紙
- 十三 納入告知書發付何書用紙
- 十四 現金收入計算書用紙
- 十五 授業料、檢定料等領收證用紙
- 十六 授業料、寄宿料等徴收整理臺帳用紙

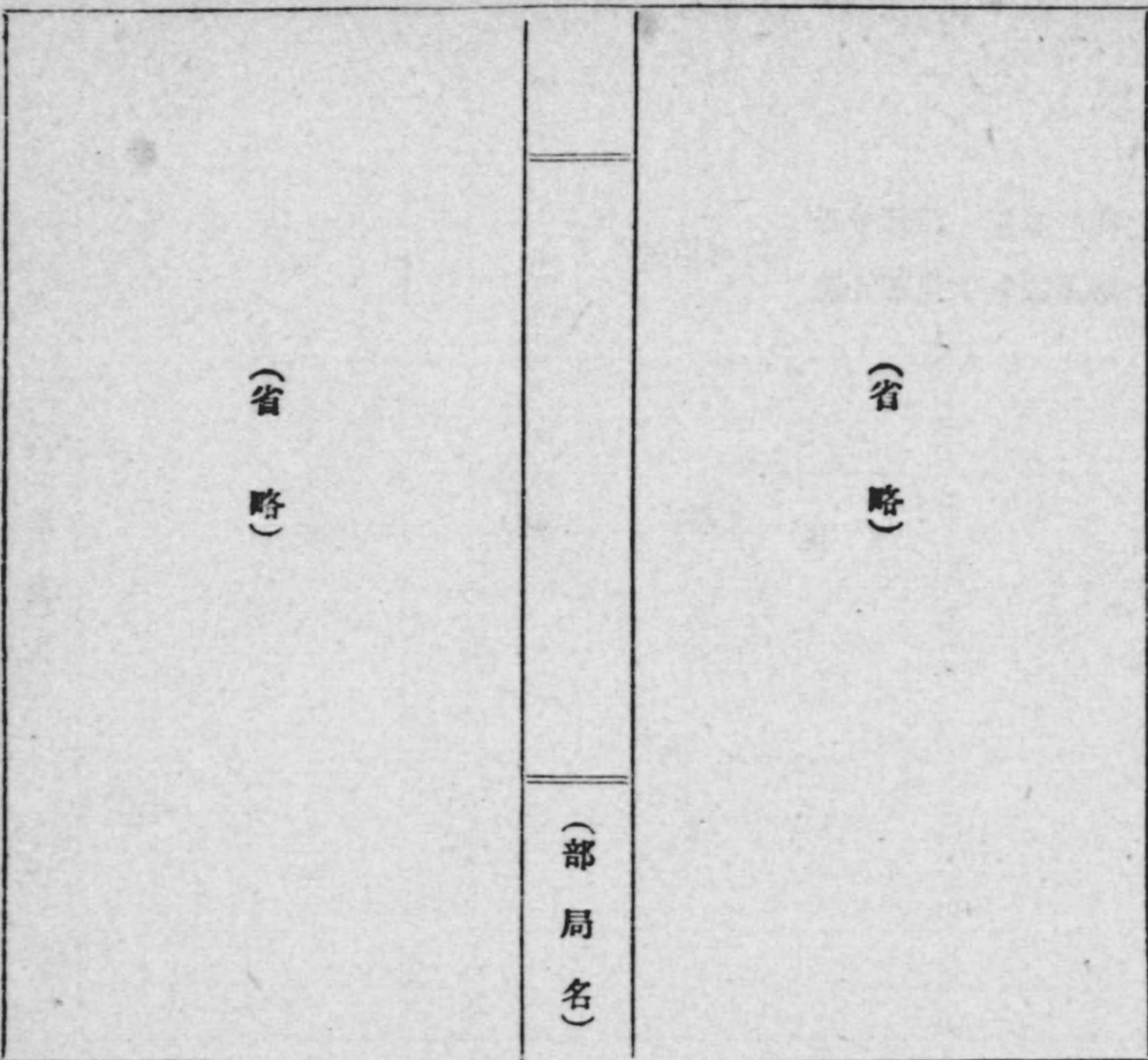
附則

- 第四條 本令ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第五條 昭和三年文部省訓令第一號ハ之ヲ廢止ス
- 第六條 本令施行ノ際現ニ存スル事務用紙ハ當分ノ内之ヲ使用スルコトヲ得

【文會例】

別表 [本表中二、議案用紙 五、物品請求書 六、物品返付書 十、購入及支拂傳票 十三、納入告知書發付何書及十四、現金收入
計算書ノ各様式中合議欄及帳簿記入欄等ニ記載セル職名ハ當該部局ニ之ニ該當スルモノナキ場合ニ於テハ適宜之ヲ變更スヘシ]

- 一、罫紙、辭令簿用紙及命令簿用紙寸法及様式ノ一



用紙寸法 B列四番トス



用紙寸法 B列五番トス

罫紙、辭令簿用紙及命令簿用紙寸法及様式ノ二

(部 局 名)

(名 局 部)

(省) (略)

用紙寸法
 命令用紙ハ列四番トス
 指令用紙 B列五番トス

三、辭令用紙及指令用紙寸法及様式

月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

(省) (略)

用紙寸法
 B列四番トス
 片面ノ場合ハB列五番トス

昭和 年 月 日 起案

送發 月 日 起案者

二、議案用紙寸法及様式

四、出勤簿用紙寸法及様式

〔文會例〕

備考	昭和						年出勤表		職 氏 名
	月	月	月	月	月	月	日	日	
							日 一		計
							日 二		
							日 三		
							日 四		
							日 五		
							日 六		
							日 七		
							日 八		
							日 九		
							日 十		
							日 十一		
							日 十二		
							日 十三		
							日 十四		
							日 十五		
							日 十六		
							日 十七		
							日 十八		
							日 十九		
							日 二十		
							日 二十一		
							日 二十二		
							日 二十三		
							日 二十四		
							日 二十五		
							日 二十六		
							日 二十七		
							日 二十八		
							日 二十九		
							日 三十		
							日 三十一		
							日 三十二		
							日 三十三		

(本様式ハ片面ヲ示ス)
 用紙寸法 B列三番トス

第十章 規格

五、物品請求書用紙寸法及様式

第 號

本紙所要一品一葉ニ限ル

請	請求部局名		昭和 年 月 日	
	及長之檢印		物品監守者 取扱主任印	
求	品目			數量
	需要之由			使用位置
命	受入及支給	用度掛長	用度掛主任	
	會計課長	物品會計官吏	同取扱者	
令	備考	備品	記號	
	消耗品			
受領及 渡済印	昭和 年 月 日	物品出納簿記帳	昭和 年 月 日	
		明細簿記帳	昭和 年 月 日	
		支給簿記帳	昭和 年 月 日	

用紙寸法 B列五番トス

六、物品返付書用紙寸法及様式

第 號

本紙所要一品一葉ニ限ル

返	返付部局名		昭和 年 月 日	
	及長ノ檢印		物品監守者 取扱主任印	
付	品目	記號	數量	
		支給年月日	昭和 年 月 日	
命	受入		用度掛長	用度掛主任
	會計課長		物品會計官吏	同取扱者
令	備品		消耗品	
受領印	昭和 年 月 日	物品出納簿記帳	昭和 年 月 日	
		明細簿記帳	昭和 年 月 日	
		支給簿記帳	昭和 年 月 日	

用紙寸法 B列五番トス 備考 罫線等ハ朱書スルモノトス

〔文會例〕

〔文會例〕

年	月														
	日														
品名	數量	受	數量	拂	數量	受領者印	數量	殘	數量	備考					
												備考			

七、消耗品受領簿用紙寸法及様式

第十章 規格

用紙寸法 B列五番トス

用紙寸法 B列五番トス

月	日	月	日	月	日	月	日	月	日	摘要	
										受信者	發信者
計	小										字數 金額 金 1.5錢 1.5錢 3錢 5錢 10錢 13錢 20錢 30錢 50錢 1 5 10 50 100

八ノ二、郵便發送簿用紙寸法及様式

用紙寸法 B列五番トス

區分	はがき	普 1.5錢 3錢 6錢	往 1.5錢 3錢 6錢	郵便	手切	合計金額	物品 監守者 取扱者 印	備考	備考	月(日)				月(日)					
										越	受	拂	残	越	受	拂	残		

八ノ一、郵便切手受拂簿用紙寸法及様式

九、旅行日記用紙寸法及様式ノ一

【文會例】

備考欄 = 記載スヘキ事項大要左ノ如シ

1. 迂路經過又ハ同一地ニ再度以上巡回スル場合ノ如キハ其理由
2. 里程計算上必要ナル經過地ノ地名(例ヘバ甲地乙地間ニ二路アル場合ノ如キ其何レヲ取リタルヤヲ明ニスルノ類)

旅行日記 (又ハ見込書)
へ出張被命候

此旅行日記下記ノ通有之候也

昭和 年 月 日
何 長 殿

月	日	發地	着地	汽車 料數	汽船 料數	車馬 里數	宿泊 數	備考			
								鐵道貨	急行料	船貨	

後頁送高

用紙寸法 B列五番トス

旅行日記用紙寸法及様式ノ二

月	日	發地	着地	汽車 料數	汽船 料數	車馬 里數	宿泊 數	備考		
								鐵道貨	急行料	船貨

後頁送高

用紙寸法 B列五番トス

昭和 年度 會計 歳出 部			
支拂計算書並歳入調定何			下記ノ合計金額領收ス
會計課長	月 日	收入官吏 出納掛長	昭和 年 月 日
	月 日	工事司計 掛長	
	月 日	監査掛長	
推算簿記入 月 日	支出簿記入 月 日	支出内譯簿記入 月 日	
文部省主管 歳入經常部	歳入科目 (款) (項) (目)		
歳入徴収簿記入 月 日	月 日	振出小切手第 號	月 日 振出小切手第 號
	恩給法納金 歳入徴収高		現金支給高
歳出科目	摘 要	俸給高	恩給法納金 引去高
			現金支給高

用紙寸法 B列五番トス

支拂傳票用紙寸法及様式ノ三

昭和 年度 會計 歳出 部			
支拂計算書			下記合計金額領收ス
會計課長	月 日	出納掛長	昭和 年 月 日
	月 日	用度掛長 (工事司計掛長)	
	月 日	監査掛長	
推算簿記入 月 日	支出簿記入 月 日	支出内譯簿記入 月 日	小切手番號 第 號
支拂金額			
支拂科目	旅費種類	一等運賃	二等運賃
	鐵道賃(急行料共)		
	船賃(同上)		
	車馬賃 (定額)		里
	宿泊料 (定額)	甲地方 乙地方	夜
	日當 (定額)	甲地方 乙地方	日
	赴任手當 (日當五日分宿泊料五夜分相當額)		
	移轉料		
	家族移轉料		
			合計
摘要			

用紙寸法 B列五番トス

〔文會例〕
支拂傳票用紙寸法及様式ノ四

昭和 年度 會計 歳出 部			
購入 (又ハ何々) 何		支拂計算書	
會計課長	月 日	物品會計官吏 用度掛長	出納掛長
	月 日	監査掛長	
注文簿 月 日	月 日	推算簿記入 月 日	支拂要求 月 日
経費科目		物品出納簿記入 月 日	支拂種類
費用積書 (此代金ハ愛ニ署名捺印セシ者ニ相渡) (スヘシ尤特約アル者ハ此限ニ在ラス) 昭和 年 月 日		上記之金額領收ス 昭和 年 月 日	
住所			印紙
経費科目	請求部局名	品目	數量
			單 價
			代 價
			納期限
			備考

用紙寸法 B列五番トス

十、購入及支拂傳票用紙寸法及様式ノ一

〔文會例〕

昭和 年度 會計 歳出 部			
支拂計算書			下記合計金額領收ス
會計課長	月 日	出納掛長	昭和 年 月 日
	月 日	用度掛長	
	月 日	監査掛長	
推算簿記入 月 日	支出簿記入 月 日	支出内譯簿記入 月 日	
件名		小切手番號 第 號	支拂金額
科目	摘 要	單 價	金 額

用紙寸法 B列五番トス

支拂傳票用紙寸法及様式ノ二

昭和 年度 昭和 年 月 分 支出計算書附屬證憑書

科 目	支 出 額		概 算 拂 額	
	圓	圓	圓	圓

(證憑書紙數 枚) (部 局 名)
 用紙寸法 B列五番トス 備考 計算證明規程第二十條ニ依ル表紙ハ本様式ニ準ス

昭和 年度 昭和 年 月 分 支出計算書附屬證憑書(精算用紙)

科 目	精 算 額	
	支 拂 額	戻 入 額

(證憑書紙數 枚) (部 局 名)
 用紙寸法 B列五番トス

第十章 規格

七三五

十一、支出計算書附屬證憑書表紙寸法及様式ノ一

〔文會例〕

支出計算書附屬證憑書表紙寸法及様式ノ二

歳出科目 節	摘 要	數 量	單 價				金 額				備 考						
			百	拾	圓	拾	錢	厘	千	百		拾	圓	拾	錢	厘	

用紙寸法 B列五番トス

官名 級俸	受領者 氏 名	俸 給 高				恩給法納金 引 去 高				現金支給高				摘 要			
		千	百	拾	圓	拾	錢	厘	百	拾	圓	拾	錢		厘		

用紙寸法 B列五番トス

職 名	給 額	受領者氏名	金 額				摘 要										
			萬	千	百	拾		圓	拾	錢	厘						

用紙寸法 B列五番トス

支拂傳票用紙寸法及様式ノ五

第十章 規格

支拂傳票用紙寸法及様式ノ六

支拂傳票用紙寸法及様式ノ七

七三四

納入告知書

第 號	昭和 年度
納	計
部	款
目	
文部省	主管 (取扱廳名)
但 (收入ノ目的ヲ記載ス) 上記ノ金額 年 月 日限リ收入官 吏氏名 (又ハ日本銀行何店) へ納付ス 昭和 年 月 日 納入徴收官々氏名 印	

報告 (日本銀行ハ通知書)

第 號	昭和 年度
納	計
部	款
目	
文部省	主管 (取扱廳名)
上記ノ金額領收済ニ付報告 (日本銀行ハ通 知) 候也 昭和 年 月 日 收入官吏氏名 印 又ハ日本銀行「何店」 印 納入徴收官々氏名 印	

領收證書

第 號	昭和 年度
納	計
(取扱廳名)	
但 (何々) 上記ノ金額領收候也 昭和 年 月 日 收入官吏氏名 印 又ハ日本銀行「何店」 印	

十二、納入告知書用紙寸法及様式

用紙寸法 B列六番ノモノ三枚連続トス
 輪廓寸法ハ縦一四〇耗、横九四耗トシ各片トモモ左方ニ二八耗ノ線ヲ設クヘシ於テ記入ナルモノトス
 1. 金額、番號、年度、主管名、取扱廳名、吏ノ科目及收入ノ目的等ハ納入告知書ニ領收済年月日ヲ記名捺印シテ之ニ代用シ報告書ヲ省略スルコト
 2. 金額、番號、年度、主管名、取扱廳名、吏ノ科目及收入ノ目的等ハ同一官廳内ニ在ルル收
 3. 納入徴收官ト同一官廳内ニ在ルル收
 備考

【文金額】

十三、納入告知書發付何書用紙寸法及様式

昭和 年度 會計歳入(又ハ歳出) 部			
納入告知書發付何(又ハ返納)			
月 日出納掛	日 監査掛		
告知書第 號	納入場所		
告知書發付 月 日	徴收簿記入 月 日		
納入徴收官 何々長	收入官吏		
住所	納入		
徴收金 計			
歳入科目 (又ハ返納科目)	摘要	價	額

用紙寸法 B列五番トス

十四、現金收入計算書用紙寸法及様式

昭和 年度 會計歳入 部			
現金收入計算書			
月 日出納掛	日 監査掛		
第 號	徴收簿記入 月 日		
第 號	日現金拂込 第 號		
納入徴收官 何々長	收入官吏		
歳入科目	摘要	價	額

用紙寸法 B列五番トス

納 付 書

第 計	昭 和	年 度	會 計
科 年	部	何 項	納 納
(又ハ何都市町村番地)			
金			
但 第 期分授業料(又ハ何々)			
昭和 年 月 日 領收			
收入官 更捺印			

用紙寸法 B列六番ノモノニ按連續トス
【文會例】

領 收 證 書

第 計	昭 和	年 度	會 計
科 年	部	何 項	納 納
(又ハ何都市町村番地)			
金			
但 第 期分授業料(又ハ何々)			
上記ノ金額領收候也			
昭和 年 月 日			
何處主任收入官吏 氏 名 ①			
(又ハ何處主任收入官吏官氏名)			
所屬何處主任收入官吏 氏 名 ②			

十五、授業料、検定料等領收證用紙寸法及様式

- 備考
1. 納付寸法ハ概一四〇耗、概九四耗トシ、各片共左方ニ二八耗ノ額代ヲ設クヘシ
 2. 授業料、検定料、入學料、購読料、寄宿料及雜收入等ニシテ收入徴收官ト同一官廳内ニ在ル收入官吏ニ即納セル場合ハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本書式ニ準ス
 3. 收入徴收官ト同一官廳内ニ在ル收入官吏ノ收納済報告書ハ納付書ヲ以テ代用シ報告書省略スルコトヲ得
 4. 官廳間ノ收入金ニシテ提出金支拂通知書ニ領收シテ收納シ了シタルトキハ比ノ領收證書ヲ送付セス
 5. 領收證書送付ノ必要アル場合ニ於テハ式ノ如ク記入シタル郵便業書ヲ使用スルコトヲ得本書ニ納付心得等ヲ印刷スルハ適宜トス

十六、授業料、寄宿料等徴收整理臺帳用紙寸法及様式

【文會例】

第 期分授業料 (又ハ何)金何程	(同)	(同)	(同)	番 號	學 年 科	氏 名	備 考

用紙寸法 B列五番トス

備 考

第十章 規 格

1. 授業料、寄宿料等ノ如キ一學年内毎月又ハ數回ニ徴收スルモノノ徴收整理臺帳(毎年度區分ヲ要ス)ハ本書式ニ準ス
2. 毎月又ハ數回ノ納付額ノ同一ナルモノハ金額ヲ省略スルコトヲ得
3. 備考欄ニハ入學、退學等學生生徒ノ身分ニ關スル異動ヲ記載スルモノトス
4. 領收年月日ハ直徑一六耗以内



ノ如キスタンプ印ノ使用ヲ妨ケス

●政府ニ於テ製造若ハ購入シ又ハ使用スル印刷紙01、同02、同及同04ノ規格

○商工省告示第七十六號 昭和十一年九月十六日
政府ニ於テ製造若ハ購入シ又ハ使用スル印刷紙01、同02、同03及同04ハ左ノ規格(別冊ノ内)ニ依ル但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
(別冊略ス)

●政府ニ於テ製造又ハ使用スル印刷紙05、筆記用紙11ノ規格

○商工省告示第百二號 昭和十二年九月二十七日
政府ニ於テ製造又ハ使用スル印刷紙05、筆記用紙11ハ左ノ規格(別冊ノ内)ニ依ル但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
(別冊略ス)

●政府ニ於テ製造若ハ購入シ又ハ政府ノ註文スル工事若ハ製造品ニ使用スル金属材料ノ抗張試験ニ用ウル試験片ノ形状及寸法規格

○農商務省告示第四十三號 大正十四年三月五日
農務 昭和四年告示第二八號、一三年第三一九號
政府ニ於テ製造若ハ購入シ又ハ政府ノ註文スル工事若ハ製造品ニ使用スル金属材料ノ抗張試験ニ用ウル試験片ノ形状及寸法ハ左ノ規格ニ依ル但シ已

第四章 試験及検査

第五條 屈曲試験 管内ニ砂ヲ填メ赤熱ノ状態ニ於テ適當ノ方法ニ依リ管ノ内徑ノ1.5倍ニ相當スル内側半徑ヲ以テ管ヲ90度屈曲スルモ繼目難シ又ハ裂綻ヲ生セサルコトヲ要ス
鋼接管ニ在リテハ前項ノ試験ニ際シ其ノ継目ヲ屈曲内側ヨリ約45度ノ位置ニ置クモノトス

第六條 水壓試験 管ハ内壓25kg/cm²以上ノ水壓ニ耐ヘ漏洩其ノ他ノ缺點キコトヲ要ス

第七條 屈曲試験ハ管ノ外徑ヲ異ニスル毎ニ100箇又ハ其ノ端數ヲ1組ト爲シ各組ヨリ1箇ノ試験片ヲ取リテ之ヲ行ヒ其ノ組ノ良否ヲ決定ス若シ試験ノ結果本規格ニ合セサルモノアルトキハ其ノ試験片各1箇ニ付更ニ2箇ノ試験片ヲ取リテ再試験ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ内1箇タリトモ合格セサルトキハ其ノ試験片ニ依リ代表セララル組ハ全部之ヲ不合格トス

第八條 水壓試験及寸法其ノ他ノ検査ハ1箇毎ニ之ヲ行ヒ其ノ良否ヲ決定ス

●政府ニ於テ購入シ又ハ政府ノ註文スル工事若ハ製造品ニ使用スル瓦斯管ノ寸法規格

○商工省告示第二十八號 昭和二年十月二十二日
政府ニ於テ購入シ又ハ政府ノ註文スル工事若ハ製造品ニ使用スル瓦斯管ノ寸法ハ左ノ規格ニ依ル但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ハ此ノ限ニ在

ムコトヲ得サル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
(別冊略ス)

●政府ニ於テ購入シ又ハ政府ノ註文スル工事若ハ製造品ニ使用スル瓦斯管規格

○商工省告示第二十二號 大正十五年十月二十六日
政府ニ於テ購入シ又ハ政府ノ註文スル工事若ハ製造品ニ使用スル瓦斯管ハ左ノ規格ニ依ル但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
瓦斯管

(日本標準規格第19號)

第一條 總則

第一條 本規格ハ瓦斯、水、蒸氣等ノ輸送其ノ他種種ノ用途ニ使用スル鐵管ニ適用スルニシテ其ノ内外面ニ有害ナル缺點キコトヲ要ス
第二條 管ハ其ノ兩端ニ別ニ定ムル管ねぢヲ有スルモノ(此ノ管ニハ1箇毎ニ接手管1箇ヲ付スルモノトス)又ハ接続上必要ナル形状ニ加工シタルモノトス

第二條 製造法

第三條 寸法ノ公差
管ノ外徑ノ公差ハ±1%トス但シ公差ノ最小値ハ±0.5mmトス

第四條 管ノ外徑ノ公差ハ±1%トス但シ公差ノ最小値ハ±0.5mmトス

瓦斯管ノ寸法 (日本標準規格第38號)

管ノ稱呼	外徑 mm	近似厚 mm	近似内徑 mm	接手ノ重量 kg/m
1/8吋	10.5	2.0	6.5	0.419
1/4	13.8	2.3	9.2	0.652
3/8	17.3	2.3	12.7	0.851
1/2	21.7	2.8	16.1	1.305
3/4	27.2	2.8	21.6	1.685
1	34.0	3.2	27.6	2.431
1 1/4	42.7	3.5	35.7	3.383
1 1/2	48.6	3.5	41.6	3.893
1 3/4	54.6	3.8	47.0	4.761
2	60.5	3.8	52.9	5.313
2 1/2	76.3	4.2	67.9	7.469
3	89.1	4.2	80.7	8.794
3 1/2	101.6	4.2	93.2	10.089
4	114.3	4.5	105.3	12.186

4	1/2	127.0	4.5	118.0	13.595
5		139.8	4.5	130.8	15.015
5	1/2	152.5	5.0	142.5	18.188
6		165.5	5.0	155.2	19.754

備考

- 一、日本標準規格第 37 號管接手ねぢニ規定セル圓錐ねぢヲ切ル管ノ外徑ノ公差ハ 60.5mm 以下ノモノニ在リテハ ±0.5mm 60.5mm ヲ超ユルモノニ在リテハ ±0.8mm トス
- 二、前號以外ノ管ノ外徑ノ公差ハ ±1% トス但シ公差ノ最小値ハ ±0.5 mm トス
- 三、特ニ指定セル場合ノ外管ハ仕上リノ長ニ於テ其ノ兩端ニねぢヲ切リ一端ニ接手管ヲねぢ込ミタルモノトス
- 四、管ノねぢニ勾配ヲ附セサルトキ又ハ接手管ノねぢニ勾配ヲ附スルトキハ註文ノ際之ヲ指定スルモノトス (日本標準規格第 37 號管接手ねぢ參照)
- 五、ねぢ無し又ハ接手管無しノ管ヲ要スルトキハ特ニ指定スルモノトス

種 別	銅	%	砒 素	%	ア ン チ モ ン	%	砒	%	硫 黄	%	鐵	%
電 氣 分 銅	99.94	以上	0.003	以下	0.01	以下	0.005	以下	0.015	以下	0.01	以下
電 氣 型 銅	99.85	以上	0.002	以下	0.01	以下	0.005	以下	0.015	以下	0.01	以下
上 型 銅	99.60	以上	0.03	以下	0.03	以下	0.01	以下	0.02	以下	0.02	以下

【文庫部】

【文庫部】

並 型	銅	99.30 以上
-----	---	----------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

成分ノ檢定ニハ本表中ノ各最終數字ノ示ス單位未満ヲ切捨ツルモノトス

第三條 前條ノ銅ノ純分ハ電解分析法ニ依リテ之ヲ定量ス此ノ場合ニ於ケル銀ハ銅トシテ取扱フモノトス

第四條 分析試料採取ノ方法ハ各種別、各記號毎ニ次ノ各號ニ依ル

- 一、地金 5,000kg 又ハ其ノ精數毎ニ 1 試料ヲ調製スルモノトス
- 二、1 試料ハ 5 箇以上ノ塊塊又ハ板ヨリ採取スルモノトス
- 三、各塊塊又ハ板ノ適當ニ相隔リタル位置ニ於テ少クトモ 3 箇ノ貫通セル孔ヲ鑿モシテ各塊塊又ハ板ヨリ略同量ノ削屑ヲ採取シ合計 4kg 以上ヲ集メテ能ク混和シ 2kg ヲ分割シテ 1 試料ト爲スモノトス
- 四、鑄造ハ取メ「アルコナル」ヲ浸シタル布ニテ拭ヒ鑄モシニ際シ油類其ノ他ノ液塵劑ヲ使用スルコトヲナク且削屑ヲ酸化セシメサル様注意スルコトヲ要ス
- 五、採取セル試料ハ共口ノ硝子瓶ニ入レ密閉シ分析所ニ送付スルモノトス

- 第五條 分析試驗ノ方法ハ別ニ定ムル所ニ依ル
 - 第六條 分析試驗ハ買置者雙方協定セル分析所ニ於テ之ヲ行フモノトス
 - 第七條 試料ノ分析試驗ノ成績カ本規格ニ合セサルトキハ其ノ試料ノ代表スル地金ノ全量ヲ不合格トス
 - 第八條 製造者ハ型鋼ニハ製造所ノ記號ヲ備出シ電氣分銅ニハ之ヲ直裝其ノ他ノ方法ニ依リテ表示スルモノトス
- 製造者又ハ販賣者ハ型鋼ニ其ノ種別ヲ直裝其ノ他ノ方法ニ依リテ表示ス

第十卷 鋼 管

- 六、管ノ重量ハ本表ニ示ス重量ヨリ輕キコト 10%ヲ超ユサルモノトス
 - 七、重量綱ノ數値ハ本表ニ掲ケタル外徑及近似厚ノ管ノ重量ヲ示スモノニシテ 1cm³ヲ 7.85g トシテ計算シ小數點下第四位ヲ四捨五入シ第三位ニ止メタルモノトス
- 政府ニ於テ購入シ又ハ政府ノ註文スル製造品ニ使用スル銅地金ノ規格
- 商工省告示第四十三號 昭和二年十月二十二日
- 政府ニ於テ購入シ又ハ政府ノ註文スル製造品ニ使用スル銅地金ハ左ノ規格ニ依ル但シ已タロットヲ得カル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

銅地金
(日本標準規格第 53 號)

- 第一條 本規格ニ於テ規定スル銅地金ハ之ヲ次ノ 4 種トス
電氣分銅(電氣分解ニ依リ得タル「ア」ノ銅地金)
電氣型銅(電氣分銅ヲ溶解シ型銅ト爲シタル銅地金ヲ普通トス)
上 型 銅(乾式法ニ依リ精製シ型銅ト爲シタル銅地金ヲ普通トス)
並 型 銅(厚地金ヨリ再製シ型銅ト爲シタル銅地金ヲ普通トス)
- 第二條 各地金ハ次ノ成分ヲ有スルコトヲ要ス

●政府ニ於テ購入シ又ハ政府ノ註文スル工事ニ使用スル暖房用放熱器ノ規格

○商工省告示第二十一號 昭和五年六月二日

政府ニ於テ購入シ又ハ政府ノ註文スル工事ニ使用スル暖房用放熱器ハ左ノ規格ニ依ル但シ已タロットヲ得サル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

暖房用放熱器

(日本標準規格第 76 號)

- 第一條 本規格ハ温水又ハ蒸氣ヲ使用スル鑄鐵製ノ暖房用放熱器(以下單ニ放熱器ト稱ス)ニ之ヲ適用ス
- 第二條 本規格ニ規定スル放熱器ノ種別ハ之ヲ次ノ五種トス
 - 一、二柱放熱器
 - 二、三柱放熱器
 - 三、三層柱放熱器
 - 四、五層柱放熱器
 - 五、壁掛放熱器
- 第三條 放熱器ノ型、主要寸法、放熱面積等ハ次表ノ通りトス
- 第四條 放熱器ノ形狀及寸法ハ附圖第一乃至第十ニ依ル
- 第五條 放熱器接続用「ニップル」ハねぢ込型トシねぢ込ハ總テ日本標準規格第 36 號管用ねぢノ 1/2吋ノモノニ依ル

第十章 規格

十四圖

第六條 放熱器ハノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ行ヒ漏洩其ノ他ノ缺點ナキトシテ要ス

特ニ高壓ヲ要スル場合ニハ前項ノ壓力ヲ 7kg/cm^2 ト爲スモノトス

第七條 放熱器ニハ製造所ノ名又ハ其ノ記號ヲ鑄出スモノトス

●政府ニ於テ購入シ又ハ政府ノ註文スル工事ニ使用スル水道用鉛管ノ規格

○商工省告示第二十六號 昭和五年六月二日

政府ニ於テ購入シ又ハ政府ノ註文スル工事ニ使用スル水道用鉛管ハ左ノ規格ニ依ル但シ已トコトヲ得キル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

水道用鉛管

(日本標準規格第 81 號)

第一章 總則

第一條 本規格ハ水道用鉛管(以下單ニ管ト稱ス)ニ之ヲ適用ス

第二章 種別

第二條 管ハ之ヲ 2 種ニ分テ静水頭 45m 乃至 75m ニ對スルモノヲ普通壓管ト稱シ静水頭 45m 未満ニ對スルモノヲ低壓管ト稱ス但シ内徑 30mm 以下ノ管ハ總テ静水頭 75m 以下ニ對スルモノトシ種別ヲ設ケズ

第三章 製造法

第三條 管ハ 0.5% 以上ノ不純物ヲ含有セサル軟質良好ナル鉛ヲ用キ鑄型製管機ニ依リ製造シタルモノニシテ組織均一且粘性ニ富ミ打テ展シ易ク

【本條專】

又屈曲シ易キモノナルコトヲ要ス

十四圖

第四章 押掛け試験及屈曲試験

第四條 管ニハ押掛け試験ヲ行フモノトシ註文者又ハ其ノ指定シタル検査員(以下單ニ検査員ト稱ス)ニ於テ必要ト認メタルトキハ屈曲試験ヲ併セ行フモノトス

第五條 押掛け試験 標準丸矢ヲ底面ニ至ル迄管軸ニ沿ヒ徐々ニ管内ニ打込ミ裂症ヲ生セサルコトヲ要ス

標準丸矢ハ鋼製圓錐型ニシテ頂角ハ 40 度トシ底面ノ徑ハ管ノ内徑ノ 2.25 倍トス

第六條 屈曲試験 管内ニ 7.5kg/cm^2 ノ水壓ヲ保チツツ管ヲ屈曲器ニ依リテ徐々(10 秒乃至 15 秒間)ニ 90 度屈曲シ之ヲ前ト同シ速サニテ原位ニ復シ更ニ反對ノ方向ニ同様ニ 90 度屈曲シ原位ニ復スルモ漏水ヲ生セサルコトヲ要ス

屈曲器ハ管ノ内徑ノ 3 倍ニ相當スル外徑ヲ有スル金屬製「ローラー」ヲ備ヘ管ヲシテ「ローラー」ノ周圍ニ馴染好ク接觸セシメ管ノ形狀ニ歪ヲ生セズシテ容易ニ之ヲ屈曲シ得ル構造ノモノトス(附圖參照)

第五章 形狀寸法及重量

第七條 管ハ断面實用的正圓ニシテ其ノ寸法及重量ハ次表ニ依ルモノトス

種別	内徑 mm	厚 mm	重量 kg/m	1 把ノ管ノ最小長限度 m
	10	4.3	2.2	15

【本條專】

第七章 検査

第十條 管ハ内外面共ニ滑ニシテ疵、集其ノ他有害ナル缺點ナキコトヲ要ス

第十一條 管ノ厚及内徑ノ検査並押掛け試験及水壓試験ハ各把ニ付之ヲ行フモノトス

第十二條 重量ノ検査ハ同種、同徑ノ管 10 把若ハ其ノ端數ヲ以テ 1 組ト爲シ各組ヨリ 1 把ヲ採リ其ノ一端ヲ切取リテ之ヲ行フ但シ 1 組ノ把數ハ註文者ノ指定ニ依リ之ヲ増減スルコトヲ得

前項ノ検査カ不合格ニナリタルトキハ其ノ代表スル組ノ總テ不合格トス但シ註文者又ハ検査員ニ於テ相當ノ事由アリト認メタルトキハ其ノ代表スル組ノ各把ニ付テ再検査ヲ行フコトヲ得

第十三條 註文者又ハ検査員ニ於テ必要ト認メタルトキハ任意ノ箇所ニ於テ管ヲ切斷シ管ノ厚及内徑ノ検査ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ切斷セラレタル管カ合格セルトキハ之ヲ連續セル 1 把ノモノトシ看做ス

第十四條 管ニハ其ノ各端ヨリ約 0.3m ノ箇所ニ製造所ノ記號ノ外普通通壓管ニ對シテハ㊦又低壓管ニ對シテハ㊧ノ記號ヲ刻印スルモノトス

第八條 管ノ寸法及重量ノ公差ハ次表ノ通りトス

	公差	%
内徑	± 3	
厚	± 10	
重量	± 3	

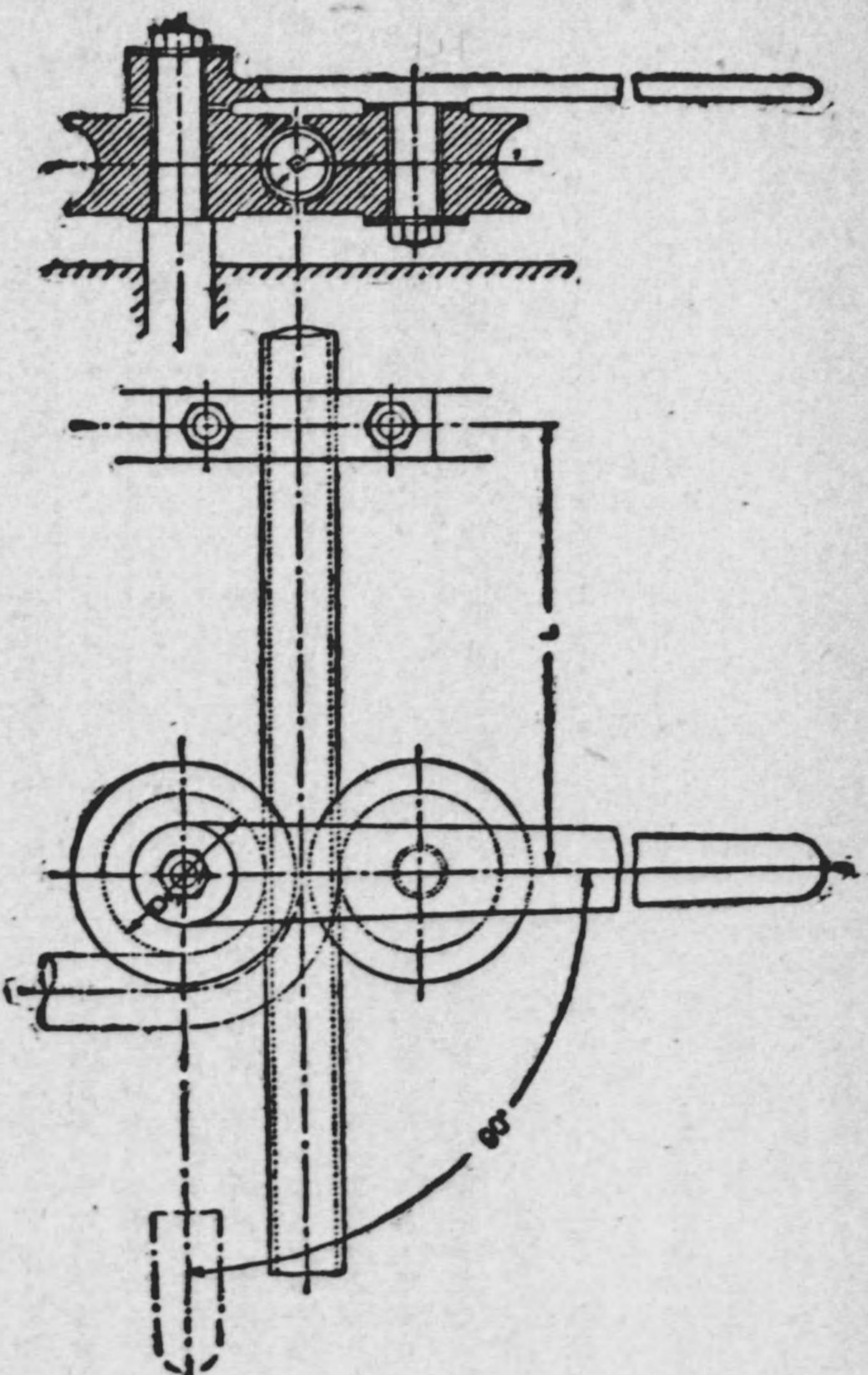
第六章 水壓試験

第九條 管ハ 17.5kg/cm^2 ノ水壓ニ耐ヘ漏洩其ノ他ノ缺點ナキコトヲ要ス

第十章 規格

十四圖

附 圖
用 曲 器



單 位 mm

鉛管 内 徑 D	ローラーノ徑 D ₁	L
10	30	130
13	39	130
16	48	130
20	60	250
25	75	250
30	90	250
40	120	450
50	150	450

●政府ニ於テ使用シ又ハ政府ノ註文スル工事
若ハ製造品ニ使用スル非鉄金屬、鉄及鋼ノ
記號ノ規格

○商工省告示第十一號 昭和九年三月十五日

改正 昭和十二年第一四四號

政府ニ於テ使用シ又ハ政府ノ註文スル工事若ハ製造品ニ使用スル非鉄金

【文會部】

屬、鉄及鋼ノ記號ハ左ノ規格（別冊ノ(一)）ニ依ル但シ已ムコトヲ得ザル事
由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

（別冊ノ(三)）

非鉄金屬ノ記號

（日本標準規格第105號）

第一條 本規格ハ日本標準規格ニ規定セル非鉄金屬ノ製品ニ對スル記號ニ

之ヲ適用ス

第二條 日本標準規格ニ規定セル非鉄金屬ノ製品ニ對スル記號ハ附表ニ依

ル

第三條 製造法ヲ特ニ記號ヲ以テ示ス必要アルトキハ次ノ記號ヲ用キ前條

ニ規定セル記號ノ次ニ之ヲ記スモノトス

壓延 鋼線 壓出(エキスツルーヂンダ) 引拔

R F Ex D

第四條 形狀ヲ特ニ記號ヲ以テ示ス必要アルトキハ次ノ記號ヲ用キ前條

ニ規定セル記號ノ次ニ之ヲ記スモノトス

製品ノ形狀	記 號	製品ノ形狀	記 號
針	W	等邊山形	L
板	p	不等邊山形	L
丸	⊙	工 形	I
管	⊖	溝 形	L
角	□	丁 形	T
六 角	△	乙 形	L
八 角	⬢	板	板
平 角	□		
半 丸	◐		

第十號 鋼線

【文會部】

註

一、第二條ニ規定セル記號ハ次ノ關係ニ依リタルモノナリ

第一位ノ文字ハ次ニ示ス如ク材質名稱ノ略字ヲ示ス

- Cu 銅
- Pb 鉛
- Al アルミニウム
- Bs 黃銅
- B 青銅

第二位ノ文字ハ規格名及製品名ヲ示スモノニシテ次ノ通りトス

- B 棒 材
- C 鑄造品
- B F 火延用棒材
- H B 高力棒材
- B M 振物用棒材
- N B ネーベル黃銅棒材
- P 板
- T 一般用繼目無管
- T C 復水器用繼目無管
- T F 復水器パツキソング抑用繼目無管
- T L 機關車燻用繼目無管

第三位ノ數字ハ種別ヲ示スモノニシテ主トシテ最低抗張力ヲ以テ表
ハス 但シ之ヲ適用シ得ザルカ又ハ他ノ事項ヲ以テ表ハスヲ便トス
ル場合 例へバ復水器「パツキソング」抑用繼目無黃銅管ニ在リテハ鋼

中置ナ

ノ含有量許容範圍ノ平均百分率(約)ヲ、青銅鑄物第五種ニ在リテハ鉛ノ含有量ノ標準百分率ヲ括弧内ニ示シ 又一般用鑄目無黃銅管及黃銅板ニ在リテハ實用上ノ便ヲ計リ各々鋼ノ含有量許容範圍ノ平均百分率(約)ヲ括弧内ニ示ス
 第三位ノA、B、Cハ材質ノ軟質、半硬質、硬質、化學成分、用途等ノ相違ニ依ル區別ヲ示ス

(例)

1、銅板ノ軟質ノモノハ第一位 Cu 第二位 P 第三位 22 トナリ次ノ通り示ス
 Cu P 22

2、高力黃銅棒第一種ハ第一位 Bs 第二位 HB 第三位 54 トナリ次ノ通り示ス
 Bs HB 54

3、黃銅板第一種ノ軟質ノモノハ第一位 Bs 第二位 P 第三位 (70) A トナリ次ノ通り示ス
 Bs P (70) A

二、第三條又ハ第四條ニ依リ製品ノ製造法又ハ形狀ヲ示ス場合ハ次ノ例ニ依ル

1、引拔法ニ依リ製造シタル掘物用黃銅棒第一種角棒ハ次ノ通り示ス
 Bs BM A D □

2、鍛鍊法ニ依リ製造シタル高力黃銅棒第一種丸棒ハ次ノ通り示ス

Bs HB 54 F

附表

規格番號	類別番號	名	種	種別	記號
第40號	H 1	銅板	軟質	質	Cu P 22
			半硬質	質	Cu P 25
第41號	H 2	黃銅板	第一種	軟質	Bs P(70)A
				半硬質	Bs P(70)B
			硬質	Bs P(70)C	
				Bs P(67)A	
			第二種	軟質	Bs P(67)B
				半硬質	Bs P(67)C
			硬質	Bs P(60)A	
				Bs P(60)B	
			第三種	半硬質	Bs P(60)C
				硬質	Bs P(60)C
第42號	H 3	アルミニウム板	軟質	質	Al P 8
			半硬質	質	Al P 11

【本會館】

【本會館】

號	材	種	質	記號
第43號	銅棒	軟質	質	Cu B 20
		硬質	質	Cu B 25
第44號	ノーバル黃銅棒	第一種	種	Bs NB
			種	Bs HB 54
			種	Bs HB 52
			種	Bs HB 48
第45號	高力黃銅棒	第四種	種	Bs HB 44
			種	Bs BF
			種	Bs BM A
			種	Bs BM B
第46號	火延黃銅棒	第一種	種	Cu T
			種	Bs TL
第47號	掘物用黃銅棒	第二種	種	Bs T C A
			種	Bs T C B
第48號	鑄目無銅管	第一種	種	Bs T F (70)
			種	Bs T F (68)
第49號	機關車罐用鑄目無黃銅管	第一種	種	Bs T C A
			種	Bs T C B
第50號	復水器用鑄目無黃銅管	第二種	種	Bs T F (70)
			種	Bs T F (68)
第51號	復水器用鑄目無黃銅管	第一種	種	Bs T F (70)
			種	Bs T F (68)

第十種 鋼

號	材	種	質	記號
第52號	H 13	一般用鑄目無黃銅管	第一種	Bs T (70)
			第二種	Bs T (64)
第53號	H 19	青銅鑄物	第一種	B C 17
			第二種	B C 18
			第三種	B C 22A
			第四種	B C 22B
			第五種	B C 22C
第56號	H 20	黃銅鑄物	第一種	B C 17
			第二種	Bs C 20
			第三種	Bs C 26
			第四種	Bs C 28
			第五種	B C 22C

鉄及銅ノ記號

(日本標準規格第106號)

第一條 本規格ハ日本標準規格ニ規定セル鉄及銅ノ製品ニ對スル記號ニ之ヲ適用ス

第二條 日本標準規格ニ規定セル鉄及銅ノ製品ニ對スル記號ハ附表ニ依ル

第三條 製鋼法ヲ特ニ記號ヲ以テ示ス必要アルトキハ次ノ記號ヲ用キ前條

ニ規定セル記號ノ次ニ之ヲ配スモノトス

平炉鋼	酸性平炉鋼	Oa	塩基性平炉鋼	Ob
轉炉鋼	酸性轉炉鋼	Ba	塩基性轉炉鋼	Bb
電気鋼	酸性電気鋼	Ea	塩基性電気鋼	Eb
			坩堝鋼	Cc

第四條 形狀ヲ特ニ記號ヲ以テ示ス必要アルトキハ次ノ記號ヲ用キ前條ニ規定セル記號ノ次ニ之ヲ配スモノトス

品名	記號	品名	記號
針	W	等邊山形鋼	L
金板	P	不等邊山形鋼	L
丸鋼	⊙	工形鋼	I
管	⊖	溝形鋼	J
角鋼	□	丁形鋼	T
六角鋼	△	球山形鋼	L
八角鋼	8	乙形鋼	L
平鋼	□	軌條	I
半丸鋼	∩	鋼板	X

註

- 第一條ニ規定セル記號ハ次ノ關係ニ依リタルモノナリ
第一位ノ文字 Sハ鋼、Fハ鉄ヲ示ス
第二位ノ文字ハ規格名及製品名ヲ示スモノニシテ次ノ通りトス
- | | |
|----|----------------|
| F | 鍛造品 |
| C | 鑄造品 |
| TW | 水管用鐵目無管 |
| TS | 圓筒用鐵目無管 |
| TL | 機關車用鐵目無管 |
| T | 一般用鐵目無管 |
| GP | 瓦斯管 |
| S | 構造用壓延材 |
| SC | 鉄筋用ソクワリト用棒材 |
| SR | 構造用鉄材 |
| M | 造船用壓延材 |
| MR | 造船用鉄材 |
| B | 罐用壓延材 |
| BR | 罐用鉄材 |
| R | 鉄道車輛用壓延材 |
| CM | 可鍛鑄造品 |
| W | 水道用管 |
| L | 軌條 |
| DB | ボルト及ナット用冷間引拔棒材 |

【参考】

【参考】

TY 外輪
N ニツケル鋼
NC ニツケルクロム鋼
H 肌鋼
WG 水道用圧給めつき鋼管
WH 水道用高殺管

第三位ノ數字ハ種別ヲ示スモノニシテ主トシテ最低抗張力ヲ以テ表ハス 但シ之ヲ適用シ得ザル場合例ヘバ炭素鋼軌條ニ於テハ各種トモ抗張力等シク重量ノ相違ニ依リ區別セルヲ以テ括弧内ニ其ノ數字ヲ示ス

數字ノ次ノA、B、C、Dハ抗張力等シキモ伸、化學成分又ハ加工法ノ相違ニ依ル區別ヲ示ス

水道用鑄鉄管ノ普通壓管ハ㊟、低壓管ハ㊞ヲ以テ示ス

- (例)
- 1、鑄鋼品第一種ハ第一位S、第二位C、第三位41トナリ次ノ通り示ス
S C 41
 - 2、構造用壓延鋼材ノ鉄筋ニソクワリト用棒鋼第一種ハ第一位S、第二位S C、第三位39 Aトナリ次ノ通り示ス
S S C 39A
- 二、第三條又ハ第四條ニ依リ製品ノ製鋼法又ハ形狀ヲ示ス場合ハ次ノ例ニ依ル
- (例)

第十種 鋼 條

- 1、酸性平炉ニ依リ製造シタル罐用壓延鋼材ノ鉄材第二種ハ次ノ通り示ス
S BR 41 Oa
- 2、構造用壓延鋼材形鋼第一種工形鋼ハ次ノ通り示ス
S S 39 A I
- 3、轉炉ニ依リ製造シタル構造用壓延鋼材平鋼第一種ニシテ形狀ヲ示ス場合ハ次ノ通り示ス
S S 39 A Bca

附表

規 格 番 號	類 別 番 號	名 稱	種 別	記 號
第5號	G 1	鋼 品	第一種 甲乙	S F 34 A S F 34 B
			第二種 甲乙	S F 39 A S F 39 B
			第三種 甲乙	S F 44 A S F 44 B
			第四種 甲乙	S F 49 A S F 49 B
			第五種	S F 54
			第六種	S F 60
第6號	G 2	鋼 品	第一種	S C 41
			第二種	S C 45
			第三種	S C 47

第15號	G 4	水管鐵用繼目無鋼管	第四種	S C. 00
			冷間引拔繼目無鋼管	S T W 41
第16號	G 5	圓鐵用繼目無鋼管	熱間仕上繼目無鋼管	S T W 43
			冷間引拔繼目無鋼管	S T S 41
第17號	G 6	機關車鐵用繼目無鋼管	熱間仕上繼目無鋼管	S T S 43
			冷間引拔繼目無鋼管	S T L
第18號	G 7	一般用繼目無鋼管	第一種	S T 48
			第二種	S T 44
			第三種	S T 38 A
			第四種	S T 30 A
			第五種	S T 38 B
			第六種	S T 30 B
第19號	G 8	瓦 折 管	第一種	S G P
			第二種	S S 39 A
第20號	G 9	構造(樑、建屋、延其ノ他)用鋼材	第一種	S S 39 A
			第二種	S S 39 B
			第三種	S S 39 A
			第四種	S S 39 B

【文會例】

第21號	G 10	造船用壓延鋼材	鋼板	第一種	S M 41
			形鋼	第二種	S M 44
第22號	G 11	鐵用壓延鋼材	鋼板	第一種	S B 39
				第二種	S B 44
				第三種	S B 34
				第四種	S B 41
第23號	G 12	鐵道車輛用壓延鋼材	第一種	S B 44	
			第二種	S B 41	

【文會例】

第23號	G 12	鐵道車輛用壓延鋼材	第一種	S R 44
			第二種	S R 34
			第三種	S R 39
			第四種	S R 44
第79號	G 20	可鍛鑄鐵品	第一種	F C M 32
			第二種	F C M 23
第80號	G 21	水道用鑄鐵管	普通壓管	F W ㊦
			低壓管	F W ㊦
第90號	G 24	炭素鋼軌條	22 冠軌條	S L (22)
			30 冠軌條	S L (30)
			37 冠軌條	S L (37)
			50 冠軌條	S L (50)
			第一種	S D B 53
第107號	G 25	ボルト及ナット用冷間引拔棒鋼	第一種	S D B 41
			第二種	S D B 44
			第三種	S D B 44

第十卷 鋼

甲用III

第134號	G 27	鑄 鐵 品	第一種	F C 14
			第二種	F C 19 A
			第三種	F C 19 B
			第四種	F C 23 A
第167號	G 29	炭素鋼輕軌條	6 冠軌條	S L (6)
			8 冠軌條	S L (8)
			9 冠軌條	S L (9)
			10 冠軌條	S L (10)
			12 冠軌條	S L (12)
第168號	G 30	炭素鋼外輪	15 冠軌條	S L (15)
			第一種	S T Y
第223號	G 32	ツケル鋼	第一種	S N 65 A
			第二種	S N 68 A
			第三種	S N 68 B
			第四種	S N 70 A